

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成29年5月1日現在)

北里大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。
平成30年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成29年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]・脚注を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]・脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号を付してください。
 - ・両面印刷して、加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況 2-1 在籍状況、 2-2 学生受入状況 2-3 学籍異動状況、 2-4 学士課程修了状況	11
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	15
基礎資料 4	カリキュラム・マップ	81
基礎資料 5	語学教育の要素	83
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習のスケジュール	85
基礎資料 7	学生受入状況について（入学試験種類別）	93
基礎資料 8	教員・職員の数	94
基礎資料 9	専任教員の構成	95
基礎資料10	教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）	96
基礎資料11	卒業研究の配属状況および研究室の広さ	125
基礎資料12	講義室等の数と面積	126
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	128
基礎資料14	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	129
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	130

		1 年 次						
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	選) 哲学の楽しみA	前期	1-61	2	62	コ		2
	選) 科学を考えるA	前期	7	2	14	コ		2
	選) 科学を考えるB	後期	1	1	1	コ		2
	選) 芸術の楽しみA	前期	1-81	6	149	コ		2
	選) 芸術の楽しみB	後期	1-35	5	70	コ		2
	選) 倫理学A	前期	26-95	4	196	コ		2
	選) 倫理学B	後期	7	1	7	コ		2
	選) 文学の楽しみA	前期	1-3	2	4	コ		2
	選) 文学の楽しみB	後期	3	1	3	コ		2
	選) 信仰と救いA	前期	44-51	2	95	コ		2
	選) 信仰と救いB	後期	2	1	2	コ		2
	選) 日本国憲法A	前期	2-27	4	36	コ		2
	選) 法律の役割A	前期	10-12	2	22	コ		2
	選) 法律の役割B	後期	1	1	1	コ		2
	選) 経済のしくみA	前期	1-13	4	32	コ		2
	選) 経済のしくみB	後期	1-4	3	6	コ		2
	選) 個人と社会A	前期	4-18	4	43	コ		2
	選) 個人と社会B	後期	1-7	2	8	コ		2
	選) 政治のしくみA	前期	2	1	2	コ		2
	選) 政治のしくみB	後期	1	1	1	コ		2
	選) 文化人類学A	前期	1-2	2	3	コ		2
	選) 文化人類学B	後期	1-2	2	3	コ		2
	選) 日本と国際社会A	前期	3-6	2	9	コ		2
	選) 環境を考えるA	前期	16-17	2	33	コ		2
	選) 環境を考えるB	後期	2-9	2	11	コ		2
	選) 歴史と人間A	前期	5-6	2	11	コ		2
	選) 歴史と人間B	後期	2	1	2	コ		2
	選) 心理学A	前期	10-45	6	150	コ		2
	選) 心理学B	後期	7	1	7	コ		2
	北里の世界	後期	268	1	268	コ		1
	選) 仕事と人生	前期	3	1	3	コ		1
	選) 農医連携論	後期	3	1	3	コ		1
	選) 健康の科学A	前期	9-45	3	79	コ		2
	選) 健康の科学B	後期	1-53	2	54	コ		2
	選) 健康の科学C	前期	46	1	46	コ		2
	選) 健康の科学C	後期	1	1	3	コ		2
	選) 健康とスポーツ演習	通年	4-32	7	127	コ		2
	選) ライフスポーツ演習A	前期	4	1	4	コ		2
	選) ライフスポーツ演習B	前期	2-3	2	5	コ		2
	選) ライフスポーツ演習C	後期	12	1	12	コ		2
	英語AI (※1)	前期	31-38	8	267	コ		1
	英語AII (※1)	後期	31-38	8	267	コ		1
	英語BI (※1)	前期	31-38	8	265	コ		1
	英語BII (※1)	後期	31-38	8	266	コ		1
	選) 数学 (※1)	通年	58-79	4	255	コ		4
	選) 発展数学A (※1)	前期	12	1	12	コ		2
	選) 発展数学B (※1)	後期	10	1	10	コ		2
	選) 情報科学A	前期	2-21	14	133	コ		2
	選) 情報科学B	後期	1-7	8	26	コ		2
	選) 情報科学C	後期	1	1	1	コ		2
	物理学 (※1)	通年	125-144	2	269	コ		4
	生物学 (※1)	通年	125-145	2	270	コ		4
	選) 物理学要習	前期	11-12	2	23	コ		1
	選) 生物学要習	前期	1-6	2	7	コ		1
選) 教養演習A	通年	3	1	3	コ		2	
選) 教養演習B	前期	1	3	3	コ		1	
選) 教養演習C	後期	1-4	4	7	コ		1	
選) 大学基礎演習	前期	2-4	6	17	コ		1	
選) 言語と文化A (※2)	通年	4-9	5	34	コ		2	
選) 言語と文化B (※2)	通年	1-7	7	26	コ		2	
化学	前期	266	1	266	コ		1	
基礎有機化学	前期	268	1	268	コ		1	
薬学概論	前期	267	1	267	コ		1	

薬学専門教育	薬用植物学	前期	268	1	268	コ			1
	薬と仕事I	前期	267	1	267	コ			1
	代数学	後期	64-69	4	266	コ			1
	統計学	後期	134-135	2	269	コ			1
	有機化学I	後期	134-136	2	270	コ			1
	情報リテラシーI	後期	133-134	2	267	コ			1
	解剖学	後期	269	1	269	コ			1
	生化学I	後期	268	1	268	コ			1
	生理学I	後期	269	1	269	コ			1
	チーム医療論	後期	269	1	269	コ			1
実習	物理学実験	前期	132-133	2	265	ジ			1
	生物学実験	前期	132-133	2	265	ジ			1
演習	情報リテラシーII	後期	268	1	268	コ			1
	(選) 基礎有機化学演習	後期	6	1	6	エ			1
単位数の合計							(必須科目)		29
							(選択科目)		102
							合計		131

※1 習熟度別クラス編成をしている。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■

実習=ジ 演習=エ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

	2 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
・ 教養教育 語学教育	英語CⅠ(※1)	前期	28-34	8	246	コ			1
	英語CⅡ(※1)	後期	29-34	8	247	コ			1
薬学専門教育	有機化学Ⅱ	前期	248	1	248	コ			1
	分析科学Ⅰ	前期	244	1	244	コ			1
	生薬学Ⅰ	前期	246	1	246	コ			1
	生化学Ⅱ	前期	249	1	249	コ			1
	微生物学Ⅰ	前期	244	1	244	コ			1
	生理学Ⅱ	前期	244	1	244	コ			1
	薬理学Ⅰ	前期	252	1	252	コ			1
	病理学	前期	246	1	246	コ			1
	薬学統計学	前期	245	1	245	コ			1
	薬と仕事Ⅱ	前期	244	1	244	コ			1
	生命物理化学Ⅰ	前期	245	1	245	コ			1
	ゲノム医学	後期	246	1	246	コ			1
	有機化学Ⅲ	後期	253	1	253	コ			1
	分析科学Ⅱ	後期	247	1	247	コ			1
	生薬学Ⅱ	後期	246	1	246	コ			1
	生化学Ⅲ	後期	249	1	249	コ			1
	微生物学Ⅱ	後期	248	1	248	コ			1
	化学療法Ⅰ	後期	248	1	248	コ			1
	薬理学Ⅱ	後期	122-127	2	249	コ			1
	病態評価学	後期	246	1	246	コ			1
医療コミュニケーション論	後期	246	1	246	コ			1	
生命物理化学Ⅱ	後期	245	1	245	コ			1	
実習	医薬品化学実習(※2)	前期	122	2	244	ジ			1
	有機分析実習(※2)	前期	122	2	244	ジ			1
	定量分析実習(※2)	前期	122	2	244	ジ			1
	社会薬学実習(※2)	前期	122	2	244	ジ			1
	生命物理化学実習(※2)	後期	123	2	245	ジ			1
	有機合成実習(※2)	後期	123	2	245	ジ			1
	生薬学実習(※2)	後期	123	2	245	ジ			1
	生化学実習(※2)	後期	123	2	246	ジ			1
演習	選) 初級太極拳演習(養生法演習)	後期	12	1	12	エ			1
単位数の合計							(必須科目)		32
							(選択科目)		1
							合計		33

- ※1 A~Sの各クラスを上級/普通クラスに編成している。
 ※2 実習の中で、さらにグループ分けをしている。

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■
実習=ジ 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	分析科学III	前期	259	1	259	コ			1
	合成化学I	前期	264	1	264	コ			1
	衛生化学I	前期	270	1	270	コ			1
	放射薬品学	前期	266	1	266	コ			1
	免疫学	前期	264	1	264	コ			1
	化学療法学II	前期	264	1	264	コ			1
	薬理学III	前期	266	1	266	コ			1
	臨床医学概論I	前期	263	1	263	コ			1
	物理薬剤学I	前期	262	1	262	コ			1
	薬物治療学I	前期	260	1	260	コ			1
	医療心理学	前期	271	1	271	コ			1
	臨床検査学I	前期	253	1	253	コ			1
	公衆衛生学I	前期	263	1	263	コ			1
	製剤学	後期	261	1	261	コ			1
	合成化学II	後期	259	1	259	コ			1
	東洋医学概論	後期	261	1	261	コ			1
	生物薬剤学	後期	271	1	271	コ			1
	衛生化学II	後期	264	1	264	コ			1
	臨床医学概論II	後期	263	1	263	コ			1
	疾病解析学	後期	260	1	260	コ			1
	薬物治療学II	後期	263	1	263	コ			1
	調剤学	後期	264	1	264	コ			1
	地域医療薬学I	後期	267	1	267	コ			1
	選) 細胞生物学	前期	79	1	79	コ			1
	選) 文献講読ゼミA (※1)	前期	26	1	26	コ			1
	選) 構造生命科学	前期	114	1	114	コ			1
	選) 臨床生理学I	後期	250	1	250	コ			1
	選) 薬学英语II	後期	16	1	16	コ			1
	選) 臨床生化学	後期	247	1	247	コ			1
	選) 文献講読ゼミB (※1)	後期	2	1	2	コ			1
選) 医薬品構造学II	後期	36	1	36	コ			1	
実習	微生物学実習I (※2)	前期	130	2	259	ジ			1
	微生物学実習II (※2)	前期	130	2	259	ジ			1
	物理薬剤学実習 (※2)	前期	130	2	259	ジ			1
	衛生化学実習 (※2)	後期	130	2	259	ジ			1
	公衆衛生学実習 (※2)	後期	130	2	259	ジ			1
	薬理学実習I (※2)	後期	130	2	259	ジ			1
	薬理学実習II (※2)	後期	130	2	259	ジ			1
	選) 放射薬品学実習 (※2)	前期	59	2	59	ジ			1
	選) 医療*ラティイ実習A	前期	13	1	13	ジ			1
	選) 医療*ラティイ実習B	後期	43	1	43	ジ			1
演習									
単位数の合計							(必須科目)		30
							(選択科目)		11
							合計		41

- ※1 希望する研究室にてゼミを受講。
- ※2 実習の中で、さらにグループ分けをしている。

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■
 実習=ジ 演習=エ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。

- 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	薬事関係法規	前期	248	1	248	コ			1
	健康科学II	前期	248	1	248	コ			1
	医薬品化学	前期	249	1	249	コ			1
	薬物治療学II	前期	250	1	250	コ			1
	調剤学	前期	249	1	249	コ			1
	薬物速度論	前期	249	1	249	コ			1
	医療薬学I	前期	250	1	250	コ			1
	医薬品安全性学I	前期	249	1	249	コ			1
	臨床医学概論III	前期	249	1	249	コ			1
	医療心理学	前期	249	1	249	コ			1
	医薬関連制度	後期	248	1	248	コ			1
	OTC治療学	後期	248	1	248	コ			1
	薬物治療学III	後期	248	1	248	コ			1
	医療薬学II	後期	248	1	248	コ			1
	臨床薬物動態学	後期	248	1	248	コ			1
	医薬品安全性学II	後期	248	1	248	コ			1
	医薬品情報学	前期	249	1	249	コ			1
	選) 薬品製造化学	後期	6	1	6	コ			1
	選) 看護学	前期	165	1	165	コ			1
	選) 臨床栄養学	前期	235	1	235	コ			1
	選) 物理薬剤学II	前期	2	1	2	コ			1
	選) 健康食品論	前期	198	1	198	コ			1
	選) 文献講読ゼミC	前期	29	1	29	エ			1
選) 文献講読ゼミD	前期		1	1	エ			1	
選) 臨床試験総論	後期	6	1	6	コ			1	
選) 救急治療・臨床中毒学	後期	13	1	13	コ			1	
選) 創薬化学	後期	2	1	2	コ			1	
選) リハビリテーション論	後期	5	1	5	コ			1	
実習	プレ・インターンシップ実習(※1)	前期	62	4	248	ジ			1
	病院・薬局実習事前実習(※1)	通年	62	4	248	ジ			4
	選) 医療ホスピタリティ実習C	前期		1	0	ジ			1
	選) 医療ホスピタリティ実習D	後期		1	0	ジ			1
演習									
単位数の合計							(必須科目)		22
							(選択科目)		13
							合計		35

※1 実習の中で、さらにグループ分けをしている。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■
 実習=ジ 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。
 「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	選) 香粧品学	前期	1-2	1	2	コ			1
	選) 生薬・東洋医学精説	前期	5-13	1	13	コ			1
	選) 感染制御学	前期	1	1	1	コ			1
実習	病院・薬局実習	通年	62	4	248	ジ			20
	薬学卒業特別実習(※1)	前期	248	1	248	ジ			
演習									
単位数の合計							(必須科目)		20
							(選択科目)		3
							合計		23

※配置研究室にて実施。5年～6年前期まで履修し10単位。5年次は0単位とた。

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■
実習=ジ 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそつて、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそつて、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

		6 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・語学教育										
	薬学専門教育	薬学総合演習	後期	244	1	244	コ			20
		(選) 臨床病理学	前期	5-17	1	17	コ			1
		(選) 終末期・緩和医療論	前期		1	0	コ			1
		(選) 薬局管理学	前期	5-4	1	4	コ			1
		(選) 臨床検査学	前期	5-15	1	15	コ			1
(選) 実践医療薬学C		通年	1	1	1	コ			1	
実習	薬学卒業特別実習(※1)	前期	244	1	244	ジ			10	
	(選) 臨床検査学実習	後期	5-15	1	15	ジ			1	
	(選) 臨床生理学実習	後期	5-15	1	15	ジ			1	
	(選) 臨床化学実習	前期	5-15	1	15	ジ			1	
	(選) 医用工学概論実習	後期	5-15	1	15	ジ			1	
	(選) 臨床検査総論実習	前期	5-15	1	15	ジ			1	
演習	チーム医療演習(※2)	前期	244	1	244	エ	S		1	
	(選) 医療コミュニケーション演習	前期		1	0	エ			1	
	(選) 漢方調剤薬局実務演習	前期	5-10	1	10	エ			1	
	(選) 薬物治療学演習I	前期	5-6	1	6	エ	S		1	
単位数の合計								(必須科目)	31	
								(選択科目)	13	
								合計	44	

※1 配置研究室にて実施。5年～6年前期まで履修し10単位。

※2 学生を105グループに分けて実施(1グループ2～3名)

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■

実習=ジ 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

【新カリキュラム】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	20	21.1
教養教育科目	58	111.0
語学教育科目	13	15.0
医療安全教育科目	8	5.9
生涯学習の意欲醸成科目	7	7.7
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	15	27.2

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	29	102	131
2 年 次	32	1	33
3 年 次	31	11	42
4 年 次	21	15	36
5 年 次	21	11	32
6 年 次	34	11	45
合計	168	151	319

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

【旧カリキュラム】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	18	21.6
教養教育科目	57	110.0
語学教育科目	13	15.0
医療安全教育科目	7	5.9
生涯学習の意欲醸成科目	8	4.2
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	13	25.2

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	31	71	102
2 年 次	32	1	33
3 年 次	27	14	41
4 年 次	22	13	35
5 年 次	20	3	23
6 年 次	31	13	44
合計	163	115	278

(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		260	250	250	250	250	250
入学時の学生数 ²⁾	A	271	250	265	260	259	254
在籍学生数 ³⁾	B	273	252	266	250	248	245
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	3	11	12	6	9	11
	休学による者 D	1	0	2	1	1	2
編入学などによる在籍者数	E	0	0	1	2	1	1
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	269	241	251	241	237	231
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	0.99	0.96	0.95	0.93	0.92	0.91
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	0.01	0.04	0.05	0.03	0.04	0.05

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。
- 7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料2-2) 直近6年間の学生受入状況

入学年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	平均値 ⁵⁾	
入学定員 A	250	250	250	250	250	260		
実入学者数 ¹⁾ B	254	259	260	265	250	271	260	
入学定員充足率 ²⁾ B/A	1.02	1.04	1.04	1.06	1.00	1.04	1.03	
編入学定員	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
編入学者数 ³⁾ C+D+E	3	1	2	2	1	0	2	
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	3	1	2	2	1	0	2
	3年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料2-3) 評価実施年度の直近5年間における学年別の学籍異動状況

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	264	265	270	256	275
	休学者数 ²⁾	2	2	0	1	1
	退学者数 ²⁾	7	4	2	7	10
	留年者数 ²⁾	3	3	6	4	1
	進級率 ³⁾	0.95	0.97	0.97	0.95	0.96
2年次	在籍者数 ¹⁾	253	257	263	270	252
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	6	3	3	4	5
	留年者数 ²⁾	3	5	7	7	9
	進級率 ³⁾	0.96	0.97	0.96	0.96	0.94
3年次	在籍者数 ¹⁾	250	254	253	260	266
	休学者数 ²⁾	0	1	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	2	0	4	3
	留年者数 ²⁾	10	3	7	7	10
	進級率 ³⁾	0.96	0.98	0.97	0.96	0.95
4年次	在籍者数 ¹⁾	258	243	249	251	250
	休学者数 ²⁾	0	1	0	1	1
	退学者数 ²⁾	1	3	0	2	0
	留年者数 ²⁾	3	1	5	0	1
	進級率 ³⁾	0.98	0.98	0.98	0.99	0.99
5年次	在籍者数 ¹⁾	266	255	240	244	248
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	留年者数 ²⁾	1	1	0	1	1
	進級率 ³⁾	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1) 在籍者数は、当該年度当初(4月1日)における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。

ただし、同一学生に複数の事象が発生した場合は、後の事象だけに算入してください。

なお、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は算入しないでください。

3) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記入してください。

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / (\text{在籍者数})$$

(基礎資料2-4) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		269	267	257	240	244
学士課程修了(卒業)者数 B		266	260	250	238	244
卒業率 ²⁾ B/A		0.99	0.97	0.97	0.99	1.00
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	253	252	233	224	231
	7年	9	6	11	10	11
	8年	1	0	2	1	1
	9年以上	0	0	0	1	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		282	288	258	256	254
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.90	0.88	0.90	0.88	0.91

平成25年度・平成26年度は4年制学科と包括募集。

- 1) 9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。
- 2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A) を小数点以下第2位まで記載してください。
- 3) 「編入学者を除いた卒業生数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。
- 5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D) を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)		薬と仕事Ⅱ				
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ 医療倫理学		終末期医療論	終末期医療論
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。		薬と仕事Ⅱ				
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。		薬と仕事Ⅱ				
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)		薬と仕事Ⅱ				
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。		薬と仕事Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 医療倫理学		終末期医療論	終末期医療論
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。			臨床医学概論Ⅰ 医療倫理学		終末期医療論	終末期医療論
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)			臨床医学概論Ⅰ		病院・薬局実習	
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)			薬と仕事Ⅲ 医療倫理学		病院・薬局実習	
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)					病院・薬局実習	
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。		薬と仕事Ⅱ				
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。		薬と仕事Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ			
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。		薬と仕事Ⅱ	薬と仕事Ⅲ 医療倫理学			
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)					病院・薬局実習	
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)		薬と仕事Ⅱ			病院・薬局実習	
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。			臨床医学概論Ⅰ			
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)			薬と仕事Ⅲ 医療倫理学			
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)			臨床医学概論Ⅰ 薬と仕事Ⅲ 医療倫理学		病院・薬局実習	
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)			臨床医学概論Ⅰ 薬と仕事Ⅲ 医療倫理学			
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)					病院・薬局実習	
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。						
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。		ヒューマンリレーション論		医療心理学		チーム医療演習
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。						
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)		ヒューマンリレーション論		医療心理学	病院・薬局実習	チーム医療演習
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)					病院・薬局実習	
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。						
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)					病院・薬局実習	
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)		ヒューマンリレーション論		医療心理学	病院・薬局実習	チーム医療演習
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)					病院・薬局実習	
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)						
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。			ヒューマンリレーション論 薬と仕事Ⅱ			
2) チームに参加し、協力的態度で役割を果たす。(態度)			薬と仕事Ⅲ ヒューマンリレーション論	医療心理学		チーム医療演習
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)			ヒューマンリレーション論		病院・薬局実習	
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)		ヒューマンリレーション論	薬と仕事Ⅲ	医療心理学	病院・薬局実習	チーム医療演習
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学概論			救急治療・臨床中毒学		
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。						
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。			薬と仕事Ⅲ			
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	薬学概論	薬と仕事Ⅱ		救急治療・臨床中毒学		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。		薬と仕事Ⅱ				
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。						
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	薬学概論					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。 2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。 3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬学概論			救急治療・臨床中毒学		
【日本薬局方】 1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学概論			医薬品化学		
【総合演習】 1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度) 2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)	薬学概論					
(2) 早期体験学習 1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度) 3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度) 4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	薬と仕事 I					
C 薬学専門教育 【物理系薬学を学ぶ】 C1 物質の物理的性質 (1) 物質の構造 【化学結合】 1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。 2) 軌道の混成について説明できる。 3) 分子軌道の基本概念を説明できる。 4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	化学 化学 化学 化学		有機化学 II			
【分子間相互作用】 1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。 2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。 3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。 4) 分散力について例を挙げて説明できる。 5) 水素結合について例を挙げて説明できる。 6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。 7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	化学					
【原子・分子】 1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。 2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。 3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。 4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。 5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能) 6) 偏光および旋光性について説明できる。 7) 散乱および干渉について説明できる。 8) 結晶構造と回折現象について説明できる。	化学					
【放射線と放射能】 1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。 2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。 3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。 4) 核反応および放射平衡について説明できる。 5) 放射線の測定原理について説明できる。	化学		放射線薬品学			
(2) 物質の状態 I 【総論】 1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。 2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。 3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。		生命の物理化学 I				
【エネルギー】 1) 系、外界、境界について説明できる。 2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。 3) 仕事および熱の概念を説明できる。 4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。 5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。 6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能) 7) エンタルピーについて説明できる。 8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能) 9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。		生命の物理化学 I				
【自発的な変化】 1) エントロピーについて説明できる。 2) 熱力学第二法則について説明できる。 3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能) 4) 熱力学第三法則について説明できる。 5) 自由エネルギーについて説明できる。 6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能) 7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。 8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。 9) 共役反応について例を挙げて説明できる。		生命の物理化学 I				
(3) 物質の状態 II 【物理平衡】 1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。 2) 相平衡と相律について説明できる。 3) 代表的な状態図(一分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。 4) 物質の溶解平衡について説明できる。 5) 溶液の束一的性質(浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。 6) 界面における平衡について説明できる。 7) 吸着平衡について説明できる。 8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		生命の物理化学 II				
【溶液の化学】 1) 化学ポテンシャルについて説明できる。 2) 活量と活量係数について説明できる。 3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		生命の物理化学Ⅱ				
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		生命の物理化学Ⅱ				
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。						
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		生命の物理化学Ⅱ				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係 (Arrheniusの式) を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。						
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。						
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。						
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。		分析科学Ⅰ			先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)		分析科学Ⅱ				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)						
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析科学Ⅰ			先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。		分析科学Ⅱ				
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。						
6) イオン交換について説明できる。						
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	無機化学	分析科学Ⅰ 医薬品化学実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ				
2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	無機化学	分析科学Ⅰ 医薬品化学実習 有機分析実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ	医薬品化学		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
3) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	無機化学	分析科学Ⅰ 医薬品化学実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ				
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		分析科学Ⅰ			先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		医薬品化学実習				
3) 日本薬局方記載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		定量分析実習				
4) 日本薬局方記載の容量分析法について列挙できる。		分析科学Ⅱ				
5) 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学Ⅰ			先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品化学実習				
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		定量分析実習				
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学Ⅱ				
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)						
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学Ⅰ			先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品化学実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ				
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		分析科学Ⅰ 医薬品化学実習 有機分析実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ				
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		分析科学Ⅰ 医薬品化学実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ			先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)		分析科学Ⅰ 医薬品化学実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ				
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		定量分析実習	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を挙げる。		定量分析実習	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。						
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。						
9) 薬学領域で緊用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。				救急治療・臨床中毒学		
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		有機合成実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴(ESR)スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		有機合成実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。		有機合成実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。		有機合成実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。		有機合成実習 定量分析実習 分析科学Ⅱ	分析科学Ⅲ		先端生体分子解析学特別講義	先端生体分子解析学特別講義
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子(タンパク質、核酸、脂質など)の立体構造を概説できる。			分子の立体構造と生命			
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
3) タンパク質の立体構造を規定する因子(疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など)について、具体例を用いて説明できる。						
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			分子の立体構造と生命			
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
3) 脂質の水における分子集合構造(膜、ミセル、膜タンパク質など)について説明できる。						
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	化学 基礎有機化学 無機化学 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ 医薬品化学実習 有機分析実習 有機合成実習 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。						
5) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離、転位)の特徴を概説できる。						
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。						
7) 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン)の構造と性質を説明できる。						
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	化学 基礎有機化学 無機化学 有機化学Ⅰ	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	化学 基礎有機化学 無機化学	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	化学 基礎有機化学 無機化学	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	基礎有機化学	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。						
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	基礎有機化学 有機化学 I	有機化学 II 医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	基礎有機化学	有機化学 II 医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II 医薬品構造学	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 芳香族性 (Hückel則) の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	基礎有機化学 有機化学 I	有機化学 II 医薬品化学実習 有機分析実習 有機合成実習 有機化学 III	合成化学 I 合成化学 II	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。						
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学 有機化学 I	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II	薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学 有機化学 I	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学 有機化学 I	医薬品化学実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II	薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	医薬品化学実習 有機分析実習 有機合成実習 有機化学 III	合成化学 I 合成化学 II	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	医薬品化学実習 有機分析実習 有機合成実習	合成化学 I 合成化学 II	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学 先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。		有機化学 II 医薬品化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	医薬品化学実習 有機分析実習 有機合成実習 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	医薬品化学 薬品製造化学 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義
3) 含窒素化合物の塩基性を説明できる。						
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
[¹H NMR]						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。	基礎有機化学	医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
[¹³C NMR]						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
【マスマスペクトル】						
1) マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。	基礎有機化学	医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。		医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		医薬品化学実習 生薬学実習	植物薬品化学	創薬化学		
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ 有機合成実習 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	創薬化学 薬品製造化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。						
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。						
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)						
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	基礎有機化学	有機化学Ⅱ 有機合成実習 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	創薬化学 薬品製造化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。						
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	基礎有機化学 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ 有機合成実習	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	創薬化学 薬品製造化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 官能基に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	基礎有機化学	有機化学Ⅱ 有機合成実習 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	創薬化学 薬品製造化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。	基礎有機化学	有機合成実習	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	創薬化学 薬品製造化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)	基礎有機化学	有機化学Ⅱ 有機合成実習 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ	創薬化学 薬品製造化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)						
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。						
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			医薬品構造学		先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。						
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						
3) 複素環を含む代表的な補酵素(フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など)の機能を化学反応性と関連させて説明できる。			医薬品構造学		先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。						
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。			医薬品構造学		先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。						
2) 代表的な酵素(キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど)の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			医薬品構造学		先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造(ファーマコフォア)を指摘し、分類できる。			合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学	医薬品化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学	医薬品化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学Ⅱ				
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学Ⅱ				
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。						
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。			合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学		先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学	医薬品化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学		先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	薬用植物学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 生薬学実習	植物薬品化学		香粧品学	香粧品学
2) 生薬の歴史について概説できる。						
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)	薬用植物学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 生薬学実習	植物薬品化学		香粧品学	香粧品学
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)						
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	薬用植物学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 生薬学実習	植物薬品化学		香粧品学	香粧品学
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。						
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるこができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるこができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	薬用植物学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 生薬学実習	植物薬品化学		香粧品学	香粧品学
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
【農業、香粧品としての利用】						
1) 天然物質の農業、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。	薬用植物学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 生薬学実習	植物薬品化学		香粧品学	香粧品学
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	薬用植物学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 生薬学実習	植物薬品化学		香粧品学	香粧品学
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ 植物薬品化学		先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義	先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。		化学療法学Ⅰ 生薬学実習				
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を挙げて説明できる。						
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 化学療法学Ⅰ 生薬学実習	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ 植物薬品化学		先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義	先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。						
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 化学療法学Ⅰ 生薬学実習	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ 植物薬品化学		先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義	先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。						
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 化学療法学Ⅰ 生薬学実習	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ 植物薬品化学		先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義	先端生薬学特別講義 先端微生物薬品製造化学特別講義
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。			東洋医学概論		東洋医学精説	東洋医学精説
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			東洋医学概論		東洋医学精説	東洋医学精説
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	生理学Ⅰ	生理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	臨床医学概論Ⅲ		
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生理学Ⅰ	生理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	臨床医学概論Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生理学Ⅰ	生理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	臨床医学概論Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学Ⅰ	生理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	臨床医学概論Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学Ⅰ	生理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	臨床医学概論Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 香粧品学
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III 臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III	臨床医学概論 III 臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概論 III 臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生理学 I	生理学 II	臨床医学概論 I 臨床医学概論 II	臨床医学概論 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 香粧品学
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	生化学 I 生理学 I	生化学 II	細胞生物学 薬理学実習 II			
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	生化学 I 生理学 I	生化学 II	細胞生物学			
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生化学 I 生理学 I	生化学 II	細胞生物学			
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	生化学 I	生化学 II	細胞生物学			
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生化学 I	生化学 II	細胞生物学			
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	生化学 I 生理学 I	生理学 II				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	生化学 I 生理学 I	生理学 II				
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	生化学 I 生理学 I	生理学 II				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。						
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。	生化学 I 生理学 I	生理学 II				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	生化学 I 生理学 I	生理学 II				
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	生化学 I 生理学 I	生理学 II				
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学 I	微生物学実習 I			薬学総合演習
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。						
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。	微生物学 I 微生物学 II		微生物学実習 I			薬学総合演習
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。						
【細菌毒素】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学 I	微生物学実習 I			薬学総合演習
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学 I	微生物学実習 I			薬学総合演習
2) ウイルスの分類法について概説できる。						
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学 I	微生物学実習 I			薬学総合演習
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 I	微生物学実習 I			薬学総合演習
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(OSCEの対象)						
3) 主な滅菌法を実施できる。(OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		微生物学 I	微生物学実習 I			
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。		微生物学 II				
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I			
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I			
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I			
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I			
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。	生化学 I	生化学 III ゲノム医学 生化学実習				
2) DNAの構造について説明できる。						
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	生化学 I	生化学 III ゲノム医学 生化学実習				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
4) 染色体の構造を説明できる。						
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。						
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	生化学 I	生化学 III ゲノム医学 生化学実習				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。						
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	生化学 I	生化学 III ゲノム医学 生化学実習				
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。						
3) DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異(SNPs)が機能におよぼす影響について概説できる。	生化学 I	生化学 III ゲノム医学 生化学実習				
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学 I	生化学実習	分子の立体構造と生命			
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学 I	生化学実習				
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)						
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。	生化学 I	生化学実習	細胞生物学			
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
3) 血漿リボタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)	生化学 I	生化学実習				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I			
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I			
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系(酸化リン酸化)について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	生化学 I	生化学 II	衛生化学 I 細胞生物学			
2) 糖新生について説明できる。						
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	生化学 II 薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬理学実習 I 薬理学実習 II				
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	生化学 II 薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬理学実習 I 薬理学実習 II				
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	生化学 II 薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬理学実習 I 薬理学実習 II				
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	生化学 II 薬理学 I 薬理学 II	免疫学 薬理学 III 薬理学実習 I 薬理学実習 II				
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に關与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	生化学 II 薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬理学実習 I 薬理学実習 II				
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。						
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。	生化学 III ゲノム医学 生化学実習	微生物学実習 II	バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論		
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)						
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)						
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)						
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。	生化学 III ゲノム医学 生化学実習	衛生化学実習 微生物学実習 II	バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論		
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)						
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。	生化学 III ゲノム医学 生化学実習	微生物学実習 II	バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論		
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	免疫学	薬理学				
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 免疫反応の特徴 (自己と非自己、特異性、記憶) を説明できる。						
5) クローン選択説を説明できる。						
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。						
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。			免疫学			薬学総合演習
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。						
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。			免疫学			薬学総合演習
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫学			薬学総合演習
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			微生物学実習 I			
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。						
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			薬学総合演習
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			微生物学実習 I			
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。						
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。			免疫学			薬学総合演習
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。			微生物学実習 I			
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。	生化学実習		免疫学			薬学総合演習
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)			微生物学実習 I			
4) ELISA法、ウェスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)						
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学 II ゲノム医学					
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、腸炎ピブリオ菌、緑膿菌、Δプルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			微生物学実習 I		感染制御学	感染制御学 薬学総合演習
8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、Δムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		微生物学 II ゲノム医学	微生物学実習 I	医療薬学 II	感染制御学	感染制御学 薬学総合演習
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的価値 (栄養価) を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。					健康食品論	
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。					健康食品論	
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		微生物学Ⅱ				
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		微生物学Ⅱ		健康食品論		薬学総合演習
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				健康科学Ⅰ		
2) 人口静態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。				健康科学Ⅰ		
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。				健康科学Ⅰ		
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				健康科学Ⅰ		
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。				健康科学Ⅰ		
3) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。						
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。		微生物学Ⅱ		健康科学Ⅰ		薬学総合演習
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。				健康科学Ⅰ		
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。					健康科学Ⅱ	
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2) 第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。					健康科学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅰ 救急治療・臨床中毒学	
3) 第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2) 変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		微生物学Ⅰ		衛生化学Ⅱ 微生物学実習Ⅰ	健康科学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅰ	
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。				衛生化学Ⅱ	健康科学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学	
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)を説明できる。						
8) 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。					健康科学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学	
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)						
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。				放射薬品学 放射薬品学実習	医薬品安全性学Ⅰ	
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			放射薬品学 放射薬品学実習	健康科学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅰ		
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)				健康科学Ⅱ	先端公衆衛生学特別講義	先端公衆衛生学特別講義
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			放射薬品学			
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)						
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			健康科学Ⅰ 公衆衛生学実習		先端公衆衛生学特別講義	先端公衆衛生学特別講義
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			健康科学Ⅰ 公衆衛生学実習		先端公衆衛生学特別講義	先端公衆衛生学特別講義
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。						
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)						
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			健康科学Ⅰ 公衆衛生学実習		先端公衆衛生学特別講義	先端公衆衛生学特別講義
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。						
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。						
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。						
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
				薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 医薬品構造学	医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学	先端医薬品化学特別講義
				薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 医薬品構造学	医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学	先端医薬品化学特別講義
				薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 医薬品構造学	医薬品安全性学Ⅰ	先端医薬品化学特別講義
				薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な中枢神経疾患 (てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
5) 代表的な精神疾患 (統合失調症、うつ病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	薬物治療学 II 医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II				
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない						
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	薬物治療学 II 医薬品安全性学 II	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	薬物治療学 II 医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II				
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	端医薬品化学特別講義	端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	医薬品安全性学 II 先端医薬品化学特別講義	医薬品安全性学 II 先端医薬品化学特別講義 薬物治療学演習 I
【血液・造血管系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	薬物治療学 III 医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	薬物治療学 III 医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	薬物治療学 III 医薬品安全性学 II 薬品製造化学	医薬品安全性学 II 先端医薬品化学特別講義	医薬品安全性学 II 先端医薬品化学特別講義
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 薬物治療学 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 医薬品構造学	医薬品安全性学 II 薬品製造化学	先端医薬品化学特別講義	先端医薬品化学特別講義
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			生物薬剤学 薬物治療学 I	医薬品安全性学 I		
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			生物薬剤学 薬物治療学 I	医薬品安全性学 I		
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）						
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			生物薬剤学 薬物治療学 I	医薬品安全性学 I		
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			生物薬剤学 薬物治療学 I	医薬品安全性学 I		
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			生物薬剤学 薬物治療学 I	医薬品安全性学 I		
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動的パラメーターを用いて説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学		
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい		病理学 病態評価学		臨床医学概論 I 臨床生理学 I 疾病解析学 臨床生理学 II 臨床生化学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 臨床病理学 臨床検査学実習 臨床検査学
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病理学 病態評価学		臨床医学概論 I 臨床生理学 I 疾病解析学 臨床生理学 II 臨床生化学	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	薬物治療学演習 I 臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 臨床病理学 臨床検査学実習 臨床検査学
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べるることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。		薬理学 I 薬理学 II		薬理学 III 臨床医学概論 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	薬物治療学 III 臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 薬物治療学演習 I
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。		薬理学 I 薬理学 II		薬理学 III 臨床医学概論 I 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 薬物治療学演習 I
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬理学 III 臨床医学概論 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅰ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅰ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 薬物治療学演習Ⅰ
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 専門薬剤師論
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 専門薬剤師論
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患 (気管支喘息、肺気腫) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 専門薬剤師論
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎 (かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 専門薬剤師論
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 薬物治療学演習Ⅰ 専門薬剤師論
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	薬物治療学 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 専門薬剤師論
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I		臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 専門薬剤師論
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	臨床医学概論 III 薬物治療学 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 臨床医学概説 II 終末期医療論	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 薬物治療学演習 I 終末期医療論 専門薬剤師論
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	臨床医学概論 III 薬物治療学 II 臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 終末期医療論	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 終末期医療論 専門薬剤師論
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	臨床医学概論 III 薬物治療学 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 終末期医療論	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 終末期医療論 専門薬剤師論
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I 薬理学 II	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I 薬理学実習 II 薬物治療学 I	臨床医学概論 III 薬物治療学 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 終末期医療論	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II 終末期医療論 専門薬剤師論
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I	薬理学 III 臨床医学概論 II 薬理学実習 I	臨床医学概論 III	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II	臨床医学概説 I 臨床医学概説 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論	終末期医療論 専門薬剤師論
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げるができる。						
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概説Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	臨床医学概説Ⅲ 薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論 専門薬剤師論
3) 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概説Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	臨床医学概説Ⅲ 薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論 専門薬剤師論
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概説Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	臨床医学概説Ⅲ 薬物治療学Ⅲ	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 薬物治療学演習Ⅰ 終末期医療論 専門薬剤師論
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ 臨床医学概説Ⅱ 薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	臨床医学概説Ⅲ 病院・薬局実習事前実習	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 終末期医療論	臨床医学概説Ⅰ 臨床医学概説Ⅱ 薬物治療学演習Ⅰ 終末期医療論 専門薬剤師論
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ	医薬品安全性学Ⅱ	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。						
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬(ST合剤を含む)の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ		先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		化学療法学 I	化学療法学 II		先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		化学療法学 I	化学療法学 II		先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		化学療法学 I	化学療法学 II	医薬品安全性学 II	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。		化学療法学 I	化学療法学 II		先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学	先端微生物薬品製造化学特別講義 薬物治療学演習 I 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。		化学療法学 I	化学療法学 II	医薬品安全性学 II	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論	先端微生物薬品製造化学特別講義 薬物治療学演習 I 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。		化学療法学 I	化学療法学 II	医薬品安全性学 II	先端微生物薬品製造化学特別講義 終末期医療論 感染制御学	先端微生物薬品製造化学特別講義 薬物治療学演習 I 終末期医療論 感染制御学 専門薬剤師論
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。				医薬品情報学 I		医薬品情報学 II EBM演習
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。				医薬品情報学 I		医薬品情報学 II EBM演習
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				医薬品情報学 I 病院・薬局実習事前実習		医薬品情報学 II EBM演習
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)				医薬品情報学 I 病院・薬局実習事前実習		
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学 I		
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学 I		
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)				医薬品情報学 I		医薬品情報学 II EBM演習
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)				医薬品情報学 I 病院・薬局実習事前実習		
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。						
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所を概説できる。				医薬品情報学 I		医薬品情報学 II EBM演習
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)						
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。						
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)				医薬品情報学 I		医薬品情報学 II EBM演習
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			疾病解析学	医療薬学 II 臨床薬物動態学		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム(POS)を説明できる。				医療薬学 II 臨床薬物動態学		
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)				医療薬学 II 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)				医療薬学 II 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)			疾病解析学	医療薬学 II 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)				医療薬学 II 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前実習		
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)				医療薬学 II 臨床薬物動態学		
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)				医療薬学 II 臨床薬物動態学		
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
3) 栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与设计ができる。(知識・技能)				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II 病院・薬局実習事前実習		
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与设计ができる。(知識・技能)				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II 病院・薬局実習事前実習		
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。						
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。				物理薬剤学 I	物理薬剤学 II	
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。						
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			物理薬剤学 I	物理薬剤学 II		
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。						
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)						
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。						
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。						
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。						
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)						
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			製剤学 生物薬剤学	物理薬剤学 II		
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明できる。						
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。						
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。						
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品 (オーファンドラッグ) 開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			医薬品構造学	医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ 医療薬学Ⅱ 創薬化学	医薬品安全性学Ⅱ 医療薬学Ⅱ 創薬化学 先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	医薬品安全性学Ⅱ 医療薬学Ⅱ 創薬化学 先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。			医薬品構造学	医療薬学Ⅱ 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど)について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品構造学	医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ 医療薬学Ⅱ 創薬化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。			医薬品構造学	創薬化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。			医薬品構造学	創薬化学 先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) 医薬品と標的の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。			医薬品構造学	創薬化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。			医薬品構造学	創薬化学	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義	先端薬品製造化学特別講義 先端医薬品化学特別講義
2) 生物学的等価性(バイオアイソスター)の意義について概説できる。						
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。						
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。					バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)					バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)					バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			バイオインフォマティクス実習		バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられる方法(ゲノミックサザンブロット法など)について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患(癌、糖尿病など)関連遺伝子について説明できる。					バイオテクノロジー創薬論	バイオテクノロジー創薬論
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。						
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 治験 (第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相) の内容を説明できる。				医療薬学Ⅱ 臨床試験総論		
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (態度)						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。				医療薬学Ⅱ 臨床試験総論		
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。				先端生命薬化学特別講義 臨床統計学	先端生命薬化学特別講義 臨床統計学 医薬品情報学Ⅱ	
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。				先端生命薬化学特別講義 臨床統計学	先端生命薬化学特別講義 臨床統計学 医薬品情報学Ⅱ	
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度		
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度		
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度 調剤学 薬事関係法規 医薬関連制度		
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			放射薬品学	薬事関係法規 医薬関連制度 薬物治療学Ⅲ		
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				医療薬学Ⅰ	薬剤経済学 薬事行政	薬剤経済学 薬事行政
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				医療薬学 I	薬剤経済学 薬事行政	薬剤経済学 薬事行政
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				医療薬学 I	薬剤経済学 薬事行政	薬剤経済学 薬事行政 薬物治療学演習 I
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。			薬と仕事Ⅲ	OTC治療学 医療薬学 I	薬事行政	薬事行政
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。			薬と仕事Ⅲ	OTC治療学 医療薬学 I	薬事行政	薬事行政
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				OTC治療学 医療薬学 I	薬事行政	薬事行政
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				OTC治療学 医療薬学 I	薬事行政	薬事行政
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	医療倫理学		
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		調剤学 医療薬学Ⅱ	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		医療薬学Ⅰ 医療薬学Ⅱ	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		医療薬学Ⅱ	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		医療薬学Ⅱ	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		医療薬学Ⅱ	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		医療薬学Ⅰ	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		調剤学	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		調剤学	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		調剤学	
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		調剤学	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		調剤学、病院・薬局実習 事前実習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。		調剤学	
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		調剤学	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。		調剤学	
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		調剤学	
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		医療薬学Ⅰ	
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		病院・薬局実習事前実習	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		病院・薬局実習事前実習	
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		病院・薬局実習事前実習	
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		病院・薬局実習事前実習	
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		病院・薬局実習事前実習	
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		調剤学	
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		調剤学	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		病院・薬局実習事前実習	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		調剤学	
《疑義照会入門》			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		病院・薬局実習事前実習	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
9. 疑義照会の流れを説明できる。		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		病院・薬局実習事前実習	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
（４）医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		医療薬学Ⅱ	
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		医療薬学Ⅱ	
《特別な配慮を要する医薬品》			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		医療薬学Ⅱ	
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		医療薬学Ⅱ	
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		医療薬学Ⅱ	
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		医療薬学Ⅱ	
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		医療薬学Ⅱ	
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		医療薬学Ⅱ	
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）		病院・薬局実習事前実習	
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	放射薬品学	薬物治療学Ⅲ	
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。	放射薬品学	薬物治療学Ⅲ	
《製剤化の基礎》			
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		医療薬学Ⅱ	
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		医療薬学Ⅱ	
14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）	物理薬剤学実習		
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
《注射剤と輸液》			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）		調剤学 病院・薬局実習事前実習	
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		医療薬学Ⅱ	
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）		医療薬学Ⅱ	
《消毒薬》			
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		医療薬学Ⅱ	
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。		医療薬学Ⅱ	
（５）リスクマネジメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		調剤学	
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		調剤学	
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		医療薬学Ⅱ	
《副作用に注目する》			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		医薬品安全性学Ⅱ	
《リスクマネジメント入門》			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		調剤学	
6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）		調剤学	
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）		調剤学	
（６）服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		医療薬学Ⅰ	
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		医療薬学Ⅰ	
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		医療薬学Ⅰ	
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）		病院・薬局実習事前実習	
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）		病院・薬局実習事前実習	
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）	医療心理学	病院・薬局実習事前実習	
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	医療心理学	病院・薬局実習事前実習	
《患者情報の重要性に注目する》			
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		医療薬学Ⅰ 病院・薬局実習事前実習	
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		医療薬学Ⅰ 病院・薬局実習事前実習	
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		医療薬学Ⅰ 病院・薬局実習事前実習	
《服薬指導入門》			
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		医療薬学Ⅰ 病院・薬局実習事前実習	
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		病院・薬局実習事前実習	
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		病院・薬局実習事前実習	
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		病院・薬局実習事前実習	
（７）事前学習のまとめ			

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)		社会薬学実習	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)		社会薬学実習	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習 看護学	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)				病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)		社会薬学実習	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)				病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)			医療心理学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。 (知識・態度)			医療心理学	病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学	病院・薬局実習	医療コミュニケーション論
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬と仕事 I	社会薬学実習	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学	病院・薬局実習	
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬と仕事 I	薬と仕事 II				
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。			医療心理学 地域医療薬学 I			
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。						
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論					
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬と仕事 I	健康科学	公衆衛生学 I			
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。			衛生化学 II			
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。 (知識・態度)		健康科学	公衆衛生学 I	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)		薬と仕事 II		病院・薬局実習事前 実習 医薬品安全性学 I	病院・薬局実習	
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。						
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。		薬と仕事 II				
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。		薬と仕事 II	調剤学			
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)		薬と仕事 II		病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	化学	薬と仕事 II 健康科学		医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)		薬と仕事 II 健康科学		医薬品安全性学 I		
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論 薬用植物学					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）					病院・薬局実習	
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）		薬と仕事Ⅱ		医療倫理学		
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。				医療倫理学		
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）		社会薬学実習 薬と仕事Ⅱ		病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学		
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。				医療倫理学		
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。		薬と仕事Ⅱ		医療倫理学		
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。		薬と仕事Ⅱ		医療倫理学		
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。		社会薬学実習 薬と仕事Ⅱ		医療倫理学		
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）		社会薬学実習	医療心理学 医療ボランティア実 習A 医療ボランティア実 習B	医療倫理学	病院・薬局実習	
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。		薬と仕事Ⅱ		医療倫理学		
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。			医療心理学	医療倫理学		
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 （知識・技能・態度）			医療心理学	医療倫理学	病院・薬局実習	
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。		薬と仕事Ⅱ		医療倫理学 臨床試験総論		
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学概論			医療倫理学 臨床試験総論		
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）				医療倫理学 臨床試験総論		
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	チーム医療論	医療コミュニケー ション論		病院・薬局実習事前 実習		医療コミュニケー ション論
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	チーム医療論	医療コミュニケー ション論		病院・薬局実習事前 実習		医療コミュニケー ション論
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	チーム医療論	医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習		医療コミュニケー ション論
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	チーム医療論 臨床心理学入門	医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習		医療コミュニケー ション論
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）	臨床心理学入門	医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	医療コミュニケー ション論
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）	臨床心理学入門	医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	医療コミュニケー ション論
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）		医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	医療コミュニケー ション論
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）		医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	医療コミュニケー ション論
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）	チーム医療論	医療コミュニケー ション論	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学	病院・薬局実習	医療コミュニケー ション論
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。			医療心理学			
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）	臨床心理学入門	社会薬学実習	医療心理学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	チーム医療論			看護学		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	チーム医療論	薬と仕事Ⅱ		看護学		
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	チーム医療論	薬と仕事Ⅱ		医療薬学		
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）	チーム医療論	医療コミュニケー ション論			病院・薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	チーム医療論	薬と仕事Ⅱ 医療コミュニケーション論			病院・薬局実習	
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)					病院・薬局実習	
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)					病院・薬局実習	
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)					病院・薬局実習	
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)					病院・薬局実習	
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ				病院・薬局実習	
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論			病院・薬局実習事前 実習		
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学概論					
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学概論 情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ			実践医療薬学A	実践医療薬学B	実践医療薬学C
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)				実践医療薬学A	実践医療薬学B	実践医療薬学C
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)			医療心理学			
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				病院・薬局実習事前 実習		
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。						
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)				病院・薬局実習事前 実習		
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)		健康科学		病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学		
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)				病院・薬局実習事前 実習 医療倫理学		
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)					病院・薬局実習	
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				薬事関係法規 医薬関連制度		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。				医薬関連制度		
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。				医薬関連制度		
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。				医薬関連制度		
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				医薬関連制度		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				医薬関連制度		
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。				医薬関連制度		
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。				医薬関連制度		
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規		薬事行政
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規について概説できる。	薬学概論			医療薬学 薬事関係法規 臨床試験総論		薬事行政
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。	薬学概論			医療薬学 臨床試験総論		薬事行政
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規について説明できる。	薬学概論			医療薬学 薬事関係法規		薬事行政
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				薬事関係法規		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規について説明できる。				薬事関係法規 医薬関連制度		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関係法規		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。		医薬品化学実習	製剤学	医薬品化学 薬事関係法規		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規について説明できる。		健康科学		医療薬学 薬事関係法規		
10) 健康被害救済制度について説明できる。		社会薬学実習 健康科学 薬と仕事Ⅱ				
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			薬事行政
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				医療薬学 薬事関係法規 医薬品安全性学Ⅰ		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	薬用植物学			医療薬学 薬事関係法規 医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関係法規		
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。		社会薬学実習		地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		
2) 医療保険制度について説明できる。				地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		薬事行政
3) 療養担当規則について説明できる。				地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		
4) 公費負担医療制度について概説できる。				地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		
5) 介護保険制度について概説できる。				地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		
6) 薬価基準制度について概説できる。				地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		薬事行政
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				医療薬学 地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				地域医療薬学Ⅱ		薬事行政
2) 国民医療費の動向について概説できる。				地域医療薬学Ⅱ		薬事行政
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。				地域医療薬学Ⅱ		薬事行政
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。						薬事行政
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。		社会薬学実習 薬と仕事Ⅱ	地域医療薬学Ⅰ			
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	薬学概論	薬と仕事Ⅱ	地域医療薬学Ⅰ	地域医療薬学Ⅱ		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。				地域医療薬学Ⅱ		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ			
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ			
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				地域医療薬学Ⅱ		
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ			
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。		社会薬学実習	地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅱ		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ			
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。		社会薬学実習				
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅱ 医薬関連制度		
C 薬学基礎						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎有機化学 基礎有機化学演習	有機化学Ⅱ				
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	化学		構造生命科学 物理薬剤学Ⅰ 医薬 品構造学Ⅰ	創薬化学		薬学総合演習
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	化学		構造生命科学 物理薬剤学Ⅰ 医薬 品構造学Ⅰ	創薬化学		薬学総合演習
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	化学		構造生命科学 物理薬剤学Ⅰ 医薬品 構造学Ⅰ	創薬化学		薬学総合演習
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	化学		構造生命科学 物理薬剤学Ⅰ 医薬 品構造学Ⅰ	創薬化学		薬学総合演習
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	化学		構造生命科学 物理薬剤学Ⅰ 医薬 品構造学Ⅰ	創薬化学		薬学総合演習
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	化学		構造生命科学	創薬化学		薬学総合演習
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	化学		構造生命科学 物理薬剤学Ⅰ 医薬 品構造学Ⅰ	創薬化学		薬学総合演習
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。			構造生命科学			
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		分析科学Ⅰ				
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		分析科学Ⅱ				
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。		生命物理化学実習				
5) 光の散乱および干渉について説明できる。			構造生命科学			
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。			構造生命科学			
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。			放射薬品学			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。			放射薬品学 放射薬品学実習			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。			放射薬品学			
4) 核反応および放射平衡について説明できる。			放射薬品学 放射薬品学実習			
5) 放射線測定の実原理と利用について概説できる。			放射薬品学 放射薬品学実習			
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。		生命物理化学実習				
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
2) 熱力学第一法則を説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) エンタルピーについて説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学実習				
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習	物理薬剤学Ⅰ			
2) 熱力学第二法則について説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
3) 熱力学第三法則について説明できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		生命物理化学Ⅰ 生命物理化学実習				
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学Ⅱ				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
4) 共役反応の原理について説明できる。		生化学Ⅱ				
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		生命物理化学Ⅰ				
2) 相平衡と相律について説明できる。						薬学総合演習
3) 状態図について説明できる。						薬学総合演習
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		生命物理化学Ⅱ 生命物理化学実習	物理薬剤学Ⅰ			
2) 活量と活量係数について説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
4) イオン強度について説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学Ⅱ				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		生命物理化学Ⅱ				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		生命物理化学Ⅱ				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		生命物理化学Ⅱ				
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		生化学Ⅱ	医薬品構造学Ⅰ			
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		定量分析実習 有機合成実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		定量分析実習 有機合成実習				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。			分析科学Ⅲ			
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	基礎有機化学	生命物理化学Ⅱ	物理薬剤学Ⅰ			
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	基礎有機化学	生命物理化学Ⅱ	物理薬剤学Ⅰ			
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)						
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	物理薬剤学Ⅰ			
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析科学Ⅰ				
2) 沈殿平衡について説明できる。		分析科学Ⅰ				
3) 酸化還元平衡について説明できる。		分析科学Ⅰ				
4) 分配平衡について説明できる。			物理薬剤学Ⅰ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		医薬品化学実習		医薬品化学		
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		医薬品化学実習 有機分析実習		医薬品化学		薬学総合演習
【②定量分析 (容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学 I				
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学 I				
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学 I				
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析科学 I				
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		定量分析実習				
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		医薬品化学実習		医薬品化学		
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 I				
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 I				
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 II				
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 I				
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		分析科学 II				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		定量分析実習				
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 II				
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 II				
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		分析科学 II	構造生命科学			薬学総合演習
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		分析科学 II	構造生命科学			
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。						薬学総合演習
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						薬学総合演習
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		生薬学実習 分析科学 I 分析科学 II 有機分析実習				
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		生薬学実習 分析科学 I 有機合成実習				
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析科学 I				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析科学 II				
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		定量分析実習				
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析科学 II				
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。						薬学総合演習
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			分析科学 III			
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			分析科学 III 放射薬品学 放射薬品学実習 分析科学 III			
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			分析科学 III			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			分析科学 III			
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			放射薬品学 分析科学 III			
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化学 I 基礎有機化学	有機合成実習 有機化学 II 有機化学 III	合成化学 II			薬学総合演習
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機化学 I 基礎有機化学	有機合成実習 有機化学 II 有機化学 III	合成化学 II			薬学総合演習
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	化学 基礎有機化学演習		合成化学 II			薬学総合演習
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	基礎有機化学演習 化学 基礎有機化学	有機合成実習 有機化学 II	合成化学 I 合成化学 II			薬学総合演習
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	化学 基礎有機化学 基礎有機化学演習		合成化学 II			薬学総合演習
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学 I 基礎有機化学 基礎有機化学演習	有機合成実習 有機化学 II 有機化学 III	合成化学 I 合成化学 II			薬学総合演習
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学 I 化学 基礎有機化学 基礎有機化学演習	有機化学 II				
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	基礎有機化学	有機化学 II				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学 I 基礎有機化学演習 化学	有機合成実習 有機化学 II 有機化学 III	医薬品構造学 I 医薬品構造学 II 合成化学 II	薬品製造化学		薬学総合演習
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	化学					薬学総合演習
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化学 I 化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
6) 炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	化学 有機化学 I					薬学総合演習
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	化学 基礎有機化学演習					薬学総合演習
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	化学 基礎有機化学					薬学総合演習
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	基礎有機化学					
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎有機化学					
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	基礎有機化学					
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	化学 基礎有機化学					薬学総合演習
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	基礎有機化学 化学					薬学総合演習
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II		医薬品化学		薬学総合演習
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I		医薬品構造学 II			
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I					
【③芳香族化合物】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機合成実習 有機化学Ⅱ	医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		薬学総合演習
2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学Ⅱ		医薬品化学		薬学総合演習
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学Ⅱ		医薬品化学		薬学総合演習
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学Ⅱ		医薬品化学		薬学総合演習
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学Ⅱ				薬学総合演習
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機化学Ⅰ 基礎有機化学演習 基礎有機化学	有機合成実習 有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ			
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		有機合成実習 有機分析実習		医薬品化学		
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ 基礎有機化学	有機合成実習				
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学Ⅰ 基礎有機化学演習 基礎有機化学					
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学Ⅰ 基礎有機化学演習 基礎有機化学	有機合成実習				薬学総合演習
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	合成化学Ⅱ 医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ					
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機合成実習 有機化学Ⅲ 有機分析実習	医薬品構造学Ⅱ 合成化学Ⅰ	医薬品化学 薬品製造化学		
2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機合成実習 有機化学Ⅲ		医薬品化学 薬品製造化学		
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機合成実習 有機化学Ⅲ 有機分析実習	医薬品構造学Ⅱ 合成化学Ⅰ	医薬品化学 薬品製造化学		
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機合成実習 有機分析実習	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ 医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	基礎有機化学演習	有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅰ 合成化学Ⅱ			
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎有機化学演習	有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ	合成化学Ⅱ	医薬品化学 薬品製造化学		薬学総合演習
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	基礎有機化学演習	有機化学Ⅱ	合成化学Ⅱ	医薬品化学		薬学総合演習
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						薬学総合演習
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		分析科学Ⅱ				薬学総合演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③質量分析】						
1) マスペクトルより得られる情報を概説できる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		分析科学Ⅱ				薬学総合演習
4) 代表的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)						薬学総合演習
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)						薬学総合演習
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		医薬品化学実習				薬学総合演習
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。			医薬品構造学Ⅰ			薬学総合演習
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			医薬品構造学Ⅰ			薬学総合演習
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。		医薬品化学実習				
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。		医薬品化学実習				薬学総合演習
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。			合成化学Ⅱ 医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ			
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			合成化学Ⅱ 医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ	創薬化学		
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		薬理学Ⅰ	医薬品構造学Ⅱ			
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ			
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			医薬品構造学Ⅰ			
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			医薬品構造学Ⅰ			
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品構造学Ⅱ			
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			医薬品構造学Ⅰ			
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学Ⅰ		医薬品構造学Ⅰ	創薬化学		
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学Ⅰ		医薬品構造学Ⅰ	創薬化学		
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学Ⅰ		医薬品構造学Ⅰ	創薬化学		
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ			
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ			
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			合成化学Ⅱ 医薬品構造学Ⅱ			
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。			医薬品構造学Ⅱ			
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。	化学		医薬品構造学Ⅰ	創薬化学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。			医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学 創薬化学		薬学総合演習
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			医薬品構造学Ⅱ	創薬化学		
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		薬学総合演習
2) バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。			医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ	創薬化学		
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		生化学Ⅱ	医薬品構造学Ⅰ			
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品構造学Ⅱ			
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		化学療法学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ	医薬品化学		
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		化学療法学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ			
5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		化学療法学Ⅰ	医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		化学療法学Ⅰ	医薬品構造学Ⅱ			薬学総合演習
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		薬学総合演習
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ			薬学総合演習
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 医薬品構造学Ⅱ	医薬品化学		薬学総合演習
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルピタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 薬理学Ⅲ	医薬品化学		
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 薬理学Ⅲ			
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 化学療法学Ⅱ			
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 化学療法学Ⅱ			
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品構造学Ⅰ 化学療法学Ⅱ			
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品構造学Ⅰ			
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	薬用植物学					
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	薬用植物学	生薬学実習				
3) 植物の主な内部形態について説明できる。		生薬学実習				
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。	薬用植物学					
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学Ⅱ				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学実習 生薬学Ⅱ				
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学実習 生薬学Ⅱ				
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		生薬学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学実習 生薬学Ⅱ				
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学実習 生薬学Ⅱ				
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学総合演習
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	薬学概論	化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ			
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	薬学概論	化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ			
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	薬学概論	生薬学実習	微生物学実習Ⅱ			
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	薬学概論 薬用植物学	化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ			
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	薬学概論 薬用植物学	化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ			
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	薬学概論		化学療法学Ⅱ	健康食品論		
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生理学Ⅰ		衛生化学Ⅰ 細胞生物学			
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生理学Ⅰ 生化学Ⅰ		細胞生物学			
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生化学Ⅰ 生理学Ⅰ	病理学	細胞生物学			
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生理学Ⅰ 生化学Ⅰ		細胞生物学			
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。			衛生化学Ⅰ			
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。			衛生化学Ⅰ			
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。			衛生化学Ⅰ			
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学Ⅰ		構造生命科学 衛生化学Ⅰ			
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学Ⅰ		構造生命科学 衛生化学Ⅰ			
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ				
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生理学Ⅰ 生化学Ⅰ		衛生化学Ⅰ 衛生化学実習			
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学Ⅰ 生理学Ⅰ		衛生化学Ⅱ			
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生化学実習	衛生化学実習			
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。	生理学 I 生化学 I		衛生化学 I			
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。		生化学 III				
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		生化学 III				
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学 I					
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学 I					
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 I					
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生化学実習				
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。			衛生化学 I			
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。			衛生化学 I			
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。		生化学 III				
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	薬学概論	生化学 III ゲノム医学				
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。		生化学 III 病理学				
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。		生化学 III				
3) RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。		生化学 III				
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。		生化学 III				
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。		生化学 III 生化学実習				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。			細胞生物学			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。		生化学 III				
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。		生化学 III				
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		生化学 III 生化学実習				
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。		生化学 III 病理学				
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。		ゲノム医学 生化学 III	分析科学 III			
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。		ゲノム医学				
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生理学 I	生化学 II	臨床生化学 衛生化学 II			
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生理学 I	生化学 II	臨床生化学 衛生化学 I			
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生理学 I	生化学 II	臨床生化学 衛生化学 I			
3) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。	生理学 I	生化学 II	臨床生化学 衛生化学 I			
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	生理学 I	生化学 II	臨床生化学 衛生化学 I			
5) 糖新生について説明できる。	生理学 I	生化学 II	衛生化学 I			
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生化学 II	臨床生化学 衛生化学 I 細胞生物学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学Ⅱ	臨床生化学 衛生化学Ⅰ 薬理学Ⅲ 細胞生物学			
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅱ	臨床生化学 衛生化学Ⅰ			
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅱ	臨床生化学 衛生化学Ⅰ			
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生化学Ⅱ	衛生化学Ⅰ			
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学Ⅱ				
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学Ⅱ	衛生化学Ⅰ			
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生理学Ⅰ	薬理学Ⅰ				
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅲ 薬理学Ⅰ	細胞生物学			
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅲ 薬理学Ⅰ	細胞生物学			
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅲ 薬理学Ⅰ	細胞生物学			
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅲ 薬理学Ⅰ	細胞生物学			
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生理学Ⅰ	生化学Ⅲ	細胞生物学			
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。						
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		病理学				
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。		病理学 生化学Ⅲ	細胞生物学			
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。		病理学				
【②細胞死】						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。		病態評価学 病理学	細胞生物学	公衆衛生学Ⅱ		
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		病理学 ゲノム医学		公衆衛生学Ⅱ		
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		病理学 ゲノム医学 病態評価学		公衆衛生学Ⅱ		
07 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。		ゲノム医学				
2) 遺伝子多型について概説できる。		ゲノム医学				
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		ゲノム医学 病理学				
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。			細胞生物学			
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。			細胞生物学			
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	生理学Ⅰ		薬理学実習Ⅱ			
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。		病理学	薬理学実習Ⅱ			
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)			薬理学実習Ⅱ			
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)			薬理学実習Ⅱ			
【④神経系】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 中枢神経系について概説できる。	解剖学 生理学 I		薬理学実習 II 薬理学 III 臨床検査学 I	医薬品安全性学 II		
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。	解剖学 生理学 I	薬理学 I				
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	解剖学 生理学 I			医薬品安全性学 II		
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	解剖学 生理学 I					
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。		生理学 II				
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	解剖学	生理学 II 薬理学 II	薬理学実習 II 臨床検査学 I	医薬品安全性学 II		
2) 血管系について概説できる。	解剖学	生理学 II 薬理学 II	薬理学実習 II 臨床検査学 I	医薬品安全性学 II		
3) リンパ管系について概説できる。	解剖学	生理学 II		医薬品安全性学 II		
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。	解剖学	生理学 II 薬理学 II	臨床検査学 I	医薬品安全性学 II		
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	解剖学	生理学 II	薬理学実習 II 臨床検査学 I			
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	解剖学	生理学 II	薬理学実習 II 臨床検査学 I 臨床生化学			
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	解剖学	生理学 II 薬理学 II	薬理学実習 II 臨床検査学 I	医薬品安全性学 II		
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。	解剖学 生理学 I	薬理学 II	臨床生理学 I 薬理学実習 II			
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	解剖学 生理学 I	病態評価学	薬理学実習 II			
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	解剖学	生理学 II 薬理学 I	薬理学実習 II	医薬品安全性学 II		
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。		生理学 II	臨床検査学 I 臨床生理学 I	医薬品安全性学 II		
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	生理学 I	薬理学 I				
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生理学 I	薬理学 I				
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。		生理学 II 薬理学 I				
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	生理学 I	薬理学 I				
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	生理学 I	病態評価学	臨床生理学 I 薬理学 III	臨床生理学 II		
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学 I				
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		病態評価学				
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		病態評価学 生理学 II 薬理学 I 薬理学 II	薬理学実習 II			
【⑥血糖の調節機構】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 血糖の調節機構について概説できる。	生理学 I		衛生化学 I 薬理学 III			
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。		病態評価学 生理学 II 薬理学 II	臨床検査学 I			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		病態評価学 生理学 II 薬理学 II	臨床検査学 I			
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。		生理学 II	疾病解析学 薬理学実習 II			
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		病態評価学 薬理学 II	臨床生理学 I			
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	生理学 I		臨床生理学 I			
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。			免疫学 微生物学実習 I			
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。			免疫学			薬学総合演習
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。			免疫学			薬学総合演習
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。			免疫学			薬学総合演習
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。			免疫学			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。			免疫学			
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。			免疫学			
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。			免疫学			薬学総合演習
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。			免疫学			薬学総合演習
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。			免疫学			薬学総合演習
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。			免疫学			薬学総合演習
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。			免疫学			薬学総合演習
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		病理学				薬学総合演習
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学	臨床生理学 II		薬学総合演習
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			免疫学			薬学総合演習
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		薬理学 II	免疫学	薬物治療学 III		薬学総合演習
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			薬学総合演習
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						薬学総合演習
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。		微生物学 II	公衆衛生学 I			薬学総合演習
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			免疫学			
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			免疫学			薬学総合演習
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		生化学実習				
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学 I	細胞生物学			
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。		微生物学 I				
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学 I				
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。		生化学 II				
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学 I				
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学 II	化学療法学 II			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学 I				薬学総合演習
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		ゲノム医学 微生物学 I	微生物学実習 I			
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学 I	化学療法学 II 細胞生物学			
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学 I	化学療法学 II			
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。			微生物学実習 I			
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。			微生物学実習 I			
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)			微生物学実習 I			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)			微生物学実習 I 微生物学実習 II			
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)			微生物学実習 I 微生物学実習 II			
(4) 病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学 I 微生物学 II				薬学総合演習
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		化学療法学 I 微生物学 II				薬学総合演習
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		ゲノム医学 微生物学 II	化学療法学 II			感染制御学
2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。		ゲノム医学 微生物学 II	化学療法学 II			感染制御学
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。		微生物学 II				感染制御学
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物学 II				感染制御学
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学 II				
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		微生物学 II				
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学 II				
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。		微生物学 I	化学療法学 II			感染制御学
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		微生物学 I	化学療法学 II			感染制御学
D 衛生薬学						
D1 健康						
社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。		健康科学	公衆衛生学 I			
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学 I			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学 I			
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。			公衆衛生学 I			
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		健康科学	公衆衛生学 I			
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。			公衆衛生学 I			
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。			公衆衛生学 I			
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			公衆衛生学 I			
疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。		健康科学	公衆衛生学 I			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。			公衆衛生学Ⅰ 衛生化学Ⅱ			
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		微生物学Ⅱ	公衆衛生学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ		感染制御学 薬学総合演習
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。		微生物学Ⅱ	公衆衛生学Ⅰ			感染制御学 薬学総合演習
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学Ⅱ	公衆衛生学Ⅰ			感染制御学
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。		微生物学Ⅱ	公衆衛生学Ⅰ			薬学総合演習
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		健康科学	公衆衛生学Ⅰ			
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。		健康科学	公衆衛生学Ⅰ	健康食品論		
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）		健康科学	公衆衛生学Ⅰ			
【④母子保健】						
1) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生化学Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ 臨床栄養学		
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学Ⅱ		公衆衛生学Ⅱ		感染制御学
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
2) 労働衛生管理について説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	生理学Ⅰ		衛生化学Ⅰ 衛生化学実習			
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	生理学Ⅰ		衛生化学Ⅰ			
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。			衛生化学Ⅰ			
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。			衛生化学Ⅱ	健康食品論		
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	生理学Ⅰ		衛生化学Ⅱ	臨床栄養学 医療薬学		
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			衛生化学Ⅱ			
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生化学Ⅱ 衛生化学実習	臨床栄養学		
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			衛生化学Ⅱ	臨床栄養学 健康食品論		
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生化学Ⅱ 衛生化学実習			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			衛生化学Ⅱ 衛生化学実習			
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。			衛生化学Ⅱ 衛生化学実習			
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生化学Ⅱ			
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生化学Ⅱ 衛生化学実習			
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生化学Ⅱ	健康食品論		
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生化学Ⅱ	健康食品論		
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		微生物学Ⅱ	衛生化学Ⅱ			
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	薬用植物学		衛生化学Ⅱ	救急治療・臨床中毒学 健康食品論		薬学総合演習
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			衛生化学Ⅱ 衛生化学実習 公衆衛生学実習	公衆衛生学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
D2 環境						
化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。				公衆衛生学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。				公衆衛生学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		健康科学	衛生化学Ⅱ 衛生化学実習 公衆衛生学実習	公衆衛生学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		健康科学		公衆衛生学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			衛生化学Ⅱ	医薬品安全性学Ⅱ		
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。				医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			衛生化学実習	公衆衛生学Ⅱ 医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		微生物学Ⅰ	衛生化学Ⅱ 微生物学実習Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ		
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。			衛生化学Ⅱ	公衆衛生学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。			衛生化学Ⅱ	公衆衛生学Ⅱ		
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。			衛生化学Ⅱ	公衆衛生学Ⅱ		
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			衛生化学Ⅱ	公衆衛生学Ⅱ		
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。				公衆衛生学Ⅱ		
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。			衛生化学Ⅱ	公衆衛生学Ⅱ		
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			放射薬品学 放射薬品学実習			
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。			放射薬品学 放射薬品学実習			
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。			放射薬品学 放射薬品学実習			
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。			放射薬品学			
生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		健康科学		公衆衛生学Ⅱ		
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		健康科学		公衆衛生学Ⅱ		
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。		健康科学		公衆衛生学Ⅱ		
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。		健康科学	製剤学	公衆衛生学Ⅱ		
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)				公衆衛生学Ⅱ		
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		健康科学	公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ		
2) 環境基本法の理念を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ		
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。		健康科学	公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学Ⅱ		
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学実習			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。			公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学実習			
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習			
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習	救急治療・臨床中毒学		
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習			
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			公衆衛生学 I 公衆衛生学実習	救急治療・臨床中毒学		
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			公衆衛生学 I			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			公衆衛生学 I			
3) マニフェスト制度について説明できる。			公衆衛生学 I			
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I				
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学 I				
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学 I				
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学 I				
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)		薬理学 I				
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)				医薬品安全性学 I		
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I		医薬品安全性学 I		
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)		薬理学 I		医薬品安全性学 I 臨床薬物動態学		
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I		医薬品安全性学 I 医薬品安全性学 II		
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)			薬理学実習 II			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理学実習 I 薬理学実習 II			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)			薬理学実習 I 薬理学実習 II			
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		微生物学 I				
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害		病態評価学	臨床医学概論 I 臨床検査学 I 臨床生理学 I 臨床生化学 疾病解析学	病院・薬局実習事前 実習 臨床生理学 II		
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			臨床医学概論 I 疾病解析学 臨床検査学 I	臨床生理学 II		臨床検査学実習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態評価学	臨床医学概論Ⅰ 臨床検査学Ⅰ 臨床生理学Ⅰ	医薬品安全性学Ⅱ		臨床検査学実習 臨床検査総論実習 臨床生理学実習
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態評価学	臨床生化学 臨床医学概論Ⅰ 臨床生理学Ⅰ			臨床化学実習 臨床検査総論実習 臨床検査学実習
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態評価学	臨床医学概論Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			臨床検査総論実習
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ	医薬品安全性学Ⅱ 臨床生理学Ⅱ		
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態評価学 病理学	臨床生化学 臨床医学概論Ⅰ 臨床検査学Ⅰ	医薬品安全性学Ⅱ 臨床生理学Ⅱ		臨床検査総論実習
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			臨床検査学実習
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習		
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。			薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ 薬物治療学Ⅳ		薬物治療学演習Ⅰ 薬物治療学演習Ⅱ 薬学総合演習
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）						
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学Ⅰ		医薬品安全性学Ⅱ 救急治療・臨床中毒学		
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害				医薬品安全性学Ⅱ		
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）				医薬品安全性学Ⅱ		
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習Ⅱ			
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習Ⅰ 薬理学実習Ⅱ			
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅱ			
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ			
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅳ		薬物治療学演習Ⅰ
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学実習Ⅰ			
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅱ			
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅱ			薬物治療学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅱ			薬物治療学演習Ⅱ
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床検査学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ	臨床薬物動態学		
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 臨床検査学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ			薬物治療学演習Ⅱ
9) Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床検査学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ			
10) 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		健康科学	臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床検査学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。			疾病解析学 臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅱ			
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習Ⅰ			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）						
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅱ			
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ			
（2）免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学実習Ⅱ 薬理学Ⅲ	臨床医学概論Ⅲ		
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。		薬理学Ⅱ				
3) 創傷治癒の過程について説明できる。		病理学				
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		薬物治療学Ⅲ		
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		薬物治療学Ⅲ 臨床薬物動態学		薬学総合演習
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）		薬理学Ⅱ		薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ 医薬品安全性学Ⅰ		薬物治療学演習Ⅱ 薬学総合演習
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ 医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ		
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病解析学	薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
6) 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群				薬物治療学Ⅲ 薬物治療学Ⅳ 臨床医学概論Ⅲ		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
9) 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			免疫学	薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ			
(3)循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ	臨床薬物動態学 臨床生理学Ⅱ		薬物治療学演習Ⅰ
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態評価学 薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ	臨床薬物動態学 臨床生理学Ⅱ		薬物治療学演習Ⅰ
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態評価学 薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ	臨床生理学Ⅱ		薬物治療学演習Ⅰ
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)		病態評価学 薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			薬物治療学演習Ⅰ
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習Ⅱ			
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		薬物治療学Ⅲ		
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ		薬学総合演習
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		薬理学Ⅱ	臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2(7)【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)			臨床検査学Ⅰ 臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		薬学総合演習
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅰ			
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ	臨床生理学Ⅱ		薬学総合演習
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ	臨床生理学Ⅱ		薬学総合演習
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石			臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			薬学総合演習
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 臨床生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	臨床医学概論Ⅲ		
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床生理学Ⅰ 薬物治療学Ⅰ	臨床医学概論Ⅲ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			薬物治療学Ⅰ	臨床医学概論Ⅲ		
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ				
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 臨床検査学Ⅰ	臨床生理学Ⅱ		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の 薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の 選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 臨床検査学Ⅰ	臨床生理学Ⅱ		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅱ 臨床検査学Ⅰ	臨床生理学Ⅱ		
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明 できる。		薬理学Ⅱ				
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、 主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理 作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ 臨床生化学			
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状 等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ			
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床医学概論Ⅰ 薬物治療学Ⅰ 臨床検査学Ⅰ			
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な 副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾病解析学 薬物治療学Ⅰ			
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾病解析学 薬物治療学Ⅰ			
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・ 薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学Ⅰ			
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ				
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床生化学 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅳ 臨床医学概論Ⅲ		薬物治療学演習Ⅰ
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態 生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床生化学 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅳ 臨床医学概論Ⅲ		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅳ 臨床医学概論Ⅲ		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ			
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅳ		
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅳ		
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅳ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内膜症 (重複)、アジソン病 (重複)			臨床医学概論Ⅱ 薬理学Ⅲ 臨床生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅳ		
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ			
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅱ			
2) 白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅱ			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅱ			
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎 (重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			薬物治療学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ 薬理学実習Ⅱ			
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅱ 疾病解析学			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症 (重複)、副鼻腔炎 (重複)、中耳炎 (重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎 (重複)、喉頭蓋炎			臨床医学概論Ⅱ 薬物治療学Ⅱ			
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2 (2) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2 (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		
3) 褥瘡について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹 (重複)、薬疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾癬 (重複)、接触性皮膚炎 (重複)、光線過敏症 (重複)				薬物治療学Ⅲ 臨床医学概論Ⅲ		
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ				
(7) 病原微生物 (感染症)・悪性新生物 (がん) と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (ST合剤を含む)、その他の抗菌薬		化学療法学Ⅰ		臨床薬物動態学		
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。		微生物学Ⅱ				
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			化学療法学Ⅱ			
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			臨床検査学Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		薬物治療学演習Ⅱ
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎			薬物治療学Ⅰ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			薬物治療学Ⅱ			
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎				薬物治療学Ⅲ		
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等				薬物治療学Ⅲ		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療学Ⅲ		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癬、毛囊炎、ハンセン病				薬物治療学Ⅲ		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療学Ⅲ		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		薬物治療学演習Ⅱ
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学Ⅱ 臨床検査学Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）			化学療法学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病				薬物治療学Ⅲ		
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			化学療法学Ⅱ			
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			化学療法学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症			化学療法学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ		
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。		病理学	化学療法学Ⅱ			
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因		病理学	化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ			
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ 臨床薬物動態学		薬物治療学演習Ⅰ
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ	医薬品安全性学Ⅱ		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ	医薬品安全性学Ⅱ		
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。			化学療法学Ⅱ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		
4) 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。		病理学	臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		薬物治療学演習Ⅰ
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）				薬物治療学Ⅳ		
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療学Ⅳ		
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療学Ⅳ 臨床医学概論Ⅲ		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			臨床医学概論Ⅰ 臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		薬物治療学演習Ⅰ
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ	薬物治療学Ⅳ		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			臨床医学概論Ⅰ	薬物治療学Ⅳ 臨床医学概論Ⅲ		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅰ	薬物治療学Ⅳ		
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		薬物治療学演習Ⅰ
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			臨床医学概論Ⅱ	薬物治療学Ⅳ		
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		化学療法学Ⅰ	化学療法学Ⅱ 微生物学実習Ⅱ			
（8）バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			調剤学	薬物治療学Ⅲ 医療薬学		薬学総合演習
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			調剤学	薬物治療学Ⅲ 医療薬学		薬学総合演習
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			調剤学	薬物治療学Ⅲ 医療薬学		薬学総合演習
【②遺伝子治療】						薬学総合演習
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		ゲノム医学				
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				医療倫理学		薬学総合演習
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学Ⅲ		薬学総合演習
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療学Ⅲ		薬学総合演習
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。						薬学総合演習
（9）要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			地域医療薬学Ⅰ			
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。			地域医療薬学Ⅰ			
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。			疾病解析学	地域医療薬学Ⅱ 地域医療薬学Ⅲ		
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）			地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				地域医療薬学Ⅱ 地域医療薬学Ⅲ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。		初級太極拳演習（養生法演習）		健康食品論		
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。		初級太極拳演習（養生法演習）	地域医療薬学Ⅰ	地域医療薬学Ⅱ 地域医療薬学Ⅲ		
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）			地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。		生薬学Ⅱ				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 初級太極拳演習（養生法演習）				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。		生薬学Ⅱ 生薬学実習				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。		生薬学Ⅱ		健康食品論		生薬・東洋医学精説
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。						薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。		生薬学Ⅱ				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		生薬学Ⅱ				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		生薬学Ⅱ				薬学総合演習 生薬・東洋医学精説
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				救急治療・臨床中毒学		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				救急治療・臨床中毒学	病院・薬局実習	
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学 医薬品安全性学Ⅰ 医療薬学		薬事行政
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学 医薬品安全性学Ⅰ		薬事行政
5) 医薬品情報に関する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。				医薬品情報学 医薬品安全性学Ⅰ		薬事行政
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	医薬品情報学		
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ			
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				病院・薬局実習事前実習 医薬品情報学		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）				病院・薬局実習事前実習 医薬品情報学	病院・薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報学		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				病院・薬局実習事前 実習 医薬品情報学	病院・薬局実習	
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。				医薬品情報学		
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				医薬品情報学		
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。				臨床試験総論		
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。 (E3(1)【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)				臨床試験総論		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。				臨床試験総論		
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。	統計学					
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	統計学					
3) 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布)について概説できる。	統計学					
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	統計学					
5) 二群間の差の検定(t検定、 χ^2 検定など)を実施できる。(技能)	統計学					
6) 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。	統計学	薬学統計学				
7) 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。	統計学			臨床試験総論		
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。				臨床試験総論 医薬品情報学		
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。				臨床試験総論 医薬品情報学		
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。				臨床試験総論		
4) 副作用の因果関係の評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。						
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				臨床試験総論		
6) 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。				臨床試験総論		
7) 統計解析時の注意点について概説できる。				臨床試験総論		
8) 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。				臨床試験総論		
9) 臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。 (知識・技能)				医薬品情報学		
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				地域医療薬学Ⅱ 医療薬学		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)				病院・薬局実習事前 実習		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)				病院・薬局実習事前 実習		
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			地域医療薬学Ⅰ			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			地域医療薬学Ⅰ			
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム(POS)を説明できる。			調剤学 地域医療薬学Ⅰ			
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			調剤学 地域医療薬学Ⅰ			
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			地域医療薬学Ⅰ			
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A(2)【③患者の権利】参照)					病院・薬局実習	
(3) 個別化医療						
【①遺伝的素因】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。		ゲノム医学		医薬品安全性学Ⅰ 医薬品安全性学Ⅱ		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。		ゲノム医学	生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅱ		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。		ゲノム医学		医薬品安全性学Ⅰ		
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅱ 臨床薬物動態学		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅱ 臨床薬物動態学		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅱ 臨床薬物動態学		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅱ 臨床薬物動態学		
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。				医薬品安全性学Ⅰ		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）				病院・薬局実習事前 実習 医薬品安全性学Ⅱ 臨床薬物動態学	病院・薬局実習	
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。		ゲノム医学				
E4 薬の生体内運命						
（1）薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ 健康食品論		
5) 初回通過効果について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
4) 血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ 健康食品論		
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
2) 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
3) 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ		
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ 健康食品論		
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学Ⅰ 臨床薬物動態学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学 I 臨床薬物動態学		
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学 I 臨床薬物動態学		
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学 I		
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	医薬品安全性学 I 健康食品論		
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前 実習		
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前 実習		
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前 実習		
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。				薬物速度論		
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。				薬物速度論		
6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。				薬物速度論 臨床薬物動態学 病院・薬局実習事前 実習		
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				病院・薬局実習事前 実習 臨床薬物動態学		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				病院・薬局実習事前 実習 臨床薬物動態学		
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)				病院・薬局実習事前 実習 臨床薬物動態学 薬物速度論		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。				病院・薬局実習事前 実習 臨床薬物動態学 薬物速度論		
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学 I			
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			物理薬剤学 I			
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2 (2) 【①酸・塩基平衡】 1. 及び 【②各種の化学平衡】 2. 参照)			物理薬剤学実習 物理薬剤学 I			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。			物理薬剤学 I 製剤学			
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学 I 製剤学			
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。			製剤学			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。			製剤学			
【③分散系材料】						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】 4. 参照)			物理薬剤学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬剤学実習			
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。			物理薬剤学実習			
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤学			
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (C1(3)【①反応速度】1.~7.参照)			製剤学			
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学			
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学			
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤学			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学			
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学			
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			調剤学 製剤学			
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			物理薬剤学実習 製剤学			
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			生物薬剤学 製剤学			
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照)			生物薬剤学 製剤学			
【②コントロールリリース(放出制御)】						
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。			生物薬剤学 製剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			生物薬剤学 製剤学			
3) コントロールリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			生物薬剤学			
【③ターゲティング(標的指向化)】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			生物薬剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			生物薬剤学			
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			生物薬剤学			
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			生物薬剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			生物薬剤学			
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			生物薬剤学			
F 薬学臨床						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	薬と仕事 I					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	薬と仕事 I					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。 （知識・技能）		社会薬学実習		病院・薬局実習事前 実習		
【②臨床における心構え】 〔A（1）、（2）参照〕						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）				病院・薬局実習事前 実習		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき 個々の対応ができる。（態度）				病院・薬局実習事前 実習		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの 重要性を討議する。（態度）				病院・薬局実習事前 実習 看護学		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）				医療薬学 看護学	病院・薬局実習	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）					病院・薬局実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）					病院・薬局実習	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）					病院・薬局実習	
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。		薬と仕事Ⅱ	地域医療薬学Ⅰ	医療薬学		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	医療薬学 病院・薬局実習事前 実習		
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。		薬と仕事Ⅱ		医療薬学		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明 できる。		薬と仕事Ⅱ		医療薬学		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 〔B（3）①参照〕				医療薬学		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。		薬と仕事Ⅱ		医療薬学	病院・薬局実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）					病院・薬局実習	
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理に ついて説明できる。				医薬品安全性学Ⅱ	病院・薬局実習	
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。				医療薬学	病院・薬局実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。				医療薬学	病院・薬局実習	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。				地域医療薬学Ⅲ	病院・薬局実習	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					病院・薬局実習	
15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることが できる。（知識・態度）					病院・薬局実習	
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】 〔B（2）、（3）参照〕						
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠 に基づいて説明できる。			調剤学			
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。 （知識・技能）					病院・薬局実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）					病院・薬局実習	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					病院・薬局実習	
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、 相互作用を列挙できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。 （知識・技能）			調剤学		病院・薬局実習	
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認 できる。（知識・技能）			調剤学		病院・薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)					病院・薬局実習	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)					病院・薬局実習	
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					病院・薬局実習	
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。			調剤学			
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅱ		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。 (技能)			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					病院・薬局実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					病院・薬局実習	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					病院・薬局実習	
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)			調剤学		病院・薬局実習	
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)			調剤学		病院・薬局実習	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					病院・薬局実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。			調剤学		病院・薬局実習	
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					病院・薬局実習	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。 (知識・技能)			調剤学		病院・薬局実習	
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)			調剤学	医療薬学	病院・薬局実習	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)			調剤学	医療薬学	病院・薬局実習	
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)				病院・薬局実習事前 実習		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅲ		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)			調剤学 地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)			調剤学 地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。			調剤学 地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅲ		
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)					病院・薬局実習	
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					病院・薬局実習	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					病院・薬局実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					病院・薬局実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)				病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅲ 看護学	病院・薬局実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					病院・薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）					病院・薬局実習	
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				医療薬学		
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				医療薬学		
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				医療薬学 病院・薬局実習事前 実習 薬事関係法規		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				医療薬学 薬事関係法規		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。			放射薬品学			
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				医療薬学		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。		生薬学Ⅱ	東洋医学概論	地域医療薬学Ⅱ 薬事関係法規		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				医療薬学		
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）				医療薬学	病院・薬局実習	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）				医療薬学	病院・薬局実習	
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					病院・薬局実習	
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）				医療薬学	病院・薬局実習	
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）				医療薬学	病院・薬局実習	
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅱ		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅱ		
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）			調剤学	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅱ		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。						
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）				病院・薬局実習事前 実習		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				医療薬学		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。			調剤学	病院・薬局実習事前 実習		
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					病院・薬局実習	
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。			調剤学		病院・薬局実習	
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）					病院・薬局実習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）					病院・薬局実習	
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）					病院・薬局実習	
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）					病院・薬局実習	
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）				医療薬学	病院・薬局実習	
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。			臨床生理学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習		
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3(2)①参照〕			調剤学 地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前 実習 地域医療薬学Ⅲ		
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				病院・薬局実習事前 実習		
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）		病態評価学		病院・薬局実習事前 実習		
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）					病院・薬局実習	
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）		病態評価学	調剤学	病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）				病院・薬局実習事前 実習	病院・薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②医薬品情報の収集と活用】 〔E3（1）参照〕						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				病院・薬局実習事前実習		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)					病院・薬局実習	
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				病院・薬局実習事前実習		
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			臨床生化学 臨床生理学 I 調剤学	病院・薬局実習事前実習		
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				病院・薬局実習事前実習		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。			調剤学	病院・薬局実習事前実習		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				医療薬学 病院・薬局実習事前実習		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				医療薬学 病院・薬局実習事前実習		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。			臨床生化学	病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)			調剤学	病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)					病院・薬局実習	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実習	
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院・薬局実習	
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				病院・薬局実習事前実習		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)			調剤学	病院・薬局実習事前実習		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)			調剤学	病院・薬局実習事前実習		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)					病院・薬局実習	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロトコルを提案できる。(知識・態度)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。		社会薬学実習		病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
11) 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					病院・薬局実習	

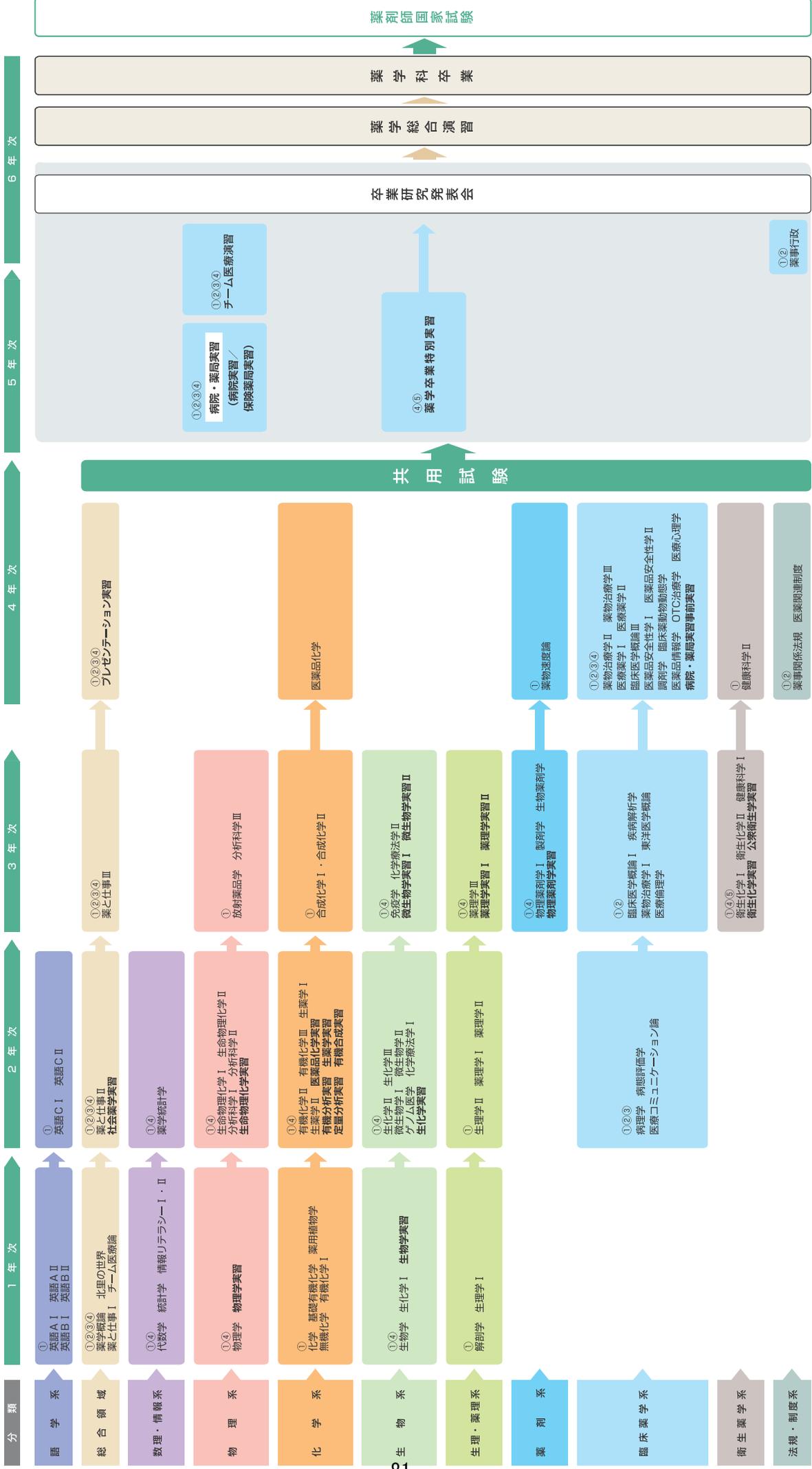
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）				病院・薬局実習事前実習	病院・薬局実習	
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）					病院・薬局実習	
（4）チーム医療への参画 〔A（4）参照〕						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	医療薬学		チーム医療演習
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				医療薬学 看護学		チーム医療演習
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				病院・薬局実習事前実習 地域医療薬学Ⅲ		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）				医療薬学 健康食品論 看護学	病院・薬局実習	チーム医療演習
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				病院・薬局実習事前実習		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）				病院・薬局実習事前実習 地域医療薬学Ⅱ		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）					病院・薬局実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）					病院・薬局実習	
（5）地域の保健・医療・福祉への参画 〔B（4）参照〕						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習 地域医療薬学Ⅲ		チーム医療演習
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習		チーム医療演習
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習 地域医療薬学Ⅲ		チーム医療演習
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）					病院・薬局実習	チーム医療演習
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）				病院・薬局実習事前実習 看護学	病院・薬局実習	チーム医療演習
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。			地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習 医薬品安全性学Ⅱ		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			公衆衛生学Ⅰ			
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					病院・薬局実習	
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）				看護学	病院・薬局実習	
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 〔E2（9）参照〕						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）			地域医療薬学Ⅰ			
2) 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）				病院・薬局実習事前実習 地域医療薬学Ⅱ 地域医療薬学Ⅲ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）				病院・薬局実習事前実習 地域医療薬学Ⅱ 地域医療薬学Ⅲ		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）				病院・薬局実習事前実習 健康食品論		
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）		生薬学Ⅱ	東洋医学概論	地域医療薬学Ⅱ 健康食品論	病院・薬局実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）		生薬学Ⅱ	東洋医学概論		病院・薬局実習	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）				医薬品安全性学Ⅱ	病院・薬局実習	
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）		生薬学Ⅱ	東洋医学概論	健康食品論	病院・薬局実習	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）		社会薬学実習 初級太極拳演習（養生法演習）			病院・薬局実習	
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。		社会薬学実習	地域医療薬学Ⅰ	病院・薬局実習事前実習		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。		社会薬学実習			病院・薬局実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）		社会薬学実習			病院・薬局実習	
G 薬学研究						
（1）薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						薬学卒業特別実習
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	薬学概論					薬学卒業特別実習
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）						薬学卒業特別実習
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）						薬学卒業特別実習
（2）研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				医療倫理学		薬学卒業特別実習
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				医療倫理学		薬学卒業特別実習
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-④-3再掲				医療倫理学 臨床試験総論		薬学卒業特別実習
（3）研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）			文献講読ゼミA 文献講読ゼミB	文献講読ゼミC 文献講読ゼミD		薬学卒業特別実習
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）				医療倫理学		薬学卒業特別実習
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）						薬学卒業特別実習
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）	薬学概論					薬学卒業特別実習
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）						薬学卒業特別実習
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）			文献講読ゼミA 文献講読ゼミB	文献講読ゼミC 文献講読ゼミD		薬学卒業特別実習

薬学科(6年制)のカリキュラム (平成26年度以前入学生)

ディプロマ・ポリシー(DP)

- ① 医療機関や地域で必要とされる高度な専門知識と洗練された技能を修得する
- ② 医療人としての高い倫理観を有する
- ③ チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を身につける
- ④ 医療現場における問題発見・解決能力を持つ
- ⑤ 自己研鑽を継続するとともに後進を指導する意欲を有する



薬学科の特徴

1年次
医療人に必要な知識と教養を兼ねる一般教育科目(1群科目)と、薬学の基礎を学ぶ専門科目(2群科目、3群科目)を学ぶ。
また、附属病院と連携して開講される、医療現場の早期体験実習やチーム医療に関する講義を学ぶ。

2年次
「生化学」など薬学の基礎となる科目、「生理学」、臨床薬学系科目などを学ぶ。
また、実習科目を通じて、研究に役立つ実験の手法や実験結果の解法を身につける。

3年次
各分野でより高度な専門科目が開講され、「医療倫理」など、医療人に必要な倫理観や社会性を養う。さらに1年次の「薬と仕事I」に始まり、3年次の「薬と仕事II」まで継続して医療現場を体験する。

4年次
薬学の専門分野に加え、病院・薬局実習(5年次)を前に、臨床系の科目および「病院・薬局実習前実習」を行う。
また、臨床系との合同で「チーム医療実習」を行う。

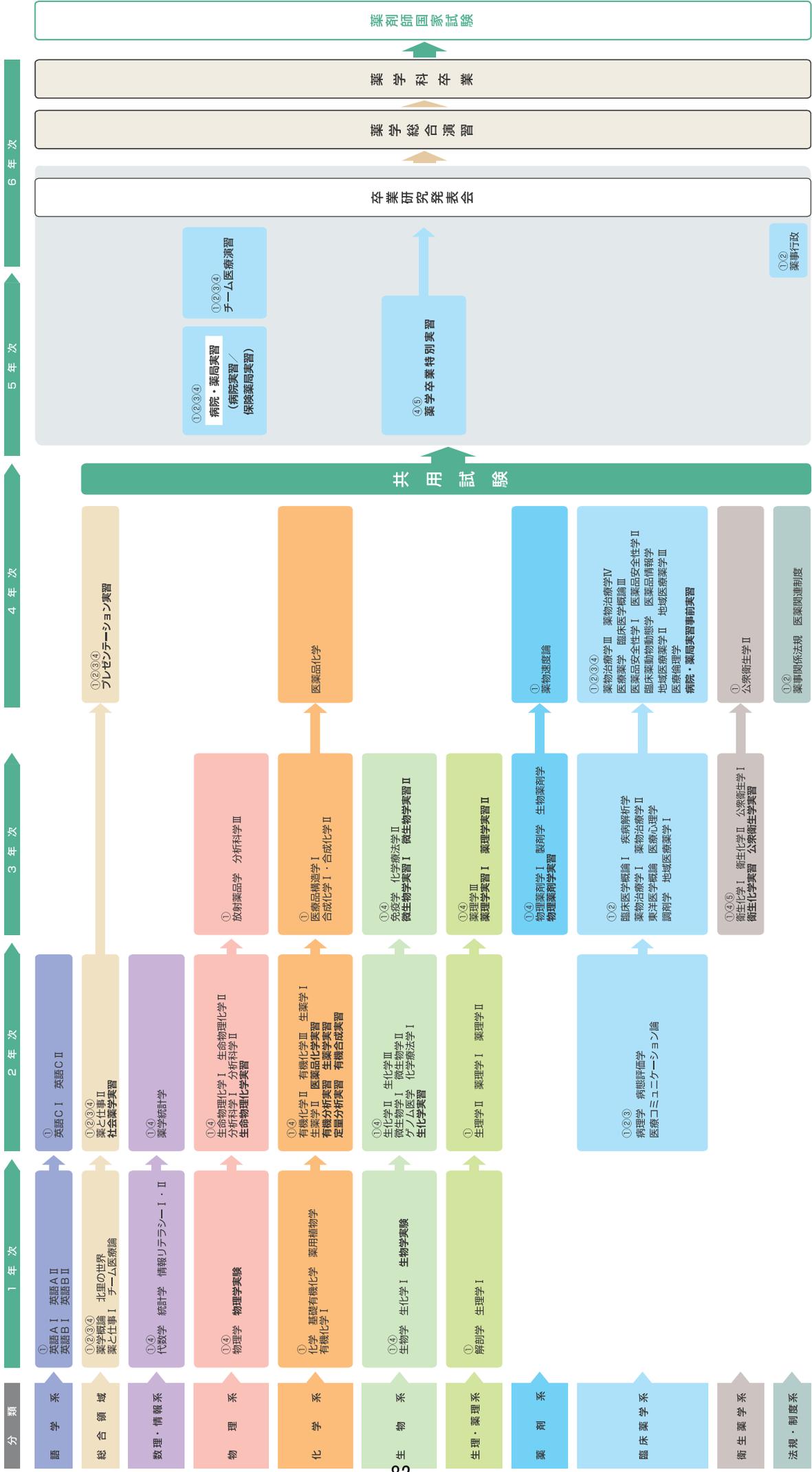
5年次
11週(病院)+11週(保険薬局)の「病院・薬局実習」を実施する。
また、所属する研究室にて「薬学卒業特別実習」(卒業研究)を行う。

6年次
「薬学卒業特別実習」を6年次前期まで実施し、卒業論文を仕上げ、後期は、これまでに学んできた科目をまとめ、総合的・問題解決能力を身につける。
また、医療系学部との合同で「チーム医療実習」に参加し、職場間連携を体験する。

薬学科(6年制)のカリキュラム (平成27年度以降入学生)

ディプロマ・ポリシー(DP)

- ① 医療機関や地域で必要とされる高度な専門知識と洗練された技能を修得する
- ② 医療人としての高い倫理観を有する
- ③ チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を身につける
- ④ 医療現場における問題発見・解決能力を持つ
- ⑤ 自己研鑽を継続するとともに後進を指導する意欲を有する



**薬学科の
学びの特徴**

医療人に必要な知識と教養を兼ね備える一般教育科目(1群科目)と、薬学の基礎を学ぶ専門科目(2群科目、3群科目)を学ぶ。
また、附属病院と連携して開講される、医療現場の早期体験実習やチーム医療に関する講義を学ぶ。

各分野でより高度な専門科目が開講され、臨床薬学系科目のウェイトが大きくなる。
臨床薬学系科目のウェイトが大きくなる。

薬学の専門分野に加え、病院・薬局実習(5年次)を前に、臨床系の科目および「病院・薬局実習前実習」を行う。

11週(病院)+11週(保険薬局)の「病院・薬局実習」を実施する。
また、所属する研究室にて「薬学卒業特別実習」(卒業研究)を行う。

「薬学卒業特別実習」を6年次前期まで実施し、卒業論文を仕上げる。後期は、これまで学んできた科目をまとめ、総合的・問題解決能力を身につける。
また、医療系学部との合同で「チーム医療実習」に参加し、職種間連携を体験する。

(基礎資料5) 語学教育の要素

【新カリキュラム】

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語 A I	1	○	○		
英語 A II	1	○	○		
英語 B I	1			○	○
英語 B II	1			○	○
言語と文化 A	1	○	○		
言語と文化 B	1			○	○
英語 C I	2	○	○	○	○
英語 C II	2	○	○	○	○
薬学英語 I	3	○			
薬学英語 II	3	○			
医療薬学英語	5・6	○		○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素

【旧カリキュラム】

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語 A I	1	○	○		
英語 A II	1	○	○		
英語 B I	1			○	○
英語 B II	1			○	○
言語と文化 A	1	○	○		
言語と文化 B	1			○	○
英語 C I	2	○	○	○	○
英語 C II	2	○	○	○	○
薬学英語 I	3	○			
薬学英語 II	3	○			
医療薬学英語	5・6	○		○	○
Clinical Case Study	5・6	○			

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

平成29年12月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	1日					
第2週	月	4日			【参考】OSCE練習		
	火	5日					
	水	6日					
	木	7日					
	金	8日					
	土	9日					
	日	10日	OSCE本試験				
第3週	月	11日					
	火	12日					
	水	13日					
	木	14日					
	金	15日					
第4週	月	18日					
	火	19日					
	水	20日					
	木	21日					
	金	22日					
第5週	月	25日					
	火	26日					
	水	27日					
	木	28日					
	金	29日					

平成29年11月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火							
	水	1日			S205, S206, S207, S208, S605 ; 講義・演習・実習			
	木	2日			S205, S206, S207, S208, S605 ; 講義・演習・実習			
	金	3日	祝日					
第2週	月	6日	創立記念日					
	火	7日		S414: 講義	S205, S206, S207, S208, S605 ; 講義・演習・実習			
	水	8日			S306, S605, S606, S701 ; 演習, 実習			
	木	9日			S306, S605, S606, S701 ; 演習, 実習			
	金	10日						
第3週	月	13日						
	火	14日						
	水	15日						
	木	16日						
	金	17日						
第4週	月	20日						
	火	21日			S701: 講義 (事前実習まとめ)			
	水	22日			S701: 実習			
	木	23日	祝日					
	金	24日						
第5週	月	27日						
	火	28日						
	水	29日						
	木	30日			S701: 講義 (事前実習まとめ)			
	金							

平成29年10月							
(週)	(曜日)	(日)	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
第1週	月	2日			S605, S606 ; 演習・実習		
	火	3日		S413 ; 講義			
	水	4日					
	木	5日					
	金	6日					
第2週	月	9日	祝日				
	火	10日		S413 ; 講義	S306, S605, S606, S701 ; 演習・実習		
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日					
第3週	月	16日			S306, S605, S606, S701 ; 演習・実習		
	火	17日			S306, S605, S606, S701 ; 演習・実習		
	水	18日			S205, S207, S208 ; 演習・実習		
	木	19日			S210, S302, S701 ; 実習		
	金	20日					
第4週	月	23日					
	火	24日		S104, S105, S106 ; 講義	S205, S207, S208 ; 演習・実習		
	水	25日			S205, S207, S208 ; 演習・実習		
	木	26日					
	金	27日					
第5週	月	30日					
	火	31日		S408, S409 ; 講義			
	水						
	木						
	金						

平成29年9月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	1日					
第2週	月	4日			事前実習ガイダンス (S102を含む; 講義)		
	火	5日		S102, S103, S104, S105, S106; 講義	S210, S406; 実習		
	水	6日			S210, S406; 実習		
	木	7日			S210, S406; 実習		
	金	8日					
第3週	月	11日			S210, S406; 実習		
	火	12日		S401, 404, S405; 講義	S210, S406; 実習		
	水	13日					
	木	14日					
	金	15日					
第4週	月	18日	祝日				
	火	19日		S402, S403, S406; 講義	S411, S412, S413; 実習		
	水	20日			S411, S412, S413; 実習		
	木	21日					
	金	22日					
第5週	月	25日			S202, S203, S204, S210, S211, S304, S306; 演習・実習		
	火	26日		S413; 講義	S202, S203, S204, S210, S211, S304, S306; 演習・実習		
	水	27日			S603, S605, S606; 演習, 実習		
	木	28日			S603, S605, S606; 演習, 実習		
	金	29日					

※ S101 (講義), S407 (講義), S410 (実習) は3年次に実施している

平成29年7月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	3日						
	火	4日			S306 ; 演習・実習			
	水	5日						
	木	6日						
	金	7日						
第3週	月	10日						
	火	11日						
	水	12日						
	木	13日						
	金	14日						
第4週	月	17日	祝日					
	火	18日						
	水	19日						
	木	20日						
	金	21日						
第5週	月	24日						
	火	25日						
	水	26日						
	木	27日						
	金	28日						

平成29年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木	1日					
	金	2日		S603, S604, S605 ; 講義			
第2週	月	5日			S209, S601 ; 講義		
	火	6日			事前実習ガイダンス (S102を含む ; 講義)		
	水	7日	S411, S412 ; 講義				
	木	8日			講義・演習・実習		
	金	9日					
第3週	月	12日			S602, S604, S605 ; 講義		
	火	13日			S603 ; 演習・実習		
	水	14日			講義・演習・実習		
	木	15日			講義・演習・実習		
	金	16日					
第4週	月	19日			S602, S604, S605 ; 講義		
	火	20日					
	水	21日	S501, S502 ; 講義		S306 ; 演習・実習		
	木	22日			S306 ; 演習・実習		
	金	23日					
第5週	月	26日					
	火	27日					
	水	28日					
	木	29日					
	金	30日					

平成29年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	1日					
	火	2日					
	水	3日					
	木	4日					
	金	5日					
第2週	月	8日					
	火	9日					
	水	10日	S204, S303 ; 講義				
	木	11日					
	金	12日					
第3週	月	15日					
	火	16日					
	水	17日					
	木	18日					
	金	19日					
第4週	月	22日					
	火	23日					
	水	24日					
	木	25日					
	金	26日					
第5週	月	29日			S103 ; 講義		
	火	30日					
	水	31日					
	木						
	金						

平成29年4月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月	3日					
	火	4日					
	水	5日					
	木	6日					
	金	7日					
第3週	月	10日			S107 ; 講義		
	火	11日					
	水	12日	S102, S201, S202, S203 ; 講義				
	木	13日					
	金	14日					
第4週	月	17日					
	火	18日					
	水	19日	S301, S305 ; 講義				
	木	20日					
	金	21日					
第5週	月	24日					
	火	25日					
	水	26日	S205, S206, S207, S208, S305 ; 講義				
	木	27日					
	金	28日					

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

	学科名	入試の種類		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間 の平均)
				入試(24年 度実施)	入試(25年 度実施)	入試(26年 度実施)	入試(27年 度実施)	入試(28年 度実施)	入試(29年 度実施)	
薬 学 部	薬 学 科	一般入試	受験者数	1,672	1,768	1,695	1,605	1,490	1,465	103.22%
			合格者数	405	375	368	380	395	359	
			入学者数(A)	171	153	167	143	176	156	
			募集定員数(B)	150	150	150	150	160	160	
			A/B*100(%)	114.00%	102.00%	111.33%	95.33%	110.00%	97.50%	
		大学入試センター 試験利用入試	受験者数	909	1,072	765	808	640	749	
			合格者数	100	104	101	102	102	101	
			入学者数(A)	16	8	12	9	12	11	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	30	30	
			A/B*100(%)	53.33%	26.67%	40.00%	30.00%	40.00%	36.67%	
		指定校推薦入試	受験者数	71	99	86	97	83	97	
			合格者数	71	99	86	97	83	97	
			入学者数(A)	71	99	86	97	83	97	
			募集定員数(B)	70	70	70	70	70	70	
			A/B*100(%)	101.43%	141.43%	122.86%	138.57%	118.57%	138.57%	
		社会人特別選抜 入試	受験者数	4	3	5	5	0	1	
			合格者数	2	1	3	1	0	0	
			入学者数(A)	1	0	0	1	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)							
学 科 計	受験者数	2,656	2,942	2,551	2,515	2,213	2,312			
	合格者数	578	579	558	580	580	557			
	入学者数(A)	259	260	265	250	271	264			
	募集定員数(B)	250	250	250	250	260	260			
	A/B*100(%)	103.60%	104.00%	106.00%	100.00%	104.23%	101.54%			
編入学試験	受験者数	14	8	9	11	4	6			
	合格者数	1	2	3	1	0	1			
	入学者数(A)	1	2	2	1	0	1			
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
	A/B*100(%)									

- [注]
- 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B*100(%)]を算出してください。
 - 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
18名	13名	23名	56名	110名	34名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	講師	助教	合計	必要数 ²⁾
3名	4名	5名	11名	23名	6名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
0名	18名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
66名	207名	5名	278名

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など。

表4. 薬学部専任の職員

事務職員	技能職員 ¹⁾	その他 ²⁾	合計
16名	0名	6名	22名

1) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

2) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料9) 専任教員(基礎資料8の表1)の年齢構成

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	7名	6名	名	2名	15名	13.6%
50代	7名	4名	2名	1名	14名	12.7%
40代	4名	3名	14名	9名	30名	27.3%
30代	名	名	7名	36名	43名	39.1%
20代	名	名	名	8名	8名	7.3%
合計	18名	13名	23名	56名	110名	100.0%

専任教員の定年年齢:(助教 60歳 講師以上 65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料8の表1)の男女構成

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
男性	15名	10名	21名	31名	77名	70.0%
女性	3名	3名	2名	25名	33名	30.0%

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

教授

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	伊藤智夫	61	男	Ph. D.	1997. 4. 1	薬学概論	1.50	0.05	
							健康食品論	1.50	0.05	
							薬物速度論	16.50	0.55	
							授業担当時間の合計	19.50	0.65	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	本間浩	63	男	博士(薬)	2000. 4. 1	薬学概論	1.50	0.05	
							分析科学Ⅰ	6.00	0.20	
							分析科学Ⅱ	6.00	0.20	
							分析科学Ⅲ	9.00	0.30	
							定量分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	142.50	4.75	
薬学科薬学科 (生命創薬科学科)	教授	小林義典	54	男	博士(薬)	2007. 4. 1	薬用植物学	10.50	0.35	
							生薬学Ⅰ	3.00	0.10	
							生薬学Ⅱ	6.00	0.20	
							東洋医学概論	1.50	0.05	
							健康食品論	6.00	0.20	
							生薬学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	147.00	4.90	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	今井浩孝	51	男	博士(薬)	2013.4.1	衛生化学Ⅰ		7.50	0.25
							衛生化学Ⅱ		9.00	0.30
							臨床栄養学		4.50	0.15
							健康食品論		3.00	0.10
							衛生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		144.00	4.80
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	清野正子	49	女	博士(薬)	2014.4.1	健康科学Ⅰ		9.00	0.30
							健康科学Ⅱ		9.00	0.30
							公衆衛生学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		138.00	4.60
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	中原努	49	男	博士(薬)	2016.4.1	生理学Ⅰ		4.50	0.15
							生理学Ⅱ		6.00	0.20
							医薬品安全性学Ⅰ		7.50	0.25
							薬理学実習Ⅱ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		78.00	2.60
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	田辺光男	55	男	博士(薬)	2010.4.1	薬理学Ⅰ		15.00	0.50
							薬理学Ⅲ		9.00	0.30
							薬理学実習Ⅰ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		84.00	2.80

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	岡田信彦	59	男	博士(農)	2010.4.1	微生物学Ⅰ		7.50	0.25
							微生物学Ⅱ		3.00	0.10
							病態評価学		4.50	0.15
							病理学		4.50	0.15
							免疫学		3.00	0.10
							臨床生理学Ⅰ		4.50	0.15
							感染制御学		9.00	0.30
							臨床病理学		4.50	0.15
							微生物学実習Ⅰ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計			
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	藤井秀明	49	男	博士(工)	2013.4.1	薬学概論		1.50	0.05
							有機化学Ⅱ		15.00	0.50
							有機化学Ⅲ		15.00	0.50
							創薬化学		12.00	0.40
							医薬品マーケティング論		3.00	0.10
							有機分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計			
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	長光亨	47	男	博士(薬)	2010.4.1	基礎有機化学		16.50	0.55
							合成化学Ⅰ		15.00	0.50
							合成化学Ⅱ		15.00	0.50
							薬品製造化学		15.00	0.50
							有機合成実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	志 鷹 真由子	50	女	博士(薬)	2010.4.1	生命物理化学Ⅰ	15.00	0.50	
							生命物理化学Ⅱ	12.00	0.40	
							構造生命科学	7.50	0.25	
							生命物理化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		154.50	5.15
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	供 田 洋	62	男	博士(薬)	2005.4.1	薬学概論	1.50	0.05	
							化学療法学Ⅰ	7.50	0.25	
							化学療法学Ⅱ	4.50	0.15	
							細胞生物学	4.50	0.15	
							ケミカルバイオロジー論	9.00	0.30	
							微生物学実習Ⅱ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		147.00	4.90

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	鈴木順子	63	女	学士(薬)	2008.4.1	病態評価学	6.00	0.20	
							病理学	6.00	0.20	
							分析科学Ⅲ	3.50	0.12	
							臨床検査学Ⅰ	9.00	0.30	
							臨床生化学	9.00	0.30	
							臨床生理学Ⅰ	10.50	0.35	
							薬事関係法規	7.50	0.25	
							医薬関連制度	9.00	0.30	
							看護学	1.50	0.05	
							臨床栄養学	7.50	0.25	
							終末期・緩和医療論	15.00	0.50	
							臨床検査学	7.50	0.25	
							臨床病理学	6.00	0.20	
							社会薬学実習	◎	120.00	4.00
授業担当時間の合計							218.00	7.27		
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	吉山友二	59	男	博士(医)	2008.4.1	薬学概論	1.50	0.05	
							薬と仕事Ⅱ	3.00	0.10	
							地域医療薬学Ⅰ	6.00	0.20	
							医療薬学Ⅰ	3.50	0.12	
							OTC治療学	4.50	0.15	
							薬局管理学	9.00	0.30	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授 (実務)	厚田 幸一郎	60	男	博士(医)	2005.4.1	薬学概論	1.50	0.05	
							医療薬学Ⅱ	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅲ	3.00	0.10	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	450.00	15.00	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授 (実務)	松原 肇	60	男	博士(薬)	2013.7.1	調剤学	1.50	0.05	
							医療薬学Ⅱ	4.50	0.15	
							薬物治療学Ⅲ	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	451.50	15.05	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授 (実務)	尾鳥 勝也	54	男	博士(臨床薬学)	2016.7.1	医療薬学Ⅱ	3.00	0.10	
							薬物治療学Ⅲ	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	448.50	14.95	
薬学科 (生命創薬科学科)	教授	鈴木 幸男	61	男	博士(医)	2014.4.1	病態評価学	4.50	0.15	
							病理学	4.50	0.15	
							臨床医学概論Ⅰ	3.00	0.10	
							臨床医学概論Ⅱ	1.50	0.05	
							臨床医学概論Ⅲ	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	459.00	15.30	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾
------------------	------------------	----	----	----	------	-------------	----------------------	--------------------	-----------------------------------

- 1) 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科の科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
 ※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

准教授

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	片根真澄	41	男	博士(生物科学)	2017.4.1	分析化学Ⅰ	6.00	0.20	
							分析化学Ⅱ	1.50	0.05	
							分析化学Ⅲ	3.00	0.10	
							薬学英語Ⅰ	6.00	0.20	
							定量分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	136.50	4.55	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	坂本謙司	45	男	博士(薬)	2016.10.1	ゲノム医学	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅱ	3.00	0.10	
							医薬品安全性学Ⅰ	7.50	0.25	
							薬理学実習Ⅱ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計	72.00	2.40	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	伊藤謙之介	42	男	博士(工)	2014.4.1	有機化学Ⅰ	19.50	0.65	
							創薬化学	1.50	0.05	
							医薬品マーケティング論	3.00	0.10	
							有機分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	144.00	4.80	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	福田達男	65	男	博士(農)	2007.4.1	薬用植物学	7.50	0.25	
							リハビリテーション論	3.00	0.10	
							授業担当時間の合計	10.50	0.35	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	有田悦子	53	女	博士(薬)	2011.4.1	医療コミュニケーション論	15.00	0.50	
							医療心理学	13.50	0.45	
							病院・薬局実習事前実習	114.00	3.80	
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	472.50	15.75	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	西端芳彦	60	男	博士(薬)	2006.4.1	情報リテラシーⅠ	12.00	0.40	
							情報リテラシーⅡ	12.00	0.40	
							プレゼンテーション実習	◎	72.00	2.40
							授業担当時間の合計	96.00	3.20	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	西野貴司	57	男	博士(薬)	2013.4.1	化学	7.50	0.25	
							情報リテラシーⅠ	1.50	0.05	
							情報リテラシーⅡ	1.50	0.05	
							基礎有機化学演習	21.00	0.70	
							医薬品化学	16.50	0.55	
							授業担当時間の合計	48.00	1.60	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	篠崎公一	62	男	博士(薬)	1996.4.1	薬物治療学Ⅱ	1.50	0.05	
							臨床薬物動態学	10.50	0.35	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	456.00	15.20	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	福本真理子	63	女	博士(臨床薬学)	2008.4.1	衛生化学Ⅱ	1.50	0.05	
							医薬品安全性学Ⅱ	21.00	0.70	
							救急治療・臨床中毒学	12.00	0.40	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計	148.50	4.95	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授	中村正彦	63	男	博士(医)	2004.4.1	情報リテラシーⅠ	1.50	0.05	
							情報リテラシーⅡ	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅰ	3.00	0.10	
							臨床医学概論Ⅰ	4.50	0.15	
							臨床医学概論Ⅲ	3.00	0.10	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計	127.50	4.25	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授 (実務)	平山武司	55	男	博士(臨床薬学)	2017.4.1	薬と仕事Ⅱ	3.00	0.10	
							薬物治療学Ⅲ	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	448.50	14.95	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授 (実務)	黒山政一	63	男	博士(医)	2003.11.1	薬と仕事Ⅱ	1.50	0.05	
							医療薬学Ⅱ	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅱ	3.00	0.10	
							病院・薬局実習事前実習	◎	60.00	2.00
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	396.00	13.20	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	准教授 (実務)	久保田 理 恵	52	女	Ph. D.	2008. 4. 1	薬物治療学Ⅰ	1.50	0.05	
							疾病解析学	7.50	0.25	
							調剤学	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅰ	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅱ	3.00	0.10	
							薬物治療学Ⅲ	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		460.50	15.35

- 1) 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科の科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

講師

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	講師	白畑辰弥	41	男	博士(薬)	2009.7.1	分析科学Ⅱ	4.50	0.15	
							生薬学Ⅰ	13.50	0.45	
							生薬学Ⅱ	1.50	0.05	
							生命創薬科学Ⅱ	1.50	0.05	
							生薬・東洋医学精説	1.50	0.05	
							漢方調剤薬局実務演習	1.50	0.05	
							生薬学実習	◎	120.00	4.00
授業担当時間の合計							144.00	4.80		
薬学科 (生命創薬科学科)	講師	熊谷剛	42	男	博士(農)	2012.1.1	衛生化学Ⅰ	7.50	0.25	
							衛生化学Ⅱ	6.00	0.20	
							社会薬学実習	◎	120.00	4.00
							衛生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計			
薬学科 (生命創薬科学科)	講師	浦口晋平	37	男	博士(農)	2015.4.1	健康科学Ⅱ	3.00	0.10	
							薬学英语Ⅰ	6.00	0.20	
							公衆衛生学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (生命創薬科学科)	講師	高根沢 康一	43	男	博士(薬)	2015.4.1	薬学英語Ⅰ	6.00	0.20	
							公衆衛生学Ⅰ	3.00	0.10	
							健康科学Ⅱ	3.00	0.10	
							チーム医療演習	6.00	0.20	
							公衆衛生学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	138.00	4.60	
薬学科 (生命創薬科学科)	講師	内藤 康仁	48	男	博士(医)	2003.6.1	薬理学Ⅱ	9.00	0.30	
							薬理学Ⅲ	6.00	0.20	
							薬理学実習Ⅰ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計	75.00	2.50	
薬学科 (生命創薬科学科)	講師	岩井 孝志	41	男	博士(薬)	2017.2.1	薬理学Ⅱ	7.50	0.25	
							薬理学実習Ⅰ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計	67.50	2.25	
薬学科	講師	羽田 健	43	男	博士(薬)	2010.6.1	微生物学Ⅰ	4.50	0.15	
							微生物学Ⅱ	4.50	0.15	
							免疫学	4.50	0.15	
							感染制御学	6.00	0.20	
							微生物学実習Ⅰ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	139.50	4.65	
薬学科	講師	三木 剛志	41	男	博士(薬)	2013.10.1	微生物学Ⅱ	3.00	0.10	
							免疫学	6.00	0.20	
							ゲノム医学	1.50	0.05	
							感染制御学	6.00	0.20	
							微生物学実習Ⅰ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	136.50	4.55	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	講師	奈良輪 知也	39	男	博士(薬)	2015.4.1	生物薬剤学		10.50	0.35
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		124.50	4.15
薬学科	講師	藤原 亮一 (留学中)	35	男	博士(薬)	2015.4.1				0.00
										0.00
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	講師	大多和 正樹 (留学中)	35	男	博士(薬)	2015.1.1				0.00
										0.00
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	講師	小山 信裕	40	男	博士(薬)	2017.4.1	ケミカルバイオロジー論		6.00	0.20
							化学療法学Ⅰ		7.50	0.25
							化学療法学Ⅱ		3.00	0.10
							微生物学実習Ⅱ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		136.50	4.55
薬学科	講師	大城 太一	37	男	博士(生命科学)	2017.4.1	ゲノム医学		1.50	0.05
							ケミカルバイオロジー論		6.00	0.20
							化学療法学Ⅱ		7.50	0.25
							薬物治療学Ⅱ		1.50	0.05
							薬物治療学Ⅲ		1.50	0.05
							微生物学実習Ⅱ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		138.00	4.60
薬学科	講師	坂本 光	54	男	博士(薬)	2001.4.1	放射薬品学		15.00	0.50
							薬物治療学Ⅲ		1.50	0.05
							放射薬品学実習	◎	72.00	2.40
							授業担当時間の合計		88.50	2.95

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	講師	喜来望	46	男	修士(薬)	2013.4.1	臨床生化学	6.00	0.20	
							臨床生理学 I	3.00	0.10	
							臨床検査学 I	7.50	0.25	
							臨床検査学	7.50	0.25	
							臨床化学実習	◎	30.00	1.00
							臨床検査学実習	◎	50.00	1.67
							臨床検査総論実習	◎	30.00	1.00
							臨床生理学実習	◎	30.00	1.00
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	岩澤真紀子	45	女	Ph. D.	2015.4.1	薬物治療学 I	1.50	0.05	
							医薬品情報学	10.50	0.35	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	有海秀人	42	男	博士(薬)	2012.1.1	地域医療薬学 I	4.50	0.15	
							OCT治療学	6.00	0.20	
							臨床病理学	4.50	0.15	
							薬物治療学演習 I	3.00	0.10	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	講師	川上美好	44	女	博士(臨床統計学)	2006.4.1	地域医療薬学Ⅰ	6.00	0.20	
							医療薬学Ⅰ	6.00	0.20	
							OCT治療学	6.00	0.20	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	462.00	15.40	
薬学科	講師(実務)	小林昌宏	39	男	博士(薬)	2016.11.1	薬学概論	1.50	0.05	
							臨床薬物動態学	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	447.00	14.90	
薬学科	講師(実務)	井上岳	49	男	学士(薬)	2007.4.1	薬物治療学Ⅲ	1.50	0.05	
							調剤学	3.00	0.10	
							薬物治療学演習Ⅰ	3.00	0.10	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	451.50	15.05	
薬学科	講師(実務)	野島浩幸	49	男	博士(薬)	2008.10.1	調剤学	9.00	0.30	
							医薬品マーケティング論	1.50	0.05	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	454.50	15.15	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	講師 (実務)	渋谷 清	58	男	博士(医療薬学)	2009.7.1	薬物治療学Ⅲ		1.50	0.05
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		445.50	14.85
薬学科	講師 (実務)	田中 庸一	38	男	博士(薬)	2017.4.1	疾病解析学		3.00	0.10
							薬物治療学Ⅰ		1.50	0.05
							薬物治療学Ⅱ		1.50	0.05
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		450.00	15.00

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科の科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
 ※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

助 教

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	齊 藤 康 昭	37	男	修士(薬)	2014. 4. 1	定量分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	関 根 正 恵	49	女	学士(薬)	2007. 4. 1	定量分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	宮 本 哲 也	34	男	博士(農)	2013. 11. 1	定量分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	黄 雪 丹	47	女	博士(学術)	2009. 4. 1	生薬学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	竹 元 裕 明	35	男	博士(薬)	2008. 3. 1	生薬学Ⅱ		1.50	0.05
							生薬学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		121.50	4.05
薬学科	助教	中 森 俊 輔	30	男	学士(薬)	2012. 4. 1	生薬学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	幸 村 知 子	41	女	博士(薬)	2007. 4. 1	衛生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	坂 本 太 郎	37	男	修士(薬)	2007. 4. 1	ゲノム医学		1.50	0.05
							衛生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		121.50	4.05
薬学科	助教	松 岡 正 城	32	男	博士(薬)	2014. 4. 1	衛生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	曾根有香	32	女	修士(薬)	2009.4.1	公衆衛生学Ⅰ		1.50	0.05
							公衆衛生学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		121.50	4.05
薬学科	助教	中村亮介	37	男	修士(薬)	2007.4.1	公衆衛生学Ⅰ		3.00	0.10
							公衆衛生学実習	◎	120.00	
							授業担当時間の合計		123.00	4.10
薬学科	助教	牛久保裕子	36	女	博士(薬)	2013.4.1	薬理学実習Ⅱ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		60.00	2.00
薬学科	助教	森麻美	38	女	博士(薬)	2007.4.1	薬理学実習Ⅱ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		60.00	2.00
薬学科	助教	渡辺俊	39	男	博士(薬)	2013.4.1	薬理学実習Ⅰ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		60.00	2.00
薬学科	助教	尾山実砂	26	女	学士(薬)	2017.4.1	薬理学実習Ⅰ	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		60.00	2.00
薬学科	助教	伊藤雅洋 (留学中)	36	男	博士(薬)	2010.7.1				0.00
										0.00
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	助教	西山啓太	29	男	博士(農)	2015.4.1	感染制御学		1.50	0.05
							微生物学Ⅰ		3.00	0.10
							微生物学実習Ⅰ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		124.50	4.15
薬学科	助教	高野修平	43	男	博士(薬)	2007.4.1	調剤学		4.50	0.15
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		118.50	3.95

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	唐木文霞	30	女	博士(薬)	2015.4.1	有機分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	平山重人	33	男	博士(薬)	2009.4.1	創薬化学		3.00	0.10
							有機分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		123.00	4.10
薬学科	助教	水口貴章	32	男	博士(薬)	2017.4.1	有機分析実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	有馬志保	46	女	修士(薬)	2007.4.1	基礎有機化学		4.50	0.15
							有機合成実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		124.50	4.15
薬学科	助教	下山健太	29	男	修士(薬)	2015.1.1	有機合成実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	清田泰臣	34	男	博士(理)	2012.4.1	構造生命科学		3.00	0.10
							生命物理化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		123.00	4.10
薬学科	助教	下山紘充	37	男	博士(理)	2011.4.1	生命物理化学Ⅱ		3.00	0.10
							構造生命科学		4.50	0.15
							生命物理化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		127.50	4.25
薬学科	助教	森義治	32	男	博士(理)	2017.4.1	生命物理化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	大手聡	33	男	博士(医)	2017.4.1	微生物学実習Ⅱ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
薬学科	助教	小林啓介	30	男	博士(薬)	2017.4.1	微生物学実習Ⅱ	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾		授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	助教	高瀬 ひろか	30	女	博士(薬)	2017.4.1	放射薬品学実習	◎	72.00	2.40
							授業担当時間の合計		72.00	2.40
薬学科	助教	向井 潤一	38	男	博士(薬)	2012.5.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教	石川 寛	46	男	博士(理)	2008.3.1	薬用植物学		4.50	0.15
							授業担当時間の合計		4.50	0.15
薬学科	助教	佐藤 倫子	61	女	学士(薬)	2016.4.1				0.00
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	助教	深町 伸子	59	女	学士(薬)	2007.4.1	臨床栄養学		7.50	0.25
							社会薬学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		127.50	4.25
薬学科	助教	山本 大介	33	男	学士(薬)	2012.4.1	薬事関係法規		15.00	0.50
							医薬関連制度		15.00	0.50
							社会薬学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		30.00	1.00
薬学科	助教	竹平 理恵子	47	女	博士(薬)	2016.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教	山崎 広之	33	男	修士(薬)	2010.4.1				0.00
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	助教	倉持有 香	34	女	修士(臨床薬学)	2009.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教	友廣 彩夏	28	女	学士(薬)	2017.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	宮崎智子	36	女	修士(薬)	2007.4.1	医療薬学Ⅰ		1.50	0.05
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		445.50	14.85
薬学科	助教	長井賢一郎	43	男	博士(薬)	2008.5.1			0.00	
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	助教(実務)	毛利順一	38	男	博士(医療薬学)	2009.4.1	医療薬学Ⅱ		1.50	0.05
							医薬品情報学		3.00	0.10
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		448.50	14.95
薬学科	助教(実務)	春日井公美	35	女	博士(医療薬学)	2007.4.1	医療薬学Ⅱ		1.50	0.05
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		445.50	14.85
薬学科	助教(実務)	中山萌美	26	女	学士(薬)	2016.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		444.00	14.80
薬学科	助教(実務)	田中怜	27	女	学士(薬)	2015.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		444.00	14.80
薬学科	助教(実務)	川野千尋	35	男	博士(医療薬学)	2007.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		444.00	14.80

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教 (実務)	飛田夕紀	37	女	修士(臨床薬学)	2009.4.1	薬と仕事Ⅱ	1.50	0.05	
							薬物治療学Ⅱ	1.50	0.05	
							薬物治療学演習	3.00	0.10	
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	450.00	15.00	
薬学科	助教 (実務)	井口智恵	31	女	修士(薬)	2010.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	444.00	14.80	
薬学科	助教 (実務)	伊藤千裕	33	女	修士(薬)	2010.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	444.00	14.80	
薬学科	助教 (実務)	青木学一	38	男	博士(医療薬学)	2007.4.1	疾病解析学		3.00	0.10
							薬物治療学Ⅰ		3.00	0.10
							薬物治療学Ⅱ		1.50	0.05
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	451.50	15.05	
薬学科	助教 (実務)	安藤航	31	男	修士(臨床薬学)	2010.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	444.00	14.80	
薬学科	助教 (実務)	塩見めぐみ	41	女	修士(薬)	2009.7.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計	444.00	14.80	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	友田吉則	32	男	修士(臨床薬学)	2015.10.1	医薬品安全性学Ⅱ		1.50	0.05
							病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							病院・薬局実習	◎	330.00	11.00
							授業担当時間の合計		445.50	14.85
薬学科	助教	高橋遼	29	男	学士(医)	2014.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教	若杉昌輝	31	男	博士(薬)	2014.4.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教	山田路子	29	女	学士(薬)	2015.9.1	病院・薬局実習事前実習	◎	114.00	3.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科の科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
 ※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料10) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料8の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
薬学科	助手								
薬学科	助手								

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料8の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
生命創薬科学科	教授	服部 成介	64	男	博士(理)	2006.4.1	ゲノム医学	3.00	0.10	
							生化学Ⅲ	15.00	0.50	
							細胞生物学	6.00	0.20	
							生命創薬科学Ⅰ	1.50	0.05	
							薬学概論	1.50	0.05	
							生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	147.00	4.90	
生命創薬科学科	教授	牧野 一石	48	男	博士(薬)	2009.4.1	化学	13.50	0.45	
							無機化学	10.50	0.35	
							医薬品構造学Ⅱ	9.00	0.30	
							生命創薬科学Ⅱ	1.50	0.05	
							薬学英语Ⅰ	3.00	0.10	
							医薬品化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	157.50	5.25	
生命創薬科学科	教授	広野 修一	63	男	博士(薬)	1994.4.1	薬学概論	1.50	0.05	
							物理薬剤学Ⅰ	16.50	0.55	
							物理薬剤学Ⅱ	15.00	0.50	
							生命創薬科学Ⅱ	1.50	0.05	
							理論分子設計学	7.50	0.25	
							薬学英语Ⅰ	6.00	0.20	
							物理薬剤学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	168.00	5.60	

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
生命創薬科学科	教授	成川 衛	48	男	博士(臨床統計学)	2016.4.1	臨床試験総論	4.50	0.15	
							薬学概論	1.50	0.05	
							生命創薬科学Ⅱ	1.50	0.05	
							創薬情報科学	1.50	0.05	
							薬事行政	15.00	0.50	
							授業担当時間の合計	24.00	0.80	
生命創薬科学科	教授	竹内 正弘	62	男	Sc. D.	1999.4.1	統計学	3.00	0.10	
							薬学統計学	4.50	0.15	
							臨床試験総論	3.00	0.10	
							臨床統計学	9.00	0.30	
							授業担当時間の合計	19.50	0.65	
生命創薬科学科	講師	飯田 直幸	48	男	博士(薬)	2007.3.1	生命創薬科学研究概説	3.00	0.10	
							生化学Ⅱ	15.00	0.50	
							細胞生物学	3.00	0.10	
							ゲノム医学	3.00	0.10	
							生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	144.00	4.80	
生命創薬科学科	講師	柴垣 芳夫	54	男	博士(理)	1991.5.1	生化学Ⅰ	18.00	0.60	
							細胞生物学	1.50	0.05	
							生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	139.50	4.65	
生命創薬科学科	講師	山乙 教之	51	男	博士(薬)	2012.4.1	製剤学	15.00	0.50	
							理論分子設計学	10.50	0.35	
							物理薬剤学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計	145.50	4.85	

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間	
生命創薬科学科	助教	福井泰久	64	男	博士(医)	2016.6.1	生化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		120.00	4.00
生命創薬科学科	助教	嶋田修之	38	男	博士(薬)	2011.6.1	医薬品構造学Ⅱ		3.00	0.10
							薬学英语Ⅰ		6.00	0.20
							医薬品化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		129.00	4.30
生命創薬科学科	助教	山本大介	39	男	博士(薬)	2008.3.1	医薬品構造学Ⅱ		3.00	0.10
							薬学英语Ⅰ		6.00	0.20
							医薬品化学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		129.00	4.30
生命創薬科学科	助教	小澤新一郎	32	男	博士(薬)	2013.4.1	薬学英语Ⅰ		6.00	0.20
							物理薬剤学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		126.00	4.20
生命創薬科学科	助教	中込泉	50	女	修士(薬)	2007.4.1	薬学英语Ⅰ		6.00	0.20
							物理薬剤学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		126.00	4.20
生命創薬科学科	助教	吉田智喜	38	男	博士(理)	2014.4.1	理論分子設計学		10.50	0.35
							薬学英语Ⅰ		6.00	0.20
							物理薬剤学実習	◎	120.00	4.00
							授業担当時間の合計		136.50	4.55
生命創薬科学科	助教	金子真之	35	男	修士(薬)	2013.4.1	臨床試験総論		3.00	0.10
							薬事行政		15.00	0.50
							授業担当時間の合計		18.00	0.60

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間
生命創薬科学科	助教	朴 慶 純	29	女	学士 (薬)	2013. 5. 1	統計学	4.50	0.15
							薬学統計学	6.00	0.20
							臨床試験総論	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	13.50	0.45
生命創薬科学科	助教	方 雪 敏	38	女	Ph. D.	2014. 4. 1			0.00
							授業担当時間の合計	0.00	0.00
生命創薬科学科	助教	道 前 洋 史	47	男	博士 (理)	2010. 4. 1	統計学	7.50	0.25
							薬学統計学	4.50	0.15
							臨床試験総論	4.50	0.15
							創薬情報科学	4.50	0.15
							生命創薬科学 I	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	22.50	0.75

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

年生の在籍学生数	名
5年生の在籍学生数	248名
6年生の在籍学生数	245名

	配属講座など	指導教員数	年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	創薬物理化学	5		12	14	31	302.40
2	医薬品化学	3		12	11	26	293.84
3	薬品製造化学	4		11	13	28	295.75
4	生体分子解析学	5		12	13	30	293.56
5	生命薬化学	5		12	13	30	296.20
6	公衆衛生学	5		12	12	29	292.96
7	薬剤学	4		14	12	30	292.81
8	放射性同位元素研究室	2		3	3	8	200.98
9	微生物学	5		13	12	30	261.85
10	薬理学	5		12	11	28	296.82
11	分子薬理学	4		13	13	30	296.82
12	生化学	4		12	12	28	343.86
13	生物分子設計学	4		12	13	29	296.68
14	微生物薬品製造学	5		11	12	28	274.83
15	生薬学	5		12	13	30	261.71
16	衛生化学	5		12	12	29	261.55
17	薬用植物園	2		3	3	8	359.55
18	臨床統計学	4		3	3	10	120.72
19	医薬開発学	2		3	0	5	118.99
20	病態解析学	2		5	5	12	136.45
21	中毒学	1		4	4	9	47.44
22	保険薬局学	4		5	5	14	258.51
23	薬物治療学Ⅰ	8		9	7	24	370.00
24	薬物治療学Ⅱ	3		3	4	10	305.00
25	薬物治療学Ⅲ	5		6	7	18	130.51
26	薬物治療学Ⅳ	7		6	4	17	189.93
27	臨床薬学教育部門(※1)	4		2	2	8	126.58
28	薬物動態学	1		3	3	7	56.04
29	社会薬学部門	3		3	3	9	61.33
30	医療心理学部門	2		3	3	8	71.07
31	情報薬学部門	2		5	3	10	100.94
	合計	120	0	248	245	613	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員(助手を含む)の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

※1 臨床薬学大講座及び薬物治療学Ⅳとの兼務教員2名を含む。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

<白金キャンパス>

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室	282~320	4	1229	固定席。7室は情報コンセントあり (GBTにも使用)。
	中講義室	117~160	7	1034	4室は固定席、3室は可変席。
	小講義室	72~82	2	152	可変席
	多目的室	72~82	2	152	可変席。授業や行事で使用しない時は自習室として開放。
	セミナー室	12~60	4	124	可変席
	コンベンションホール	344	1	344	固定席。学会や論文発表、授業の説明会などで利用。
実習室	化学系実習室	40~80	7	480	化学系実習室 (4室)、調剤実習室 (2室)、注射調剤実習室
	生物系実習室	80~96	8	672	生物系及び物理系実習室
自習室等	自習室	20~28	2	48	このほか上記の多目的室や学生食堂を授業や行事が行われていない時間は自習スペースとして開放している。
	自習スペース	34~155	2	189	プラチナタワー12階のコモンスペースは法人本部のエリアだが、6年生優先の自習スペースとして利用している。
	学生ラウンジ	80	1	80	キャンパス内の各校舎には無線LANを設置しており、自習室、学生ラウンジなどで利用可能。

- 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。
また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考にして備考に記入してください。

<相模原キャンパス>1年次は相模原キャンパスで他学部と施設を共用するため、主な施設を別掲とした。

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室	439~610	2	1049	固定席
	中講義室	112~280	18	3086	固定席
	小講義室	60~80	19	1236	可変席
	演習室	8	8	64	可変席
実習室	生物学実習室	160	1	160	
	物理学実習室	160	1	160	
	化学実習室	80	2	160	
自習室等	CALL Room	40~60	3	148	
	コンピュータ室	16~48	3	112	
薬用植物園	1) 設置場所：1年次で学ぶ相模原キャンパスに設置 2) 施設の構成と規模：総面積6,302㎡ (バイオガーデン4,912㎡、試験圃場1,390㎡) 3) 栽培している植物種の数：約2,000種類 (うちドーム温室内300種) 4) その他の特記事項：バイオガーデン [ドーム温室、化学・生物学実験室、植物組織培養実験室 (調製室、無菌室、培養室)、腊葉・生薬標本室、会議室、ボイラー室]、試験圃場を擁し、本学の薬学教育、研究はもとより、相模原市民向けに「薬用植物栽培・加工体験講座」やシンポジウム、セミナーなどを開講している。				

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ¹⁾	面積 ²⁾	収容人員 ³⁾	室数 ⁴⁾	備考
教員個室（教授室など）	22.69m ²	1人	26	各研究室内に教授室があり、准教授から助教は研究室内にデスクがある。
実験室・研究室（大） ²⁾	296.67m ²	人	21	
実験室・研究室（小） ²⁾	73.23m ²	人	19	
セミナー室	54.04m ²	31	4	この他、各研究室内にセミナー室やカンファレンスルームなど指導を行うスペースがある。
共用機器室	731.35m ²	人	8	生物系共有機器室（P3実験室、細胞培養室、実験室、顕微鏡室（2室）、MS用分析室（2室）、化学系共有機器室。

- 1) 講座・研究室が占有する施設（隣接する2～3講座で共用する施設を含む）を記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 2) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値をご記入ください。
- 3) 1室当たりの収容人数をご記入ください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値をご記入ください。
- 4) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数をご記入ください。（ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。）

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ¹⁾	室数	施設の内容
大型測定器室	7	生物系共有機器室（1号館3階、プラチナタワー地下2階（P3実験室）、10階（P2実験室、LC-MS/MS解析室、共焦点顕微鏡室、低温室等））、化学系共有機器室（1号館地下1階）
実験動物施設	32	動物飼養施設及び処置動物室 飼育室17室〔特殊動物（感染、遺伝子組換え含む）〕、実験室15室
RI実験施設	10	放射性同位元素実験実習室 前室、汚染検査室、実験室、測定室、暗室、P2室、培養室、動物室、貯蔵室、廃棄物室
その他の施設 ²⁾		

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。（面積などは不要です）

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

2017年8月まで (キャンパス内工事による移転前)

図書室 (館) の名称	学生閲覧室 座席数 (A)	学生収容 定員数 (B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合 (%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
白金図書館	156	1,463	10.66	アクティブラーニング 施設等を充実させてい るため、図書館内に閲 覧室以外の自習室は無 い。キャンパス内の各 校舎に自習室を設けて いる。		入学時にノートパソ コンを全員に貸与し ているため、情報処 理端末は常設してい ない。	大学院：108名 学部2年次以上：1355名 ※1年次は相模原キャン パス教養図書館を利用
計	156	1,463	10.66				

2017年9月以降 (キャンパス内工事による移転後)

白金図書館	117	1,463	8.00	アクティブラーニング 施設等を充実させてい るため、図書館内に閲 覧室以外の自習室は無 い。キャンパス内の各 校舎に自習室を設けて いる。		入学時にノートパソ コンを全員に貸与し ているため、情報処 理端末は常設してい ない。	大学院：108名 学部2年次以上：1355名 ※1年次は相模原キャン パス教養図書館を利用
-------	-----	-------	------	---	--	---	--

2019年4月以降 (キャンパス内工事完成後の予定)

白金図書館	169	1,483	11.40	アクティブラーニング 施設等を充実させてい るため、図書館内に閲 覧室以外の自習室は無 い。キャンパス内の各 校舎に自習室を設けて いる。		入学時にノートパソ コンを全員に貸与し ているため、情報処 理端末は常設してい ない。	大学院：108名 学部2年次以上：1375名 ※1年次は相模原キャン パス教養図書館を利用
-------	-----	-------	-------	---	--	---	--

1) 「学生収容定員数 (B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員 (B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書=単行本+雑誌

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルの種類 (種類) ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			平成26年度	平成27年度	平成28年度	
大学図書館	537,647	155,000	1,104	175	11,197	7,433	7,620	6,626	6,249	白金図書館を除く他学部 の図書館の合計を計上 。電子ジャーナルは、大 学図書館にて契約してい るものがあり、白金キャン パスでも利用可能
白金図書館	173,641	50,000	431	40	0	95	2,191	2,835	2,843	1年生は相模原キャンパ ス教養図書館を利用
計	711,288	205,000	1,535	215	11,197	7,528	9,811	9,461	9,092	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。

2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。

3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅲ	職名 講師	氏名 野島 浩幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		<p>学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。</p> <p>調剤学、医薬品マーケティング論、総合演習講義において、演習問題を盛り込んだ資料を作成し、講義においてパワーポイントを用いて解答に至る過程を丁寧に解説し、学生の理解を高めている。</p> <p>発展学習のために、関連する医療事情を盛り込み、理解を深めさせるとともに、最新の情報も提供している。</p> <p>事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。</p> <p>事前実習では、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。</p> <p>病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年4月 平成29年4月	<p>病院・薬局事前実習書</p> <p>北里大学北里研究所病院薬剤部病院実習テキスト</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成27年3月	<p>病院実務実習における学生の病院薬剤師業務に対する意識変化～希望就職先に関する調査を踏まえて～</p>	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		<p>薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。</p> <p>生涯学習委員会委員にて、薬剤師向けの講演会実施の目マネージメントをしている。</p> <p>認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップへの参加</p> <p>CBT受験対策小委員会委員</p> <p>早期体験学習にて学生を受け入れ</p> <p>病院薬局・事前実習にて実習を担当</p> <p>病院薬局・実務実習にて実習生を受け入れ</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Comprehensive analysis of the Co-structures of dipeptidyl peptidase IV and its inhibitor	共著	平成28年8月	BMC Structural Biology , 16:11(2016)
(論文) 薬剤師のためのドーピング防止データベースの構築	共著	平成25年6月	医療薬学 39巻6号338-346
(論文) スポーツファーマシストによるドーピング防止教育と医薬品管理の効果	共著	平成24年2月	医薬品情報学 13巻4号189-193
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 弾性ネットワークモデルを用いた基準振動計算による上皮成長因子受容体細胞外領域の低振動運動の解析		平成29年6月	日本蛋白質科学会
(演題名) HER2及びHER1受容体細胞外ドメインの動的挙動の比較 - 粗視化Elastic Network Modelの基準振動解析 -		平成29年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			

平成29年6月	日本薬学会論文審査員 (Biological and Pharmaceutical Bulletin)
平成29年5月	生涯学習セミナー (泌尿器疾患・性感染症)
平成28年7月	生涯学習セミナー (炎症性腸疾患)
平成27年5月	生涯学習セミナー (感染症)

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部臨床医学 (臨床統計学)	職名 助教	氏名 朴 慶純
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年度	授業担当 年間9コマ、学位論文指導 5名	
	平成28年度	授業担当 年間8コマ、学位論文指導 6名	
	平成27年度	授業担当 年間10コマ、学位論文指導 5名	
	平成26年度	授業担当 年間4コマ、学位論文指導 4名	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年	スタンダード薬学シリーズII “第6巻 医療薬学 V. 薬物治療に役立つ情報” 「第6章 臨床研究デザインと解析」SB0 32~35 (東京化学同人出版)の執筆：薬学SB0に関する教材として	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) NIH 臨床研究の基本と実際 原書3版「第25章 機能測定値と健康関連QOL」分担翻訳ページ 359-370	共著	平成28年10月	丸善出版
(論文) A Phase I clinical trial of autologous stem cell-sheet transplantation therapy for treating cardiomyopathy.	共著	平成29年4月	Journal of the American Heart Association, 5: 6(4)
(論文) Demonstrating noninferiority of accelerated radiotherapy with panitumumab vs standard radiotherapy with cisplatin in locoregionally advanced squamous cell head and neck carcinoma.	共著	平成29年7月	JAMA Oncology, 3(10):1430-1431
(論文) Decision of performing interim analysis for comparative clinical trials.	共著	平成29年8月	Contemporary Clinical Trials Communications, 7: 224-230
(論文) Interpretability of cancer clinical trial results using restricted mean survival time as an alternative to the hazard ratio.	共著	平成29年9月	JAMA Oncology, 3(12):1692-1696
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Decision of performing interim analysis for comparative clinical trials.		平成29年 8月	The Joint Statistical Meeting
(演題名) インストラクションコース(5) 施行される臨床研究法を知らずに臨床研究するなんて		平成29年 10月	第71回日本臨床眼科学会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～現在	一般社団法人 日本計量生物学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 服部成介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年9月 平成28年9月 平成27年9月 平成26年9月 平成25年9月 平成24年9月	講義評価の記述に応じて講義内容を改良した 講義評価の記述に応じて講義内容を改良した 講義評価の記述に応じて講義内容を改良した 講義評価の記述に応じて講義内容を改良した 講義評価の記述に応じて講義内容を改良した 講義評価の記述に応じて講義内容を改良した	
2 作成した教科書、教材、参考書 よくわかるゲノム医学 よくわかるゲノム医学改訂第2版	平成25年12月 平成28年1月	(株) 羊土社より出版し、ゲノム医学講義に用いた (株) 羊土社より出版し、ゲノム医学講義に用いた	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称
(著書) よくわかるゲノム医学	共著	平成25年12月	(株) 羊土社
(著書) よくわかるゲノム医学改訂第2版	共著	平成28年1月	(株) 羊土社
(論文) Sato T, Higuchi Y, Shibagaki Y, Hattori S. Phosphoproteomic analysis identifies the signaling molecules regulated by curcumin in SW480 and SW620 cells.	共著	平成29年9月	Anticancer Res. 37(9):4789-4798, 2017.
(論文) Sato T, Ishii J, Ota Y, Sasaki E, Shibagaki Y, Hattori S. Mammalian target of rapamycin (mTOR) complex 2 regulates filamin A-dependent focal adhesion dynamics and cell migration.	共著	平成28年1月	Genes Cells. 21:579-593, 2016.
(論文) Sato T, Akasu H, Shimono W, Matsu C, Fujiwara Y, Shibagaki Y, Heard JJ, Tamanoi F, Hattori S. Rheb Protein Binds CAD (Carbamoyl-phosphate Synthetase 2, Aspartate Transcarbamoylase, and Dihydroorotase) Protein in a GTP- and Effector Domain-dependent Manner and Influences Its Cellular Localization and Carbamoyl-phosphate Synthetase (CPSase) Activity.	共著	平成27年5月	J Biol Chem. 290:1096-1105, 2015.
(論文) Yoneyama, K., Shibata, R., Igarashi, A., Kojima, S., Kodani, Y., Nagata, K., Kurose, K., Kawase, R., Takeshita, T., Hattori, S. Proteomic identification of dihydrolipoamide dehydrogenase as a target of autoantibodies in patients with endometrial cancer.	共著	平成26年9月	Anticancer Res. 34 (9):5021-5027.
(論文) Shibagaki Y, Ikuta N, Iguchi S, Takaki K, Watanabe S, Kaihotsu M, Masuda C, Maeyama K, Mizumoto K, Hattori S. An efficient screening system for influenza virus cap-dependent endonuclease inhibitors.	共著	平成26年6月	J Virol Methods S0166-0934(14)00048-2, 2014.
(論文) Iida N, Fujita M, Miyazawa K, Kobayashi M, Hattori S. Proteomic identification of p38 MAP kinase substrates using in vitro phosphorylation.	共著	平成26年2月	Electrophoresis 35, 554-562, 2014.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成28年7月	日本プロテオーム学会2016年大会を本学白金キャンパスにて主催した	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物学	職名 講師	氏名 羽田 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 免疫学 微生物学I 平成29年度 他7件		平成29年4月18日 平成29年5月31日	昨年度の授業評価より、話し方を注意した。 昨年度の授業評価より、話し方を注意した。
2 作成した教科書、教材、参考書 免疫学 微生物学I 平成29年度 他7件		平成29年4月18日 平成29年5月31日	講義用プリントの作成 講義用プリントの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)サルモネラIII型エフェクターによる炎症制御機構	共著	平成28年2月	北隆館、アレルギー臨床 36巻160-165
(論文) Functional characterization of the type III secretion ATPase SsaN encoded by Salmonella pathogenicity island 2.	共著	2014年	PLoS One. 2014 9(4): e94347.
(論文) Salmonella type III effector SpvC, a phosphothreonine lyase, contributes to reduction in inflammatory response during intestinal phase of infection.	共著	2012年	Cell Microbiol. 2012 14(4):485-99.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)サルモネラT3SS-1非依存的炎症に関与するエフェクターの同定		平成30年3月	日本細菌学会総会
(演題名)サルモネラNF- κ B制御エフェクターの機能解析		平成29年9月	日本細菌学会関東支部総会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年10月6日~7日	日本細菌学会関東支部総会総会主催		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生命薬化学	職名 助教	氏名 平山重人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2011.4	文献講読ゼミでは補足事項を話した。	
	2012.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2012.4	文献講読ゼミでは補足事項を話した。	
	2013.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2013.9	創薬化学では過去の報告例と最新の内容も説明。	
	2014.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2014.9	創薬化学では過去の報告例と最新の内容も説明。	
	2015.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2015.9	創薬化学では過去の報告例と最新の内容も説明。	
	2016.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2016.9	創薬化学では過去の報告例と最新の内容も説明。	
	2017.4	有機分析実習では重要な点を繰り返し説明。	
	2017.9	創薬化学では過去の報告例と最新の内容も説明。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011.4	有機分析実習で使用する実習書、レジュメを作成	
	2011.4	文献講読ゼミで補足用スライドを作成	
	2012.4	有機分析実習で使用する実習書、レジュメを作成	
	2012.4	文献講読ゼミで補足用スライドを作成	
	2013.4	有機分析実習で使用する実習書、レジュメを作成	
	2013.9	創薬化学での講義スライド、レジュメの作成	
	2014.4	有機分析実習で使用する実習書、レジュメを作成	
	2014.9	創薬化学での講義スライド、レジュメの作成	
	2015.4	有機分析実習で使用する実習書、レジュメを作成	
	2015.9	創薬化学での講義スライド、レジュメの作成	
	2016.4	有機分析実習で使用する実習書、レジュメを作成	
	2016.9	創薬化学での講義スライド、レジュメの作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2016.12	学外でのOSCE評価	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of novel triplet drugs with 1,3,5-trioxazatriquinane skeletons and their pharmacologies. 3: Synthesis of novel triplet drugs with the bis(epoxymethano) or bis(dimethylepoxymethano) structure (double-capped triplet)	共著	平成24年10月	Bioorg. Med. chem. Lett. vol 22
(論文) Synthesis and Pharmacology of a Novel κ Opioid Receptor (KOR) Agonist with a 1,3,5-Trioxazatriquinane Skeleton.	共著	平成26年6月	ACS Med. Chem. Lett., vol 5

(論文) Synthesis of a novel universal opioid receptor agonist with the 1,3,5-trioxazatriquinane skeleton and its pharmacologies.	共著	平成26年10月	Bioorg. Med. chem. Lett. vol 24
(論文) Naltrindole derivatives with fluorinated ethyl substituents on the 17-nitrogen as δ opioid receptor inverse agonists.	共著	平成27年8月	Bioorg. Med. chem. Lett. vol 25
(論文) Novel delta opioid receptor agonists with oxazatricyclodecane structure showing potent agonistic activities.	共著	平成29年6月	Bioorg. Med. chem. Lett. vol 27
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Oxytocin involvement of μ -opioid receptor-mediated analgesia and relationship between functions of oxytocin and kamikihito, a Japanese Kampo medicine.		2017. 8	ISAN2017
全身投与可能なオピオイド δ 受容体作動薬、KNT-127の設計・合成		2017. 9	第37回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体スプライズバリエーション選択的作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成		2017. 9	第61回日本薬学会関東支部大会
Design and synthesis of orexin 1 receptor selective antagonists		2017. 9	TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK (TGSW) 2017
δ オピオイド受容体作動薬KNT-127は島皮質の神経活動を抑制する		2017. 9	第47回日本神経精神薬理学会
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体スプライズバリエーション選択的作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成		2017. 10	第47回複素環化学討論会
ニトロンとジアミノメタンの光誘起形式的[3+3]付加環化反応		2017. 10	第47回複素環化学討論会
モルヒナン骨格を有するオレキシン I 受容体 (OX1R) 特異的拮抗薬の設計・合成とOX1R結合の活性立体配座		2017. 10	第35回メディシナルケミストリーシンポジウム
モルヒネ非感受性 μ オピオイド受容体スプライズバリエーション選択的作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成		2017. 12	第10回北里化学シンポジウム
δ オピオイド受容体インバースアゴニストを志向したN-置換基の検討		2017. 12	第10回北里化学シンポジウム
異なる置換基を有する1,3,5-トリオキサザトリキナン誘導体の効率的な合成法の検討		2018. 3	日本薬学第138年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2017. 3	薬理系薬学部会若手世話人		
	日本薬理学会会員		
	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 准教授	氏名 平山武司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	各年 授業毎	講義の開始時に重要ポイントの説明、終了時に講義のまとめを行い学生の理解が深まるよう工夫している。出来るだけ見やすいスライドを作成するよう心がけている。随時、関連する薬剤師国家試験問題の解説をおこない、学生の関心が高まるよう工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	各年 授業毎	各授業ごとに講義の内容をまとめた10頁～20頁程度の資料を作成し学生に配布している。	
	平成29年12月	吉尾 隆, 厚田 幸一郎, 佐々木 忠徳, 西澤 健司 (監修) 松尾和廣, 小園幸輝, 平山武司 (編集) : 現場で役立つ! 医学薬学用語インデックス, じほう, 東京, 2017	
	平成28年11月	厚田幸一郎 (監修), 畝崎榮, 黒山政一, 竹内裕紀, 平山武司 (共編) : 病気と薬物療法 精神疾患/神経・筋疾患, オーム社, 東京, 2016	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		1年生の副担任として生活指導 (年2回の個人面談含む)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
いちばん適切な薬剤が選べる同効薬比較ガイド第2版	共著・編集	2017年12月	じほう
緩和ケアの知識。平成29年度版在宅医療Q&A—服薬支援と多職種協働・連携のポイント。日本薬剤師会 (監修)	共著	2017年8月	じほう
治療薬ハンドブック2017・同効薬比較表	共著	2017年8月	じほう
現場で役立つ! 医学薬学用語インデックス	共著	2017年8月	じほう
いちばん適切な薬剤が選べる同効薬比較ガイド2	共著・編集	2016年6月	じほう
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へむけての検討その1 - 31年度改訂コアカリ実施に向けて -		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会 2017
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へむけての検討その2 - 病棟実習における代表的8疾患の実施状況 -		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会 2017
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へむけての検討その3 - 病院実務実習における他職種講義実施の意義 -		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会 2017
オキシコドン徐放錠からフェンタニル貼付剤へのオピオイドスイッチングが排便に及ぼす影響に関する研究		2017年7月	医療薬学フォーラム2017
リルゾール服用患者における肝機能障害に関する研究		2017年7月	医療薬学フォーラム2017
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成30年3月 (現在)	日本緩和医療学会理事		
平成24年4月～平成30年3月 (現在)	神奈川がん疼痛研究会世話人		
平成27年6月～平成29年6月	日本緩和医療学会認定委員会委員長		
平成29年7月～ (現在)	日本緩和医療学会専門認定委員会副委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部創薬物理化学研究室	職名 教授	氏名 広野修一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月～7月	物理薬剤学 I 講義 (授業評価: 4.21)	
	平成24年4月～7月	物理薬剤学実習 (実習評価: 4.17)	
	平成24年	他3件	
	平成25年4月～7月	物理薬剤学 I 講義 (授業評価: 4.46)	
	平成25年4月～7月	物理薬剤学実習 (実習評価: 4.53)	
	平成25年	他3件	
	平成26年4月～7月	物理薬剤学 I 講義 (授業評価: 4.24)	
平成26年4月～7月	物理薬剤学実習 (実習評価: 4.38)		
平成26年	他3件		
平成27年4月～7月	物理薬剤学 I 講義 (授業評価: 4.23)		
平成27年4月～7月	物理薬剤学実習 (実習評価: 4.33)		
平成27年	他3件		
平成28年4月～7月	物理薬剤学 I 講義 (授業評価: 4.37)		
平成28年4月～7月	物理薬剤学実習 (実習評価: 4.41)		
平成28年	他3件		
平成29年4月～7月	物理薬剤学 I 講義 (授業評価: 4.34)		
平成29年4月～7月	物理薬剤学実習 (実習評価: 4.47)		
平成29年	他3件		
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月3日	物理薬剤学 I 教科書プリント (120ページ)	
	平成26年4月3日	物理薬剤学 I 教科書プリント (120ページ)	
	平成27年4月3日	物理薬剤学 I 教科書プリント (120ページ)	
	平成28年4月3日	物理薬剤学 I 教科書プリント (120ページ)	
	平成29年4月3日	物理薬剤学 I 教科書プリント (120ページ)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Three-Dimensional Quantitative Structure-Activity Relationship Analysis for Human Pregnane X Receptor for the Prediction of CYP3A4 Induction in Human Hepatocytes: Structure-Based Comparative Molecular Field Analysis	共著	2015年1月	Journal of Pharmaceutical Sciences, 104(1), 223-232
(論文) Design and Synthesis of Labystegines, Hybrid Iminosugars from LAB and Calystegine, as Inhibitors of Intestinal alpha-Glucosidases: Binding Conformation and Interaction for ntSI	共著	2015年5月	J. Org. Chem., 80(9), 4501-4515
(論文) Docking study and biological evaluation of pyrrolidine-based iminosugars as pharmacological chaperones for Gaucher disease	共著	2016年1月	Organic & Biomolecular Chemistry, 14(3), 1039-1048
(論文) In silico analyses of the effects of a point mutation and a pharmacological chaperone on the thermal fluctuation of phenylalanine hydroxylase	共著	2017年9月	Biophysical Chemistry, 228(9), 47-54
(論文) In silico analyses of essential interactions of iminosugars with the Hex A active site and evaluation of their pharmacological chaperone effects for Tay-Sachs disease	共著	2017年11月	Organic & Biomolecular Chemistry, 15(44), 9297-9304

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
in silico フラグメント・マッピング法によるUSP7-HDM2タンパク質間相互作用 (PPI) 阻害剤の探索	平成29年10月	第35回メディシナルケミストリシンポジウム
in silico フラグメント・マッピングによる新規キマーゼ阻害剤の探索	平成29年10月	第35回メディシナルケミストリシンポジウム
（演題名）SBDD のためのin silico フラグメント・マッピング法の開発	平成29年11月	第45回構造活性相関シンポジウム
（演題名）アミノ酸残基マッピング法を用いたPPI 界面における相互作用スポット予測手法の開発	平成29年11月	第45回構造活性相関シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動

平成24年4月～平成30年3月	日本薬学会構造活性相関部会常任幹事
平成24年4月～平成30年3月	日本化学会情報化学部会幹事
平成24年4月～平成30年3月	CBI学会評議員
平成24年4月～平成29年3月	医薬基盤研究所専門委員
平成26年4月～平成29年3月	学術振興会審査員
平成28年10月～平成28年1	日本薬学会学会賞審査員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 臨床統計学	特任助教	氏名 方雪敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			私はCloud Data Analysis (CDA)という、複雑なデータの分析および可視化のために必要なオンラインのユーザーインターフェースを提供するWebアプリケーションを構築しました。ユーザーはハードディスクからデータをアップロードし、数回のクリックですべての作業を完了させることができます。CDAを活用することで臨床研究で必要とされる広範囲な統計解析に容易にアクセスすることができます。それによって、臨床試験に携わる医者や生物統計学者でない人たちでもクイックにデータ分析を体験できるだけでなく、生物統計学者もWebアプリケーションを使うことによる業務効率化の効果を享受することができます。CDAは現在SAARCの国々で公衆衛生学の研究員にとっての定量分析のワークショップで活用されています。また、KCCRのカリキュラムでも授業のツールとして活用されています。CDAの機能には、サンプルサイズとパワー計算、仮説検定、回帰分析、一般化線形モデル、生存分析、縦解析、メタ分析、クラスター解析などが含まれます。また、ユーザーのクラウドフォルダ管理もサポートしています。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
(論文) "dentification of A High-Response Patient Population to S-1 via Predictive Enrichment Strategy Analysis of the S-CUBE Phase III Trial"	共著	平成28年2月	Journal of Clinical Oncology 34, no. 4_suppl 229-229 Vol. 24, No. 9 pp. 15-29
(論文) S-1 Versus Placebo in Patients with Sorafenib-refractory Advanced Hepatocellular Carcinoma (S-CUBE): a Randomised, Double-blind, Multicentre, Phase 3 Trial	共著	平成29年4月	Lancet Gastroenterol Hepatol. 2017 Jun;2(6):407-417. doi: 10.1016/S2468-1253(17)30072-9. Epub 2017 Apr 6 Jpn J Clin Pharmacol Ther Vol. 31 pp. 705-713
(論文) Metronomic Chemotherapy vs Best Supportive Care in Progressive Pediatric Solid Malignant Tumors, Letters to the editor	共著	平成29年	JAMA Oncology, accepted
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Introducing CDA - An R Language Based Cloud Data Analysis Web Interface for Experimental Data		平成28年12月	Workshop on Quantitative Methods for Public Health Researchers of SAARC Countries, Kolkata, India
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 社会薬学部門	職名 助教	氏名 深町 伸子
I 教育活動			
臨床栄養学 分担担当			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			選択科目ながら受講者が多数の為、伝達形式の授業を行う。毎回課題レポート作成・提出を課すことで復習を兼ねて理解度を深めるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書			教科書は管理栄養士養成に該当する本を選択し、当該教科書と作成した捕捉プリント教材を利用して授業を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 98回薬剤師国家試験問題 解答・解説	共著	平成25年5月	評言社
(著書) 99回薬剤師国家試験問題 解答・解説	共著	平成26年5月	評言社
(著書) 100回薬剤師国家試験問題 解答・解説	共著	平成27年5月	評言社
(著書) 101回薬剤師国家試験問題 解答・解説	共著	平成28年5月	評言社
(著書) 102回薬剤師国家試験問題 解答・解説	共著	平成29年5月	評言社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 在宅療養患者の摂食及び栄養に及ぼす薬剤の影響について		平成29年5月	第1回全国医療医歯薬連合大会
(演題名) 自治体と地域の薬剤師の連携による薬剤管理の促進について		平成29年5月	第1回全国医療医歯薬連合大会
(演題名) 超高齢人口減少社会における地域の薬局・薬剤師の役割		平成30年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年3月～平成29年3月	日本健康体力栄養学会参加発表・平成29年3月 ポスター発表優秀賞受賞		
平成24年4月～平成29年現在	日本薬学会会員		
平成24年4月～平成29年現在	日本生化学会及び分子生物学会会員		
平成24年4月～平成29年現在	日本社会薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生化学	職名 嘱託助教	氏名 福井泰久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 生化学実習 使用教材の見直し	平成29年11月	実習書の見直し	
2 作成した教科書、教材、参考書 生化学実習 教材作成	平成29年11月	使用パワーポイントの作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 とくになし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）SWAP-70 contributes to cell transformation	共著	平成25年8月	PLoS One 8
（論文）Scattering of MCF7 cells by heregulin β -1 depends on the MEK and p38 MAP kinase	共著	平成25年10月	PLoS One 8
（論文）SWAP-70: A New Type of Oncogene	共著	平成25年10月	PLoS One 8
（論文）ERK5 activation is essential for osteoclast differentiation	共著	平成27年9月	PLoS One 10
（論文）SWAP-70 contributes to spontaneous transformation of mouse embryo fibroblasts	共著	平成28年8月	Exp Cell Res 345
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成28年8月～平成28年8月	Jhupo 学会補助		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬用植物園	職名 准教授	氏名 福田 達男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
薬用植物学における薬用植物園での実物教育 ケシ・アサの見学会, (授業評価等を含む)	平成24年5月～6月 平成24年5月, 10月	薬学部1年生全員に代表的な薬用植物の解説を行った 薬学部1年生対象に東京都薬用植物園で実施した	
薬用植物学における薬用植物園での実物教育 ケシ・アサの見学会,	平成25年5月～6月 平成25年5月, 10月	薬学部1年生全員に代表的な薬用植物の解説を行った 薬学部1年生対象に東京都薬用植物園で実施した	
薬用植物学における薬用植物園での実物教育 ケシ・アサの見学会,	平成26年5月～6月 平成26年5月, 10月	薬学部1年生全員に代表的な薬用植物の解説を行った 薬学部1年生対象に東京都薬用植物園で実施した	
薬用植物学における薬用植物園での実物教育 ケシ・アサの見学会,	平成27年5月～6月 平成27年5月, 10月	薬学部1年生全員に代表的な薬用植物の解説を行った 薬学部1年生対象に東京都薬用植物園で実施した	
薬用植物学における薬用植物園での実物教育 ケシ・アサの見学会,	平成28年5月～6月 平成28年5月, 10月	薬学部1年生全員に代表的な薬用植物の解説を行った 薬学部1年生対象に東京都薬用植物園で実施した	
薬用植物学における薬用植物園での実物教育 ケシ・アサの見学会,	平成29年5月～6月 平成29年5月, 10月	薬学部1年生全員に代表的な薬用植物の解説を行った 薬学部1年生対象に東京都薬用植物園で実施した	
講義用プリント	平成24年4月～7月	薬学部1年生薬用植物学講義資料	
講義用プリント	平成25年4月～8月	薬学部2年生薬用植物学講義資料	
講義用プリント	平成26年4月～9月	薬学部3年生薬用植物学講義資料	
講義用プリント	平成27年4月～10月	薬学部4年生薬用植物学講義資料	
講義用プリント	平成28年4月～11月	薬学部5年生薬用植物学講義資料	
講義用プリント	平成29年4月～12月	薬学部6年生薬用植物学講義資料	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
薬用植物栽培・加工体験講座の実施	平成24年4月～平成25年3月	相模原市と共催の市民講座	
漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修	平成24年6月, 10月	日本薬剤師研修センターからの講師委託	
薬用植物栽培・加工体験講座の実施	平成25年4月～平成26年3月	相模原市と共催の市民講座	
漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修	平成25年6月, 10月	日本薬剤師研修センターからの講師委託	
薬用植物栽培・加工体験講座の実施	平成26年4月～平成27年3月	相模原市と共催の市民講座	
漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修	平成26年6月, 10月	日本薬剤師研修センターからの講師委託	
薬用植物栽培・加工体験講座の実施	平成27年4月～平成28年3月	相模原市と共催の市民講座	
漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修	平成27年6月, 10月	日本薬剤師研修センターからの講師委託	
薬用植物栽培・加工体験講座の実施	平成28年4月～平成29年3月	相模原市と共催の市民講座	
漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修	平成28年6月, 10月	日本薬剤師研修センターからの講師委託	
薬用植物栽培・加工体験講座の実施	平成29年4月～平成30年3月	相模原市と共催の市民講座	
漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修	平成29年6月, 10月	日本薬剤師研修センターからの講師委託	
II 研究活動			
カラーグラフィック薬用植物 第4版	共著	平成27年2月5日	廣川書店
北里大学薬学部附属薬用植物園紀要 第10号	共著	平成26年3月	北里大学薬学部附属薬用植物園
北里大学薬学部附属薬用植物園紀要 第11号	共著	平成28年3月	北里大学薬学部附属薬用植物園
栃木県塩谷町のザゼンソウ群落と生育環境について	共著	平成25年3月	栃木県立博物館研究紀要- 自然-第30号, p. 1-8
Identification of a Xanthine Oxidase- inhibitory Component from Sophora flavescens using NMR-based Metabolomics	共著	2013, 7	Natural Product Communications vol. 8 No. 10 1409-1412.
Identification of the Country of Growth of Sophora flavescens using Direct Analysis in RealTime MassSpectrometry (DART-MS)	共著	2014, 10	Natural Product Communications vol. 9 No. 11 1591-1594.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
自然毒と乱用（植物系脱法ドラックについて）	平成28年6月	第39回日本中毒学会総会・学術集会
福井県高浜町産ゴシュユの化学的品質評価	平成28年9月	日本生薬学会第64回年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成24年4月～平成26年3月	種苗法に基づく出願品種の現地調査委員 農林水産省食料産業局	
平成25年4月～平成26年3月	毒物劇物取扱者試験の試験委員 東京都福祉保健局	
平成26年4月～平成27年3月	毒物劇物取扱者試験の試験委員 東京都福祉保健局	
平成26年4月～平成28年3月	種苗法に基づく出願品種の現地調査委員 農林水産省食料産業局	
平成26年6月～平成28年6月	公益法人 日本植物園協会 代表理事（副会長）	
平成27年4月～平成28年3月	毒物劇物取扱者試験の試験委員 東京都福祉保健局	
平成28年4月～平成30年3月	種苗法に基づく出願品種の現地調査委員 農林水産省食料産業局	
平成28年4月～平成29年3月	毒物劇物取扱者試験の試験委員 東京都福祉保健局	
平成28年6月～平成30年6月	公益法人 日本植物園協会 代表理事（副会長）	
平成29年4月～平成30年3月	毒物劇物取扱者試験の試験委員 東京都福祉保健局	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 中毒学	職名 准教授	氏名 福本 真理子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24～29年	* 4年必修講義「医薬品安全性学Ⅱ」・選択講義「救急治療・臨床中毒学」講義では自作テキスト、ビデオ、PowerPointなどを利用している。 * 上記講義や4年事前実習において、救急医、科捜研日本中毒情報センターから専門家による講義を企画し、希望者には学外施設の見学を企画引率した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成28年	* 福本真理子著「実践医薬品安全性学」京都廣川書店 * (社)日本薬剤師会「健康サポート薬局研修」e-ラーニング教材「公衆衛生」 * 一般社団法人薬局共創未来人財育成機構「健康サポート薬局薬剤師向けe-ラーニング講義「公衆衛生」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年 平成25年	*分担著「今日の診断指針」第7版、医学書院 *分担著「内科学」第10版、朝倉書店
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年	第36回日本中毒学会学術大会にて、ワークショップ「大学における中毒学教育のあり方」で「薬学部における中毒学教育」の講演をおこなった。
		平成28年	北里大学薬学部FDセミナーにて「選択講義は教員も学生も楽しく！」の講演をおこなった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 実践医薬品安全性学	単著	平成28年9月	京都廣川書店
(著書) 内科学 第11版	共著	平成29年3月	朝倉出版
(論文) 薬物の体内動態	単著	平成29年7月	INTENSIVIST (第9巻第3号)
(論文) 意識障害を引き起こす中毒とその分析	単著	同29年9月月	生物試料分析 (第40巻4号)
(論文) カフェインの基礎毒性学	単著	平成28年12月	中毒研究 (第29巻4号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
金属に対する活性炭の吸着特性の検証		2017年・7月	第39回日本中毒学会総会
無煙タバコ製品のニコチン含量の測定ー新しいタバコ製品による中毒事故の防止をめざしてー		2017年・7月	第39回日本中毒学会総会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年7月～現在	日本中毒学会理事		
平成26年7月～現在	日本中毒学会連携委員会委員長		
平成26年7月～現在	日本中毒学会広報委員会委員長		
平成28年7月～現在	日本中毒学会総務委員会副委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生命薬化学	教授	藤井 秀明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年7月	有機化学Ⅱ 授業アンケート、内容を次年度以降に反映	
	平成25年6月	有機化学Ⅱ 授業アンケート、内容を次年度以降に反映	
	平成26年6月	有機化学Ⅱ 授業アンケート、内容を次年度以降に反映	
	平成27年6月	有機化学Ⅱ 授業アンケート、内容を次年度以降に反映	
	平成28年4-6月	有機化学Ⅱにて、課題レポート(復習問題)を課した(合計3回)。次回の講義で、間違いが多かったところなどを解説。	
	平成28年9-11月	有機化学Ⅲにて、課題レポート(復習問題)を課した(合計3回)。次回の講義で、間違いが多かったところなどを解説。	
	平成29年5月	授業アンケートの実施時期を、全講義回数の中間時期に変更。内容を同年度内の講義にフィードバック可能に変更。	
	平成29年4-6月	有機化学Ⅱにて、課題レポート(復習問題)を課した(合計3回)。次回の講義で、間違いが多かったところなどを解説。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年6月	演習試験Ⅰ 解答・解説作成	
	平成26年11月	演習試験Ⅱ 解答・解説作成	
	平成28年3月	スタンダード薬学シリーズⅡ 3 化学系薬学Ⅱ 生体分子・医薬品の化学による理解「SB0 37 オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる」	
	平成28年5月	演習試験Ⅰ 解答・解説作成	
	平成26年11月	演習試験Ⅱ 解答・解説作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成29年7月25日	FDセミナーにて、前年度の薬学総合演習に関するアンケート結果を紹介	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年3月5日	FD講習会参加	
	平成25年12月25日	FDセミナー参加	
	平成26年3月12日	FD講習会参加	
	平成26年7月31日	FD講習会参加	
	平成27年10月9日	FD講習会参加	
	平成28年7月26日	FDセミナー参加	
	平成29年1月23日	FD SD合同研修会参加	
	平成29年7月12日	学生自死予防のための研修会参加	
	平成29年7月25日	FDセミナー企画・参加	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
スタンダード薬学シリーズII 3 化学系薬学 II. 生体分子・医薬品の化学による理解 「SBO 37 オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、 化学構造に基づく性質について説明できる」	共著	平成28年3月	東京化学同人社
Novel Delta Opioid Receptor Agonists with Oxazatricyclodecane Structure	共著	平成26年4月	ACS Med. Chem. Lett., vol. 5, No. 4, pp 368- 372
Naltrindole derivatives with fluorinated ethyl substituents on the 17-nitrogen as δ opioid receptor inverse agonists	共著	平成27年8月	Bioorg. Med. Chem. Lett., vol. 25, No. 15, pp 2927-2930.
オピオイド受容体プライスバリエント	共著	平成29年4月	ペインクリニック, vol. 38, 別冊春号, pp S196-
Deprotection of silyl ethers by using SO_3H silica gel: Application to sugar, nucleoside, and alkaloid derivatives	共著	平成26年9月	Tetrahedron, vol. 73, No. 36, pp 5425-5429.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アミノナルトレキソンの異常アセチル化反応		平成29年5月	第73回有機合成化学協会関 東支部シンポジウム
オピオイド δ 受容体逆作動薬による記憶障害改善作用		平成29年6月	BioTech2017
Anxiolytic-like and antidepressant-like effects of a novel delta opioid receptor agonist NC-2800 in rats		平成29年7月	International Narcotic Research Conference 2017
Oxytocin involvement of μ -opioid receptor-mediated analgesia and relationship between functions of oxytocin and kamikihito, a Japanese Kampo medicine		平成29年6月	2017国際神経科学学会
ストレス誘発記憶障害の改善剤		平成29年8月	イノベーション・ジャパン 2017
全身投与可能なオピオイド δ 受容体作動薬、KNT-127の設計・合成		平成29年9月	第37回鎮痛薬・オピオイド ペプチドシンポジウム
新規オピオイド δ 受容体作動薬NC-2800の薬理作用		平成29年9月	第37回鎮痛薬・オピオイド ペプチドシンポジウム
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体プライスバリエント選択的 作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成		平成29年9月	第61回日本薬学会関東支部 大会
クロロキン耐性マラリアに対する耐性克服剤としてのBNTX ~2020 年東京オリンピックを見据えて~		平成29年9月	第72回日本体力医学会大会
δ オピオイド受容体作動薬KNT-127は島皮質の神経活動を抑制する		平成29年9月	第47回 日本神経精神薬理 学会
ニトロンとジアミノメタンの光誘起形式的[3+3]付加環化反応		平成29年10月	第47回複素環化学討論会
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体プライスバリエント選択的 作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成		平成29年10月	第47回複素環化学討論会
メセンブレン合成の中間体のレトロ-エン反応		平成29年11月	第43回反応と合成の進歩シ ンポジウム
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体選択的作動薬を志向したモル ヒナン誘導体の合成		平成29年11月	第79回有機合成協会関東支 部シンポジウム
モルヒネ非感受性 μ オピオイド受容体プライスバリエント選択的 作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成		平成29年12月	第10回北里化学シンポジウ ム
α -プロモケトンを用いたオキサゾール合成法における基質一般性 の検討と反応機構の考察		平成29年12月	第10回北里化学シンポジウ ム
光増感触媒によるニトロンとジアミノメタンの形式的 [3+3] 付加 環化反応		平成29年12月	第10回北里化学シンポジウ ム
可視光応答型レドックス触媒による炭素ラジカル種の共役付加-環 化反応		平成29年12月	第10回北里化学シンポジウ ム
δ オピオイド受容体インバースアゴニストを志向したN-置換基の検 査		平成29年12月	第10回北里化学シンポジウ ム
キラルクマリン-3-カルボキサミドのジアステレオ選択的光二量 化反応		平成30年3月	日本化学会第98春季年会
異なる置換基を有する1,3,5-トリオキサアザトリキナン誘導体の効 率的な合成法の検討		平成30年3月	日本薬学会第138年会
7-アザノルボルナンの修飾による立体的な創薬候補化合物ライブラ リーを構築する手法の開発		平成30年3月	日本薬学会第138年会
α -プロモケトンを用いたオキサゾール合成法における基質一般性 の検討と反応機構の考察		平成30年3月	日本薬学会第138年会
光増感触媒によるニトロンとジアミノメタンの形式的 [3+3] 付加 環化反応		平成30年3月	日本薬学会第138年会
可視光応答型レドックス触媒による炭素ラジカル種の共役付加-環 化反応		平成30年3月	日本薬学会第138年会
δ オピオイド受容体インバースアゴニストを志向したN-置換基の検 査		平成30年3月	日本薬学会第138年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成22年8月～現在	鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会・世話人
平成26年4月～現在	Chemical Biology & Drug Design 誌 (Wiley社) Editorial Advisory Board
平成28年4月～現在	日本がん支持療法研究グループメンター

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体分子解析学	職名 教授	氏名 本間 浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義において、コアの内容に加えて学生が興味を持つように、より高度な内容、周辺領域の事項などを合わせて話すようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年3月 2016年3月	パートナー分析化学 I, II 改訂第3版 共著 南江堂 物理系薬学Ⅱ 化学物質の分析 スタンダード薬学シリーズⅡ 共著 東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年8月 2014年8月	第7回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に対する物理系部会の対応」 第8回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム「新薬学教育モデル・コアカリキュラム」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2007年～2011年 2010年～2013年	日本薬学会 薬学教育改革大学人会議 共用試験問題委員会委員 日本薬学会 薬学教育改革大学人会議 教育委員会委員 モデルコアカリキュラム委員会委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) D-Amino Acids - Physiology, Metabolism, and Application	共著・編集	2016年6月	Springer 社
(論文) Structure-function relationships in human D-aspartate oxidase: characterisation of variants corresponding to known single nucleotide polymorphisms	共著	2017年6月	Biochim. Biophys. Acta 1865, 1129-1140
(論文) D-Glutamate is metabolized in the heart mitochondria	共著	2017年3月	Sci. Rep. 7:43911
(論文) Plasma concentrations of three methylated arginines, endogenous nitric oxide synthase inhibitors, in schizophrenic patients undergoing antipsychotic drug treatment	共著	2016年4月	Psychiatry Research 238, 203-210
(論文) Identification of novel D-aspartate oxidase inhibitors by in silico screening and their functional and structural characterization in vitro	共著	2016年1月	J. Med. Chem. 58, 7328-7340
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
D-amino acid residues in various proteins during storage		2017年6月	45th International Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related
Identification and characterization of novel broad-spectrum amino acid racemases in bacteria		2017年7月	3rd International Conference of D-Amino Acid Research IDAR2017
Structure-function relationships in human D-aspartate oxidase		2017年7月	3rd International Conference of D-Amino Acid Research IDAR2017
Functions of D-aspartate oxidase in C. elegans		2017年7月	3rd International Conference of D-Amino Acid Research IDAR2017
酸性 D-アミノ酸の代謝と生理機能		2017年11月	第28回フォーラムイントーン
細菌における非標準的D-アミノ酸合成酵素の同定及び機能解析		2017年12月	2017年度 生命科学系学会合同年次大会ConBio2017
精神神経疾患に関連する新奇生理活性物質D-アスパラギン酸の分解酵素の一塩基多型に関する研究		2018年3月	日本薬学会第138年会
線虫における D-アミノ酸オキシダーゼ欠損変異体の行動解析		2018年3月	日本薬学会第138年会
細菌における非標準的D-アミノ酸合成に関与する酵素の同定		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
2009年6月～現在	薬学教育評価機構 評価委員(2017年度 委員長) 運営委員		
2011年9月～現在	D-アミノ酸学会運営委員長(会長)		
2016年7月～現在	日本私立薬科大学協会理事		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 医薬品化学	職名 教授	氏名 牧野 一石
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017/10/5 2016/10/6	1年次化学講義(9回)担当, 授業評価平均4.5 1年次化学講義(9回)担当, 授業評価平均4.48 他に3件
2 作成した教科書、教材、参考書		2016年4月5日 2013年12月30日	教科書「無機化合物・錯体第3版」改版 参考書「薬がわかる構造式集」分担執筆 他に講義用教材作成10件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2016年2月22日	神奈川県内私立中学高等学校理科教員研究会にて講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FD委員長として授業評価アンケート, FD 講演会を2012年度から2018年度にわたり企画運営
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of sialic acid derivatives based on chiral substrate controlled stereoselective aldol reactions using pyruvic acid oxabicyclo[2.2.2]octyl orthoester	共著	2017年1月	Organic & Biomolecular Chemistry, 2017, 15, 640-648
(論文) Manganese-promoted oxidative cyclisation of unsaturated oximes using molecular oxygen in air under ambient conditions	共著	2016年10月	European Journal of Organic Chemistry, 2016, 5216-5219
(論文) Manganese-catalysed hydroperoxidation of carbon-carbon double bonds using molecular oxygen present in air and hydroxylamine under ambient conditions	共著	2016年8月	Organic Chemistry Frontiers, 2016, 3, 1420-1424
(論文) Regioselective, Tin-Free Sulfation of Unprotected Hexopyranosides by Using Phenylboronic Acid	共著	2016年1月	European Journal of Organic Chemistry, 2016, 902-905
(論文) Thermodynamically controlled regioselective glycosylation of fully unprotected sugars through bis(boronate) intermediates.	共著	2014年4月	European Journal of Organic Chemistry, 2014, 3536-3539
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 空気中の酸素分子を酸素源としたマンガン錯体によるオキシホスホリル化反応		2017年11月	第43回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) ボロン酸触媒を用いた無保護糖の位置選択的官能基化およびグリコシル化反応の開発		2017年9月	第59回天然有機化合物討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～平成30年3月	有機合成化学協会関東支部幹事		
平成25年2月～平成30年1月	日本薬学会関東支部幹事		
平成26年2月～平成30年1月	日本薬学会関東支部選挙管理委員長		
平成27年9月9日	平成27年度市民大学(相模原市)講演		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 松岡 正城
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年	衛生化学実習	
	平成28年	衛生化学実習	評価点4.36
	平成27年	衛生化学実習	評価点4.35
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年	衛生化学実習実習書	
	平成28年	衛生化学実習実習書	
	平成27年	衛生化学実習実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Lipid peroxidation-Dependent Cell Death Regulated by GPx4 and Ferroptosis	共著	平成29年3月	Current Topics in Microbiology and Immunology Vol.403 pp.143-170, 2017
(著書) RIPK1がアポトーシスとネクロトーシスを制御する	単著	平成27年4月	ファルマシア51巻4号E群「トピックス」
(論文) ビタミンEは肝臓特異的PHGPx欠損マウスの出生直後死をレスキューする	単著	平成24年12月	ビタミンE研究の進歩、15、68-72、2012
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) セレンタンパク質GPx4とビタミンEによる脂質酸化の抑制は生命の維持に必須である		平成29年12月	Conbio2017
(演題名) 脂質酸化依存的新規細胞死実行因子Lipo-1遺伝子の同定と機能解析		平成29年7月	第26回日本cell death学会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年5月27日～5月28日	第3回日本セレン研究会運営委員		
平成27年1月9日	第26回VitaminE研究会運営委員		
平成11年～	公益社団法人日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅲ	職名 教授	氏名 松原 肇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		<p>学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を次年度以降の授業内容や配布資料などに反省し、教育方法等の見直しを行っている。</p> <p>6年次薬学総合演習については、過去の国家試験問題に必要な周辺知識および解答に至る過程を解説し、学生の理解を高めている。</p> <p>また、最新の医療情勢などについても随時提供している。</p> <p>病院薬剤部業務を兼務しているため、薬剤部職員と協働して病院実務実習さらに卒業研究を行っている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書		講義毎の配布資料 北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業ならびに学生指導に反映している。 教育委員会、特別実習演習小委員会、学生指導委員会など学部内委員 2年生学年主任	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 経腸用半固形剤専用注入器の有用性に関する検討	共著	2014年7月	医療薬学 Vol. 40, No. 7
(論文) 水溶性ビタミン配合新規PPN輸液の有用性に関する実験的研究	共著	2014年11月	新薬と臨床 Vol. 63, No. 11
(著書) 薬剤師のための感染制御マニュアル 第4版	共著	2017年4月	薬事日報社
(著書) 標準薬剤学 改定第4版	共著	2017年4月	南江堂
(総説) 院内製剤チラーゼン坐剤の調製について	共著	2017年11月	医薬ジャーナル Vol. 53, No. 11
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん化学療法施行中の2型糖尿病患者におけるデキサメタゾン投与時の血糖変動調査		2017年9月	第6回日本くすりと糖尿病学会
(演題名) ハイリスク薬の薬学的管理に関する実態調査		2017年11月	第27回日本医療薬学会
(演題名) アルコール含有製剤についての調査研究		2017年11月	第27回日本医療薬学会
(演題名) 人間ドックにおける非アルコール性脂肪肝疾患のリスク要因分析		2017年11月	第27回日本医療薬学会
(演題名) 芍薬甘草湯長期連用患者に関する実態調査		2017年11月	第27回日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～	日本注射薬臨床情報学会 副会長		
平成25年11月～	日本静脈経腸栄養学会 代議員・学術評議員(1999年2月～:旧制度の評議員)		
平成26年7月～	日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師部門認定審査委員会委員長 (2008年4月～ 認定審査委員会委員)		
平成27年4月～	MR認定センター 試験委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物学	職名	氏名 三木剛志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年5月30日 平成29年6月6日	免疫学講義：わかりやすい講義を心がけた 免疫学講義：わかりやすい講義を心がけた
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年5月30日 平成29年6月6日	免疫学講義：発表スライドと資料の作成 免疫学講義：発表スライドと資料の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 抗菌レクチンRegIIIbはサルモネラ腸炎を長引かせる	単著	平成29年10月	臨床免疫・アレルギー科
(論文) Inflammatory bactericidal lectin RegIIIb: Friend or foe for the host?	共著	平成29年10月	Gut Microbes
(論文) The bactericidal lectin RegIIIb prolongs gut colonization and enteropathy in the streptomycin mouse model for Salmonella diarrhea.	共著	平成29年2月	Cell Host Microbe
(論文) Chromobacterium haemolyticum pneumonia possibly due to the aspiration of runoff water.	共著	平成27年6月	Jpn J Infect Dis
(論文) サルモネラのDsbAとChromobacterium violaceumのCopEエフェクターの解析	単著	平成26年12月	日本細菌学雑誌
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) RegIIIb lectin prolongs the gut colonization and enteropathy inflicted with Salmonella Typhimurium		平成29年3月	第90回 日本細菌学会総会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	細菌学会 学会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 北里大学	講座名 生命薬化学	職名：助教	氏名：水口 貴章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		大学院・PP/PL	
	2017年 4月～5月	有機分析実習	2年生
	2017年度 通年	薬学卒業特別実習	PP必修
	2017年度 通年	生命薬科学卒業特別実習	PL必修
	2017年度 通年	生命薬科学特別実習	大学院修士課程2年
	2017年度 通年	有機化学特別実習	大学院修士課程1年
	2017年 4/14, 21, 28, 5/12, 19, 26, 6/2, 9, 16,	文献講読ゼミA・C	3年生・4年生
	2017年 9/9, 30, 10/7, 14, 11/11, 18, 25, 12/2	文献講読ゼミB・D	3年生・4年生
	2017年 6/14, 28, 7/12, 26, 9/13, 27, 10/11, 11/1, 15, 29, 12/20	創薬化学セミナー	研究室セミナー
	2017年7月19日 2017年10月18日	有機反応機構 問題セミナー	研究室セミナー
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数) 等の名称
Anti-HIV screening for cell-penetrating peptides using chloroquine and identification of anti-HIV peptides derived from matrix proteins	共著 筆頭著者	2015年8月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 23(15), 4423-4427
A minimally cytotoxic CD4 mimic as an HIV entry inhibitor	共著 筆頭著者	2016年1月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> , 26(2), 397-400
Functional evaluation of fluorescein-labeled derivatives of a peptide inhibitor of the EGF receptor dimerization	共著 2番目	2016年8月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 24(16), 3406-3412
Development of anti-HIV peptides based on a viral capsid protein	共著 筆頭著者	2017年1月	<i>Biopolymers: Peptide Science</i> , 108(1), e22920.
Effects of replacement and addition of an amino acid contained in a cyclic peptide corresponding to a β -hairpin loop sequence of human EGF receptor.	共著 2番目	2017年4月	<i>J. Pept. Sci.</i> , 23(7-8), 581-586
他4件	共著	2012年度～2017年度	<i>ChemMedChem</i> , <i>Org. Biomol. Chem.</i> , <i>Electrophoresis</i> , etc.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
2017年度における学会発表なし			
3. 外部競争資金獲得状況[研究代表者のみ記載した]		期間	機関
文部科研費 特別研究員奨励費(課題番号: 10J06748)		2012年4月～2013年3月	日本学術振興会
文部科研費 研究活動スタート支援(課題番号: 26893061)		2014年8月～2016年3月	日本学術振興会
文部科研費 若手研究(B)(課題番号: 16K18910)		2016年4月～2018年3月	日本学術振興会
2014年度薬学系研究奨励		2014年8月～2017年3月	公益財団法人 武田科学振興財団
平成26年度研究奨励金		2014年12月～2016年3月	公益財団法人 東京生化学研究会
第28回ノバルティス研究奨励金		2015年4月～2016年3月	公益財団法人 ノバルティス科学振興財団
平成27年度採択研究助成		2015年4月～2017年3月	公益財団法人 旭硝子
2017年度薬学系研究奨励継続助成		2017年8月～2020年3月	公益財団法人 武田科学振興財団
4. 受賞など		年月(西暦でも可)	
日本薬学会第133年会 優秀発表賞 「EGFレセプターの二量化阻害を示す環状ペプチドの構造的特徴」		2013年3月	日本薬学会

創薬懇話会2016 優秀ポスター賞 「細胞を用いた新規評価系の確立と HIV-Gagタンパク質を基盤とした新規HIV活性ペプチドの創出」		2016年7月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成28年4月～現在	Reviewer (査読) : “Bioorganic & Medicinal Chemistry” (計1件)		
平成29年4月～現在	Reviewer (査読) : “Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters” (計3件)		
平成29年6月～現在	Reviewer (査読) : “Journal of Peptide Science” (計3件)		
平成29年9月～現在	Reviewer (査読) : “Expert Opinion On Therapeutic Targets” (計1件)		
学会会員	日本薬学会・日本ペプチド学会、日本ケミカルバイオロジー学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 臨床統計学	職名 助教	氏名 道前洋史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 「NIH 臨床研究の基本と実際 第3版」 「薬学のための医療統計学」	平成28年10月19日 平成26年3月30日		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Personalized Dynamic Prediction of Death According to Tumour Progression and High-Dimensional Genetic Factors: Meta-Analysis With a Joint Model.	共著	in press	Statistical Methods in Medical Research
(論文) A copula-based inference to piecewise exponential models under dependent censoring, with application to time to metamorphosis of salamander larvae.	共著	2017年	Environmental and Ecological Statistics, 24:151-173.
(論文) Statistical inference based on the nonparametric maximum likelihood estimator under double-truncation.	共著	2015年	Lifetime Data Analysis, 21:397-418.
(論文) An improved nonparametric estimator of distribution function for censored bivariate competing risk models.	共著	2014年	Journal of Multivariate Analysis, 132:229-241.
(論文) Long-term follow-up of a randomized trial comparing conventional paclitaxel and carboplatin with dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer: JGOG 3016 trial.	共著	2013年	The Lancet Oncology, 14:1020-1026.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			学会名
(演題名) A randomized phase III trial of docetaxel plus cisplatin or paclitaxel plus carboplatin compared with doxorubicin plus cisplatin as adjuvant chemotherapy for endometrial cancer at high risk of recurrence: Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG2043).		2017年	American Society of Clinical Oncology
(演題名) Is the mesenchymal transition subtype more responsive to dose dense taxane chemotherapy combined with carboplatin (ddTC) than to conventional taxane and carboplatin chemotherapy (TC) in high grade serous ovarian carcinoma? A survey of Japanese Gynecology Oncology Group study (JGOG3016A1).		2017年	American Society of Clinical Oncology
(演題名) Combined analysis of three randomized Phase III trials comparing S-1 monotherapy and S-1 combination therapy for first-line treatment of advanced gastric cancer.		2017年	American Society of Clinical Oncology
(演題名) Gene alteration in triple negative breast cancer patients in a phase I/II study of combination therapy with eribulin and olaparib.		2017年	European Society for Medical Oncology
(演題名) Efficacy and safety of olaparib combined with eribulin in patients with advanced or metastatic triple negative breast cancer (TNBC) previously treated with anthracyclines and taxanes: The final analysis of a Japanese phase I/II trial.		2017年	European Society for Medical Oncology
III 学会および社会における主な活動			
平成21年3月～現在	NPO法人婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 データマネジメント委員会委員		
平成26年4月～現在	NPO法人日本がん臨床試験推進機構統合解析推進委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 保険薬局学	職名 助教	氏名 宮崎 智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		24年度～29年度	4年次必修「医療薬学Ⅰ」を担当(1コマ/年)。
		24年度～29年度	4年次病院・薬局実習事前実習にて、患者接遇とセルフメディケーションに関する実習を担当。
		24年度～29年度	5年次薬局実習にて、施設との調整、学生へのガイダンス、資料作成等を担当。
2 作成した教科書、教材、参考書		24年度～29年度	4年次病院・薬局実習事前実習 実習書を作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成27年11月	ACCP(米国薬学会)にてアイオワ大学薬学部との国際交流活動についてポスター発表。
		平成28年3月	日本薬学会年会にてアイオワ大学薬学部との国際交流活動についてポスター発表。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年11月	アイオワ大学薬学部との国際交流活動の一環として米国派遣され、2週間研修を行った。
		平成29年4月	認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ修了
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) アンチ・ドーピングを考慮した一般用医薬品第一類に関する検討	共著	平成25年8月	耳鼻咽喉科展望 Vol. 56 Page. 190-195
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬学生海外研修プログラムのさらなる発展に向けた取り組み		平成29年10月	第50回日本薬剤師会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2004年～現在	日本薬学会会員		
2006年～現在	日本医療薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学I	職名 嘱託助教	氏名 宮道二葉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年1月～ 29年3月	薬学部5年生実務実習において北里大学病院にて病棟実習を担当。病棟薬剤師の主な業務、多職種との関わりを現場で体験してもらった。なるべく患者とかかわる時間を多く持つよう工夫した
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Population pharmacokinetics and optimization of the dosing regimen of digoxin in adult patients.	共著	2015	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2015, 1:25
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
平成29年度はなし			
III 学会および社会における主な活動			
平成23年2月～	日本薬剤師会会員		
平成23年2月～	神奈川県薬剤師会会員		
平成23年2月～	横浜市薬剤師会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体分子解析学	職名 助教	氏名 宮本 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月～ 2014年5月～	文献購読ゼミにおいて、研究内容や研究に関連する論文を解説している。学生の理解が深まるように、研究背景など基礎的な内容から丁寧に説明している。学生による授業評価アンケートを実施し、この結果を参考にし、次年度の実習内容、実習書及び教育方法の見直しを行なっている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年1月～	薬学化学系実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年5月 2017年5月	チーム医療演習ファシリテーター チーム医療演習ファシリテーター
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Origin of D-amino acids detected in the acid hydrolysates of purified Escherichia coli β -galactosidase	共著	2015年12月	J. Pharm. Biomed. Anal., vol. 116, 105-108
(論文) Transition of serine residues to the D-form during the conversion of ovalbumin into heat stable S-ovalbumin	共著	2015年12月	J. Pharm. Biomed. Anal., vol. 116, 145-149
(論文) Detection of diastereomer peptides as the intermediates generating D-amino acids during acid hydrolysis of peptides	共著	2016年11月	Amino Acids, vol. 48, No. 11, 2683-2692
(論文) Two-dimensional HPLC-MS/MS determination of multiple D-amino acid residues in the proteins stored under various pH conditions	共著	2017年6月	Chromatography, vol. 38, 65-72
(論文) Identification and characterization of novel broad-spectrum amino acid racemases from Escherichia coli and Bacillus subtilis	共著	2017年9月	Amino Acids, vol. 49, No. 11, 1885-1894
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Identification and characterization of novel broad-spectrum amino acid racemases in bacteria		2017年7月	3rd International Conference of D-Amino Acid Research (IDAR2017)
(演題名) 細菌における非標準的D-アミノ酸合成酵素の同定及び機能解析		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)
(演題名) 細菌における非標準的D-アミノ酸合成に関する酵素の同定		2018年3月	日本薬学会 第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～	D-アミノ酸学会会員		
平成26年9月～	日本分子生物学会会員		
平成27年11月～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 臨床薬学教育部門	職名 助教	氏名 向井 潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。	
	2012年5月より	事前実習では、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。	
	2016年4月より	事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。	
	2017年3月	平成28年度病院薬局実習事前実習:4.38点(授業評価)	
	2016年3月	平成27年度病院薬局実習事前実習:4.41点(授業評価)	
	2015年3月	平成26年度病院薬局実習事前実習:4.51点(授業評価)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年8月	平成29年度病院薬局実習事前実習テキスト ⁽¹²⁾ ~ ⁽¹⁴⁾	
	2016年8月	平成28年度病院薬局実習事前実習テキスト ⁽¹²⁾ ~ ⁽¹⁴⁾	
	2015年8月	平成27年度病院薬局実習事前実習テキスト ⁽¹²⁾ ~ ⁽¹⁴⁾	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月	日本薬学会第135年会, 実務実習事前実習の実施による学生の意識の変化(第2報)	
	2014年3月	日本薬学会第134年会, 実務実習事前実習の実施による学生の意識の変化	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年5月	「オール北里チーム医療演習」ファシリテーター	
		薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。	
		事前実習小委員会委員, 多元的業績評価委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effects of resistant dextrin for weight loss in overweight adults: a systematic review with a meta-analysis of randomized controlled trials	共著	2017年5月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2017, 3:15
(論文) 糖尿病患者における代替療法の実態と特定保健用食品の使用要因の検討	共著	2017年2月	糖尿病, 60巻, 65-74
(論文) 脂質異常症を合併する2型糖尿病患者における水溶性および脂溶性ストロングスタチンの有効性と安全性に関するメタアナリシス	共著	2015年9月	医療薬学, 41巻, 656-666
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病患者における特定保健用食品の使用要因の検討		2017年7月	第25回クリニカルファーマシーシンポジウム
(演題名) 感染症に合併した播種性血管内凝固症候群に対する遺伝子組み換えトロンボモジュリン製剤の治療効果		2017年11月	第97回北海道医学大会救急医学分科会・第41回北海道救急医学会学術集会
(演題名) 医薬品副作用データベース(JADER)を用いたHMG-CoA還元酵素阻害薬と末梢神経障害の関連性調査		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年5月~	糖尿病学会会員		
平成25年3月~	日本薬学会会員		
平成25年4月~	医薬品情報学会会員		
平成17年4月~	医療薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 助教	氏名 毛利 順一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年度 平成28年度 平成27年度 平成26年度 平成25年度 平成24年度	講義に対する学生評価 (4.62点/5点) 講義に対する学生評価 (4.44点/5点) 実務実習指導に対する学生評価 (4.55点/5点) 講義に対する学生評価 (4.58点/5点) 実務実習指導に対する学生評価 (4.39点/5点) 講義に対する学生評価 (4.52点/5点) 実務実習指導に対する学生評価 (4.68点/5点) 講義に対する学生評価 (4.23点/5点) 実務実習指導に対する学生評価 (4.63点/5点) 実務実習指導に対する学生評価 (4.91点/5点)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年8月 平成27年4月 平成26年4月 平成25年4月 平成24年4月	平成29年度 事前実習実習書 (調剤と調剤薬監査) 平成27年度 事前実習実習書 (医薬品情報) 平成26年度 事前実習実習書 (医薬品情報) 平成25年度 事前実習実習書 (医薬品情報) 平成24年度 事前実習実習書 (医薬品情報)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成29年9月 平成27年4月23日 平成24年11月	第2回日本薬学教育学会大会における発表3題 北里大学病院における実習指導法に関する発表 (第9回福岡大学病院臨床薬学セミナーにて) 北里大学病院における実習指導法に関する論文投稿
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年4月～ 平成28年4月～	横浜薬科大学 非常勤講師 北里大学看護学部兼任教員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) ビルダグリブチンによる肝障害の危険因子 の解明に向けたパイロット研究	共著	2017年7月	くすりと糖尿病 (第6号-1)
(論文) 病院実務実習における実習施設への 常駐教員の必要性	共著	2012年11月	医療薬学 (第38巻第11号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 進行食道癌症例に対するDocetaxel/Cisplatin/ 5-fluorouracil併用療法時の腎機能障害遷延の要因解析		平成29年11月	日本医療薬学会
(演題名) 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ 実務実習へ向けての検討 その1-平成31年度改訂コア カリ実施に向けて-		平成29年9月	日本薬学教育学会
(演題名) 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ 実務実習へ向けての検討 その2-病棟実習における 代表的8疾患の実施状況-		平成29年9月	日本薬学教育学会
(演題名) 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ 実務実習へ向けての検討 その3-病院実務実習に おける他職種講義実施の意義-		平成29年9月	日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年6月～ 平成29年5月 平成27年4月～	神奈川県病院薬剤師会 薬学生病院実習検討委員会 委員・会計担当 第102回薬剤師国家試験問題検討委員会 (実務部会) 委員 薬剤師レジデント制度ワーキンググループ委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 分子薬理学	職名 助教	氏名 森 麻美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年～29年	薬理学系実習 (II) 基礎生物・局所麻酔薬・循環 学生が参加しやすい進め方をしよう努め、 終了後の解説はわかりやすいよう詳しく行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年7月 平成25年7月	薬理学系実習 (II) 実習書 (平成 24 年度) 薬理学系実習 (II) 実習書 (平成 25 年度) 他4件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Stimulation of β_1 - and β_2 - adrenoceptors dilates retinal blood vessels in rats.	共著	平成29年5月	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol. 390(5):527-533
(論文) Anti-diabetic drug metformin dilates retinal blood vessels through activation of AMP-activated protein kinase in rats.	共著	平成29年3月	Eur J Pharmacol. 798:66- 71
(論文) Involvement of prostaglandin I_2 in nitric oxide-induced vasodilation of retinal arterioles in rats.	共著	平成27年10月	Eur J Pharmacol. 764:249- 255.
(論文) 糖尿病における網膜循環障害に関与する因 子の同定	共著	平成27年6月	別冊 BIO Clinica 慢性炎 症と疾患 眼疾患と炎症 4 (3): 152-157
(論文) Impaired retinal vasodilator response to acetylcholine in a rat model of NMDA- induced retinal degeneration.	共著	平成27年2月	J Pharmacol Sci. 127(2):211-216
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ラット網膜において methylglyoxal はアドレナリン β_2 受容体を介する血管拡張機序を障害する		平成29年8月	次世代を担う創薬・医療薬 理シンポジウム 2017
(演題名) ラットにおいてアドレナリン β_2 受容体刺激は Gi タン パク質-BK _{Ca} チャネル経路の活性化を介して網膜血管を拡張させる		平成29年12月	第27回日本循環薬理学会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年～平成29年3月	日本薬理学会 学術評議員		
平成24年～平成29年3月	日本薬学会 会員		
平成27年3月～平成28年3月	第89回日本薬理学会年会 事務局		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生物分子設計学	職名 助教	氏名 森 義治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年 10月10日	生命物理化学実習における講義において 光の屈折の実演をし、実際の観察を通して 理解をしてもらえるように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Molecular dynamics of the structural changes of helical peptides induced by pressure	共著	平成26年8月	Proteins, Vol. 82, No. 11
Simulated tempering based on global balance or detailed balance conditions: Suwa-Todo, heat bath, and Metropolis algorithms	共著	平成27年10月	Journal of Computational Chemistry, Vol. 36, No. 31
Modeling 15N NMR chemical shift changes in protein backbone with pressure	共著	平成28年8月	Journal of Chemical Physics, Vol. 145, No. 8
Structural basis of TRPA1 inhibition by HC-030031 utilizing species-specific differences	共著	平成28年11月	Scientific Reports, Vol. 6
Conformational changes of ubiquitin under high pressure conditions: A pressure simulated tempering molecular dynamics study	共著	平成29年4月	Journal of Computational Chemistry, Vol. 38, No. 15
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
スレオニルtRNA合成酵素において高度に保存されたアミノ酸とその機能の物理化学的考察		平成29年9月	第11回分子科学討論会
スレオニルtRNA合成酵素における天然リガンドと類似化合物との相互作用解析		平成29年11月	第45回構造活性相関シンポジウム
分子動力学法と配列解析によるthrRSとスレオニンの結合親和性に関する研究		平成30年3月	日本薬学会 第138年会
III 学会および社会における主な活動			
～ 現在	日本生物物理学会 会員		
～ 現在	日本蛋白質科学会 会員		
～ 現在	日本分子生物学会 会員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 創薬物理化学	職名 講師	氏名 山乙 教之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 物理薬剤学実習評価 (授業評価等を含む) 製剤学授業評価			平成24～29年度 計6回 実習内容改善のため 平成24～29年度 計6回 授業内容改善のため
2 作成した教科書、教材、参考書 物理薬剤学実習書 製剤学講義プリント 他1件			平成24～29年度 計6冊 毎年改訂。薬局方に合わせて大改訂 平成24～29年度 毎年改訂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Identification of Novel d-Aspartate Oxidase Inhibitors by in Silico Screening and Their Functional and Structural Characterization in Vitro	共著	平成27年 9月	J. Med. Chem. (58・18)
(論文) Multi-step virtual screening to develop selective DYRK1A inhibitors	共著	平成29年 3月	J. Mol. Graph. Model. (72)
(論文) Precise prediction of activators for the human constitutive androstane receptor using structure-based three-dimensional quantitative structure-activity relationship methods	共著	同 年 6月	Drug Metab. Pharmacokinet. (32・3)
(論文) Long chain fatty acids alter the interactive binding of ligands to the two principal drug binding sites of human serum albumin	共著	同 年同月	PLOS ONE (12・6)
(論文) In silico analyses of the effects of a point mutation and a pharmacological chaperone on the thermal fluctuation of phenylalanine hydroxylase	共著	同 年 9月	Biophys. Chem. (228)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) SBDDのためのin silicoフラグメント・マッピング法の開発		平成29年11月	第45回構造活性相関シンポジウム
(演題名) タンパク質の結合部位間の類似性とリガンドのフラグメント間の類似性との相関研究		平成30年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年3月	日本薬学会第136年会主催		
	日本薬学会会員		
	情報計算化学生物学会(CBI学会)会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 情報薬学部門	職名 助教	氏名 山崎広之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
A Mini-review on Chemoinformatics Approaches for Drug Discovery	共著	2014/10/29	Journal of Computer Aided Chemistry 16, 15-29
Classification and Contribution Analysis of Aromatic Clusters in Protein-Ligand Complexes	共著	2016/1/1	YAKUGAKU ZASSHI 136/ 1, 97-99
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Fragment-Based Drug Designの候補フラグメントの組み合わせを選択するための代表化合物ライブラリの開発		2017/10/26	第40回ケモインフォマティクス討論会
fragment-based drug designのための候補フラグメントの組み合わせを選択する手法の開発		2016/9/30	第39回ケモインフォマティクス討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年5月～	情報化学部会役員		
平成28年10月～	ケモインフォマティクス若手の会部会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 臨床薬学教育部門	職名 助教	氏名 山田 路子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年9月より	事前実習において、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に実習内容や資料など教育方法等の見直しを行っている。双方向の実習を目指すために、演習問題を盛り込んだ実習資料を作成し、学生の理解を高めている。 発展学習のために、関連する医療事情を盛り込み、理解を深めさせるとともに、最新の情報も提供している。 実習ではルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2016年4月より	北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年9月より	薬学部FDセミナーに毎回出席し、実習改善に反映している。 事前実習小委員会委員 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップへの参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬品副作用データベース(JADER)を用いたHMG-CoA還元酵素阻害薬と末梢神経障害の関連性調査		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	日本医療薬学会 学会会員		
平成27年9月～現在	日本薬学会 学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 医薬品化学教室	職名 助教	氏名 山本大介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年9月	平成26年度 後期 薬学部優秀教育賞
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年1月	薬学化学系実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of sialic acid derivatives based on chiral substrate controlled stereoselective aldol reactions using	共著	2016年12月9日	Org. Biomol. Chem. 2017, 15, 640-648.
(論文) Manganese-promoted oxidative cyclisation of unsaturated oximes using molecular oxygen in air under ambient conditions	共著	2016年10月13日	Eur. J. Org. Chem. 2016, 5216-5219.
(論文) Manganese-catalysed hydroperoxidation of carbon-carbon double bonds using molecular oxygen present in air and hydroxylamine under ambient conditions	共著	2016年8月23日	Org. Chem. Front. 2016, 3, 1420-1424.
(論文) Thermodynamically Controlled Regioselective Glycosylation of Fully Unprotected Sugars through Bis(boronate) Intermediates	共著	2014年4月30日	Eur. J. Org. Chem. 2014, 3536-3539.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
マンガン錯体による空気中の酸素分子を酸素源としたオキシホスホリル化反応		平成30年・3月	日本薬学会 第135年会 (金沢)
触媒的脱炭酸型不斉アルドール反応の開発		平成29年・12月	第10回 北里化学シンポジウム
マンガン錯体による空気中の酸素分子を酸素源としたヒドロキシアミン類の付加を伴う過酸化化合物合成法の開発		平成29年・12月	第10回 北里化学シンポジウム
マンガン錯体による空気中の酸素分子を酸素源としたオキシホスホリル化反応の開発		平成29年・12月	第10回 北里化学シンポジウム
マンガン錯体による空気中の酸素分子の付加を伴う酸化的環化反応の開発		平成29年・12月	第10回 北里化学シンポジウム
マンガン錯体による空気中の酸素分子を酸素源とした3aヒドロキシピロロイン骨格構築法の開発		平成29年・12月	第10回 北里化学シンポジウム
空気中の酸素分子を酸素源としたマンガン錯体によるオキシホスホリル化反応		平成29年・11月	第43回反応と合成の進歩シンポジウム
Manganese-catalysed hydroperoxidation of carbon-carbon double bonds using molecular oxygen present in air and hydroxylamine under ambient conditions		平成29年・10月	2nd International Conference on PHARMACEUTICAL CHEMISTRY
マンガン錯体による空気中の酸素分子を酸素源としたヒドロキシアミン類の付加を伴う過酸化化合物合成法の開発		平成29年・9月	第61回 日本薬学会 関東支部大会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成30年3月	日本薬学会 学会会員		
平成24年4月～平成30年3月	有機合成化学協会 学会会員		
平成24年4月～平成27年3月	日本薬学会 ファルマシアトピックス小委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 社会薬学	職名 助教	氏名 山本 大介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年4月1日	「2年必修：社会薬学実習」、「4年必修：薬事関係法規」、「4年必修：医薬関連制度」及び「6年必修：薬学総合演習」の講義及び実習を行った。(平成29年度 授業評価：4.59)	
	平成28年4月1日	平成24年から平成28年まで上記と概ね同じ。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年4月1日	「2年必修：社会薬学実習」、「4年必修：薬事関係法規」、「4年必修：医薬関連制度」及び「6年必修：薬学総合演習」の講義及び実習に使用する教材を作成した。	
	平成28年4月1日	平成24年から平成28年まで上記と概ね同じ。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成29年4月1日	新潟薬科大学薬学部において、「4年必修：薬剤師と法律・制度Ⅰ」及び「6年必修：薬剤師と法律・制度Ⅱ」の講義を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ラオス血液事業の調査報告	共著	平成29年5月	公衆衛生 (Vol. 81 No. 5)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
精神科病院に入院した男性乳がん患者との関わり 精神症状コントロールへのアプローチを行った1症例		平成29年6月	日本緩和医療薬学会
一般社団法人所沢市薬剤師会における院外処方箋に対するアンケート調査報告 ～薬局薬剤師と病院薬剤師の回答を比較して～		平成30年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	公益社団法人 日本薬学会 一般会員		
平成24年4月～現在	一般社団法人 日本社会薬学会 一般会員		
平成27年4月～現在	一般社団法人 日本薬学教育学会 個人会員		
平成29年4月～現在	学校法人 新潟技術学園 新潟薬科大学 非常勤講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 創薬物理化学	助教	吉田 智喜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年 平成28年 平成29年	理論分子設計学、物理薬剤学実習 理論分子設計学、物理薬剤学実習 理論分子設計学、物理薬剤学実習
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Digraphs in Chemistry: All Possible Structures and Temperature-Dependent Distribution of Water Clusters	共著	2012年5月	Springer Netherlands
(論文) Isomers and Conformational Barriers of Gas-Phase Nicotine, Nornicotine, and Their Protonated Forms	共著	2014年7月	J. Phys. Chem. B, 118(29), 8273-8285.
(論文) Multi-step virtual screening to develop selective DYRK1A inhibitors	共著	2017年1月	J. Mol. Graph. Model., 72, 229-239.
(論文) In silico analyses of the effects of a point mutation and a pharmacological chaperone on the thermal fluctuation of phenylalanine hydroxylase	共著	2017年6月	Biophys. Chem., 228, 47-54.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) FMO法によるフラグメント結合エネルギーを用いたCDK2阻害剤の定量的構造活性相関		平成29年3月25日	日本薬学会第137年会
(演題名) FMO法によるフラグメント結合エネルギーを用いたCDK2阻害剤の3D-QSAR		平成29年11月26日	第40回ケモインフォマティクス討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年5月14日	第2回ケモインフォマティクス入門講座 企画・講師		
平成28年11月12日	第9回ケモインフォマティクス入門講座 企画・講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 保険薬局学	職名 教授	氏名 吉山友二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年度 【他 6件】	<p>薬学概論 (薬学科 1年) 社会に貢献する薬剤師について、薬局薬剤師の任務と義務について概説し、これからの薬剤師への期待についての解説を担当した。</p> <p>薬と仕事Ⅰ (薬学科 1年) 薬学生としてこれからの学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する現場などを体験するとともに社会性を身につけさせる。薬局・病院等で活躍する薬剤師の仕事を見聞するが、そのグループ討議のファシリテーターや見学前のガイダンス講義を分担した。</p>	
	平成25年度 【他 8件】	<p>薬と仕事Ⅱ (薬学科 2年) 生命に関わる職種に就くことを自覚するために、薬害や医薬品のリスクマネジメントなどの問題を通して、薬剤師の役割を考え、医療倫理の重要性を理解させる。薬害防止における薬剤師の役割について、薬害防止に向けた薬剤師の役割についての解説を担当した。また、薬害防止に向けた関係職種間の連携の必要性解説した。</p> <p>がん薬物治療学Ⅰ (大学院博士課程) がん患者のチーム医療を遂行するために、薬剤師として必要ながん薬物治療 (各種抗がん薬の薬理作用、副作用と対策、薬物体内動態、併用療法と相互作用、用法・用量、投与方法など) に関する最新の知識を身につけることについての解説を担当した。</p>	
	平成26年度 【他 6件】	<p>薬と仕事Ⅲ (薬学科 3年) 様々な医療関係者と連携し、薬剤師としての職能を十分に発揮できるようになるために、病院や薬局における薬剤師の役割について理解させる。薬局薬剤師が行っている主な業務についての解説を担当した。</p> <p>調剤学 (薬学科 3年) 薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者が被る危険を回避できるようになるために、医薬品の副作用、調剤上の危険因子とそ の対策などに関する基本的知識を修得させる。</p>	
	平成27年度 【他 6件】	<p>医薬品情報学Ⅰ (薬学科 4年) 医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を理解し、正しく取り扱うことができるようになるために、医薬品情報の発生・収集・加工・提供・評価・活用のため基本的知識と技能・態度を修得させる。</p>	

		<p>OTC治療学（薬学科 4年） 地域住民のセルフメディケーション、セルフケアにおける薬局薬剤師の役割を理解するために、一般用医薬品等に関する知識を修得させる。</p> <p>平成28年度 【他 6件】 病院・薬局実習事前実習（薬学科 4年） 卒業後に薬剤師として、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習や保険薬局実務実習に先立って、大学内で調剤や服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識・技能・態度を修得させる。</p> <p>医療薬学Ⅰ（薬学科 4年） 公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障するしくみを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識を修得させる。また、コミュニティーファーマシーのあり方と業務を理解するために、薬局の役割や業務内容、医薬分業の意義などに関する基本的知識を修得させる。</p> <p>平成29年度 【他 6件】 地域医療薬学Ⅰ（薬学科 3年） 適切な薬物治療および地域での保健・医療・福祉に貢献できるようになるために、保険調剤、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの基本的知識を修得させる。</p> <p>薬局管理学（薬学科 6年） 保険薬局の役割と業務をより深く理解し、薬局の中堅指導者や薬局開設者として必要とされる人材となるために基本的な知識を習得させる。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	<p>平24年～29年</p> <p>平成26年5月20日</p> <p>平成28年4月1日</p>	<p>事前実習で使用するテキストを作成 ・セルフメディケーション ・患者接遇と患者インタビュー服薬指導の基本</p> <p>薬剤師研修ハンドブック 基礎編</p> <p>スタンダード薬学シリーズⅡ 薬学総論 Ⅱ.</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	<p>平成24年7月14日</p> <p>平成27年10月21日</p> <p>【他 23件】</p>	<p>薬学生によるクリニカル・ミーティングの実践と拡充 医療薬学フォーラム2012</p> <p>Development of community pharmacy-based clinical research in Japan. ACCP's Global Conference on Clinical Pharmacy</p>	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	<p>平24年～29年</p> <p>平成29年11月2日</p>	<p>米国の臨床薬学研修の企画</p> <p>北里大学薬学部 優秀教育省を受賞</p>	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 時間薬理学による最新の治療戦略	共著	平成25年3月	医薬ジャーナル社
(著書) スタンダード薬学シリーズⅡ 薬学総論 Ⅱ	共著	平成28年4月	東京化学同人
(論文) Time-Dependent Interaction between Differentiated Embryo Chondrocyte-2 and CCAAT/Enhancer-Binding Protein α Underlies the Circadian Expression of CYP2D6 in Serum-Shocked Hen62 Cells	共著	平成24年5月	Molecular Pharmacology Vol.81, No.5

(論文) Evaluation of Geriatric Patients with Dry Mouth by Community Pharmacists and Use of Moisturizing Agents	共著	平成24年11月	Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences Vol.38, No.11
(論文) Inhibitory effects of ambroxol on influenza A virus infection in vitro	共著	平成26年9月	The Alternatives to Animal Testing and Experimentation Vol.19, No.1
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			学会名
外来患者に対する薬局薬剤師による継続的な吸入指導の内容とその評価		平成29年5月	日本プライマリケア連合学会学術大会
オピオイド注射薬の持続投与が必要な在宅療養患者の夜間・休日の薬物供給システムの検討 (第1報) ~アンケート調査		平成29年6月	日本在宅医学会大会
電子お薬手帳を用いた患者と医療者の双方向性ツールの検討		平成29年7月	医療薬学フォーラム
Polypharmacy in chick embryos		平成29年7月	中国毒理学会
Protective effects and safety of molecular hydrogen on H9c2 cardiomyocytes model		平成29年8月	国際動物実験代替法会議2017
Effect of essential oils contained linalool on skin sensitization using human Cell Line Activation Test		平成29年8月	国際動物実験代替法会議2017
吸入エアロゾル療法に関連した研究報告の推移と活用		平成29年9月	第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会
吸入エアロゾル療法を用いる外国人患者への対応		平成29年9月	第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会
薬学生海外研修プログラムのさらなる発展に向けた取り組み		平成29年10月	第50回日本薬剤師会学術大会
臨床薬理を志向した薬学生によるクリニカル・ミーティングの実践		平成29年10月	第50回日本薬剤師会学術大会
過酸化水素とアンチマイシンAを用いた虚血再灌流後の障害モデルに対する水素分子の効果		平成29年10月	日本再生歯科医学会大会
薬局で研究するために必要な研究計画書作成と倫理指針への対応		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みに関する提案		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総会
緑内障禁忌薬に対する薬剤師の対応~緑内障カードに関するアンケート調査~		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総会
緑内障禁忌薬に対する薬剤師の対応~緑内障カードの活用~		平成29年11月	第11回日本薬局学会学術総会
ポリファーマシー対策に向けた代替実験動物的検討		平成29年11月	日本動物実験代替法学会第30回大会
h-CLATを用いたリナロール含有精油の皮膚感作性試験		平成29年11月	日本動物実験代替法学会第30回大会
動物実験代替法を活用した心筋細胞障害モデルに対する水素分子の有効性と安全性の評価		平成29年11月	日本動物実験代替法学会第30回大会
臨床薬理学とプライマリ・ケアの架け橋		平成29年12月	第38回日本臨床薬理学会年会
病院・薬局と外国人患者のコミュニケーション		平成30年3月	日本薬学会第138年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成24年4月~平成29年3月	厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 臨時委員		
平成24年4月~平成30年3月	薬学教育協議会 関東地区調整機構 副委員長		
平成24年4月~平成31年3月	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 臨床薬学教育部門	職名 助教	氏名 若杉 昌輝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年4月～ 2016年4月～	学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。 事前実習では、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。 事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年4月～	病院・薬局実習事前実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月	実務実習事前実習の実施による学生の意識変化(第2報), 日本薬学会第135年会	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年4月～	事前実習小委員会委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Human acidic mammalian chitinase as a novel target for anti-asthma drug design using in silico screening	共著	2013年6月	Bioorganic & Medicinal Chemistry, Volume 21, Issue 11, Pages 3214-3220
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬品副作用データベース(JADER)を用いたHMG-CoA還元酵素阻害薬と末梢神経障害の関連性調査		2018年3月25日～28日	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～	日本薬学会会員		
平成26年4月～	医療薬学会会員		
平成26年4月～	模擬患者(SP)の養成(5大学合同SP養成講習会の主催等)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 渡辺 俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年度 2016年度 2015年度 2014年度 2013年度	薬理学実習、大学院講義、他3件 薬理学実習、大学院講義、他3件 薬理学実習、院生指導、他2件 薬理学実習、卒業研究指導、他1件 薬理学実習、文献購読ゼミ	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年6月	薬理学実習書の一部変更	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年度 2016年度 2015年度 2013年度	薬学部遺伝子組換え実験安全委員会 委員 薬学部動物実験委員会 委員他1件 薬学部動物実験委員会 委員 薬学部生物系共有機器利用委員会委員 薬学部生物系共有機器利用委員会委員 チーム医療教育、社会薬学実習	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Intraplantar injection of sialidase reduces mechanical allodynia during inflammatory pain	共著	2017年1月	J Pharmacol Sci. vol. 133 No. 1
Pain Signaling and Gangliosides	共著	2015年4月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology vol. 27 No. 154
Gangliosides and nociception.	共著	2015年4月	日本薬理学雑誌 vol. 145 No. 4
疼痛治療剤	共著	2014年2月	特許 5414366号 取得
Involvement of ganglioside GT1b in glutamate release from neuroblastoma cells.	共著	2012年4月	Neurosci Lett. vol. 517 No. 2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
疼痛シグナルへのスフィンゴ糖脂質の関与		2017年6月	第59回脂質生化学会
スフィンゴ糖脂質とその糖転移酵素, 分解酵素の疼痛への関与		2017年6月	第39回日本疼痛学会
III 学会および社会における主な活動			
2017年度～	日本薬理学会学術評議員		
2016年度～	International Association for the Study of Pain 会員		
2016年度～	Society for Neuroscience 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15)専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅳ	職名 助教	氏名 青木学一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年6月19日 平成29年11月7日	科目「薬物治療学Ⅰ」、「疾病解析学」において、パワーポイント等を用いて解答に至る過程を丁寧に解説し、学生の理解を高めている。発展学習のために、関連する医療事情を盛り込み、理解を深めさせるとともに、最新の情報も提供している。学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。
			「事前実習」において、項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。 また、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。
			病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書、北里大学メディカルセンター病院実習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDセミナーに出席し、授業改善に反映している。 OSCE実施小委員会委員、OSCEステーション副責任者など学内委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等 の名称
飛散したロイケリン [®] 散10%の環境曝露に配慮した清掃 処理法—調剤現場での実施例—	共著	2016年3月	日本病院薬剤師会雑誌(52巻3 号)
Comparison of the Effects of Single Dose of Elcatonin and Pregabalin on Oxaliplatin-Induced Cold and Mechanical Allodynia in Rats	共著	2014年3月	Biol. Pharm. Bull. Vol.37 No.2
Salmon calcitonin reduces oxaliplatin-induced cold and mechanical allodynia in rats	共著	2013年2月	Biol. Pharm. Bull. Vol.36 No.2
Effect of synthetic eel calcitonin, elcatonin, on cold and mechanical allodynia induced by oxaliplatin and paclitaxel in rats	共著	2012年12月	Eur. J. Pharmacol. Vol.696 No.1-3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
内服HDの簡易懸濁時における経管栄養シミュレータとリポフラビン製剤を用いた視覚的な環境曝露の実態調査と曝露対策の検討		2017年7月	医療薬学フォーラム2017(第25回 クリニカルファーマシーシンポジウ ム)
酸化マグネシウム錠との同時懸濁によるクロピドグレル硫酸塩錠の経管投与量への影響		2017年11月	第27回 日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成16年6月～	日本病院薬剤師会		
平成17年6月～	日本医療薬学会		
平成27年6月～	簡易懸濁法研究会		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 教授	氏名 厚田 幸一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2016. 11. 18	病気と薬物療法 精神疾患／神経・筋疾患	
	2017. 3. 25	病気と薬物療法 消化器疾患	
	2017. 3. 31	現場で役立つ 医学・薬学用語インデックス	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2016. 10. 10	糖尿病治療薬の変遷と薬剤師の役割残薬の現状と課題	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 治療薬ハンドブック2017	共著	平成29年1月	じほう社
(著書) 今日の治療指針	共著	平成29年1月	医学書院出版
(論文) Hepatic dipeptidyl peptidase-4 controls pharmacokinetics of vildagliptin in vivo.	共著	平成29年3月	Drug Metabolism and Disposition
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向 けての検討 その1～3ー平成31年度改訂コアカリ実施に向けてー		2017/9/3	第2回日本薬学教育学会大 会
進行食道癌症例に対するDocetaxel/Cisplatin/5-fluorouracil併用 療法時の腎機能障害遷延の要因解析		2017/11/4	第27回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2012	日本くすりと糖尿病学会 理事長		
2016	2016 JADEC Award for Excellent Diabetes Educator in Pharmacist		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 保険薬局学	職名 講師	氏名 有海秀人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平24年～29年	OTC治療学(薬学科、生命創薬科学科4年) 4コマ(90分/1コマ)を担当し、セルフ メディケーションにおける薬剤師等の役割や 各症例に基づく薬物療法の解説を担当した。	
	平24年～29年	臨床病理学(薬学科6年、生命創薬科学科4年) 3コマ(90分/1コマ)を担当し、循環器疾 患の理解を深め診断のみならず治療の見 方や予後の推測に役立てるための解説を 担当した。	
	平28年～29年	薬物治療学演習I(薬学科6年) 2コマ(90分/1コマ)を担当し、具 体的な症例をもとに患者に安全・最 適な薬物療法を提供するための演習講 義を担当した。	
	平24年～29年	病院・薬局実習事前実習(薬学科4年) 病院・薬局実習に先立って、調剤や服 薬指導などの薬剤師業務に必要な基 本的知識等を担当した。	
	平24年～29年	OTC治療学(薬学科1年)見学、グル ープ討議学習に対するモチベーショ ンを高めるために、薬局・病院等 で活躍する薬剤師の仕事を見聞す るが、そのグループ討議のファシリ テーターや見学前のガイダンス講義 を分担した	
2 作成した教科書、教材、参考書	平24年～29年	事前実習で使用するテキストを作成 ・セルフメディケーション ・患者接遇と患者インタビュー服薬 指導の基本	
	平25年	OTC治療学で活用する参考書を作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平27年～29年	認定実務実習指導薬剤師養成のため のワークショップでファシリテーター 多数	
	平29年10月9日	薬学教育実務実習の今後の在り方 に関するワークショップ50回 日本 薬剤師会学術大会 東京	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平29年7月	教員研修会にて、講義	
	平29年、27年	海外の臨床薬学研修の引率 など	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
ここが知りたかったOTC医薬品の選び方と勧め方	共著	平成25年10月	南江堂
(論文) Hydrogen gas protects H9c2 cardiomyocytes from H2O2-induced oxidative injury.	共著	平成26年12月	Alternatives to Animal Testing and Experimentation 19(2), 51- 54, 2014
(論文) Inhibitory effects of ambroxol on influenza A virus infection in vitro.	共著	平成26年9月	Alternatives to Animal Testing and Experimentation. 19(1), 7- 12, 2014
(論文) History and Social Duties in Future of the AATEX: alternatives to animal testing and Experimentation.	共著	平成25年9月	Alternatives to Animal Testing and Experimentation. 18(1), 53-57, 2013
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

外来患者に対する薬局薬剤師による継続的な吸入指導の内容とその評価	平成29年5月	日本プライマリケア連合学会学術大会
電子お薬手帳を用いた患者と医療者の双方向性ツールの検討	平成29年7月	医療薬学フォーラム
Polypharmacy in chick embryos	平成29年7月	中国毒理学会
Protective effects and safety of molecular hydrogen on H9c2 cardiomyocytes model	平成29年8月	国際動物実験代替法会議2017
Effect of essential oils contained linalool on skin sensitization using human Cell Line Activation Test	平成29年8月	国際動物実験代替法会議2017
オピオイド注射薬の持続投与が必要な在宅療養患者の夜間・休日の薬物供給システムの検討（第1報）～アンケート調査	平成29年6月	日本在宅医学会大会
過酸化水素とアンチマイシンAを用いた虚血再灌流後の障害モデルに対する水素分子の効果	平成29年10月	日本再生歯科医学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成27年1月～平成29年12月	日本動物実験代替法学会理事、兼総務委員長	
平成27年8月	東京都薬剤師会実務実習委員	
平成27年10月	日本動物実験代替法学会第28回大会 組織委員	
平成28年11月	日本動物実験代替法学会第29回大会 組織委員	
平成29年11月	日本動物実験代替法学会第30回大会 組織委員	
平成29年1月～30年12月（予定）	日本動物実験代替法学会理事、兼総務委員長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学教育研究センター 医療心理学部門	職名 准教授	氏名 有田 悦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度	4年生講義「医療心理学」における参加型授業推進のための「患者の語りデータベース」導入 他2件 4年生事前実習⑩における模擬患者参加型プログラムの充実 他2件 3年生「医療倫理学」における参加型授業推進のための視聴覚教材の導入 他3件 4年生事前実習②における実習内容と講義科目との連携 他2件 4年生講義「医療心理学」における参加型授業推進のためのグループワーク実施 他2件 2年生講義「医療コミュニケーション」における参加型授業推進のためのグループワーク実施 他3件	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度	4年生事前実習②のロールプレシナリオ作成 他2件 6年生演習講義における解説資料作成 他3件 模擬患者養成講習会における解説資料作成 他3件 4年生事前実習②におけるルーブリック評価表作成 他2件 3年生「医療倫理学」におけるモラルジレンマ事例の作成 他3件 4年生「医療心理学」におけるグループワーク課題の作成 他3件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度	模擬患者参加型教育に関する発表 他3件 薬学コミュニケーション教育に関する講演 他1件 模擬服薬指導のコミュニケーション分析に関する発表 他5件 コミュニケーションスキルアップ教育に関する発表 他7件 医療人としての倫理教育に関する講演 他5件 ヒューマニティ教育を基盤とした倫理教育に関する発表 他3件	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度	OSCEのための標準模擬患者養成講習会ファシリテーター 薬剤師のための模擬患者参加型研修会主催 OSCEのための標準模擬患者養成講習会ファシリテーター 薬学教育者のためのルーブリック評価研修会主催 医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ主催 薬学教育に関する研究倫理ワークショップ主催	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション	共著	平成26年4月	南山堂
(著書) スタンダード薬学シリーズⅡ 薬学総論Ⅰ 薬剤師としての基本事項	共著	平成27年12月	東京化学同人
(論文) 胃瘻造設の意思決定に関する高齢者介護施設職員の実際調査	共著	平成29年2月	臨床倫理学会誌(第5号)
(論文) 患者の経験からみる臨床試験への参加判断とインフォームドコンセントの意義	共著	平成29年4月	臨床薬理学会誌(第48巻第2号)
(論文) Factors associated with medication amounts considered excessive among university students: a questionnaire survey of pharmacy students	共著	平成29年7月	BMC Health Service Research 17:475 PMC5505140
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医療系中規模大学キャンパスにおける学生相談室と保健室との連携		平成29年5月	日本学生相談学会第35回大会
(演題名) 薬学教育モデル・コアカリキュラム改定に伴う新規OSCE課題のトライアル		平成29年9月	日本薬学教育学会第2回大会

(演題名) 認知症患者への対応方法について—薬学生の考える認知症のイメージより—	平成29年9月	日本薬学教育学会第2回大会
(演題名) 薬学教育研究実施にあたって必要とされる研究倫理教育—薬学教育に関する研究倫理ワークショップより見えてきた課題—	平成29年9月	日本薬学教育学会第2回大会
(演題名) コミュニケーション教育に特化したルーブリック～統一性のある指導を目指した評価の観点と基準の設定～	平成29年9月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第11回大会
(演題名) センシティブな内容に対する薬剤師のコミュニケーション傾向	平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) 小児気管支喘息治療に関する保護者の意識調査	平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) 糖尿病患者の心理に配慮した対応の必要性- HbA1c値の変動幅がQOLに及ぼす影響-	平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) 『臨床試験・治験の語り』を“教育”にどう活かすか？	平成29年12月	第38回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 薬学共用試験OSCEの結果解析—2017—	平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 北里大学におけるヒューマニズム教育～学生の気づきと薬剤師として求められる資質の関係～	平成30年3月	日本薬学会第138年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成28年4月～	日本薬学会 薬学教育委員会 健康サポート薬局第三者確認委員会委員	
平成28年8月～	薬学共用試験センター OSCE実施委員会委員	
平成29年4月～	薬剤師国家試験委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬品製造化学	職名 助教	氏名 有馬志保
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月1日～平成29年11月30日現在	授業評価の実施
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月1日～平成29年11月30日現在	基礎有機化学講義補助資料の作成(A4版 50ページ)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Development of a new air-stable structure-simplified nafuredin- γ analog as a potent and selective nematode complex I inhibitor	共著	平成29年3月	J Antibiot
(論文) Synthesis and Structural Revision of Cyslabdan	共著	平成28年9月	Chem Pharm Bull
(論文) Total synthesis of (+)-Clavulatriene A	共著	平成27年3月	Synthesis
(論文) Design, synthesis, and biological evaluation of air-stable nafuredin- γ analogs as complex I inhibitors	共著	平成27年1月	Bioorg. Med. Chem.
(論文) Synthesis and biological activity of 5-(4-methoxyphenyl)-oxazole derivatives	共著	平成26年11月	Bioorg. Med. Chem. Lett.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Nafuredin- γ の構造湯せ理想管研究		平成29年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) AtpeninA5の構造活性相関研究		平成29年12月	第10回北里化学シンポジウム
(演題名) 酸化マグネシウム錠との同時懸濁によるクロピドグレル硫酸塩錠の経管投与量への影響		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成29年11月現在	日本薬学会会員		
平成28年3月	日本薬学会第136年会 組織委員		
平成27年9月	第9回北里化学シンポジウム シンポジウム主催		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅳ	職名 助教	氏名 安藤 航
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017/4/1より現在まで	事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。事前実習では、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。 (他4件)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017/4/1	北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017/4/1より現在まで	薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。 OSCE実施小委員会委員・情報システム委員会など学内委員 北里大学メディカルセンターDMAT部会委員における学内チーム医療演習担当	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Hepatic progenitor cell expansion in early-stage nonalcoholic steatohepatitis: evidence from immunohistochemistry and immunoelectron microscopy of matrix metalloproteinase-1.	共著	平成29年12月	Med Mol Morphol. 2017 Dec;50(4):238-242
Serum Matrix Metalloproteinase-1 Level Represents Disease Activity as Opposed to Fibrosis in Patients with Histologically Proven Nonalcoholic Steatohepatitis	共著	平成29年11月	Clinical and Molecular Hepatology [Epub ahead of print]
The Apelin Receptor APJ in Hematopoietic Stem Cells/Progenitor Cells in the Early Stage of Non-Alcoholic Steatohepatitis.	共著	平成29年9月	J Clin Med Res.2017; 9(9):809-811
Serum apelin-36 level is useful for early detection of liver fibrosis in nonalcoholic steatohepatitis patients	共著	平成29年8月	Kitasato Medical Journal, 2017; 47(2):129-140
Reduced telaprevir dosing in combination therapy for patients with chronic hepatitis C	共著	平成29年3月	Kitasato Medical Journal, 2017; 47(1):1-9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Autotaxin and vascular endothelial growth factor receptor-2 regulate vascular development in chronic viral hepatitis C progression		平成29年10月	American Association of the Study of liver disease annual meeting. 2017
肝線維化進展・改善の評価における肝線維化マーカーの有用性に関する検討		平成29年8月	医療薬学フォーラム2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成21年12月～現在	日本薬学会会員		
平成25年9月～現在	日本災害医療薬剤師会会員		
平成27年5月～現在	日本肝臓学会会員		
平成27年7月～現在	日本臨床分子形態学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生化学	職名 講師	氏名 飯田直幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 マルチメディアを用いた授業 授業改善用のアンケート実施		平成24年-29年 平成24年-29年	配布資料をパワーポイントで可視化するだけでなく、動画などを用いて学生の理解が深まるようにしている。 講義内容に対する学生の意見を得るために実施している（毎年1科目のみ）
2 作成した教科書、教材、参考書 全ての授業において資料を作成		平成24年-29年	資料を予め学生へ配布することで、授業を効率良く進める工夫をしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 FDセミナーに参加		平成24年-29年	毎年、大学独自で行うFDセミナーに参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
がん細胞の代謝：ピルビン酸キナーゼはHIF-1の転写共役因子として働く	共著	平成24年	ファルマシア (vol. 48 No. 5 p437)
プロテオミクス辞典	共著	平成25年	講談社、分担執筆
Proteomic identification of p38 MAP kinase substrates using in vitro phosphorylation. Electrophoresis.	共著	平成26年	Electrophoresis. vol. 35, p 554 - 562
Implication of histone H10-derived 17-kDa DNase in tamoxifen-induced apoptosis in aflatoxin B1-elicited rat hepatocellular carcinoma cells. JSM Mycotoxins.	共著	平成26年	JSM Mycotoxins. Vol. 64, p 117 - 139
Aralin, a type II ribosome-inactivating protein from Aralia elata, exhibits selective anticancer activity through the processed form of a 110-kDa high-density lipoprotein-binding protein: A promising anticancer drug	共著	平成26年	Biochem Biophys Res Commun. vol. 453, p 117-123
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アクチン結合タンパク質adducinのERKリン酸化は、F-actinとの結合を調節する		平成29年12月	第40回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成29年11月	日本プロテオーム学会 会員		
平成24年4月～平成29年11月	日本分子生物学会 会員		
平成28年1月～平成28年8月	日本プロテオーム学会2016年大会 事務局員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅲ	職名 助教	氏名 井口 智恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月～ 2018年3月	事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に実習内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。 病院実務実習においては、病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月 2017年7月	病院・薬局事前実習(前期)実習書 病院・薬局事前実習(後期)実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年7月 2017年4月～ 2018年3月	薬学部FDセミナーに参加 事前実習小委員会委員、OSCE実施小委員会作業部会委員・OSCEステーション副責任者など学内委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 高齢者の静脈栄養法-プラスαの輸液力を磨く! 微量元素・ビタミン	共著	2015年8月	月刊薬事(第57巻第9号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 芍薬甘草湯長期連用患者に関する実態調査		2017年11月	第27回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2009年～現在	日本薬学会		
2010年～現在	日本医療薬学会		
2015年～現在	日本静脈経腸栄養学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬用植物園	職名 助教	氏名 石川寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 薬用植物学 薬用植物園観察実習 生物学実験 薬理・薬物学特論 生薬学実習	毎年4月～7月 毎年5、6月 毎年4月～7月 毎年7月 毎年11月	1年生の講義（生薬の性状に関する2回分を担当） 1年生を対象とした薬用植物園における植物の解説 1年生を対象とした生化学実験の指導 M1を対象とした生薬の遺伝子情報に関する講義 2年生を対象とした生薬学実習の指導	
2 作成した教科書、教材、参考書 薬用植物観察ノート	平成29年3月	薬用植物園観察実習のレポート作成用の教材	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 卒業特別実習	毎年、通年	5、6年生の卒業研究の指導	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）薬草ガイドブック野外編	共著	平成26年3月	日本植物園協会
（著書）			
（論文）大学と市の連携による農地を活用した薬用植物栽培の試み	単著	平成25年5月	都市計画協会 新都市（第67巻第5号）
（論文）			
（論文）			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）白朮の基原植物オケラの核DNAによるタイプ分け		2018年3月	日本薬学会 138年会
（演題名）			
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成29年12月	薬用植物栽培加工体験講座 講師		
平成28年6月	生薬学会関東支部観察会講師（霞ヶ浦）		
平成29年10月	生薬学会関東支部観察会講師（神武寺）		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 北里大学	講座名 生命薬化学	職名 准教授	氏名 伊藤 謙之介		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
		実施時期	教育内容	工夫 授業評価	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月-5月	有機分析実習	実演指導 実施済	
		2017年9月-12月	有機化学 I	教材作成・個別指導 実施済	
		他 13 件			
		2016年4月-5月	有機分析実習	実演指導	実施済
		2016年9月-12月	有機化学 I	教材作成・個別指導	実施済
		他 12 件			
		2015年4月-5月	有機分析実習	実演指導	実施済
		2015年9月-12月	有機化学 I	教材作成・個別指導	実施済
		他 13 件			
		2014年4月-5月	有機分析実習	実演指導	実施済
		2014年9月-12月	有機化学 I	教材作成・個別指導	実施済
		他 12 件			
		2 作成した教科書、教材、参考書		実施時期	教育内容
2017年9月-12月	有機化学 I			講義資料	
2017年9月-11月	薬学総合演習講義			講義資料	
他 2 件					
2016年9月-12月	有機化学 I			講義資料	
2016年9月-11月	薬学総合演習講義			講義資料	
他 2 件					
2015年9月-12月	有機化学 I			講義資料	
2015年9月-11月	薬学総合演習講義			講義資料	
他 2 件					
2014年9月-12月	有機化学 I			講義資料	
2014年9月-11月	薬学総合演習講義			講義資料	
他 2 件					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし			
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
reactivity of 7-Azanorbornenes in Bioorthogonal Inverse Electron-Demand Diels- Alder Reactions		共著	2017年7月11日	Eur. J. Org. Chem. 2017, 3018- 3829.	
Synthesis and Evaluation of Novel Opioid Ligands with a C-Homomorphinan Skeleton		共著	2016年3月25日	Bioorg. Med. Chem. 2016, 24, 2199-2205.	
Photochemically-Induced C-C Bond Formation between Tertiary Amines and Nitrones		共著	2015年7月14日	Org. Biomol. Chem., 2015, 13, 8919-8924.	
Chiral Lewis Acid-Catalyzed Enantioselective Cycloadditions between Indoles and Cyclic Carbonyl Ylides Derived from Diazodiketone or Diazoketoester Derivatives		共著	2015年6月24日	J. Org. Chem., 2015, 80, 6687-6696.	
Chiral Lewis Acid Catalyzed Asymmetric Cycloadditions of Carbonyl Ylides Generated from Diazoimide Derivatives and Their Synthetic Applications to Indolizidine Alkaloids		共著	2013年10月7日	J. Org. Chem. 2013, 78, 10840-10852.	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
キラルクマリン-3-カルボキサミドの位置およびジアステレオ選択的光二 量化反応			2018年3月	日本化学会第98春季年会	
可視光応答型レドックス触媒による炭素ラジカル種の共役付加-環化反応			2018年3月	日本薬学会第138年会	
光増感触媒によるニトロンとジアミノメタンの形式的[3+3]付加環化反応			2018年3月	日本薬学会第138年会	
α -プロモケトンを用いる三置換オキサゾールの合成法および反応機構の 考察			2018年3月	日本薬学会第138年会	
可視光応答型レドックス触媒による炭素ラジカル種の共役付加-環化反応			2017年12月16日	第10回北里化学シンポジウム	
光増感触媒によるニトロンとジアミノメタンの形式的[3+3]付加環化反応			2017年12月16日	第10回北里化学シンポジウム	
α -プロモケトンを用いる三置換オキサゾールの合成法および反応機構の 考察			2017年12月16日	第10回北里化学シンポジウム	
モルヒネ非感受性 μ オピオイド受容体スプライスバリエーション選択的作動 薬を志向した モルヒナン誘導体の合成			2017年12月16日	第10回北里化学シンポジウム	

モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体スプライスバリエント選択的作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成	2017年10月27日	第47回複素環化学討論会
ニトロンとジアミノメタンの光誘起形式的[3+3]付加環化反応	2017年10月26日	第47回複素環化学討論会
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体スプライスバリエント選択的作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成	2017年9月16日	第61回日本薬学会関東支部大会
モルヒネ非感受性オピオイド μ 受容体スプライスバリエント選択的作動薬を志向したモルヒナン誘導体の合成	2017年3月27日	日本薬学会第137年会
光化学的に誘起されるニトロンとジアミンの形式的[3+3]付加環化反応	2017年3月27日	日本薬学会第137年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2016年	Tetrahedron Letters 査読委員 (1 件)、Heterocycles 査読委員 (1 件)	
2015年	Heterocycles 査読委員 (1 件)	
2014年	Chemistry Letters 査読委員 (1 件)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅲ	職名 助教	氏名 伊藤 千裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月1日 ～2018年3月31日	5年次の病院実務実習においては、病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して実習を行っている。また、学生による実習評価アンケートを実施し、その結果を参考に実習の講義内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。4年次の事前実習においては、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。実務実習同様に実習評価を実施し、実習内容、配布資料の見直しを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月1日	北里大学北里研究所病院実務実習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年4月1日 ～2018年3月31日	薬学部FDセミナーに毎回出席し、実習改善に反映している。OSCE実施小委員会委員、OSCEステーション副責任者など学内委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 全身麻酔導入時の血圧変動におけるレニン・アンジオテンシン系作用薬剤の影響に関するレトロスペクティブ調査	共著	2013年12月	日本病院薬剤師会雑誌(49巻12号 1299-1303頁)
(論文) 周術期の患者心理による自己調節鎮痛法の有用性評価	共著	2016年8月	日本病院薬剤師会雑誌(52巻8号 1034-1038頁)
(論文) 腹腔鏡下子宮筋腫核出術後の静脈内自己調節鎮痛法または硬膜外自己調節鎮痛法が術後悪心・嘔吐および術後疼痛に及ぼす影響	共著	2017年9月	医療薬学(43巻9号 516-524頁)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 人間ドックにおける非アルコール性脂肪肝疾患のリスク要因解析		2017年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～現在	日本薬学会 学会会員		
2010年4月～現在	日本医療薬学会 学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬剤学	職名 教授	氏名 伊藤智夫
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年前期 平成24年後期 平成25年前期 平成25年後期 平成26年前期 平成26年後期 平成27年前期 平成27年後期 平成28年前期 平成28年後期 平成29年前期	平成24年度授業評価：4.13/5.00 平成24年度実習評価：4.39/5.00 平成25年度授業評価：3.84/5.00 平成25年度実習評価：4.20/5.00 平成26年度授業評価：4.11/5.00 平成26年度実習評価：4.49/5.00 平成27年度授業評価：4.02/5.00 平成27年度実習評価：4.41/5.00 平成28年度授業評価：3.75/5.00 平成28年度実習評価：4.27/5.00 平成29年度授業評価：3.88/5.00
2	作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月10日 平成24年9月12日 平成27年4月1日 平成28年3月31日 平成28年12月1日 平成29年3月30日	パートナー薬剤学改訂第2版(南江堂) スタンダード薬学シリーズ：製剤化のサイエンス第2版(東京化学同人) スタンダード薬学シリーズ：薬学総論I(東京化学同人) コンパス生物薬剤学 改訂第2版(南江堂) スタンダード薬学シリーズ：医療薬学IV(東京化学同人) パートナー薬剤学改訂第3版(南江堂)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年7月27日 平成25年7月27日 平成26年3月30日 平成26年7月19日 平成27年3月30日 平成27年7月24日 平成28年3月27日 平成28年7月30日 平成28年8月30日 平成29年7月24日 平成29年9月3日	平成23年度薬学共用試験CBT報告(第44回日本医学教育学会) 平成24年度薬学共用試験CBT報告(第45回日本医学教育学会) 薬学共用試験—OSCE/CBTの現状と課題(日本薬学会第134年会) 平成25年度薬学共用試験CBT報告(第46回日本医学教育学会) 薬学共用試験CBTの結果解析(日本薬学会第135年会) 2014年度薬学共用試験CBT報告(第47回日本医学教育学会) 薬学共用試験CBTの結果解析—2015—(日本薬学会第136年会) 2015年度薬学共用試験CBT報告(第47回日本医学教育学会) 薬学共用試験CBT—2015年度報告(第1回日本薬学教育学会) 2016年度薬学共用試験報告(第48回日本医学教育学会) 薬学共用試験CBT—2016年度結果について(第2回日本薬学教育学会)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年3月 平成24年7月 平成28年10月	日本薬学会教育委員(～平成28年2月) 薬学共用試験センター理事(～現在) 大学基準協会理事(～現在)

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Effect of epigallocatechin gallate on drug transport mediated by the proton-coupled folate transporter.	共著	平成26年10月	Drug Metab. Pharmacokinet. 29 (5) :367-372.
Stereoselective recognition of amethopterin enantiomers by the rat proton-coupled folate transporter.	共著	平成27年4月	Biol. Pharm. Bull. 38 (4) :545-51.
MicroRNA-877-5p is involved in the trovafloxacin-induced liver injury.	共著	平成28年11月	Toxicol. Lett. 263:34-43.
Hepatic Dipeptidyl Peptidase-4 Controls Pharmacokinetics of Vildagliptin In Vivo.	共著	平成29年2月	Drug Metab. Dispos. 45 (2) :237-245.
Prediction of drug-induced liver injury using keratinocytes.	共著	平成29年7月	J. Appl. Toxicol. 37 (7) :863-872.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ケラチノサイトを用いた個人レベルでのアザチオプリン誘導性肝障害の予測性向上を目指した検討		平成29年7月	第44回日本毒性学会
PCFTを介した葉酸輸送に対する種々ハーブティーの影響		平成30年3月	日本薬学会第138年会
フラボノイド類によるPCFTを介した葉酸吸収阻害とその種差		平成30年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年6月～現在	日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム類型別審査・評価部会委員		
平成26年6月	第3回 アジア薬科大学協会（AASP）薬学部長フォーラム 組織委員長		
平成28年3月	日本薬学会第136年会 組織委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物学	職名 助教	氏名 伊藤 雅洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年～現在	自身で教材を作成し、学習意欲が湧くように身近なニュース、話題などを取り上げながら、実習・演習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称
(論文) Transposon mutagenesis of probiotic Lactobacillus casei identifies asnH, an asparagine synthetase gene involved in its immune-activating capacity.	共著	平成26年1月8日	PLoS One e83876
(論文) Functional characterization of the type III secretion ATPase SsaN encoded by Salmonella pathogenicity island 2.	共著	平成26年4月10日	PLoS One e94347
(論文) Establishment of a sensitive system for analysis of human vaginal microbiota on the basis of rRNA-targeted reverse transcription-quantitative PCR.	共著	平成27年4月1日	Journal of Microbiological Methods vol.111 No.93
(論文) 乳酸桿菌における実用的なランダム変異導入法の確立とその利用	単著	平成29年3月1日	JATAFFジャーナル
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成28年2月	Bioscience of Microbiota, Food and Health 論文審査員		
平成28年7月	第17回日本乳酸菌学会・実行委員会委員		
平成28年10月	第99回日本細菌学会関東支部総会・実行委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅲ	職名 講師	氏名 井上 岳
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。 6年次薬学総合演習では、過去の国家試験問題や医師や看護師の国家試験問題を参考にして作成した資料を基に、講義においてパワーポイントを用いて解答に至る過程を丁寧に解説し、学生の理解を高めている。 事前実習において、実習項目ごとにループリックを作成し、評価の観点を可視化している。 病院薬剤部業務を兼務しており、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書 北里研究所病院実務実習テキスト 講義毎の配布資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。 FD委員会委員、カリキュラム小委員会委員、実務実習小委員会委員、事前実習小委員会委員、OSCE実施小委員会委員・OSCEステーション責任者など学内委員 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップへの参加
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 薬剤師のための糖尿病療養指導ガイド	共著	2012年5月	株式会社 じほう
(著書) 糖尿病薬物療法認定薬剤師ガイドブック	共著	2017年11月	株式会社 じほう
(論文) Insulin degludec requires lower bolus insulin doses than does insulin glargine in Japanese diabetic patients with insulin-dependent state.	共著	2015年4月	J Diabetes Sci Technol. Vol.9 No.3
(論文) Pilot Study of Japanese Model of Asheville Project~How Did It Work?	共著	2016年3月	Yakugaku Zasshi. Vol.136 No.2
(総説) 糖尿病性腎症の治療マネジメント	共著	2015年3月	薬事(第57巻第3号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病合併症の進展防止における薬学的介入の実例と可能性		2016年3月	日本薬学会136年会
(演題名) 医療スタッフが糖尿病領域の臨床研究を行うために必要な医療統計を学ぶ参加型セミナーについて		2017年5月	第61回日本糖尿病学会年次学術集会
(演題名) 2型糖尿病外来患者におけるCGMを用いたトホグリフロジン(デベルザ)とカナグリフロジン(カナグル)との効果比較研究		2017年5月	第61回日本糖尿病学会年次学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2011年5月~2015年5月	日本糖尿病学会 学術評議員		
2012年1月~	日本くすりと糖尿病学会 事務局長		
2016年1月~	日本くすりと糖尿病学会 ガイドブック編集委員会 委員		
2016年6月~	日本糖尿病療養指導士認定機構 理事		
2017年5月~	東京都病院薬剤師会 糖尿病領域薬剤師養成特別委員会 委員長		
2017年8月~	東京都病院薬剤師会 専門薬剤師養成部 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学 薬学部	講座名 衛生化学講座	職名 教授	氏名 今井 浩孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業評価（衛生化学1・2）及び改善 新コアカリキュラム対応の実習を新導入	2012年~2016年 2016年11月	2012年から2016年までの授業評価4.0以上 農薬の適正使用とリスクコミュニケーション討議	
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学 教科書編集及執筆 衛生薬学 教科書執筆	2016年5月10日	衛生薬学-基礎・予防・臨床（南江堂）	
	2016年3月20日	コンパス衛生薬学（改定第2版）（南江堂）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第31回Wakoワークショップ 講演 第14回日本抗加齢医学会 教育講演	2015年11月4日	脂質酸化依存的新規細胞死（フェロトース）と疾患	
	2014年6月8日	ビタミンEは体に良いのか？酸化脂質と疾患の関連	
4 その他教育活動上特記すべき事項 北里大学薬学部生涯学習セミナー 港区中学校理科実験補助及び出前授業	2017年7月29日	特定保険用食品、機能性表示食品ってどうして体に良いの？	
	2015年1月20, 26日	ビタミンEと酵素って体にとってどれほど必要なの？	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Hydrogen peroxide produced by superoxide dismutase SOD-2 is required for spe	単著	2017年9月	J. Biol. Chem 292(36)14804-
Lipid peroxidation-dependent cell death regulated by GPx4 and Ferro	単著	2017年2月	Curr.Top Microbiol Immunol 403:143-
Role of glutathione peroxidase 4 for oxidative homeostasis and wound repair in corneal epith	共著	2016年10月	FEBS Open Bio 6(12) 1238-
GPx4により制御される脂質酸化依存的細胞死とフェロト	単著	2016年4月	実験医学Vol134, No. 72 37-46
Nrf2 up-regulates the induction of acidic sphingomyelinase by electrophiles	単著	2015年3月	J. Biochem. 158(2)127-
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
GPx4とビタミンEにより制御される新規細胞死と疾患に関する研究（学術賞		2017年・9月	衛生薬学・環境トキシコロジー フォーラム2017
酸化脂質還元酵素PHGPxノックアウトマウスを用いたビタミンE研究(特別講		2017年・6月	日本ビタミン学会第69回大会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月~平成30年3月	4大学連携学際コンソーシアム社会協働部会長/第12回市民講演会主催(2017年10月21日)		
平成28年11月~平成29年3月	日本学術振興会 科研費審査委員		
平成26年4月~平成30年3月	薬剤師国家試験出題委員		
平成24年4月~平成30年3月	ビタミンE研究会幹事 第26回日本ビタミンE研究会主催(2015年1月9~10日)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬理	職名 講師	氏名 岩井孝志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬理学実習他3件 薬理学Ⅱ		平成25年度～現在 平成27年度～現在	薬理学実習において抗うつ薬、鎮痛薬、抗痙攣薬のスクリーニング法について指導を行った。 消化器、免疫系、生殖器、泌尿器、呼吸器、眼に作用する薬物について講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬理学実習書 薬理学Ⅱ 講義プリント		平成25年～平成29年 平成28年～平成29年	薬理学実習書内の強制水泳の実験方法や考察ポイントについて記載したものを作成。 教科書に記載のない新薬や作用機序の図を含めた視覚的な教材を作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 指導薬剤師養成ワークショップへの参加		平成26年7月19, 20日	大学の教育現場における情報を現場の薬剤師の先生方に伝え、WSの議論を深めることを目的に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Exendin (5-39), an antagonist of GLP-1 receptor, modulates synaptic transmission via glutamate uptake in the dentate gyrus.	共著	2013年4月	Brain Res, vol.1505
Glucagon-like peptide-2 but not imipramine exhibits antidepressant-like effects in ACTH-treated mice.	共著	2013年4月	Behav Brain Res, vol. 243
Characterization of the hypotensive effects of glucagon-like peptide-2 in anesthetized rats.	共著	2013年8月	Neurosci Lett, vol.550
Glucagon-like peptide-1 protects synaptic and learning functions from neuroinflammation in rodents.	共著	2014年4月	J Neurosci Res, vol. 92, 4号
Glucagon-like peptide-2-induced memory improvement and anxiolytic effects in mice.	共著	2015年2月	Neuropeptides, vol. 49
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
幼若期発症1型糖尿病に伴う認知情動障害とその治療戦略		2017年9月15日	第19回応用薬理シンポジウム
Glucagon-like peptide-2は海馬神経細胞のERK1/2活性化を介してLPS誘発学習機能障害を改善する		2017年9月15日	第19回応用薬理シンポジウム
δオピオイド受容体作動薬KNT-127は島皮質の神経活動を抑制する		2017年9月29日	第39回日本生物学的精神医学会・第74回日本神経精神薬理学会合同年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	論文審査30件：Bulletins of the Pharmaceutical Society of Japan、Behav. brain Res 他8誌		
平成26年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成29年4月～現在	ファルマシアトピックス編集小委員会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 医薬品情報学	職名 講師	氏名 岩澤 真紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 医薬品情報学の講義にスペシャルポピュレーション、診療ガイドラインを追加する等、よりアドバンスな教育内容に変更した。 薬学英語および英語での文献検索スキルの強化	2016年4月 2017年4月	小児・妊婦等のスペシャルポピュレーションに関連する医薬品情報、診療ガイドライン、Gradeシステム等の内容を取り入れた。 医薬品情報実習に、英語の課題、Micromedexの演習を追加した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 平成28年度病院・薬局実習事前実習実習書（医薬品情報） 薬学生のための英語 I 平成29年度病院・薬局実習事前実習実習書（医薬品情報） 病気と薬物療法 循環器疾患・救急医療・血液疾患	2016年3月 2017年3月 2017年4月 2017年6月	日本薬学英語研究会編 オーム社	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬剤師教育プログラムのデザイン手法と教育スキル 米国医療における薬剤師の役割 米国医療における薬剤師の役割	2016年1月24日 2017年1月22日 2017年10月28日	第37回日本病院薬剤師会近畿学術大会 東邦大学薬学部生涯学習講座 第一薬科大学卒後教育講座	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
薬剤師のための臨床思考力トレーニング ケースで学ぶ薬物治療	共著	2014年10月	南山堂
NIH 臨床研究の基本と実際（原著3版）	共著	2016年10月	丸善出版
薬剤師としての海外留学の意義	単著	2016年12月	ファルマシア（52/12）
エキスパートが教える 薬の使い方 x エビデンスの調べ方	共著	2017年1月	月刊薬事
多職種カンファレンスで考える心不全緩和ケア	共著	2017年4月	南山堂
他6件			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
低用量アスピリンと抗潰瘍薬の併用に関する薬剤疫学的研究		2017年7月	第20回日本医薬品情報学会総会・学術大会
米国における薬学教育と薬剤師の役割～留学でグローバルな視点を鍛える～		2017年9月	第61回日本薬学会関東支部大会
医療安全管理対策における医薬品使用評価の役割		2017年10月	第65回日本心臓病学会学術集会
低用量アスピリンと抗潰瘍薬の併用に関する薬剤疫学的研究		2017年10月	第61回日本薬学会近畿支部大会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～平成28年6月	日本医療薬学会 専門薬剤師育成委員会		
平成27年8月～平成28年3月	日本医療薬学会厚労科研 医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス政策研究事業 「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカム研究」実行委員会		
平成28年2月～現在	日本薬学会文科省委託事業 海外の薬学教育との比較調査委員会 改訂コアカリ英訳作業部会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 公衆衛生学	職名 講師	氏名 浦口 晋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年6月12日 平成27年10月21日 平成28年6月10日 平成28年10月18日 平成29年6月16日 平成29年10月31日	健康科学Ⅱ (2コマ) (評価4.12)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.35)・補助プリント改訂 他1件 健康科学Ⅱ (2コマ) (評価4.16)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.41)・補助プリント改訂 他1件 健康科学Ⅱ (2コマ) (評価4.22)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価待ち)・補助プリント改訂 他1件	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成29年12月23日	OSCE外部評価者 (東邦大学)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) 植物栄養学を活かした農業生産技術について 5. イネのカドミウム・ヒ素の輸送機構と低集積系統育種への応用	共著	2016年2月	土壌肥料学会誌, 87巻, 54-63.
(論文) Atg5-dependent autophagy plays a protective role against methylmercury-induced cytotoxicity.	共著	2016年11月	Toxicol Lett vol.262, 135-141.
(論文) A novel role of MerC in methylmercury transport and phytoremediation of methylmercury contamination	共著	2017年7月	Biol Pharm Bull, vol.70, 1125-1128.
(論文) Phytochelatin Synthase has Contrasting Effects on Cadmium and Arsenic Accumulation in Rice Grains	共著	2017年10月	Plant Cell Physiol, vol.58, 1730-1742.
(論文) Variation in the activity of distinct cytochalasins as autophagy inhibitors in human lung A549 cells.	共著	2017年10月	Biochem Biophys Res Commun, vol.494, 641-647
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) メチル水銀毒性発現へのオートファジーの関与		2017年7月	日本毒性学会
(演題名) Role of Mer in the transport of toxic metals in Escherichia coli.		2017年7月	FEMS 2017 7th Congress of European Microbiologists
(演題名) Molecular breeding of Arabidopsis plants with cell-type specific promoters and a bacterial mercury transporter MerC.		2017年7月	14th ICOBTE
(演題名) 亜ヒ酸応答におけるAtPCS1のC末端領域の機能解析		2017年9月	日本土壌肥料学会
(演題名) メチル水銀によるMAPキナーゼの活性化とオートファジー誘導		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) メチル水銀によるユビキチン結合蛋白質p62の発現誘導と防御機構の解析		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) Autophagy and sequestosome1/p62 play a protective role against low-dose methylmercury-induced cytotoxicity.		2018年3月	The 2018 SOT Annual Meeting and ToxExpo
III 学会および社会における主な活動			
平成19年1月～現在まで	日本植物生理学会 所属		
平成20年5月～現在まで	日本土壌肥料学会 所属		
平成20年6月～現在まで	日本トランスポーター研究会 幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物薬品製造学	職名 講師	氏名 大城 太一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
化学療法学II		2017年	抗がん剤について5回(90分)講義を行った
微生物学実習II		2017年	微生物の取り扱いなどの実習を合計20日間行った
2 作成した教科書、教材、参考書			
化学系薬学 III. 自然が生み出す薬物 (日本薬学会編 東京化学同人)		2016年	
微生物学実習II 実習書		2017年	微生物の取り扱いなどをまとめた実習書を作成した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Selective inhibition of sterol 0-acyltransferase 1 isozymes by beauveriolide III in intact cells.	共著	2017年6月	Sci Rep, 7, 4163
Biseoceaniamides A, B, and C, sterol 0-acyltransferase inhibitors from an Okeania sp. marine Cyanobacterium.	共著	2017年4月	J Nat Prod., 80, 1161-1160
Pseudopyronine B, an inhibitor of sterol 0-acyltransferase, produced by Pseudomonas sp. BYK11209.	共著	2017年1月	J Antibiot., 70, 96-97
Discovery of SOAT2 inhibitors from synthetic small molecules.	共著	2016年12月	Bioorg Med Chem Lett. 26, 5899-5901
Design, synthesis, and biological evaluation of beauveriolide analogues bearing photoreactive amino acids.	共著	2016年7月	Chem. Pharm. Bull. 64, 754-765
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
PRD125, a highly potent SOAT2 inhibitor, attenuates both atherosclerosis and fatty liver progression in cholesterol diet-fed rabbits.		2017年11月	AHA Scientific Session 2017
SOAT2 選択的阻害剤は脂肪性肝疾患に有効か?		2017年6月	第59回日本脂質生化学会
III 学会および社会における主な活動			
2017年	American Heart Association 会員		
2002年-2017年	日本薬学会 会員		
2005年-2017年	日本脂質生化学会会員		
2009年-2017年	日本動脈硬化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬品製造化学	職名 講師	氏名 大多和 正樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年10月	担当科目の授業評価とそれを基にした改善	
	平成26年10月	担当科目の授業評価とそれを基にした改善	
	平成25年10月	担当科目の授業評価とそれを基にした改善	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成27年4月	基礎有機化学/有機合成実習の教材作成	
	平成26年4月	基礎有機化学/有機合成実習の教材作成	
	平成25年4月	基礎有機化学/有機合成実習の教材作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年11月	北里大学薬学部優秀教育賞 (薬品製造化学)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Scopranones with the two atypical scoop-like moieties produced by <i>Streptomyces</i> sp. BYK-11038.	共著	平成29年10月	Org. Lett. 2017, 19, 5980-5983
(論文) Deprotection of silyl ethers by using S03H silica gel: Application to sugar, nucleoside and alkaloid derivatives.	共著	平成29年7月	Tetrahedron 2017, 73, 5425-5429.
(論文) Synthesis of (-)-11-O-debenzoyltashironin: Neurotrophic sesquiterpenes cause hyperexcitation.	共著	平成29年6月	J. Am. Chem. Soc. 2017, 139, 9637-8644.
(論文) Development of a new air-stable structure-simplified nafuredin- γ analog as a potent and selective nematode complex I inhibitor	共著	平成29年3月	J. Antibiot. 2017, 70, 647-654.
(論文) Simplifungin and Valsafungins, Antifungal Antibiotics of Fungal Origin	共著	平成28年9月	J. Org. Chem. 2016, 81, 7373-7383.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) FOP治療薬を指向したscopranone Aの全合成及び構造活性相関研究		平成29年10月	第35回メディシナルケミストリーシンポジウム
(演題名) FOP治療薬を指向したscopranone Aの全合成及び構造活性相関研究		平成29年3月	日本薬学会第137年会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年3月	日本薬学会第135年会、有機系若手シンポジウム主催		
平成24年4月～	日本薬学会会員		
平成24年4月～	有機合成化学協会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物薬品製造学	職名 助教	氏名 大手 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年5月6日	生命創薬科学Iにおいてスライドを用いた講義を行った。
		平成29年11月24日	生命創薬科学IIにおいてスライドを用いた講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年7月27日 平成29年7月28日	平成29年度北里大学新任教育研修に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文)Scopranones with Two Atypical Scooplike Moieties Produced by Streptomyces sp. BYK-11038.		共著	平成29年11月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			Org Lett 19(21):5980-5983
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～現在	日本骨代謝学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物学	職名 教授	氏名 岡田 信彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月～ 平成27年7月	アクティブ・ラーニング実践のため、クリッカーを使用し、理解の深度を確認しながら講義を行う。
		平成24年4月～	教科書と併用して、独自の講義プリントを作成、また、DVD教材による動画を積極的に利用して理解を深めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2016年7月	スタンダード薬学シリーズⅡ 4 生物系薬学Ⅲ. 生体防御と微生物
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年8月29日	平成25年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ参加
		平成27年8月28日	平成27年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名 称
(論文) <i>Salmonella</i> type III effectoer SpvG, a phosphothreonine lyase, contributes to reduction in inflammatory response during intestinal phase of infection.	共著	2012年4月	Cell. Microbiol. vol.14 no.4
(論文) Transposon mutagenesis of probiotic <i>Lactobacillus casei</i> identifies <i>asnH</i> , an asparagine synthetase gene involved in its immune-activating capacity.	共著	2014年1月	PLoS One vol. 9 no. 1
(論文) Functional characterization of the type III secretion ATPase SsaN encoded by <i>Salmonella</i> pathogenicity island 2.	共著	2014年4月	PLoS One vol. 9 no. 4
(論文) The bactericidal lectin RegIII β prolongs gut colonization and enteropathy in the streptomycin mouse model for <i>Salmonella</i> diarrhea.	共著	2017年2月	Cell Host & Microbe vol.21 no.2
(論文) <i>Bifidobacterium bifidum</i> extracellular 1 sialidase enhances adhesion to the mucosal surface and supports carbohydrate assimilation.	共著	2017年8月	mBio vol.8 no.5
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The extracellular Sialidase from <i>Bifidobacterium bifidum</i> modulates bacterium-host interactions and supports the assimilation of carbohydrates.		2017年8月	12th International Symposium on Lactic Acid Bacteria (LAB12)
III 学会および社会における主な活動			
平成25年1月～平成31年1月	薬事・食品衛生審議会専門委員		
平成26年3月～平成31年9月	公益社団法人日本獣医学会評議委員		
平成29年6月～平成31年6月	公益財団法人日本ビフィズス菌センター理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 創薬物理化学	職名 助教	氏名 小澤 新一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月～現在 2017年4月～現在	「薬学総合演習」配布資料とスライドの利用 「薬学英語1」配布資料とスライドの利用、課題の実施 他1件
2 作成した教科書、教材、参考書		2016年3月 2017年3月	「物理薬剤学実習」に用いる実習書の改定 「物理薬剤学実習」に用いる実習書の改定 他2件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年7月25日 2016年9月30日	大学での教育に関するFDセミナーに参加 大学での教育に関するFDセミナーに参加 他3件
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structural basis for the inhibition of voltage-dependent K ⁺ channel by gating modifier toxin	共著	2015年9月	Sci. Rep. 5, 14226
(論文) Disulfide mapping the voltage-sensing mechanism of a voltage-dependent potassium channel	共著	2016年11月	Sci. Rep. 6, 37303
(論文) Multi-step virtual screening to develop selective DYRK1A inhibitors	共著	2017年3月	J. Mol. Graph. Model. 72, 229-239
(論文) In silico analyses of the effects of a point mutation and a pharmacological chaperone on the thermal fluctuation of phenylalanine hydroxylase	共著	2017年9月	Biophys. Chem. 228, 47-54
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) In silicoフラグメントマッピングによる新規キマーゼ阻害剤 の探索		2017年10月	第35回メディシナルケミストリー シンポジウム
(演題名) In silicoフラグメントマッピングに基づく新規キマーゼ阻害剤の同定および分子 設計		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
2013年2月～現在	日本薬学会会員		
2017年2月～現在	日本薬学会 医薬化学部会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
北里大学	薬物治療学Ⅳ 臨床薬学教育部門	教授	尾鳥 勝也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2000年4月より	学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。 発展学習のために、関連する医療事情を盛り込み、理解を深めさせるとともに、最新の情報も提供している。
		2000年4月より	病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。
		2009年5月より	事前実習では、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。
		2016年4月より	事前実習において、実習項目ごとにループリックを作成し、評価の観点を可視化している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年5月より	北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書
		2014年3月	実習ポイントを捉えた 薬学生病院実務実習ノート 2014 (医薬ジャーナル)
		2014年3月	薬剤学実験法必携マニュアル (南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2005年5月より	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォース
		2011年7月	病院実務実習における実習施設常駐教員の必要性 (第2報), 医療薬学フォーラム2011
		2011年7月	北里大学病院における実務実習の対応-大学・薬剤部の連携体制-, 医療薬学フォーラム2011
		2014年3月	実務実習事前実習の実施による学生の意識の変化, 日本薬学会第134年会
		2014年4月	薬学生病院実務実習指導書に関する説明会, 神奈川県病院薬剤師会
		2014年8月	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について, 横浜市勤務薬師会薬剤業務研修会
		2015年3月	実務実習事前実習の実施による学生の意識変化 (第2報), 日本薬学会第135年会
		2016年4月	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習に関する講習会, 神奈川県病院薬剤師会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。 事前実習小委員会委員長, OSCE実施小委員会委員長, FD委員会委員, 教育委員会委員, 実務実習委員会委員 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップへの参加

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Effects of resistant dextrin for weight loss in overweight adults: a systematic review with a meta-analysis of randomized controlled trials	共著	2017年5月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, vol.3 No.15
（論文）糖尿病患者における代替療法の実態と特定保健用食品の使用要因の検討	共著	2017年2月	糖尿病 vol.60 No.2
（論文）呼吸器領域がん患者における予測クレアチニンクリアランスの推奨算出法の検討	共著	2016年3月	日本緩和医療薬学雑誌 Vol.9
（論文）脂質異常症を合併する2型糖尿病患者における水溶性および脂溶性ストロングスタチンの有効性と安全性に関するメタアナリシス	共著	2015年9月	医療薬学 vol.41 No.9
（論文）静注用人免疫グロブリン製剤の品質比較試験	共著	2014年8月	医療薬学 vol.44 No.8
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）GLP-1受容体作動薬による胃腸障害の臨床的検討		2017年5月	第60回日本糖尿病学会年次学術集会
（演題名）内服HDの簡易懸濁時における経管栄養シミュレータとリボフラビン製剤を用いた視覚的な環境曝露の実態調査と曝露対策の検討		2017年7月	医療薬学フォーラム2017
（演題名）B型肝炎ウイルス再活性化リスクに対するスクリーニング検査の実施状況		2017年8月	日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会
（演題名）アスピリン喘息リスク評価に基づく鎮痛薬使用アルゴリズムの有用性についての検討		2017年11月	第27回日本医療薬学会年会
（演題名）当院泌尿器科における術後抗血栓薬の再開管理		2017年11月	第27回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成8年4月～平成28年5月	神奈川県病院薬剤師会 薬学生病院実習検討委員会委員		
平成16年4月～平成24年3月	日本薬剤師会 実務実習に関する特別委員会委員		
平成16年4月～平成25年5月	日本病院薬剤師会 薬学教育委員会委員		
平成17年4月～平成22年3月	日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師養成研修実施委員会委員		
平成21年4月～現在	日本医療薬学会代議員		
平成22年4月～現在	病院・薬局実務実習関東地区調整機構 大学小委員会委員		
平成24年6月～25年3月	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員		
平成28年4月～現在	薬学教育評価における評価実施員		
平成28年6月～現在	日本薬剤師会 編集委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 尾山実砂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年4月～ 平成29年9～10月	学部学生の卒業研究を通して、論理的な思考力や計画遂行力、集中力を養う。 薬理学実習で実際に動物を扱い、薬の作用を観察することで、薬理学の基礎的な薬の作用機序の理解を助ける。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)Electrophysiological evidence of increased glycine receptor-mediated phasic and tonic inhibition by blockade of glycine transporters in spinal superficial dorsal horn neurons of adult mice.	共著	平成29年3月	Journal of Pharmacological Sciences, vol 133 No. 3.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
内在性GABA増強による鎮痛作用のシナプスメカニズム		平成29年6月	第39回日本疼痛学会
GABAトランスポーター1阻害薬はGABAB受容体を介した脊髄興奮性シナプス伝達抑制により抗アロディニア作用を示す		平成29年7月	第40回日本神経科学大会
δオピオイド受容体作動薬KNT-127は島皮質の神経活動を抑制する		平成29年9月	第39回日本生物学的精神医学会、第47回日本神経精神薬理学会
GABAトランスポーター阻害による内在性GABA増強が成熟マウス脊髄後角シナプス伝達に与える影響		平成29年10月	第137回日本薬理学会関東部会
スルファチドによるアロディニアの惹起		平成29年10月	第138回日本薬理学会関東部会
疼痛におけるシアル酸分解酵素の鎮痛効果とスフィンゴ糖脂質の機能		平成29年12月	2017年度生命科学系学会合同年次大会
GAT阻害薬は興奮性神経伝達減弱を介して鎮痛作用を示す		平成30年3月	第138回日本薬学会
アミノ酸依存性シグナルによるglycine transporter1の発現量調節と慢性炎症性疼痛への関与の可能性		平成30年3月	第138回日本薬学会
炎症性疼痛におけるスフィンゴ糖脂質生合成に関わる糖転移酵素遺伝子の発現パターンの変化		平成30年3月	第138回日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年～現在	日本薬理学会会員		
平成26年～現在	日本薬学会会員		
平成29年～現在	日本疼痛学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 助教	氏名 春日井公美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年11月29日 2016年11月8日 2016年	演習講義 医療薬学Ⅱ 他5件 医療薬学Ⅱ (授業評価平均 4.47) 他6件 病院実務実習 (授業評価平均 4.55)
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
簡易懸濁法におけるカペシタビンの安定性	共著	平成24年12月	医療薬学 (38巻12号)
病院実務実習における実習施設への常駐教員の必要性	共著	平成24年11月	医療薬学 (38巻11号)
ケトコナゾールによるラパチニブ代謝阻害の定量的予測	共著	平成25年7月	薬剤学: 生命とくすり (第73巻第4号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その2		平成29年9月	日本薬学教育学会大会
小児用量におけるフロセミド錠の簡易懸濁法に関する検討		平成29年9月	簡易懸濁法研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～	日本病院薬剤師会会員		
平成19年4月～	日本医療薬学会会員		
平成20年4月～	日本薬学会会員		
平成27年4月21日～	日本薬学教育学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体分子解析学	職名 准教授	氏名 片根 真澄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成 29 年度 11 月 7 日 6 月 27 日 他 3 件 平成 28 年度 6 月 28 日 6 月 21 日 他 2 件 平成 27 年度 10 月 27 日 7 月 2 日 他 3 件 平成 26 年度 7 月 8 日 6 月 24 日 他 2 件 平成 25 年度 7 月 8 日 6 月 13 日 他 1 件 平成 24 年度 7 月 5 日 6 月 14 日 他 1 件	講義「薬学総合演習」の授業評価を実施した。 実習「定量分析実習」の実習評価を実施した。 実習「定量分析実習」の実習評価を実施した。 講義「分析科学 III」の授業評価を実施した。 講義「分析科学 II」の授業評価を実施した。 実習「定量分析実習」の実習評価を実施した。 実習「定量分析実習」の実習評価を実施した。 講義「分析科学 III」の授業評価を実施した。 実習「定量分析実習」の実習評価を実施した。 実習「定量分析実習」の実習評価を実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成 29 年度 11 月 7 日 11 月 7 日 他 13 件 平成 28 年度 11 月 15 日 10 月 7 日 他 8 件 平成 27 年度 10 月 27 日 9 月 30 日 他 3 件 平成 26 年度 12 月 2 日 9 月 24 日 他 3 件 平成 25 年度 10 月 23 日 4 月 1 日 平成 24 年度 11 月 28 日 4 月 1 日	講義「薬学総合演習」の教材を作成・配布した。 講義「分析科学 II」の教材を作成・配布した。 講義「分析科学 II」の教材を作成・配布した。 講義「生命創薬科学 II」の教材を作成・配布した。 講義「分析科学 II」の教材を作成・配布した。 講義「薬剤・分析学特論」の教材を作成した。 講義「分析科学 II」の教材を作成・配布した。 講義「薬剤・分析学特論」の教材を作成した。 講義「薬剤・分析学特論」の教材を作成した。 実習「定量分析実習」の教材を作成した。 講義「生体分子解析学特論」の教材を作成した。 実習「定量分析実習」の教材を作成した。	

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 29 年度 なし 平成 28 年度 なし 平成 27 年度 なし 平成 26 年度 なし 平成 25 年度 なし 平成 24 年度 なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成 29 年度 8 月 26 日 平成 28 年度 12 月 23 日 11 月 5 日 平成 27 年度 なし 平成 26 年度 11 月 30 日 平成 25 年度 なし 平成 24 年度 なし	オープンキャンパスにおいて授業体験を実施した。 東邦大学薬学部で実施された薬学共用試験 (OSCE) に外部評価者として参加した。 日本薬局方教科担当教員会議に参加した。 武蔵野大学薬学部で実施された薬学共用試験 (OSCE) に外部評価者として参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
(論文) D-Glutamate is metabolized in the heart mitochondria	共著	平成 29 年 3 月	Scientific Reports, vol. 7
(著書) Homeostasis of free D-aspartate in mammalian cells <i>in D-Amino Acids: Physiology, Metabolism, and Application</i> (T. Yoshimura et al. eds.)	共著	同 年 1 月	Springer KK (東京) 出版
(論文) Identification of novel D-aspartate oxidase inhibitors by <i>in silico</i> screening and their functional and structural characterization <i>in vitro</i>	共著	平成 27 年 9 月	Journal of Medicinal Chemistry, vol. 58, No. 18
(論文) The antiviral drug acyclovir is a slow-binding inhibitor of D-amino acid oxidase	共著	平成 25 年 8 月	Biochemistry, vol. 52, No. 33
(論文) Identification of novel D-amino acid oxidase inhibitors by <i>in silico</i> screening and their functional characterization <i>in vitro</i>	共著	同 年 3 月	Journal of Medicinal Chemistry, vol. 56, No. 5

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） Functions of D-aspartate oxidase in <i>C. elegans</i> oxidase	平成 29 年 7 月	IDAR2017
（演題名） Structure-function relationships in human D-aspartate oxidase	平成 29 年 7 月	IDAR2017
（演題名） Identification and characterization of novel broad-spectrum amino acid racemase in bacteria	平成 29 年 7 月	IDAR2017
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成 28 年 3 月	日本薬学会 第 136 年会主催（プログラム編成委員）	
平成 27 年 9 月	第 12 回 D-アミノ酸学会学術講演会 座長	
平成 27 年 8 月	第 29 回 バイオサイエンスフォーラム 座長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 医薬開発学	職名 助教	氏名 金子 真之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012-2017	学生のレポートや授業評価に基づき、より分かりやすい具体例の提示等、教育内容の改善に心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2016. 10	NIH 臨床研究の基本と実際 原書3版(翻訳、共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017. 4. 30-5. 1	「オール北里チーム医療演習」にファシリテータとして参加し、担当チームが優秀賞を受賞。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Factors Influencing FDA's Decisions for Postmarketing Requirements and Commitments during Their Review of Oncology Products.	共著	2017	Journal of Oncology Practice
Points to consider: efficacy and safety evaluations in the clinical development of ultra-orphan drugs.	共著	2017	J Rare Dis
A Pilot Study for Identification of Risk Factors in Vildagliptin-induced Liver Injury.	共著	2017	Japanese Journal of Pharmaceutical and Diabetes
Characterization of the recent postmarketing safety measures in Europe focusing on additional pharmacovigilance activities.	共著	2017	Pharmaceut Med
Meta-analysis of dipeptidyl peptidase-4 inhibitors use and cardiovascular risk in patients with type 2 diabetes mellitus.	共著	2016	Diabetes Res Clin Pract
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
First in Class新薬の製造販売後安全性措置に関連する要因の分析		2017. 9	第7回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
有効性解析への採否を指標とした臨床試験の品質に影響を及ぼすリスクに関する検討		2017. 9	第7回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2012. 9-	レギュラトリーサイエンス学会会員		
2016. 8-	DIA Operation Team		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生命薬化学	職名 助教	氏名 唐木文霞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月6日～21日、5月11日～25日 2016年4月11日～26日、5月9日～24日 2017年4月10日～25日、5月8日～23日	学生実習のサポート 実習内容の説明方法の熟考による、説明の効率化 SA向けの学生実習マニュアルの作成
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Reactivity of 7-Azanorbornenes in Bioorthogonal Inverse Electron-Demand Diels-Alder Reactions	共著	2017年7月	European Journal of Organic Chemistry vol.2017, Issue 26
(論文) Phenanthridin-6-one derivatives as the first class of non-steroidal pharmacological chaperones for Niemann-Pick disease type C1 protein.	共著	2017年6月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters vol.27, issue 12
(論文) Vildagliptin and its metabolite M20.7 induce the expression of S100A8 and S100A9 in human hepatoma HepG2 and leukemia HL-60 cells.	共著	2016年10月	Scientific Reports vol.6
(論文) Generation of cycloheptynes and cyclooctynes via a sulfoxide-magnesium exchange reaction of readily synthesized 2-sulfinylcycloalkenyl triflates.	共著	2015年5月	Chemical Communications vol.51, No.42
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ニトロンとジアミノメタンの光誘起形式的 [3+3] 付加環化反応		2017年10月	第47回複素環化学討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年12月～現在	日本薬学会 会員		
平成26年3月～現在	日本ケミカルバイオロジー学会 会員		
平成26年5月～現在	有機合成化学協会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 保険薬局学	職名 講師	氏名 川上 美好
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～平成29年 平成29年 平成24年～平成29年 平成24年～平成29年 平成28年5月	4年医療薬学Ⅰ(年間4コマ)、4年OTC治療学(年間4コマ)、6年薬学総合演習講義(年間3コマ) 3年地域医療薬学Ⅰ(年間4コマ) 4年病院・薬局実習事前実習(患者接遇と患者インタビュー、服薬指導の基本、セルフメディケーション、事前実習総合実習) 5年病院・薬局実習コーディネーター 平成27年度後期優秀教育賞受賞(OTC治療学)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年～平成29年 平成28年5月	4年病院・薬局実習事前実習実習書 衛生化学Ⅰ・Ⅱ教科書(衛生薬学 基礎・予防・臨床)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年10月 平成24年10月 平成26年3月 平成26年6月 平成28年10月 平成29年10月	学会発表: 保険薬局実務実習における大学登校日の実施と効果 学会発表: 薬学6年制教育における国際交流の展開 学会発表: 薬学生海外研修プログラムの現状と課題—引率教員について— 臨床薬学教育国際シンポジウム 学会発表: グローバル人材育成を目指した薬学生双方向国際交流 学会発表: 薬学生海外研修プログラムのさらなる発展に向けた取り組み	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年～平成29年 平成29年11月	学術交流協定に基づく米国アイオワ大学薬学部との国際交流(アイオワ大学への派遣学生計50名、アイオワ大学からの学生受け入れ計6名) 平成29年度第18回認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)新ビジュアル薬剤師実務シリーズ下調剤業務の基本[技能]第2版	共著	平成25年10月	羊土社
(著書)薬学生・新人薬剤師のための処方解析入門	共著	平成27年	薬ゼミ情報教育センター
(著書)衛生薬学 基礎・予防・臨床	共著	平成28年5月	南江堂
(論文)Evaluation of geriatric patients with dry mouth by community pharmacists and use of moisturizing agents	共著	平成24年11月	Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 38(11): 673-678
(論文)「薬局の求められる機能とあるべき姿」に関する薬局開設者・管理者へのアンケート調査	共著	平成27年6月	医療薬学41(6): 424-434
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)薬学生海外研修プログラムのさらなる発展に向けた取り組み		平成29年・10月	第50回日本薬剤師会学術大会
(演題名)「健康サポート薬局」と米国からみた「予防」薬学における新たな可能性		平成30・3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成17年11月～平成27年6月	東京都薬剤師会「実務実習受入特別委員会」委員		
平成29年7月～	神奈川県薬剤師会「実務実習委員会」委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅱ	職名 助教	氏名 川野千尋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年 毎年 毎年 毎年 毎年	学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。 講義においてパワーポイントを用いて解説し、学生の理解を高めている。 事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。 事前実習では、SGDやPBL等の能動的参加型学習法を取り入れ、医療人に求められる態度やコミュニケーション能力を高める工夫をしている。 病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年 毎年 2016年11月15日	北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書 各種講義用のパワーポイント資料 病気と薬物治療 精神疾患 神経・筋疾患（オーム社）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年9月2日 2017年9月2日 2017年9月2日	北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討その3-病院実務実習における他職種講義実施の意義- 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討その2-病棟実習における代表的8疾患の実施状況- 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討その1-平成31年度改訂コアカリ実施に向けて-	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	毎年 毎年 2015年 2016年12月	薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。 OSCE実施小委員会委員、OSCE作業部会員など学内委員 OSCEステーション責任者 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップへの参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 治療薬ハンドブック2017	共著	平成29年1月	株式会社じほう
(論文) がん化学療法誘発性悪心・嘔吐の客観的評価とQuality of Life評価に関する研究	共著	平成26年12月	日本緩和医療薬学雑誌 Vol.7 No.4 89-95
(総説) 神経疾患治療薬の剤形と使い分け 2. 口腔内崩壊錠と舌下錠の製剤学的特徴	共著	平成26年7月	BRAIN MEDICAL Vol.26 No.2 103-109
(論文) Dose Conversion during Opioid Rotation from Continuous Intravenous Infusion of Morphine Hydrochloride to Oral Administration of Oxycodone Sustained-release Tablets	共著	平成24年3月	Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Science Vol.38 No.3 170-176

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(演題名) リルゾール服用患者における肝機能障害に関する研究	平成29年7月	医療薬学フォーラム2017/第25回クリニカルファーマシーシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
日本薬学会会員		
日本医療薬学会会員		
日本緩和医療学会会員		
日本癌治療学会会員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生物分子設計学	職名 助教	氏名 清田 泰臣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年6月～ 平成25年5月～	創薬情報科学特論 (M1対象) 構造生命科学 (PL3対象)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年9月～ 平成27年5月～	バイオインフォマティクス実習 (PP2/PL2対象) 生命物理化学実習 (PP2/PL2対象)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成28年10月	指導薬剤師養成ワークショップ
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年12月	FDセミナー
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
3次元RISM理論に基づくドッキングデザインへ向けた解析手法の開発と応用	単著	2012	アンサンブル (vol14, No4)
Molecular recognition Study on the Binding of Calcium to C1bindin D9k Based on 3D Reference Interaction Site Model Theory	共著	2014	JPCB (vol118, No39)
Prediction of Oligomeric Protein Structures based on Template-Based Modeling	共著	2016	CASP12 meeting
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
A method for annotating chemical feature around protein toward ligand-binding-site prediction, based on 3-dimensional distribution function (発表賞受賞)		2015・9月	第43回構造活性相関シンポジウム
水和構造に基づいたタンパク質複合体立体構造予測 (招待講演)		2016・11月	第27回白金セミナー
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～	構造活性相関部会/幹事・SARNews編集委員		
平成26年4月～	薬学会員		
平成25年4月～	CBI学会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 公衆衛生学	職名 教授	氏名 清野 正子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月13日	健康科学Ⅱ (10コマ)	(評価4.41)・補助プリント改訂
	平成24年9月7日	健康科学Ⅰ (10コマ)	(評価4.34)・補助プリント改訂 他3件
	平成25年4月12日	健康科学Ⅱ (10コマ)	(評価4.24)・補助プリント改訂
	平成25年9月6日	健康科学Ⅰ (10コマ)	(評価4.46)・補助プリント改訂 他3件
	平成26年4月11日	健康科学Ⅱ (10コマ)	(評価4.51)・補助プリント改訂
	平成26年9月5日	健康科学Ⅰ (9コマ)	(評価4.38)・補助プリント改訂 他3件
	平成27年4月10日	健康科学Ⅱ (6コマ)	(評価4.55)・補助プリント改訂
	平成27年9月4日	健康科学Ⅰ (6コマ)	(評価無)・補助プリント改訂 他3件
	平成28年4月8日	健康科学Ⅱ (6コマ)	(評価無)・補助プリント改訂
	平成28年9月16日	健康科学Ⅰ (6コマ)	(評価4.14)・補助プリント 大改訂 (新教科書対応) 他3件
平成29年4月14日	公衆衛生学Ⅰ (6コマ)	(評価4.43)・補助プリント改訂	
平成29年4月14日	健康科学Ⅱ (6コマ)	(評価4.38)・補助プリント 大改訂 (新教科書対応) 他3件	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成28年5月10日	衛生薬学—基礎・予防・臨床 南江堂 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成25年12月8日	OSCE外部評価者(慶應大学)	
	平成27年11月5日	平成27年度優秀教育賞受賞(4年前期健康科学Ⅱ)	
	平成29年1月7-8日	薬学教育評価機構 第9回評価者研修会出席	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号 数)等の名称
(論文) Expression of the bacterial heavy metal transporter MerC fused with a plant SNARE, SYP121, in Arabidopsis thaliana increases cadmium accumulation and tolerance.	共著	2012年4月	Planta vol.235 No.4, 841-850
(論文) Bacterial heavy metal transporter MerC increases mercury accumulation in Arabidopsis thaliana.	共著	2013年1月	Biochem Eng J vol.71, 19-24
(論文) Mercurial-resistance determinants in Pseudomonas strain K-62 plasmid pMR68.	共著	2013年7月	AMB express vol.3 No.41, 1-7
(論文) Atg5-dependent autophagy plays a protective role against methylmercury-induced cytotoxicity.	共著	2016年11月	Toxicol Lett vol.262, 135-141
(論文) Variation in the activity of distinct cytochalasins as autophagy inhibitors in human lung A549 cells.	共著	2017年10月	Biochem Biophys Res Commun in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) メチル水銀毒性発現へのオートファジーの関与		2017年7月	日本毒性学会
(演題名) Role of Mer in the transport of toxic metals in Escherichia coli.		2017年7月	FEMS 2017 7th Congress of European Microbiologists
(演題名) Molecular breeding of Arabidopsis plants with cell-type specific promoters and a bacterial mercury transporter MerC.		2017年7月	14th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements
(演題名) 垂ヒ酸応答におけるAtPCS1のC末端領域の機能解析		2017年9月	日本土壌肥料学会
(演題名) メチル水銀によるMAPキナーゼの活性化とオートファジー		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) メチル水銀によるユビキチン結合蛋白質p62の発現誘導と防御機構の解析		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) Autophagy and sequestosome1/p62 play a protective role against low-dose methylmercury-induced cytotoxicity.		2018年3月	The 2018 SOT Annual Meeting and ToxExpo
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～平成32年3月	国立水俣病総合研究センター 研究評価委員		
平成28年6月～平成28年11月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
同 年12月～平成31年3月	磁気健康科学研究振興財団 審査委員		
平成29年6月～平成29年11月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 学習支援室	職名 講師	氏名 喜来 望
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年7月4, 11日 平成24年9月～10月 平成25年9月～10月 平成26年2月 平成26年9月～10月 平成27年2月 平成27年9月～10月 平成27年12月17日 平成28年6月15, 22日 平成28年9月～10月 平成29年5～6月 平成29年9月～10月	臨床生理学1 講義2コマ 臨床生化学 講義5コマ 臨床生化学 講義6コマ 国家試験対策補講 講義8コマ 臨床生化学 講義6コマ 国家試験対策補講 講義2コマ 臨床生化学 講義5コマ CBT補講 講義1コマ 臨床生理学1 講義2コマ 臨床生化学 講義4コマ 臨床検査学1 講義4コマ 臨床生化学 講義4コマ	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年3月 平成26年3月 平成26年8月 平成27年3月 平成27年5月 平成27年8月 平成28年3月 平成28年5月 平成28年8月 平成29年3月 平成29年5月 平成29年8月	第98回薬剤師国家試験問題解説書作成 (評言社) 第99回薬剤師国家試験問題解説書作成 (評言社) 2014年第2回CBT模試問題・解説書作成 (評言社) 第100回薬剤師国家試験問題解説書作成 (評言社) 2015年第1回CBT模試問題・解説書作成 (評言社) 2015年第2回CBT模試問題・解説書作成 (評言社) 第101回薬剤師国家試験問題解説書作成 (評言社) 2016年第1回CBT模試問題・解説書作成 (評言社) 2016年第2回CBT模試問題・解説書作成 (評言社) 第102回薬剤師国家試験問題解説書作成 (評言社) 2017年第1回CBT模試問題・解説書作成 (評言社) 2017年第2回CBT模試問題・解説書作成 (評言社)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年5月1・2日 平成24年8月18・19日 平成25年12月25日 平成26年7月31日 平成27年3月14・15日 平成27年9月30日 平成27年12月13日 平成28年7月17日 平成28年12月25日 平成29年7月25日	北里大学チーム医療演習委員 ファシリテータ 認定実務実習指導薬剤師養成WS タスクフォース FDワークショップ 企画・実施 FD講演会 企画・実施 認定実務実習指導薬剤師養成WS タスクフォース FD講演会 企画・実施 北里大学OSCE実施委員 認定実務実習指導薬剤師養成 タスクフォーススキルアップ研修 OSCE評価者 (横浜薬科) FD講演会 企画・実施	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 海外の薬局くらべてみれば 第6回France	共著	平成25年12月	PharmaTribune Vol.5 No.12
(著書) 海外の薬局くらべてみれば 第9回 (最終回) 日本を含めた8か国比較②	共著	平成26年4月	PharmaTribune Vol.6 No.4
(著書) 薬剤師業務の新たな地平 第3回 世界の地域 薬局で実践されるPOCT、そして日本の検体測定 (前編)	共著	平成28年5月	じほう、調剤と情報 [vol.22 No.6]
(著書) 薬剤師業務の新たな地平 第4回 世界の地域 薬局で実践されるPOCT、そして日本の検体測定 (後編)	共著	同 年6月	じほう、調剤と情報 [vol.22 No.7]
(論文) 薬剤師による経過観察の重要性-副作用発現と 経過観察の時期-	共著	平成24年12月	社会薬学 vol.31 No.2
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
平成24年6月	全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 総会運営		
平成24年10月～平成25年9月	第7回日本緩和医療薬学会 事務局長		
平成28年3月	日本薬学会第136年会 プログラム委員 大会運営		
平成29年9月	市民講座企画・運営		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅳ	職名 准教授	氏名 久保田理恵
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H24年～ H25～ H25年 H29年	<p>学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。</p> <p>講義（薬物治療学、疾病解析学）では可能な限り症例を提示し、実例から学生の理解を高めている。</p> <p>事前実習ではSPとのロールプレイを導入し、かつスモールグループで適切なコーチングを行いながら、段階的なステップアップを目指した実習展開を工夫している</p> <p>病院薬剤部を兼務し、病院実務実習では、薬剤師と協働しながら実習を行っている</p> <p>事前実習において、実習項目ごとにループリックを作成し、評価の観点を可視化している。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	H24 H25 H26 H27 H28 H29	<p>北里大学薬学部病院・薬局実習、事前実習実習書</p> <p>病気と薬物療法 循環器疾患</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	H25.3.30 H26.3.30 H27.3.26 H27.10	<p>病院実務実習における電子カルテシステム導入の影響と有用性(日本薬学会133年会)</p> <p>薬学生の病院実務実習の満足度と就職動向への影響に関する検討(日本薬学会134年会)</p> <p>医療面接実習における段階的ステップアップを目指した指導の試み(日本薬学会135年会)</p> <p>Clinical pharmacy education in Japan; The education for developing communication skill and problem solving ability learning by lab preliminary education and pharmacy experience training (2015 ACCP Global Conference on Clinical Pharmacy)</p>	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H24～ H27.10 H27.7	<p>薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。</p> <p>事前実習小委員会委員、OSCE実施小委員会委員・OSCE医療面接ステーション責任者</p> <p>日本薬学会第1回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ参加</p> <p>認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップへの参加</p>	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 病気と薬物療法 循環器疾患・救急医療／血液疾患	共著	平成29年6月	オーム社
(著書) 病気とくすり 基礎と実践 Experts Guide 2017	共著	平成29年3月	南山堂
(論文) A pharmacokinetics of ketamine and norketamine after oral administration of a liquid formulation of ketamine in healthy volunteers	共著	平成25年	J Curr Surg vol.3 No.2
(論文) 飛散したロイケリン®散10%の環境曝露に配慮した清掃処理法—調剤現場での実施例—	共著	平成28年3月	日病薬学会誌(第52巻第3号)
(論文) 二次救急病院の救急センターにおける医薬品の使用実態と適正使用にむけての評価	共著	平29年3月	薬事新報 第2986号

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
GLP-1受容体作動薬による胃腸障害の臨床的検討	平成29年5月	日本糖尿病学会
肝線維化進展・改善の評価における肝線維化マーカーの有用性に関する検討	平成29年7月	医療薬学フォーラム 2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム
ICUの重症病態患者における栄養評価	平成29年7月	医療薬学フォーラム 2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム
B型肝炎ウイルス再活性化リスクに対するスクリーニング検査の実施	平成29年8月	日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会
当院泌尿器科における術後抗血栓薬の再開管理	平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年5月～	東京都女性薬剤師会理事	
平成28年2月	厚生労働省薬剤師生涯教育推進事業 復職及び生涯現役を希望する薬剤師のためのセミナー	
平成29年3月～	日本医療薬学会論文審査員（英語版）	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 衛生化学	職名 講師	氏名 熊谷 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義担当：衛生化学I、衛生化学II 毎年授業評価アンケートを取り、学生からの意見を 次年度の講義にフィードバックさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2016年7月26日	薬学部FDセミナーにて発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			平成26年度後期薬学部優秀教育賞受賞
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Functional interaction between cyclooxygenase-2 and p53 in response to an endogenous electrophile.	共著	2015年12月	Redox Biol. Vol. 4
(論文) Nrf2 up-regulates the induction of acidic sphingomyelinase by electrophiles.	共著	2015年8月	J. Biochem. Vol. 158 No. 2
(論文) Acidic sphingomyelinase induced by electrophiles promotes proinflammatory cytokine production in human bladder carcinoma ECV-304 cells.	共著	2012年3月	Arch. Biochem. Biophys. Vol. 519 No. 1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
SMS2過剰発現細胞におけるGPx4欠損による新規細胞死の抑制機構の解析		2017年6月	第70回日本酸化ストレス学会学術集会
SMS2過剰発現細胞における脂質過酸化依存的な新規細胞死抑制機構の解析		2017年9月	フォーラム2017衛生薬学・環境トキシコロジー
GPx4欠損マウスを用いた脂質過酸化依存的に発現誘導される遺伝子群の同定		2018年1月	第29回ビタミンE研究会
GPx4欠損マウスを用いた脂質過酸化依存的に発現誘導される遺伝子群の同定		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
2012年～	日本薬学会会員		
2012年～	日本酸化ストレス学会会員		
2012年～	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 学習支援室	職名 助教	氏名 倉持 有香
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 1) 病院・薬局実務実習事前実習(4年次前期・後期) 2) 学習支援(5年次・6年次) 他1件	平成24年～平成29年 平成29年	事前実習のうち、医薬品情報実習、調剤と調剤薬鑑査実習、注射剤調剤実習、薬物中毒分析、保険薬局調剤のロールプレイング実習を担当。学生による授業評価アンケートにおいて毎年度高い評価点を得た。(5段階中4以上) 実務実習前後の学生を対象に、実務・薬物治療の学習についてのサポートを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 病院・薬局実務実習〔病院実習〕実習書・実習テキスト	平成24年～平成28年	実務実習委員として、実習書及び実習テキストを作成し毎年改定を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 病院実務実習における実習施設への常駐教員の必要性	共著	平成24年5月	医療薬学(第38巻第11号)
(論文) ロスバスタチンとマグネシウム含有製剤の併用がlow-density lipoprotein cholesterol (LDL-C)に与える影響	共著	平成28年10月	日本病院薬剤師会雑誌(第52巻第10号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成24年10月	神奈川県病院薬剤師会くすりと健康すこやかフェア薬の相談コーナー担当		
	日本薬学会会員		
	医療薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅱ	職名 准教授	氏名 黒山政一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年	学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を参考に、随時、授業内容や配布資料など教育方法等の見直しを行っている。	
	毎年	演習問題を盛り込んだ理解しやすい資料を作成し、講義においてはパワーポイントを用いて丁寧に解説し、学生の理解を高めている。	
	毎年	病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。実務実習中に、全学生と面談し、問題点の把握と改善に努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	毎年改定	北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書	
	毎年改正	各講義における配布資料(パワーポイント)	
	2016年11月15日	薬物治療学Ⅱ教科書；病気と薬物－精神疾患神経筋疾患－(オーム社)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2016年10月9日	グローバル人材育成を目指した薬学生双方向国際交流(第49回日本薬剤師学会大会)	
	2017年9月2日	北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討—平成31年度改訂コアカリ実施に向けて—(第2回日本薬学教育学会大会)	
	2017年9月2日	北里大学東病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討—病棟実習における代表的8疾患の実施状況—(第2回日本薬学教育学会大会)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部FDセミナーに出席し、授業改善に反映している。 実務実習(小)委員会委員として活動している	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 違いがわかる! 同種同効薬(改訂2版)	共著(編集)	平成27年3月	南江堂
(著書) いちばん適切な薬剤が選べる 同効薬比較ガイド2	共著(編集)	平成27年7月	じほう
(著書) 続々違いがわかる! 同種同効薬	共著(編集)	平成28年9月	南江堂
(著書) 薬剤師のための感染制御マニュアル	共著(編集)	平成29年4月	薬事日報社
(著書) キャラ勉! 抗菌薬データ	共著	平成29年10月	羊土社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リルゾール服用患者における肝障害に関する研究		2017. 7. 1	医療薬学フォーラム2017
オキシコドン徐放錠からフェンタニル貼付剤へオピオイドスイッチが排便に及ぼす影響に関する研究		2017. 7. 1	医療薬学フォーラム2017
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～平成29年11月	日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師部門試験委員会 委員		
平成21年2月～平成29年11月	厚生労働省 保険医療専門官		
平成23年4月～平成29年11月	日本医療薬学会 代議員		
平成25年2月～平成29年11月	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 幸村 知子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名 称
Lipid Peroxidation-Dependent Cell Death Regulated by GPx4 and Ferroptosis.	共著	2017	Curr. Top. Microbiol. Immunol. Vol.403 143-170
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
初代培養心筋細胞の協調的な拍動形成と拍動維持におけるGPx4とビタミンEの重要性		2017. 8	過酸化脂質・抗酸化物質学会
脂質酸化依存的新規細胞死は運動疲労心突然死の原因となる		2017. 12	第90回日本生化学会
黒酢成分による脂質酸化依存的心不全突然死の予防効果の解析		2018. 3	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年1月	ビタミンE研究会主催要員		
平成27年11月	第4回あしなが予防医学研究会主催要員		
平成29年5月	セレン研究会主催要員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生薬学	職名 助教	氏名 黄雪丹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年10月 2013年10月 2014年10月 2015年10月 2016年10月 2017年10月	生薬実習 生薬実習 生薬実習 生薬実習 生薬実習 生薬実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年9月 2013年9月 2014年9月 2015年9月 2016年9月 2017年9月	生薬実習書 生薬実習書 生薬実習書 生薬実習書 生薬実習書 生薬実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Cytotoxic activity of two natural sesquiterpene lactones, isobutyroylplenolin and arnicolide D, on human colon cancer cell line HT-29	共著	平成25年11月	Nat Prod Res. 2014;28(12):914-6.
Effect of Bai Resi Oil Liniment and its Components on Vitality and Melanin Producing Ability of Human G-361 Cells In vitro	共著	平成26年12月	CHINESE ARCHIVES OF TRADITIONAL CHINESE MEDICINE 2014;32(12):1673-7717
Synergistic Anticancer Activities of Natural Substances in Human Hepatocellular Carcinoma	共著	平成27年10月	Diseases 2015;3(4):260-281
The effects of Bairesi complex prescription (an Uygur medicine prescription) and its five crude herbal extracts on melanogenesis in G-361 cells	共著	平成28年3月	Evid Based Complement Alternat Med. 2016;2016:8415359.
Anti-steatosis compounds from leaves of Mallotus furetianus	共著	平成29年7月	Nat Prod Res. 2017;10:1-4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
漢方薬・生薬のMCF-7細胞におけるエストロゲン様活性とその血中への移行		平成29年9月	生薬学会
遠志のエストロゲン様作用を有する成分の単離・同定		平成30年3月	薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	学会会員		
	生薬学会論文レビュー		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物薬品製造学	職名 助教	氏名 小林 啓介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 微生物系実習 II		2017/5/10~6/29	土壌からの微生物の分離、生物学的検定法、微生物の二次代謝産物の抽出・精製法などの教育。
2 作成した教科書、教材、参考書 微生物薬品製造学実習書		2017/04~05	微生物系実習IIに関する内容
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Variation in the activity of distinct cytochalasins as autophagy inhibitors in human lung A549 cells isozyme by beauveriolide III in intact cells. Selective inhibition of sterol 0-acyltransferase 1 isozyme by beauveriolide III in intact cells. Selective inhibition of sterol 0-acyltransferase 1 isozyme by beauveriolide III in intact cells.	共著	2017	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> 494 , 641-647
Selective inhibition of sterol 0-acyltransferase 1 isozyme by beauveriolide III in intact cells. Selective inhibition of sterol 0-acyltransferase 1 isozyme by beauveriolide III in intact cells. Selective inhibition of sterol 0-acyltransferase 1 isozyme by beauveriolide III in intact cells.	共著	2017	<i>Sci. Rep.</i> 7 , 4163
Biseokeaniamides A, B and C, sterol 0-acyltransferase inhibitors from <i>Okeania</i> sp. marine Cyanobacterium.	共著	2017	<i>J. Nat. Prod.</i> 80 , 1161-1166
Discovery of SOAT2 inhibitors from synthetic smallmolecules.	共著	2016	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 26 , 5899-5901
Pseudopyronine B, an inhibitor of sterol 0-acyltransferase, produced by <i>Pseudomonas</i> sp. BYK11209.	共著	2017	<i>J. Antibiot.</i> 70 , 96-97
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
真菌由来dinapinone類が示す中性脂質蓄積阻害活性の作用機序解析		2017. 12	生命科学系学会合同年次大会
海洋由来放線菌KM15-11株からの含ハロゲン化合物の取得		2018. 03	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年1月～現在	日本薬学会会員		
平成25年3月～現在	日本脂質生化学会会員		
平成28年7月～現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 講師	氏名 小林 昌宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年度 平成28年度 平成29年度	北里大学病院美実務実習 北里大学病院美実務実習 臨床薬物動態学(授業評価4.61) 他2件
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年3月	北里大学病院実務実習テキスト(分担)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成29年7月	薬学部病院実務実習におけるチーム基盤型学習(TBL)の導入;バンコマイシンのTDM
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年度	薬学部薬学科1年生学年副担任
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
MRSA感染症の治療ガイドライン改訂版	共著	平成29年7月	杏林社
抗菌薬TDMガイドライン改訂版	共著	平成28年6月	杏林社
Population pharmacokinetic analysis and dosing	共著	平成28年4月	J Pharm Health Care Sci. 2016;2:9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
TDMに関連した臨床研究の進め方とポイント.TDM研究の研究計画書.		平成29年9月	第34回日本TDM学会・学術集会
薬学部病院実務実習におけるチーム基盤型学習(TBL)の導入;バンコマイシンのTDM		平成29年7月	MRSAフォーラム2017
III 学会および社会における主な活動			
平成22年6月～(現在)	日本化学療法学会 評議員		
平成27年10月～(現在)	Journal of Infection and Chemotherapy 常任編集委員		
平成29年4月～(現在)	日本医療薬学会 大学教員認定薬剤師制度委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 小林 義典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) アドバイザースタッフ養成講座開設・運営 漢方医薬学履修講座開設・運営		平成21年4月～ 平成21年4月～	NR・サブ・リミットアドバイザー、健康食品管理士養成校 東洋医学総合研究所薬剤部での薬局実務実習
2 作成した教科書、教材、参考書 セミナーテキスト(共著) セミナーテキスト(共著) セミナーテキスト(共著) セミナーテキスト(共著) セミナーテキスト(共著) セミナーテキスト(共著) 生薬学実習テキスト(共著) 生薬学実習テキスト(共著) 生薬学実習テキスト(共著) 生薬学実習テキスト(共著) 生薬学実習テキスト(共著) 生薬学実習テキスト(共著)		平成29年7月 平成28年7月 平成27年7月 平成26年7月 平成25年7月 平成24年7月 平成29年10月 平成28年10月 平成27年10月 平成26年10月 平成25年10月 平成24年10月	第39回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー 第38回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー 第37回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー 第36回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー 第35回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー 第34回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー Experimental Pharmacognosy 2017 Experimental Pharmacognosy 2016 Experimental Pharmacognosy 2015 Experimental Pharmacognosy 2014 Experimental Pharmacognosy 2013 Experimental Pharmacognosy 2012
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 新薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける漢方教育 学生の学ぶ意欲を引き出すのはあなた!学内事例紹介1		平成28年3月 平成25年3月	薬学雑誌, 136/ 3, 423-432 第11回北里大学高等教育開発センター講演会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬学生のための漢方医薬学 改訂第3版	共著	平成29年3月	南江堂
(著書) 天然医薬資源学 第6版	共著	平成29年2月	廣川書店
(著書) 薬用植物事典	共著	平成28年12月	エヌ・ティー・エス
(著書) 現代医療における漢方薬	共著	平成27年1月	南江堂
(著書) パートナー生薬学 改訂第2版	共著	平成24年4月	南江堂
(論文) 麻黄及びエフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFE)の鎮痛作用と副作用	単著	平成29年3月	薬学雑誌(第137巻第2号) p.187-194
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
福井県高浜町産ゴシュユの化学的品質評価		平成29年9月	日本生薬学会
ゴシュユのメタボリックプロファイリング; 1H-NMR及びGC/LCの比較		平成29年9月	日本生薬学会
川骨アルカロイドのTRPV1活性化能		平成29年9月	日本生薬学会
漢方薬・生薬のMCF-7細胞におけるエストロゲン様活性とその血中への移行		平成29年9月	日本生薬学会
麻黄及びEFEの鎮痛作用と副作用		平成29年8月	和漢医薬学会
麻黄の中樞神経興奮作用におけるエフェドリンアルカロイドの作用様式		平成29年8月	和漢医薬学会
当研究所における枇杷葉茶作製の試み及び枇杷葉湯の来歴		平成29年6月	日本東洋医学会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～	日本生薬学会関東支部長(植物観察会、見学会、生薬に関する懇談会等毎年主催)		
平成25年4月～	生薬天然物部会幹事(平成25年～28年:財務幹事、平成29年～庶務幹事)		
平成24年4月～	日本薬学会誌編集委員会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物薬品製造学	職名 講師	氏名 小山 信裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年11月27日 2017年5月31日	化学療法学Iに関して、授業評価を実施 微生物学実習IIに関して、授業評価を実施
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Indexing the Pseudomonas specialized metabolome enabled the discovery of poaeamide B and the bananamides.	共著	2016年10月	Springer Nature社、Nature Microbiology (2巻、16197)
(論文) A metabolomics guided exploration of marine natural product chemical space.	共著	2016年8月	Springer社、Metabolomics (12巻、145)
(論文) Sharing and community curation of mass spectrometry data with Global Natural Products Social Molecular Networking.	共著	2016年8月	Springer Nature社、Nature Biotechnol (34巻、828-837)
(論文) Anti-infectious agents against MRSA.	共著	2012年12月	MDPI、Molecules (18巻、204-224)
(論文) The nonantibiotic small molecule cyslabdan enhances the potency of β -lactams against MRSA by inhibiting pentaglycine interpeptide bridge synthesis.	共著	2012年11月	Public Library of Science社 PLoS One (7巻、e48981)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) MSネットワークアプローチが切り開く微生物資源からの新たな探索研究		2017年8月	第2回低・中分子創薬推進プラットフォーム
(演題名) Mass spectral library of microbial metabolomes for screening of antibiotics		2017年7月	International Union of Microbiological Societies 2017
III 学会および社会における主な活動			
2016年1月-現在	International Journal of Clinical Pharmacology & Pharmacotherapy 編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体分子解析学	職名 助教	氏名 齋藤康昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 学生の評価に対応した講義および実習内容の改善 学生の評価に対応した講義および実習内容の改善		平成29年 平成28年	講義および実習に対する学生の評価に基づき、毎回、講義および実習内容の改善を心がけている。 講義および実習に対する学生の評価に基づき、毎回、講義および実習内容の改善を心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学化学系実習書 オール北里チーム医療演習シナリオ (他1件)		平成29年 平成28年	科目「定量分析実習」の指定教材である「薬学化学系実習書」の改訂を行った。 平成29年度オール北里チーム医療演習に使用するシナリオの作製・改訂を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの参加		平成28年1月10, 11日	第16回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加し、全課程を修了した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Characterization of a homolog of mammalian serine racemase from <i>Caenorhabditis elegans</i> : the enzyme is not critical for the metabolism of serine in vivo.	共著	平成28年9月	Genes to Cells 21(9), 966-77
(論文) Identification of novel D-aspartate oxidase inhibitors by in silico screening and their functional and structural characterization in vitro.	共著	平成27年9月	J. Med. Chem. 58(18), 7328-40
(論文) Characterization of the enzymatic and structural properties of human D-aspartate oxidase and comparison with those of the rodent enzymes.	共著	平成27年2月	Biol. Pharm. Bull. 38(2), 298-305
(論文) Identification of novel D-amino acid oxidase inhibitors by in silico screening and their functional characterization in vitro.	共著	平成25年5月	J. Med. Chem. 56(5), 1894-907
(論文) Spatiotemporal localization of D-amino acid oxidase and D-aspartate oxidase during development in <i>Caenorhabditis elegans</i> .	共著	平成24年5月	Mol. Cell. Biol. 32(10), 1967-83
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Functions of D-aspartate oxidase in <i>C. elegans</i>		平成29年・7月	3rd International Conference of D-Amino Acid Research
(演題名) 線虫におけるD-アミノ酸オキシダーゼ欠損変異体の行動解析		平成30年・3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年1月～現在	日本薬学会会員		
平成20年1月～現在	日本分子生物学会会員		
平成20年1月～現在	D-アミノ酸学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 分子薬理学	職名 准教授	氏名 坂本 謙司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
医薬品安全性学1の授業評価		平成29年6月23日	医薬品安全性学1を受講した4年生を対象に授業評価アンケートを行った
薬理学実習2の実習評価		平成28年10月26日	薬理学実習2を受講した3年生を対象に実習評価アンケートを行った
2 作成した教科書、教材、参考書			
医薬品安全性学1 配布教材		平成29年5月-7月	医薬品安全性学1で担当する分野（薬物の有害作用、薬物相互作用、薬物依存・耐性、生殖発生毒性）の教材を作成した
薬理学実習2 実習書		平成29年7月	薬理学実習2において担当する組織観察、眼球、網膜変性疾患、生物統計学の実習書を作成した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
平成29年度薬学部FD講演会に参加		平成29年7月25日	東京コンソーシアムについて、優秀教育賞受賞者による講演、総合討論
平成28年度薬学部FD講演会に参加		平成28年7月26日	大学院講義の現状とあり方について、優秀教育賞受賞者による講演、総合討論
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Opioid receptor activation is involved in neuroprotection induced by TRPV1 channel activation against excitotoxicity in the rat retina.	共著	平成29年10月	Eur. J. Pharmacol. 812: 57-63
（論文）Apelin-36 is protective against N-methyl-D-aspartic-acid-induced retinal ganglion cell death in the mice.	共著	平成28年11月	Eur. J. Pharmacol. 791: 213-220
（論文）High-mobility group Box-1 is involved in NMDA-induced retinal injury the in rat retina.	共著	平成27年8月	Exp. Eye Res. 137: 63-70
（論文）P2X7 receptor antagonists protect against N-methyl-D-aspartic acid-induced neuronal injury in the rat retina.	共著	平成27年6月	Eur. J. Pharmacol. 756: 52-58
（論文）Hydrogen sulfide attenuates NMDA-induced neuronal injury via its anti-oxidative activity in the rat retina.	共著	平成26年3月	Exp. Eye Res. 120: 90-96
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Brilliant Blue Gはマウスlipopolysaccharide誘発視細胞傷害を抑制する		平成29年9月	第37回日本眼薬理学会
（演題名）グループⅢ代謝型グルタミン酸受容体刺激薬がマウス網膜神経傷害に与える影響		平成30年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成21年8月～現在	日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人		
平成22年10月～平成26年10月、平成28年10月～	日本薬理学会 代議員		
平成24年7月～現在	国家公務員採用試験（生物）試験専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 坂本 太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年11月22日 平成28年11月11日 平成27年10月23日	学生による授業評価を行い改善点等精査した(ゲノム医学、他2件)。 学生による授業評価を行い改善点等精査した(ゲノム医学、他2件)。 学生による授業評価を行い改善点等精査した(ゲノム医学、他2件)。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年11月22日 平成28年11月11日 平成27年10月23日	ゲノム医学講義プリント(他2件) ゲノム医学講義プリント(他2件) ゲノム医学講義プリント(他2件)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Hydrogen peroxide produced by superoxide dismutase SOD-2 activates sperm in <i>Caenorhabditis elegans</i> .	共著	平成29年9月	The Journal of Biological Chemistry, Vol.292
(論文) Lipid peroxidation-dependent cell death regulated by GPx4 and ferroptosis.	共著	平成28年12月	Curr. Top. Microb. Immunol., Vol.403
(著書) サイトカイン・増殖因子キーワード事典	共著	平成27年4月	羊土社
(論文) Deletion of the four phospholipid hydroperoxide glutathione peroxidase genes accelerates aging in <i>Caenorhabditis elegans</i>	共著	平成26年10月	Genes to Cells, Vol.19
(論文) Spatiotemporal Localization of D-Amino Acid Oxidase and D-Aspartate Oxidases during Development in <i>Caenorhabditis elegans</i>	共著	平成24年5月	Mol. Cell Biol., Vol.32
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Hydrogen peroxide produced by superoxide dismutase SOD-2 activates sperm in <i>Caenorhabditis elegans</i> .		平成29年12月	8th Joint Meeting of SFRR A+J
(演題名) 線虫の寿命制御におけるリン脂質ヒドロペルオキシドの機能解析		平成29年5月	新学術領域リポクオリティ第1回若手研究発表会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年1月～平成28年3月	日本薬学会第136年回組織委員会プログラム編成委員		
平成27年6月～平成27年11月	第4回あしなが予防医学研究会組織委員		
平成26年5月～平成27年1月	第26回ビタミンE研究会組織委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 放射性同位元素研究室	職名：専任講師	氏名 坂本 光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年度～29年度 平成28年度、 29年度	授業評価の実施：毎年6月または7月 授業評価アンケートの結果を踏まえ、作成した教科書とプリントの講義での使用割合を段階的に変更。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年7月1日 平成28年4月1日 講義の都度(平成29年度 前期を除く)	「放射薬品学実習」(実習書)改訂版：研究室発行 「放射薬品学」単著：京都廣川書店より出版 講義用プリント：放射薬品学、薬物治療学3、薬学総合演習
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)放射薬品学	共著	平成27年12月	南江堂
(著書)薬学放射化学	単著	平成29年3月	京都廣川書店
(論文) Autocrine regulation of UVA-induced IL-6 production via release of ATP and activation of P2Y receptors.	共著	平成27年6月	PLOS ONE Vol. 10 No. 6
(論文) Purinergic signaling mediates oxidative stress in UVA-exposed THP-1 cells.	共著	平成27年2月	Toxicol. Rep. Vol. 2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) TRPV1阻害剤がメラノーマの浸潤能に及ぼす影響		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) UVA誘導性MMP-1発現でのHMGB1のバイスタンダー効果		平成30年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年度～平成29年度	放射線業務従事者講習会実施(定期：毎年2月、4月、他に不定期実施)		
平成28年度	日本薬学会第136年会組織委員会プログラム編成委員		
平成28年度(平成28年3月27日～)	平成28年度薬学教育協議会放射薬学担当教員会議世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 化学系共有機器室	職名 助教	氏名 佐藤 倫子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 核磁気共鳴装置の講習会を行う		通年	機器の操作方法を個別に指導し、その後実際に操作を行いながら使用方法を学ぶ
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) New steroidal compounds from an actinomycete strain, <i>Lechevalieria aerocolonigenes</i> K10-0216	共著	平成26年12月	J. Antibiot. 2015, 68, 345-350.
(論文) Mangromicin C, a new analog of mangromicin	共著	平成26年10月	J. Antibiot. 2015, 68, 220-222.
(論文) New dinapinone derivatives, potent inhibitors of triacylglycerol synthesis in mammalian cells, produced by <i>Talaromyces pinophilus</i> FKI-3864.	共著	平成25年3月	J. Antibiot. 2013, 66, 179-189.
(論文) The monoclonal antibody HCM31 specifically recognises the Sda tetrasaccharide in goblet cell mucin.	共著	平成24年6月	FEBS Open Bio. 2012, 2, 223-233.
(論文) Synthesis and antimycobacterial activity of calpinactam derivatives	共著	平成24年10月	Bioorg. Med. Chem. Lett. 2012, 22, 7739-7741.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部 薬物治療学Ⅳ	職名 助教	氏名 塩見 めぐみ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月	学生による事前実習、病院実務実習評価を実施し、実習内容を適宜点検し、改善を行なっている	
	2013年4月	学生による事前実習、病院実務実習評価を実施し、実習内容を適宜点検し、改善を行なっている	
	2014年4月	学生による事前実習、病院実務実習評価を実施し、実習内容を適宜点検し、改善を行なっている	
	2015年4月	学生による事前実習、病院実務実習評価を実施し、実習内容を適宜点検し、改善を行なっている	
	2016年4月	学生による事前実習、病院実務実習評価を実施し、実習内容を適宜点検し、改善を行なっている	
	2017年4月	病院薬剤部職員と協働して薬学部5年生病院実務実習内容を検討し実施	
	2017年7月	病院薬剤部職員と協働して薬学部1年生早期体験実習内容を検討し実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年4月	平成24年度北里大学薬学部病院実務実習書	
	2013年4月	平成25年度北里大学薬学部病院実務実習書	
	2014年4月	平成26年度北里大学薬学部病院実務実習書	
	2015年4月	平成27年度北里大学薬学部病院実務実習書	
	2016年4月	平成28年度北里大学薬学部病院実務実習書	
	2017年4月	平成29年度北里大学薬学部病院実務実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬学会第133年会 (学会発表)	2013年3月30日	病院実務実習における電子カルテシステム導入の影響と有用性	
日本薬学会第134年会 (学会発表)	2014年3月30日	薬学生の病院実務実習の満足度と就職動向への影響に関する検討	
日本薬学会第135年会 (学会発表)	2015年3月26日	医療面接実習における段階的ステップアップを目指した指導の試み	
2015 ACCP Global Conference on Clinical Pharmacy (学会発表)	#####	Clinical pharmacy education in Japan; The education for developing communication skill and problem solving ability learning by lab preliminary	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年～	薬学部FDセミナーに毎年参加	
	2015年7月1日	教員6年目研修参加	
	2017年4月30日	認定実務実習指導薬剤師アドバンスワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) GLP-1受容体作動薬の使い分けについて	単著	平成27年10月	CDEJ News Letter (第48号)
(論文) リラゲルチドの治療効果評価時期および血糖改善効果の予測因子に関する検討	共著	平成29年5月	糖尿病 (第60巻第5号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GLP-1受容体作動薬による胃腸障害の臨床的検討		平成29年5月	第60回日本糖尿病学会学術集会
(演題名) ICUの重症病態患者における栄養評価		平成29年7月	医療薬学フォーラム2017
(演題名) アスピリン喘息リスク評価に基づく鎮痛薬使用アルゴリズムの有用性についての検討		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) 当院泌尿器科における術後抗血栓薬の再開管理		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年3月～	日本薬学会会員		
平成25年4月～	日本医療薬学会会員		
平成26年5月～	日本糖尿病学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生物分子設計学	職名 教授	氏名 志鷹真由子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24～29年度 平成24～29年度	薬学科・生命創薬科学科の両学科に共通の科目、学科に特化した科目があるため、履修する学生に応じた教育内容・方法を実施している。 授業評価を基にし、教育内容・方法の改善を実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24～29年度 平成24～29年度	生命物理化学Ⅰ、生命物理化学Ⅱ、構造生命科学の教材の作成 生命物理化学実習の実習書の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24～29年度 平成25～29年度	チューターとして、学生の勉学・大学生活など全般のサポートを実施している。 学年主任として、学生の勉学・大学生活など全般のサポートを実施している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Residue-residue interactions regulating the Ca ²⁺ -induced EF-hand conformation changes in calmodulin	共著	2017年10月	J. Biochem., 162, 259-270, 2017.
(論文) Comprehensive analysis of the Co-structures of dipeptidyl peptidase IV and its inhibitor	共著	2016年8月	BMC Struct. Biol., 16:11, 2016.
(論文) CAB-align: a flexible protein structure alignment method based on the residue-residue contact area	共著	2015年10月	PLoS One, 10, e0141440, 2015.
(論文) Molecular recognition study on the binding of calcium to calbindin D9k based on 3D reference interaction site model theory	共著	2014年10月	J. Phys. Chem. B., 118, 11496-11503, 2014.
(論文) Community-wide evaluation of methods for predicting the effect of mutations on protein-protein interactions	共著	2013年11月	Proteins, 81, 1980-1987, 2013.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) CASP12/CAPRI Round 37にみるタンパク質複合体立体構造予測の評価と現状		2017年11月	第45回構造活性相関シンポジウム
(演題名) スレオニルtRNA合成酵素において高度に保存されたアミノ酸とその機能の物理化学的考察		2017年9月	第11回分子科学討論会
III 学会および社会における主な活動			
2008年8月～現在	日本薬学会構造活性相関部会常任幹事		
2013年2月～現在	日本薬学会関東支部幹事		
2015年2月～現在	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物動態学	准教授	篠崎 公一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年度～平成29年度	毎年度、TDM事前実習及び臨床薬物動態学(4年生対象)の授業評価を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年6月30日	OptjWin Spreadsheet TDM症例解析テキスト (株式会社じほう)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年9月29日～ 平成28年9月24日	「患者のPK解析・投与設計の留意点」と題して第52、54、56、58、60回薬物治療モニタリング研究会特別ゼミナールで講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年3月9日～ 平成29年3月12日	「TDMにおけるPCの活用」と題する講演と薬物動態解析の指導を第57、59、61回薬物治療モニタリング研究会特別ゼミナールで行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) OptjWin Spreadsheet TDM症例解析テキスト	共著	平成27年6月	株式会社じほう
バンコマイシンの施設の患者特異性を考慮した母集団薬物動態モデルの検討	共著	平成29年6月	TDM研究(第34巻第2号)
母集団薬物動態モデル6種のパラメータ代表値によるバンコマイシン血中濃度予測性の現状	共著	同平成27年9月	TDM研究(第32巻第3号)
Longitudinal monitoring of CYP3A activity in patients receiving 3 cycles of itraconazole pulse therapy for onychomycosis.	共著	平成26年4月	J Clin Pharm & Therap(39巻第2号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リチウムのTDM実施方法に関する薬物動態学的考察		平成29年9月	第34回日本TDM学会学術大会
潰瘍性大腸炎患者のタクロリムスTDM用ソフトウェアの作成とその有用性		平成29年9月	第34回日本TDM学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～平成29年11月	薬物治療モニタリング研究会幹事(代表幹事)		
平成24年4月～平成26年3月	財団法人医薬情報担当者教育センター試験委員		
平成24年4月～平成29年11月	日本TDM学会論文審査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生化学	職名 講師	氏名 柴垣 芳夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年9月～12月	生化学I講義	生化学実習
	2015年9月～12月	生化学I講義	生化学実習
	2017年9月～12月	生化学I講義	生化学実習
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年(出版予定) 2015年1月	レーニンジャー新生化学7版(共訳) レーニンジャー新生化学7版(共訳)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年 2016年 2017年	FD講演会出席 FD講演会出席 FD講演会出席	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
An efficient screening system for influenza virus cap-dependent endonuclease inhibitors.	共著	平成26年	<i>J Virol Methods.</i> 202:8-14. (2014)
Rheb protein binds CAD (carbamoyl-phosphate synthetase 2, aspartate transcarbamoylase, and dihydroorotase) protein in a GTP- and effector domain-dependent manner and influences its cellular localization and carbamoyl-phosphate synthetase (GPSase) activity.	共著	平成27年	<i>J Biol Chem.</i> 290(2):1096-105 (2015)
Identification of 4-Trimethylaminobutyraldehyde Dehydrogenase (TMABA-DH) as a Candidate Serum Autoantibody Target for Kawasaki Disease.	共著	平成27年	<i>PLoS One.</i> 26;10(5):e0128189 (2015)
CCT2 Mutations Evoke Leber Congenital Amaurosis due to Chaperone Complex Instability.	共著	平成28年	<i>Sci Rep.</i> 20;6:33742 (2016)
Mechanistic insights into ectodomain shedding: susceptibility of CADM1 adhesion molecule is determined by alternative splicing and O-glycosylation.	共著	平成29年	<i>Sci Rep.</i> 10;7:46174. (2017)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Cap-snatching 反応をターゲットとした抗インフルエンザ薬スクリーニング		平成27年12月	分子生物学会
Cap-snatching 反応をターゲットとした抗インフルエンザ薬スクリーニング		平成28年12月	分子生物学会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年7月	日本プロテオーム学会大会事務局員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学IV	職名 講師	氏名 渋谷 清
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24～29年度	<p>国家試験出題問題を盛り込んだ資料を作成し、講義においてパワーポイントを用いて解答に至る過程を丁寧に解説し、学生の理解を高めている。</p> <p>発展学習のために、臨床現場で発生する事例を盛り込み、理解を深めさせるとともに、最新の情報も提供している。</p> <p>病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24～29年度	・北里大学メディカルセンター薬学部病院実務実習書（診療報酬、医療安全）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		<p>平成24～29年度</p> <p>平成28年度～平成29年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。 ・OSCE実施小委員会委員 ・病院職員に対して、医療安全関連教育研修会を年2回実施している。 ・広報委員会委員（受験生の進路相談等）の学内委員 ・病院薬剤師向け病院薬学研修会座長
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) 飛散したロイケリン散10%の環境曝露に配慮した清掃処理法—調剤現場での実施例—	共著	2016年3月	日本病院薬剤師会雑誌 第52/ 3, 287-291

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
内服HDの簡易懸濁時における経管栄養シミュレータとリボフラビン製剤を用いた視覚的な環境曝露の実態調査と曝露対策の検討	2017/7/2	医療薬学フォーラム2017
当院泌尿器科における術後抗血栓薬の再開管理	2017/11/4	第27回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成11年4月～平成28年5月	埼玉県病院薬剤師会 広報委員会委員	
平成28年5月～平成30年4月	埼玉県病院薬剤師会 理事 広報委員会委員長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 医薬品化学	職名 助教	氏名 嶋田 修之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年4月	医薬品化学実習(2年前期)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年9月	医薬品構造学(3年後期)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Deprotection of Silyl Ethers by Using S03H Silica Gel	共著	平成29年7月	Tetrahedron 2017, 73, 5425
C1'-Azacycloalkyl Hexahydrocannabinols	共著	平成29年7月	J. Org. Chem. 2017, 82, 7839
Regioselective, Tin-Free Sulfation of Unprotected Hexopyranosides	共著	平成28年1月	Eur. J. Org. Chem. 2016, 902
Asymmetric Total Synthesis of (-)-Engrelin A	共著	平成27年7月	Chem. Eur. J. 2015, 17, 13992
Enantioselective Palladium(0)-Catalyzed Nazarov-Type Cyclization	共著	平成27年4月	Angew. Chem. Int. Ed. 2015, 54, 6288
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ボロン酸/パラジウム協働触媒系を用いた無保護糖の位置および立体選択的グリコシル化反応		平成29年11月	第43回反応と合成の進歩シンポジウム
ボロン酸触媒を用いた無保護糖の位置選択的官能基化およびグリコシル化反応の開発		平成29年9月	第59回天然有機化合物討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年5月	第15回次世代を担う有機化学シンポジウム世話人		
平成28年11月～	日本薬学会化学系薬学部会次世代シンポジウム世話人		
平成28年3月	日本薬学会第136年会組織委員会プログラム編成委員		
平成24年1月～	学術論文審査員(Tetrahedron, Tetrahedron Lett., Chem. Lett., Chem. Pharm. Bull. 他)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生物分子設計学	職名 助教	氏名 下山紘充
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			構造生命科学(講義)、生命物理化学実習、他2件
2 作成した教科書、教材、参考書			構造生命科学用ハンドアウト、生命物理化学実習用テキスト、生命物理化学実習用OS、生命物理化学用ハンドアウト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
新しい薬学事典、「タンパク質の立体構造と創薬」	共著	平成29年6月	朝倉書店
(論文) Community-wide evaluation of methods for predicting the effect of mutations on protein-protein interactions.	共著	平成25年11月	Proteins, vol. 81
(論文) Quality assessment methods for 3D protein structure models based on a residue-residue distance matrix prediction.	共著	平成26年4月	Chem. Pharm. Bull., vol. 62
(論文) Residue-residue interactions regulating the Ca ²⁺ -induced EF-hand conformation changes in calmodulin.	共著	平成29年3月	J Biochem., vol. 162
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～平成30年3月	生物物理学会会員		
	CBI学会会員		
	JSBi会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生薬学	講師	氏名 白畑辰弥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年6月19日	生薬学I (授業評価)	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Synthesis of Bisdesmosidic Oleanolic Acid Saponins via a Glycosylation-Deprotection Sequence under Continuous Microfluidic/batch Conditions	共著	平成29年5月	The Journal of Organic Chemistry, Vol82, Page 6703-6719.
(著書) γ -Ionylidene-type sesquiterpenoids possessing antimicrobial activity against Porphyromonas gingivalis, from Phellinus linteus and their absolute structure determination.	共著	平成29年2月	The Journal of Antibiotics, Vol 70, Page 695-698.
(論文) Syntheses and mucosal adjuvant activity of simplified oleanolic acid saponins possessing cinnamoyl ester.	共著	平成29年1月	Bioorganic Medicinal Chemistry Vol25, Page 1747-1755.
(論文) Asymmetric Total Synthesis of Neoxaline	共著	平成25年1月	Journal of the American Chemical Society, Vol135, Page 12568-12571.
(著書) フローリアクターを利用したサポニンの合成研究	共著	平成29年10月	生薬・薬用植物研究の最新動向, シーエムシー出版
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ゴシユのメタボリックプロファイリング; 1H-NMR及びGC/LCの比較		平成29年9月	日本生薬学会第64回年会
(演題名) 福井県高浜町産ゴシユの化学的品質評価		平成29年9月	日本生薬学会第64回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成21年3月	日本薬学会 ファルマシアトピックス小委員 (学会には引き続き入会中)		
平成27年4月～平成30年3月現在	日本生薬学会 生薬学会誌編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 社会薬学	職名 教授	氏名 鈴木 順子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年4月 平成28年4月 平成27年4月	<ul style="list-style-type: none"> ●薬学新コアカリキュラムに合わせた新規科目「臨床検査学」の導入とシラバス策定・講義実施 ●薬学新コアカリキュラムに合わせた「臨床生理学」の配置変更とシラバス整備 ●臨床生化学の教育内容再検討及び30年度実施に向けたシラバス策定 ●臨床栄養学のスキルトレーニング方法の検討と30年度実施に向けたプラン策定 ●社会薬学実習における認知症サポーター養成講座導入、ピア評価の導入 	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年4月 平成28年4月 平成26年4月	<ul style="list-style-type: none"> ●薬事法規・制度・倫理マニュアル(南山堂) ●第102回薬剤師国家試験問題解答・解説 他 内部教材10件 ●薬剤師の訪問業務(11月) ●保険薬剤師のための薬担ハンドブック他内部教材11件 ●在宅訪問薬剤管理業務を始める時(5月) ●薬学と社会(評言社) 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成29年7月 平成25年9月 平成25年12月	<ul style="list-style-type: none"> (講演) 北里大学大学院・薬学部FDセミナー (講演) 高崎健康福祉大学 薬学部FDセミナー (講演) 武蔵野大学 薬学部FDセミナー 	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成29年12月 平成29年10月 平成29年5、6月	<ul style="list-style-type: none"> ●高校出張講義 ●薬剤師生涯教育セミナー(11月) ●学生チームによる医療関連アンケート活動(港区提携事業) ●港区提携事業「みなと区民大学」における薬剤師と薬学 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(報告)危険ドラッグ等の乱用防止のより効果的な普及啓発に関する特別研究 (H28-特別一指定-016)	共著	平成29年3月	公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター
(著書)薬事法規・制度・倫理マニュアル	共著	平成29年4月	株式会社 南山堂
(著書)日本薬学会編 薬学総論 II 薬学と社会	共著	平成28年4月	株式会社 東京化学同人
(著書)薬事関連法規 改訂第4版	共著	平成27年3月	株式会社 南江堂
(著書)スーパー総合医 高齢者外来診療	共著	平成26年12月	株式会社 中山書店
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
精神科領域シンポジウム1 『超高齢・人口減少社会を支える精神薬学』		平成29年8月	日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会
精神科病院に入院した在宅高齢がん患者との関わり—精神症状コントロールに貢献できた1例—		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～平成33年3月	一社)日本緩和医療薬学会 監事		
平成28年4月～平成30年3月	日本社会薬学会 常任幹事		
平成28年4月～平成30年3月	港区在宅緩和ケア支援推進協議会委員		
平成26年2月～	厚生労働省 薬剤師再教育研修 「法令の遵守と薬剤師の倫理」担当		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体制御学	職名 教授	氏名 鈴木幸男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成28年	臨床医学概論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの科目責任者 アレルギー学、呼吸器内科学、病理学、病態評価学
2 作成した教科書、教材、参考書		平成28年1月 平成28年6、10月	平成28年度 事前実習書 平成28年度 演習試験Ⅰ、Ⅱ 解答解説書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			OSCE、FDにも積極的に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
呼吸器疾患	共著	平成29年9月	ステロイド療法の極意(じほう)
急性高山病	共著	平成29年1月	今日の治療指針2017(医学書院)
わが国における電子タバコの現状と問題点	単著	平成29年1月	臨床環境医学(第26巻1号)
肺炎	単著	平成29年年3月	薬局 増刊号(第68巻4号)
呼吸器疾患	単著	平成28年7月	薬事(第58巻10号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
急速な胸水貯留を左右それぞれに来したprimary effusion lymphoma-like lymphomaの1例		平成29年5月	日本内科学会
より良いCOPD治療のために		平成29年3月	Respiratory Research Forum
III 学会および社会における主な活動			
平成29年7月	禁煙指導スキルアップセミナー		
平成27年5月	第24回日本臨床環境医学会学術集会 主催		
	日本禁煙学会論文審査員		
平成29年7月	成人用肺炎球菌ワクチン		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体分子解析学	職名 助教	氏名 関根 正 恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年度	定量分析実習, 生体分子解析学特論	
	平成25年度	定量分析実習, 生体分子解析学特論	
	平成26年度	定量分析実習, 薬剤・分析学特論	
	平成27年度	定量分析実習, 薬剤・分析学特論	
	平成28年度	定量分析実習, 薬剤・分析学特論	
	平成29年度	定量分析実習, 薬剤・分析学特論	
			実習および講義に対する学生の授業評価に基づき、毎回、内容の改善を心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名 称
Nonaka S, Sekine M, Tsunoda M, Ozeki Y, Fujii K, Akiyama K, Shimoda K, Furuchi T, Katane M, Saitoh Y, and Homma H. Simultaneous determination of NG-monomethyl-L-arginine, NG,NG-dimethyl-L-arginine, and NG,NG'-dimethyl-L-arginine, and L-arginine using monolithic silica disk-packed spin columns and a monolithic silica column	共著	平成26年 (2014) 8月	J. Sep. Sci., 7/ 16, 2087-2094
Ozeki Y, Sekine M, Fujii K, Watanabe T, Okayasu H, Takano Y, Shinozaki T, Aoki A, Akiyama K, Homma H, Shimoda K. Phosphoserine phosphatase activity is elevated and correlates negatively with plasma d-serine concentration in patients with schizophrenia.	共著	平成28年 (2016) 3月	Psychiatry Res., 237, 344-350
Nonaka-Hashida S, Sekine M, Ozeki Y, Fujii K, Akiyama K, Shimoda K, Tsunoda M, Katane M, Saitoh Y, Miyamoto T, Homma H. Plasma concentrations of three methylated arginines, endogenous nitric oxide synthase inhibitors, in schizophrenic patients undergoing antipsychotic drug treatment.	共著	平成28年 (2016) 4月	Psychiatry Res., 238, 203-210

Takano Y, Ozeki Y, Sekine M, Fujii K, Watanabe T, Okayasu H, Shinozaki T, Aoki A, Akiyama K, Homma H, Shimoda K. Multi-regression analysis revealed a relationship between l-serine and methionine, a component of one-carbon metabolism, in the normal control but not in the schizophrenia.	共著	平成28年 (2016) 8月	Ann Gen Psychiatry., 15/ 1, 23
Hanai T, Sekine M, Homma H. Quantitative In Silico Analysis of Retention of Nitrobenzofurazan-Amino Acids in Reversed-Phase Ion-Pair Liquid Chromatography.	共著	平成28年 (2016) 11月	J Chromatogr Sci., 54/ 10, 1723-1726
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			
		発表年・月	学会名
Yasuaki Saitoh, Masumi Katane, Tetsuya Miyamoto, Masae Sekine, Taro Sakamoto, Hiroataka Imai, Hiroshi Homma Functions of D-aspartate oxidase in C. elegans		平成29年 (2017) 7月	3rd International Conference of D- Amino Acid Research IDAR2017
Tetsuya Miyamoto, Masumi Katane, Yasuaki Saitoh, Masae Sekine, Hiroshi Homma Identification and characterization of novel broad-spectrum amino acid racemases in bacteria		平成29年 (2017) 7月	3rd International Conference of D- Amino Acid Research IDAR2017
尾関祐二、関根正恵、藤井久彌子、高野有美子、岡安寛明、篠崎隆央、渡邊 崇、青木顕子、青木秀明、森 玄房、秋山一文、本間 浩、下田和孝 統合失調症患者におけるL-セリン合成酵素の遺伝情報と臨床症状との関係の検索		平成29年 (2017) 9月	第39回日本生物学的 精神医学会・第47回 日本神経精神薬理学 会合同年会
宮本哲也、小里拓也、和田大樹、片根真澄、齋藤康昭、関根正恵、本間 浩 細菌における非標準的D-アミノ酸合成酵素の同定及び機能解析		平成29年 (2017) 12月	ConBio2017
関根正恵、野中聖子、尾関祐二、藤井久彌子、齋藤康昭、宮本哲也、片根真澄、秋山一文、下田和孝、本間 浩 統合失調症患者血漿におけるメチルアルギニン類		平成29年 (2017) 12月	第39回白金シンポジ ウム
関根正恵、野中聖子、尾関祐二、藤井久彌子、角田 誠、齋藤康昭、宮本哲也、片根真澄、秋山一文、下田和孝、本間 浩 統合失調症患者血漿中メチルアルギニン類濃度の解析		平成30年 (2018) 3月	日本薬学会第138年 会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
	日本薬学会会員，日本生化学会会員，D-アミノ酸学会会員		
平成29年5月—現在	北里大学薬友会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 公衆衛生学	職名 助教	氏名 曾根 有香
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年11月6日 平成25年10月29日 平成26年10月28日 平成27年9月11日 平成27年10月21日 平成28年9月23日 平成28年10月18日 平成29年4月21日 平成29年10月31日	公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.23)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.26)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.31)・補助プリント改訂 健康科学 I (1コマ) (評価4.25)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.35)・補助プリント改訂 健康科学 I (1コマ) (評価4.09)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.41)・補助プリント改訂 公衆衛生学 I (1コマ) (評価4.80)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価待ち)・補助プリント改訂
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Mercurial-resistance determinants in <i>Pseudomonas</i> strain K-62 plasmid pMR68.	共著	2013年7月	AMB express vol.3 No. 41, 1-7
(論文) Role of MerC, MerE, MerF, MerT, and/or MerP in resistance to mercurials and the transport of mercurials in <i>Escherichia coli</i> .	共著	2013年8月	Biol Pharm Bull. vol. 36 No. 11, 1835-41
(論文) Increase methylmercury accumulation in <i>Arabidopsis thaliana</i> expressing bacterial broad-spectrum mercury transporter MerE.	共著	2013年9月	AMB express. Vol. 3 No. 52, 1-8
(論文) A novel role of MerC in methylmercury transport and phytoremediation of methylmercury contamination.	共著	2017年7月	Biol Pharm Bull. vol. 40 No. 7, 1125-1128
(論文) Cysteine and histidine residues are involved in <i>Escherichia coli</i> Tn21 MerE methylmercury transport.	共著	2017年11月	FEBS Open Bio in press
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) メチル水銀毒性発現へのオートファジーの関与		2017年7月	日本毒性学会
(演題名) Role of Mer in the transport of toxic metals in <i>Escherichia coli</i> .		2017年7月	FEMS 2017 7th Congress of European Microbiologists
(演題名) Molecular breeding of <i>Arabidopsis</i> plants with cell-type specific promoters and a bacterial mercury transporter MerC.		2017年7月	14th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements
(演題名) 亜ヒ酸応答におけるAtPCS1のC末端領域の機能解析		2017年9月	日本土壌肥料学会
(演題名) メチル水銀によるMAPキナーゼの活性化とオートファジー誘導		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) メチル水銀によるユビキチン結合蛋白質p62の発現誘導と防御機構の解析		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) Autophagy and sequestosome1/p62 play a protective role against low-dose methylmercury-induced cytotoxicity.		2018年3月	The 2018 SOT Annual Meeting and ToxExpo
III 学会および社会における主な活動			
平成19年12月～平成29年11月現在		日本薬学会正会員所属	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 放射性同位元素	職名 助教	氏名 高瀬 ひろか
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effect of lipid environment on amyloid fibril formation of human serum amyloid A	共著	平成29年 1月	ELSEVIER, Chem. Phys. Lipids, 202, 6-12
(論文) Structural requirements of glycosaminoglycans for facilitating amyloid fibril formation of human serum amyloid A	共著	平成28年 6月	Amyloid, 23, 67-75
(論文) Characterization of reconstituted high-density lipoprotein particles formed by lipid interactions with human serum amyloid A.	共著	平成26年10月	Biochim. Biophys. Acta., 1842, 1467-1474
(論文) Effect of amino acid variations in the central region of human serum amyloid A on the amyloidogenic properties.	共著	平成26年 1月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 444, 92-97
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) グリコサミノグリカンの硫酸基組成が血清アミロイドAの組織沈着に及ぼす影響		平成29年10月	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) TRPV1阻害剤がメラノーマの浸潤能に及ぼす影響		平成30年 3月	日本薬学会第138年会
(演題名) UVA誘導性MMP-1発現でのHMGB1のバスタグ-効果		平成30年 3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年 5月～現在	日本生化学会会員		
平成23年11月～現在	日本薬学会会員		
平成25年 8月～現在	日本ペプチド学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 公衆衛生学	職名 講師	氏名 高根沢康一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年4月10日 平成27年10月21日 他1件 平成28年4月8日 平成28年10月18日 他1件 平成29年4月14日 平成29年4月14日 他1件	健康科学Ⅱ (1コマ) (評価4.22)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.35)・補助プリント改訂 健康科学Ⅱ (2コマ) (評価4.31)・補助プリント改訂 公衆衛生学実習 (20日間) (評価4.41)・補助プリント改訂 公衆衛生学Ⅰ (1コマ) (評価4.68)・補助プリント改訂 健康科学Ⅱ (2コマ) (評価4.34)・補助プリント改訂	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年12月23日	OSCE外部評価者 (東邦大学)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Immunotoxic effect of low-dose methylmercury is negligible in mouse models of ovalbumin or mite-induced Th2 allergy.	共著	2016年3月	Biol Pharm Bull. 2016. 39(8), 1353-1358
(論文) Atg5-dependent autophagy plays a protective role against methylmercury-induced cytotoxicity.	共著	2016年11月	Toxicology Lett. 2016. 262, 135-141
(論文) A novel role of MerC in methylmercury transport and phytoremediation of methylmercury contamination.	共著	2017年4月	Biol Pharm Bull. 2017. 40(7), 1125-1128
(論文) Phytochelatin synthase has contrasting effects on cadmium and arsenic accumulation in rice grains.	共著	2017年8月	Plant Cell Physiol. 2017. 58(10), 1730-1742
(論文) Variation in the activity of distinct cytochalasins as autophagy inhibitors in human lung A549 cells.	共著	2017年11月	Biochem Biophys Res Commun, 2017. 494, 641-647
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) メチル水銀毒性発現へのオートファジーの関与		2017年7月	日本毒性学会
(演題名) Role of Mer in the transport of toxic metals in Escherichia coli.		2017年7月	FEMS 2017 7th Congress of European Microbiologists
(演題名) Molecular breeding of Arabidopsis plants with cell-type specific promoters and a bacterial mercury transporter MerC.		2017年7月	14th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements
(演題名) 亜ヒ酸応答におけるAtPGS1のC末端領域の機能解析		2017年9月	日本土壌肥料学会
(演題名) メチル水銀によるMAPキナーゼの活性化とオートファジー誘導		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) メチル水銀によるユビキチン結合蛋白質p62の発現誘導と防御機構の解析		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
(演題名) Autophagy and sequestosome1/p62 play a protective role against low-dose methylmercury-induced cytotoxicity.		2018年3月	The 2018 SOT Annual Meeting and ToxExpo
III 学会および社会における主な活動			
平成26年11月～平成29年11月	日本薬学会		
平成27年9月～平成29年11月	日本生化学会		
平成29年6月～平成29年11月	日本毒性学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部薬剤学教室	職名 助教	氏名 高野 修平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24～29年	学生の授業評価を元に毎年講義の改善を行っている
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24～29年	事前実習書「調剤と調剤薬監査」作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24～29年 平成24～29年 平成29年、26年	毎年学内のFDセミナーに参加している 事前実習委員会・OSCE実施小委員会委員として オール北里チーム医療演習ファシリテーター
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
OATP2B1によるestrone-3-sulfateの輸送におけるHis618の役割		平成30年・3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成30年3月～平成30年3月	日本薬学会会員		
	日本薬剤学会会員		
	日本薬物動態学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生体制御学	職名 助教	氏名 高橋 遼
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年5月	バイタルサイン実習
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 移植腎動脈解離に対してPTAが奏功した 高齢夫婦間生体腎移植の1例	単著	2017年9月	腎と透析 別冊
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 移植腎動脈解離に対してPTAが奏功した 高齢夫婦間生体腎移植の1例		2017年5月	腎不全外科研究会
(演題名) 腎臓病の診かたとサルコペニア・フレイル		2017年10月	腎と糖尿病フォーラム
III 学会および社会における主な活動			
平成29年10月9日	第5回RRS研究会 講演		
平成30年2月23日	第20回腎不全チーム医療研究会 講演		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部臨床医学 (臨床統計)	職名 教授	氏名 竹内 正弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・多元的業績評価		平成29年5月	(2) 授業・実習の改善・工夫についての評価は5段階の5であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・p値とは何か-統計を少しずつ理解する34章- (丸善出版) ・NIH臨床研究の基本と実際 (丸善出版)		平成25年1月 平成28年10月	統計学の入門書としてWhat Is p-value Anyway?を監訳した。 臨床研究の入門書としてPrinciples and Practise of Clinical Researchを監訳(分担)した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・Translational Statistics: As Tool of Quality Control of Clinical Research -Moving Beyond Traditional Statistics ・Data Science II: Concept of Clinical Trial and Biostatistics		平成29年10月 平成29年1月	神奈川県MISプレ講座において講義を英語で行った。 学生生命科学東京コンソーシアムの講義を英語で行った。(今年度以降も継続予定)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Moving beyond the4 Comfort Zone - The 13th Kitasato University-Harvard School of Public Health Symposium	共著	平成27年3月	臨床評価刊行会
(著書) Multiregional Clinical Trial: A Japanese Viewpoint (Multiregional Clinical Trials for Simultaneous Global New Drug Development)	共著	平成28年2月	CRC Press
(論文) S-1 versus placebo in patients with sorafenib-refractory advanced hepatocellular carcinoma (S-CUBE): a randomised, double-blind, multicentre, phase 3 trial	共著	平成29年6月	The Lancet Gastroenterology & Hepatology (vol2)
(論文) Enhancing Interpretability of Cancer Clinical Trial Results via Study Design and Analysis Using Restricted Mean Survival Time	共著	平成29年9月	JAMA Oncology (vol.4 No.1)
(論文) 再生医療における生物統計学の役割	単著	平成29年11月	再生医療 (第16巻4号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
On testing based on restricted mean survival time for time-to-event outcomes		平成29年5月	2017 Conference on Lifetime Data Science
Moving from the Confort Zone -Classical to Translational Statistics-		平成30年3月	一般社団法人日本循環器学会
III 学会および社会における主な活動			
平成16年3月～平成26年3月	一般社団法人日本癌治療学会 臨床試験委員会 専門委員		
平成18年4月～現在	一般社団法人日本外科学会 臨床研究推進委員会 臨床統計顧問		
平成22年4月～現在	一般社団法人レギュラトリーサイエンス学会 運営委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学教育研究センター 医療心理学部門	職名 助教	氏名 竹平理恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成28年度 平成29年度	4年生医療心理学における参加型授業推進のためのグループワーク実施 他1件 4年生事前実習②における導入と講義科目との連携 他3件
2 作成した教科書、教材、参考書		平成28年度 平成29年度	4年生事前実習②のルーブリック評価表作成 他2件 6年生演習講義における解説資料作成 他3件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成28年度 平成29年度	模擬患者参加型実習に関する発表 他2件 コミュニケーション教育に特化したルーブリックに関する発表 他1件
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成28年度 平成29年度	OSCEのための標準模擬患者養成講習会ファシリテーター OSCEのための標準模擬患者養成講習会ファシリテーター
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 添付文書がちゃんと読める統計学	共著	平成26年12月	じほう
(著書) 添付文書がちゃんと読める薬物動態学	共著	平成28年3月	じほう
(論文) Japanese Community Pharmacists' Practice Research Literacy	共著	平成27年9月	Pharmacology & Pharmacy, 6: 436-441
(論文) Effect of practical training on the learning motivation profile of Japanese pharmacy students using structural equation modeling	共著	平成29年2月	Journal of Educational Evaluation for Health Professions 2017;14:2
(論文) A multi-group modelling investigation of pharmacy practice training on the learning approach of Japanese pharmacy students	共著	平成29年10月	Pharmacy Education, 17 (1) 316 - 321
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬学教育研究実施にあたって必要とされる研究倫理教育—薬学教育に関する研究倫理ワークショップより見えてきた課題—		平成29年9月	第2回日本薬学教育学会大会
(演題名) 認知症患者への対応方法について—薬学生の考える認知症のイメージより—		平成29年9月	第2回日本薬学教育学会大会
(演題名) コミュニケーション教育に特化したルーブリック～統一性のある指導を目指した評価の観点と基準の設定～		平成29年9月	第11回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会
(演題名) 糖尿病患者の心理に配慮した対応の必要性～HbA1c 値の変動幅がQOL に及ぼす影響～		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) センシティブな内容に対する薬剤師のコミュニケーション傾向		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) 小児気管支喘息治療に関する保護者の意識調査		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会

(演題名) 北里大学におけるヒューマニズム教育～学生の気づきと薬剤師として求められる資質の関係～	平成30年3月	日本薬学会第138年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成24年4月～現在に至る	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会員 (平成28年4月～中外製薬共催のワークショップ (年2回) でファシリテーター)	
平成25年3月～平成29年2月	日本緩和医療薬学会社員 (評議員)	
平成26年度、平成27年度	教員免許状更新講習 講師 (計4回)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部生薬学	職名 助教	氏名 竹元裕明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年 平成28年 他4件	生薬学実習における説明に工夫を加えた 生薬学実習における説明に工夫を加えた	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年 平成28年 他4件	生薬学実習実習書 生薬学実習実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
A simple, enzymatic biotransformation method using fresh green tea leaves efficiently generates theaflavin-containing fermentation water that has potent physiological functions in mice and humans.	共著	2017年6月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.40 No.6
Theaflavin synthesized in a selective, domino-type, one-pot enzymatic biotransformation method with Camellia sinensis cell culture inhibits weight gain and fat accumulation to high-fat diet-induced obese mice.	共著	2016年8月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 No.8
Inhalation administration of the sesquiterpenoid aristolen-1(10)-en-9-ol from Nardostachys chinensis has a sedative effect via the GABAergic system.	共著	2015年3月	Planta Medica vol.81 No.5
Inhalation administration of valerena-4,7(11)-diene from Nardostachys chinensis roots ameliorates restraint stress-induced changes in murine behavior and stress-related factors.	共著	2014年6月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.37 No.6
Effects of L-citrulline diet on stress-induced cold hypersensitivity in mice.	共著	2014年10月	Pharmacognosy Research vol.6 No.4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
麻黄の中樞神経興奮作用におけるエフェドリンアルカロイドの作用様式		平成29年8月	和漢医薬学会
睡眠延長作用を示す白朮由来セスキテルペノイドの探索		平成30年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	日本薬学会会員		
平成24年4月～現在	学術雑誌査読		
平成28年8月～現在	和漢医薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学IV	職名 講師	氏名 田中 庸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年6月 平成29年4月 平成29年2月 平成28年 平成27年 平成26年 平成25年	薬物治療学IIの授業にて授業評価を実施 病院実務実習を連続性のあるスケジュールへ改訂 栄養科実習の実施について担当者と検討し、実施 病院実務実習の内容について薬剤部職員と打合せを 行い、医療現場での実習時間を増やした 病院実務実習の学生による実習評価の実施 病院実務実習の学生による実習評価の実施 病院実務実習の学生による実習評価の実施 病院実務実習の学生による実習評価の実施
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年2月 平成28年2月 平成27年2月 平成26年2月 平成25年2月	平成29年度病院実務実習実習書 平成28年度病院実務実習実習書 平成27年度病院実務実習実習書 平成26年度病院実務実習実習書 平成25年度病院実務実習実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2015年10月 2015年3月 2014年3月 2013年3月 2012年3月	病棟での患者情報収集と服薬指導の実施方法についてACCPGlobal Coonferenceにて発表(共同) 病棟での患者情報収集と服薬指導の実施方法について日本薬学会年会で発表(共同) 病院実務実習の学生満足度について日本薬学会年会で発表(共同) 病院実習の実施方法について日本薬学会年会で発表(共同) 病院実習の実施方法について日本薬学会年会で発表(共同)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年7月 平成29年4月 平成28年1月	薬学部FDセミナーに出席 認定実務実習認定薬剤師アドバンストワーク ショップへ参加 第4回医療人養成としての薬学教育に関するワーク ショップへ参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Interaction between NUDT15 and ABCC4 variants enhances intolerability of 6-mercaptopurine in Japanese patients with childhood acute lymphoblastic leukemia	共著	2017年4月	Pharmacogenomics J (in press)
(論文) Rapidity and Severity of Hemoglobin Decreasing Associated with Erythrocyte Inosine Triphosphatase Activity and ATP Concentration during Chronic Hepatitis C Treatment	共著	2016年4月	Biol Pharm Bull (39・4)
(論文) Susceptibility to 6-MP toxicity conferred by a NUDT15 variant in Japanese children with acute lymphoblastic leukaemia	共著	2015年10月	Br J Haematol (171・1)

(論文) Multidrug resistance protein 4 (MRP4) polymorphisms impact the 6-mercaptopurine dose tolerance during maintenance therapy in Japanese childhood acute lymphoblastic leukemia	共著	2015年8月	Pharmacogenomics J (15・4)
(論文) Methylenetetrahydrofolate reductase gene haplotypes affect toxicity during maintenance therapy for childhood acute lymphoblastic leukemia in Japanese patients	共著	2014年5月	Leukemia and Lymphoma (55・5)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) NUDT15ハプロタイプの6-メルカプトプリン感受性への影響		2018年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 高用量メソトレキセート療法におけるメソトレキセート濃度に影響を与える遺伝要因の検討		2017年11月	第59回日本小児血液・がん学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員会委員		
平成28年4月～	日本小児がん研究グループへ参加		
平成28年4月～	日本医療薬学会指導薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 助教	氏名 田中 怜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 早期体験学習（薬学部1年） 病院実務実習（薬学部5年） 他2件		平成26年8月～ 平成27年5月～	学生による授業評価やコメントを受けて頻繁に 実習内容の見直しを行っている他、病院職員と 協同し学生教育にあっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 臨床薬理学演習 薬学生病院実習テキスト		平成29年1月～ 平成29年1月～	講義資料 北里大学病院における実務実習生用テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「レジデントのキャリアパス」		平成28年3月19日	第5回日本薬剤師レジデントフォーラム（名古屋） シンポジウムで発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 北里大学病院薬剤部において薬剤師業務を兼任 北里大学病院呼吸器センター専任薬剤師として従事		平成26年4月～現在 平成27年4月～9月	左記の業務に従事することで臨床現場における 最新の知識を保持し、学生教育に還元している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
該当なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けて の検討 その1ー平成31年度改訂コアカリ実施に向けてー		平成29年9月	日本薬学教育学会
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けて の検討 その2ー病棟実習における代表的8疾患の実施状況ー		平成29年9月	日本薬学教育学会
北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けて の検討 その3ー病院実務実習における他職種講義実施の意義ー		平成29年9月	日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年11月～	日本薬学会会員		
平成26年9月～	日本医療薬学会会員		
平成29年4月～	日本薬学教育学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬理学	職名 教授	氏名 田辺光男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義資料は毎年更新し、国家試験問題等も取り入れて理解を深める努力を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年2月15日	医薬品の名前「ステムを知らばクスリがわかる」/じほう
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成29年7月25日	学内FDセミナー「学際生命科学東京コンソーシアムの紹介」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 医薬品の名前「ステムを知らばクスリがわかる」	共著	平成25年2月	じほう社
(論文) Electrophysiological evidence of increased glycine receptor-mediated phasic and tonic inhibition by blockade of glycine transporters in spinal superficial dorsal horn neurons of adult mice.	共著	平成29年3月	Journal of Pharmacological Sciences, vol 133 No. 3
(論文) Intraplantar injection of sialidase reduces mechanical allodynia during inflammatory pain.	共著	同29年1月	Journal of Pharmacological Sciences, vol 133 No. 1
(論文) Presynaptic inhibitory effects of fluvoxamine, a selective serotonin reuptake inhibitor, on nociceptive excitatory synaptic transmission in spinal superficial dorsal horn neurons of adult mice.	共著	平成26年10月	Journal of Pharmacological Sciences, vol 126 No. 2
(論文) 電気生理学的手法を用いた慢性疼痛の病態解明と薬理的評価	単著	平成26年3月	薬学雑誌 vol 134 No. 3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GAT阻害薬は興奮性神経伝達減弱を介して鎮痛作用を示す		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 炎症性疼痛におけるスフィンゴ糖脂質合成に関わる糖転移酵素遺伝子の発現パターンの変化		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) アミノ酸依存性シグナルによるglycine transporter1の発現量調節と慢性炎症性疼痛への関与の可能性		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 疼痛におけるシアル酸分解酵素の鎮痛効果とスフィンゴ糖脂質の機能		平成29年12月	第40回日本分子生物学会年会 第90回日本生化学会大会
(演題名) GABAトランスポーター阻害による内在性GABA増強が成熟マウス脊髄後角シナプス伝達に与える影響		平成29年10月	第137回日本薬理学会関東部会
(演題名) スルファチドによるアロディニアの惹起		平成29年10月	第137回日本薬理学会関東部会
(演題名) δ オピオイド受容体作動薬KNT-127は島皮質の神経活動を抑制する		平成29年9月	第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会
(演題名) Glucagon-like peptide-2は海馬神経細胞のERK1/2活性化を介してLPS誘発学習機能障害を改善する		平成29年9月	第19回応用薬理シンポジウム
(演題名) GABAトランスポーター1阻害薬はGABAB受容体を介した脊髄興奮性シナプス伝達抑制により抗アロディニア作用を示す		平成29年7月	第40回日本神経科学大会

(演題名) パーキンソン病モデルでの炎症反応におけるEP3受容体の役割	平成29年7月	第40回日本神経科学大会
(演題名) 炎症性疼痛におけるガングリオシドの関与	平成29年7月	第40回日本神経科学大会
(演題名) 内在性GABA増強による鎮痛作用のシナプスメカニズム	平成29年6月	第39回日本疼痛学会
(演題名) スフィンゴ糖脂質とその糖転移酵素、分解酵素の疼痛への関与	平成29年6月	第39回日本疼痛学会
(演題名) 疼痛シグナルへのスフィンゴ糖脂質の関与	平成29年6月	第59回日本脂質生化学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成24年4月～平成27年3月	日本薬学会 学術誌編集委員	
平成24年5月～平成28年3月	厚生労働省医薬食品局 薬剤師試験員	
平成29年10月～平成30年3月	平成29年度日本薬学会 役員候補者選考委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学Ⅱ	職名 助教	氏名 飛田 夕紀
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～ 平成26年4月～ 平成27年10月～ 平成29年9月～	事前実習において、SGD等の能動的参加型学習法を取り入れ医療人に求められる態度や知識を高める工夫をしている。 病院薬剤部に常駐し、薬剤部職員と協働して病院実務実習を行っている。 学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を考慮した上で、授業や配布資料の内容など教育方法の見直しを行っている。 関連する最新の医療事情も盛り込み、理解を深めさせている。 演習問題を盛り込んだ講義内容とし、講義中に解答に至る過程を丁寧に解説するとともに、講義終了後、学生が自ら学び、理解を高める工夫を行っている。 事前実習において、実習項目ごとにルーブリックを作成し、評価の観点を可視化している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24～29年 平成28年11月	北里大学薬学部病院・薬局実習事前実習書 病気と薬物療法 精神疾患/神経・筋疾患 (オーム社)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年11月	精神神経科病棟における薬学部学生実務実習の取り組み 第2回日本精神医学会学術大会、一般演題発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成28年5月 平成28年4月 平成29年5月～	認定実務実習指導薬剤師 更新 日本病院薬剤師会認定 指導薬剤師認定 取得 事前実習小委員会委員 薬学部FDセミナーに毎回出席し、授業改善に反映している。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(総説) 添付文書だけでは分からない経皮吸収製剤のメリット・デメリット®「エストラジオール/エストラジオール・酢酸ノルエチステロン」	共著	平成25年12月	薬局, 64(13)
(著書) 続 違いがわかる! 同種・同校薬〔統合失調症治療薬〕	共著	平成25年6月	南江堂
(著書) いちばん適切な薬剤が選べる同効薬比較ガイド1〔抗精神病薬〕〔抗うつ薬〕	共著	平成26年12月	じほう
(著書) いちばん適切な薬剤が選べる同効薬比較ガイド2〔巻末付録 同効薬を比較するうえできちんと理解しておきたい! 8キーワード〕	共著	平成27年7月	じほう
(著書) 治療薬ハンドブック2017〔同効薬比較表〕	共著	平成29年1月	じほう
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 電気けいれん療法適正化に向けた薬剤師による取り組み		平成29年7月	医療薬学フォーラム2017 第25回クリニカルファーマシー
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年1月	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会主催 精神障害者ホームヘルパー現任者研修 講師		
平成25年9月～	藤沢市保健所主催 精神障がい当事者支援セミナー 講師		
平成28年3月	日本薬学会 第136年会 運営		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物薬品製造学	職名	氏名 供田 洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
化学療法学I, 微生物学実習II他3件		2012年度	講義・実習を行った
化学療法学I, 微生物学実習II他3件		2013年度	講義・実習を行った
化学療法学I, 微生物学実習II他3件		2014年度	講義・実習を行った
化学療法学I, 微生物学実習II他3件		2015年度	講義・実習を行った
化学療法学I, 微生物学実習II他3件		2016年度	講義・実習を行った
化学療法学I, 微生物学実習II他3件		2017年度	講義・実習を行った
2 作成した教科書、教材、参考書			
化学系薬学 III. 自然が生み出す薬物 (日本薬学会編 東京化学同人)		2016年	領域担当編集委員として関与
化学療法学 病原微生物・がんと戦う (上野芳夫, 大村智, 田中晴雄, 土屋友房/南江堂)		2017年	
化学療法学 病原微生物・がんと戦う (大村智監修, 供田洋/黒田照夫編集/南江堂)		2017年	改訂版 (2018年出版) の編者として関与
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
各授業 (化学療法学I, II, 細胞生物学ケミカルバイオロジー論など) の独自の資料を作成			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Scopranones with Two Atypical Scooplike Moieties Produced by <i>Streptomyces</i> sp. BYK-11038	共著	2017年11月	Org. Lett., 19
Selective inhibition of sterolO-acyltransferase 1 isozyme by beauveriolide III in intact cells.	共著	2017年6月	Sci Rep., 7
Simplifungin and valsafungins, antifungal antibiotics of fungal origin.	共著	2016年9月	J. Org. Chem., 81
Structure-activity analysis of Gram-positive bacterium-producing lasso peptides with anti-mycobacterial activity.	共著	2016年7月	Scientific Repots, 6
New pyripropene A derivatives, highly SOAT2-selective inhibitors, improve hypercholesterolemia and atherosclerosis in atherogenic mouse models.	共著	2015年11月	J. Pharmacol. Exp. Therap., 355
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
真菌由来化合物 dinapinone 類が示す中性脂質蓄積阻害活性の作用機序解析		2017年12月	平成27年度生命科学系合同年次大会
位置選択的モノピノン二量体化酵素 MCE の基質特異性に関する研究		2017年12月	平成27年度生命科学系合同年次大会
PRD125, a highly potent SOAT2 inhibitor, attenuates both atherosclerosis and fatty liver progression in cholesterol diet-fed rabbits.		2017年11月	AHA Scientific Session 2017
Mass spectral library of microbial metabolomes for screening of antibiotics.		2017年7月	International Union of Microbiological
選択的阻害剤は脂肪性肝疾患に有効か?		2017年6月	第58回 日本脂質生化学会
軸異性を有する真菌由来化合物ダイナピノンが示す脂肪滴分解促進活性の作用機序解析		2017年6月	第59回 日本脂質生化学会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年～現在	Journal of Antibiotics Editorial Board Member		
平成29年～現在	脂質生化学会 幹事		
平成29年～現在	マリンバイオロジー学会 理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 臨床基礎薬学	職名 助教	氏名 友田 吉則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年6月27日 2017年9月22日	病院・薬局実習事前実習⑤ 評価平均4.4. 医薬品安全性学Ⅱ 評価平均3.7
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月1日	平成29年度 病院・薬局実習事前実習⑤
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年4月1日 2017年10月1日	助教助手会代表委員 事前学習小委員会委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
中毒医療に貢献できる薬剤師の育成	単著	2017年10月	日本臨床救急医学会雑誌 vol.20 No.5
カフェインの基礎毒性学	共著	2016年12月	中毒研究 vol. 29 No. 4
Evaluation of renal adverse effects of combination anti-retroviral therapy including tenofovir in HIV-infected patients.	共著	2013年3月	J Pharm Pharm Sci. vol.16 No.3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
金属に対する活性炭の吸着特性の検証 タリウムYes!、リチウムNo!		2017年7月	日本中毒学会総会・学術集会
注射薬供給における一施用毎の払い出し法の評価		2017年8月	日本病院薬剤師会関東ブ ロック第47回学術大会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年10月～平成30年9月	日本中毒学会広報委員会委員		
平成26年10月～平成30年9月	日本中毒学会広報活性化小委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 病態解析学	職名 助教	氏名 友廣 彩夏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成29年4月1日～	実務実習事前教育にて、フィジカルアセスメント実習、調剤実習、TDM実習を担当した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Helicobacter pylori感染症 認定医スキルアップ講座NHPHの一つであるHelicobacter heilmannii(ハイルマニイ菌)とは	共著	平成29年8月	先端医学社、Helicobacter research: Journal of helicobacter research 21(4)
(論文) Helicobacter heilmannii感染による胃潰瘍	共著	平成29年6月	医学書院、胃と腸 52(7)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Innate immune receptors in microglia in the medial prefrontal cortex are critical for social avoidance induced by repeated social defeat stress in mice.		平成29年7月	第40回日本神経科学大会
反復ストレスによる情動変容と脳内炎症様反応		平成29年9月	第39回 日本生物学的精神医学会・第47回 日本神経精神薬理学会 合同年会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年3月～現在	震災復旧ボランティア活動		
平成26年1月～現在	日本薬理学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬理学	職名 講師	氏名 内藤 康仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		24年10月 25年10月 他4件	授業評価及びそれに伴う講義内容の改善 授業評価及びそれに伴う講義内容の改善
2 作成した教科書、教材、参考書		24年7月 25年7月 他4件	薬理学実習(Ⅰ)実習書 平成24年度 薬理学実習(Ⅰ)実習書 平成25年度
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
IOP-lowering effect of isoquinoline-5-sulfonamide compounds in ocular normotensive monkeys.	共著	2014年2月	Bioorg. Med. Chem. Lett. 24(3)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
パーキンソン病モデルでの炎症反応におけるEP3受容体の役割		29年7月	第40回日本神経科学大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 化学系共有機器室	職名 助教	氏名 長井 賢一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 質量分析装置の操作講習会		通年	テキストを使用し、実際に装置を操作しながら使用法を学ぶ
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Isomethoxyneihumicin, a new cytotoxic agent produced by marine <i>Nocardioopsis alba</i> KM6-1.	共著	平成28年12月	J. Antibiot. 2017, 70, 590-594.
(論文) Structure-activity relationship of cyclic pentapeptide malformins as fibrinolysis enhancers	共著	平成28年9月	Bioorg. Med. Chem. Lett. 2016, 26, 5267-5271.
(論文) Simplifungin and valsafungins, antifungal antibiotics of fungal origin	共著	平成28年7月	J. Org. Chem. 2016, 81, 7373-7383
(論文) Helvafuranone Produced by the Fungus <i>Aspergillus nidulans</i> BF0142 Isolated from Hot Spring-derived Soil.	共著	平成28年6月	Natural Product Communications 2016, 11, 1001-1003.
(論文) Graphiumins, New Thiodiketopiperazines from the Marine-Derived Fungus <i>Graphium</i> sp. OPMF00224	共著	平成27年4月	J. Antibiot. 2015, 68, 620-627.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成24年11月	第27回元素分析技術研究会 世話人		
平成28年1月～	マイクロ電子天びん技術研修会 講師		
平成28年11月～	マイクロ電子天びんセミナー 講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 創薬物理化学	職名 助教	氏名 中込泉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月	物理薬剤学実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月	物理薬剤学実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
In silico analyses of essential interactions of iminosugars with the Hex A active site and evaluation of their pharmacological chaperone effects for Tay-Sachs disease	共著	2017年	The Royal Society of Chemistry Org. Biomol. Chem., 15, 9297 2017
Docking study and biological evaluation of pyrrolidine-based iminosugars as pharmacological chaperones for Gaucher disease	共著	2016年	The Royal Society of Chemistry Org. Biomol. Chem 14(3):1039-1048 2016
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
筋萎縮治療薬の開発を目指したSMAD3阻害剤SIS3の結合様式の同定		2017年11月	第45回構造活性相関シンポジウム
筋萎縮治療薬を目指したSMAD3阻害剤SIS3の結合様式の同定		2018年3月	日本薬学会 第138年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 分子薬理学	職名 教授	氏名 中原 努
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月 ～平成29年11月	授業評価の実施
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年～29年 平成25年 平成24年	薬理学系実習(II)実習書 グッドマン・ギルマン薬理書 第31章(分担翻訳) 最新薬理学 第11章(分担執筆)廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A delay in vascularization induces abnormal astrocyte proliferation and migration in the mouse retina	共著	平成29年3月	Dev Dyn. 2017 Mar;246(3):186-200.
(論文) Short-term treatment with VEGF receptor inhibitors induces retinopathy of prematurity-like abnormal vascular growth in neonatal rats	共著	平成28年2月	Exp Eye Res. 2016 Feb;143:120-31.
(論文) Structural and functional changes in retinal vasculature induced by retinal ischemia-reperfusion in rats	共著	平成27年6月	Exp Eye Res. 2015 Jun;135:134-45.
(論文) Regression of retinal capillaries following N-methyl-D-aspartate-induced neurotoxicity in the neonatal rat retina	共著	平成27年2月	J Neurosci Res. 2015 Feb;93(2):380-90.
(論文) Rapamycin prevents N-methyl-D-aspartate-induced retinal damage through an ERK-dependent mechanism in rats	共著	平成26年6月	J Neurosci Res. 2014 Jun;92(6):692-702
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Brilliant Blue Gはマウスlipopolysaccharide誘発視細胞傷害を抑制する		平成29年9月	第37回日本眼薬理学会
(演題名) Toll-like receptor 9 刺激薬のマウスNMDA誘発視神経節細胞傷害保護作用に対するTNF α の関与		平成29年8月	次世代を担う創薬・医療薬理 シンポジウム2017
(演題名) Ouabainを用いたラット網膜深層血管維持機構の解析		平成29年8月	次世代を担う創薬・医療薬理 シンポジウム2017
(演題名) 過剰量のVEGFは血管伸長の方向性調節異常を生じる		平成29年8月	次世代を担う創薬・医療薬理 シンポジウム2017
(演題名) ラット網膜においてmethylglyoxalはアドレナリン β 2受容体を介する血管拡張機序を障害する		平成29年8月	次世代を担う創薬・医療薬理 シンポジウム2017
(演題名) 糖尿病ラットにおける白内障の発症・進行過程とレスベラトロールの白内障予防効果		平成29年8月	第56回日本白内障学会総会 /第43回水晶体研究会
(演題名) NMDA 誘発網膜神経傷害マウスにおける microRNA の解析		平成29年7月	第136回日本薬理学会関東部会
(演題名) バルプロ酸は網膜血管新生を抑制する		平成29年7月	第136回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～平成29年7月	第136回日本薬理学会関東部会運営委員		
平成27年3月～平成28年3月	第89回日本薬理学会年会事務局		
平成24年4月～平成24年7月	第126回日本薬理学会関東部会事務局		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬学部薬品製造化学	職名 教授	氏名 長光 亨
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月1日～平成29年11月30日現在	授業評価の実施
2 作成した教科書、教材、参考書		H27年3月15日 H27年2月26日	ソロモンの新有機化学 II (第11版) ソロモンの新有機化学 I (第11版) 他2件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Scopranones with the two atypical scoop-like moieties produced by Streptomyces sp. BYK-11038.	共著	平成29年10月	Org. Lett.
(論文) Development of a new air-stable structure-simplified nafuredin- γ analog as a potent and selective nematode complex I inhibitor	共著	平成29年3月	J Antibiot
(論文) Synthesis and Structural Revision of Cyslabdan	共著	平成28年9月	Chem Pharm Bull
(論文) Total synthesis of (+)-Clavulatriene A	共著	平成27年3月	Synthesis
(論文) In vitro metabolism of pyripropene A and ACAT inhibitory activity of its metabolites	共著	平成27年1月	J. Antibiot.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) FKI-4981Bの合成研究		平成29年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) Habiterpenolの合成研究		平成29年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) Nafuredin- γ の構造喝せ理想管研究		平成29年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 酸化マグネシウム錠との同時懸濁によるクロピドグレル硫酸塩錠の経管投与量への影響		平成29年11月	第27回日本医療薬学会年会
(演題名) FOP治療薬を指向したscoporanone Aの全合成及び構造活性相関研究		平成29年10月	第35回メディシナルケミストリーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～平成29年3月	社団法人日本薬学会代議員		
平成28年3月	日本薬学会第136年会 組織委員		
平成27年9月	第9回北里化学シンポジウム シンポジウム主催		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 病態解析学	職名 准教授	氏名 中村正彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Therapeutic targets for Inflammation and Cancer: Novel Therapies for Digestive Diseases	共著	2017.06	World Scientific
Helicobacter pylori	共著	2016	Springer
Evidence for a primate origin of zoonotic Helicobacter suis colonizing domesticated pigs	共著	2018.01	The ISME Journal (第12巻第1号, 2018)
In the aftermath of Helicobacter pylori: Other Helicobacters rising up to become the next gastric epidemic?	共著	2016	Digestion (第93巻第2号, 2016)
Narrow-spectrum inhibitors targeting an alternative menaquinone biosynthetic pathway of Helicobacter pylori	共著	2016.09	Infect. Chemother. (第22巻第2号, 2016)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
胃MALTリンパ腫形成における迷走神経の役割—Helicobacter suis 長期感染モデルを用いて		2017.06	第23回日本ヘリコバクター学会学術集会
non-Helicobacter pylori Helicobacterの形態に関する免疫組織化学、電子顕微鏡および実体顕微鏡による観察		2017.09	第49回日本臨床分子形態学会総会・学術集会
韓国 non-Helicobacter pylori Helicobacter 単独感染胃癌症例		2017.05	第93回日本消化器内視鏡学会総会
Unexpected high prevalence of gastric non-Helicobacter pylori-Helicobacters in Japanese patients		2017.05	DDW2017
Vonoprazan induces parietal cell damage in the gastric non-Helicobacter pylori-Helicobacter infection in mouse		2017.05	DDW2017
Characteristics of cultured non-Helicobacter pylori Helicobacter and its relation to human gastric diseases		2017.09	European Helicobacter Microbiota Study Group
The effect of vagotomy on gastric MALT lymphoma development in Helicobacter suis-infected mouse model		2017.08	ISAN2017
Current status and issues of NHPH infection in Japan		2017.04	14th Japan-Korean Joint Symposium on Helicobacter Research
Non-Helicobacter pylori Helicobacterのbiphasic 培養系における形態学的検討		2017.06	第23回日本ヘリコバクター学会学術集会
ホノプラザンおよびフロトンポン阻害薬投与による Helicobacter heilmannii 感染胃MALTリンパ腫および胃壁細胞への影響		2017.07	第36回消化器病態生理勉強会
III 学会および社会における主な活動			
平成17年～現在	日本自律神経学会編集委員会副院長		
平成19年～現在	日本微小循環学会理事		
平成21年～現在	日本臨床分子形態学会理事		
平成26年～現在	日本潰瘍学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 公衆衛生学	職名 助教	氏名 中村亮介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年9月7日	健康科学 I (2コマ)	(評価3.79)・補助プリント改訂
	平成24年11月6日	公衆衛生学実習 (20日間)	(評価4.23)・補助プリント改訂
	平成25年9月6日	健康科学 I (2コマ)	補助プリント改訂
	平成25年10月29日	公衆衛生学実習 (20日間)	(評価4.26)・補助プリント改訂
	平成26年9月5日	健康科学 I (2コマ)	補助プリント改訂
	平成26年10月28日	公衆衛生学実習 (20日間)	(評価4.31)・補助プリント改訂
	平成27年9月4日	健康科学 I (2コマ)	補助プリント改訂
	平成27年10月21日	公衆衛生学実習 (20日間)	(評価4.35)・補助プリント改訂
	平成28年9月16日	健康科学 I (2コマ)	(評価3.65)・補助プリント改訂
	平成28年10月18日	公衆衛生学実習 (20日間)	(評価4.41)・補助プリント改訂
	平成29年4月14日	公衆衛生学 I (2コマ)	(評価3.83)・補助プリント改訂
平成29年10月31日	公衆衛生学実習 (20日間)	補助プリント改訂	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成28年12月17日	OSCE外部評価者 (星薬科大学)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Expression of the bacterial heavy metal transporter MerC fused with a plant SNARE, SYP121, in Arabidopsis thaliana increases cadmium accumulation and	共著	2012年4月	Planta vol. 235 No. 4, 841-850
(論文) Establishment and characterization of human lymphatic endothelial cell line.	共著	2013年1月	Biol Pharm Bull vol. 37, 683-687
(論文) Immunotoxic effect of low-dose methylmercury is negligible in mouse models of ovalbumin or mite-induced Th2 allergy.	共著	2016年8月	Biol Pharm Bull vol. 39, 1353-1358
(論文) Atg5-dependent autophagy plays a protective role against methylmercury-induced cytotoxicity.	共著	2016年11月	Toxicol Lett vol. 262, 135-141
(論文) Variation in the activity of distinct cytochalasins as autophagy inhibitors in human lung A549 cells.	共著	2017年10月	Biochem Biophys Res Commun in press
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) オレアノール酸サポニン誘導体による抗メチル水銀活性の評価		2018年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 生薬学教室	職名 助教	氏名 中森 俊輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2016. 10~12 2017. 10~12 他4件	生薬学実習 現代医療で薬として用いられる植物由来の生薬を鑑別し、基本的な性質を理解するために、基原、性状、含有成分、品質などについて基礎知識及び活用するための基本的技能を修得させる。
2 作成した教科書、教材、参考書		2016. 10~12 2017. 10~12 他4件	生薬学実習実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Ephedra Herb extract activates/desensitizes transient receptor potential vanilloid 1 and reduces capsaicin-induced pain.	共著	平成29年1月	J Nat Med. 71(1), p105-113
Construction of Prediction Models for the Transient Receptor Potential Vanilloid Subtype 1 (TRPV1)-Stimulating Activity of Ginger and Processed Ginger Based on LC-HRMS Data and PLS Regression Analyses	共著	平成29年4月	J. Agric. Food Chem. 65(17) p3581-3588
Two flavone C-glycosides as quality control markers for the manufacturing process of ephedrine alkaloids-free Ephedra Herb extract (EFE) as a crude drug preparation	共著	平成29年8月	J Nat Med.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
川骨アルカロイドのTRPV1活性化能		平成29年・9月	日本生薬学会第64回年会
エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFE)の実用化に向けた鎮痛作用評価		平成29年・10月	第34回白金セミナー
III 学会および社会における主な活動			
2011年~	日本生薬学会		
2012年~	日本薬学会		
2014年~	和漢医薬学会 (2017年8月より代議員)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬物治療学 I	職名 助教	氏名 中山 萌美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		H29. 5/8-7/21、 H29. 9/4- 11/17、 H29. 8/3-8/10	5年生 病院実務実習 1年生 薬と仕事 I
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 該当なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
該当なし			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その1 —平成31 年度改訂コアカリ実施に向けて—		2017・9 (共同演者)	日本薬学教育学会
(演題名) 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その2 —病棟実習における代表的8 疾患の実施状況—		2017・9 (共同演者)	日本薬学教育学会
(演題名) 北里大学病院・北里大学東病院における改訂コアカリ実務実習へ向けての検討 その3 —病院実務実習における他職種講義実施の意義—		2017・9 (筆頭演者)	日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年4月～	日本医療薬学会会員		
平成29年2月～	日本薬学会会員		
平成29年5月～	日本薬学教育学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 薬剤学	職名 講師	氏名 奈良輪知也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年9月4日 平成24年12月13日 平成25年9月3日 平成25年10月3日 平成26年9月2日 平成26年10月2日 平成27年9月1日 平成27年9月24日 平成28年9月6日 平成28年9月8日 平成29年9月5日 平成29年9月7日	病院・薬局実習事前実習 他2件 生物薬剤学 他2件 病院・薬局実習事前実習 他2件 生物薬剤学 他2件 病院・薬局実習事前実習 他1件 生物薬剤学 他3件 病院・薬局実習事前実習 他3件 生物薬剤学 他5件 病院・薬局実習事前実習 他2件 生物薬剤学 他4件 病院・薬局実習事前実習 生物薬剤学	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 簡易懸濁法におけるカペシタビンの安定性 - 調整液のpHと熱の影響 -	共著	2012年12月	医療薬学 38 (12):751-756
(論文) ケトコナゾールによるラパチニブ代謝阻害 の定量的予測	共著	2013年7月	薬剤学 73 (4):254-264
(論文) Importance of UDP- Glucuronosyltransferase 1A1 expression in skin and its induction by UVB in Neonatal Hyperbilirubinemia.	共著	2013年11月	Mol. Pharmacol. 84:679- 686
(論文) Stereoselective transport of human His27- and Arg27-reduced folate carrier.	共著	2014年3月	Biol. Pharm. Bull. 37:439-446
(論文) Expression of human solute carrier family transporters in skin: Possible contributor to drug-induced skin disorder	共著	2014年6月	Sci. Rep. 4, Article number: 5251
(論文) Effect of epigallocatechin gallate on drug transport mediated by the proton-coupled folate transporter	共著	2014年10月	Drug Metab. Pharmacokinet. 29:367- 372
(論文) Stereoselective recognition of amethopterin enantiomers by rat proton-coupled folate transporter	共著	2015年4月	Biol. Pharm. Bull. 38:545-551
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) PCFTを介した葉酸輸送に対する種々ハーブティーの影響		2018年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) フラボノイド類によるPCFTを介した葉酸吸収阻害とその種差		2013年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成15年～	日本薬学会会員		
平成17年～	日本薬剤学会会員		
平成17年～	日本薬物動態学会会員		
平成28年3月	日本薬学会第136年会運営スタッフ		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 医薬開発学	職名 教授	氏名 成川 衛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成28年9月 平成28年6月	授業評価 (臨床試験総論) 授業評価 (薬事行政)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年10月 平成28年4月	スタンダード薬学シリーズⅡ6 医療薬学 V. スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論Ⅱ.	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
医薬品情報学	共著	平成28年3月	東京大学出版会
革新的医薬品審査のポイント	共著/編集	平成27年12月	日経BP社
Matched analysis on orphan drug designations and approvals: cross regional analysis in the United States, the European Union, and Japan	共著	平成28年4月	Drug Discovery Today vol.21 No.4
新薬の薬価算定における有用性加算等の加算率の定量的評価	共著	平成27年3月	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス (第46巻第3号)
医薬品の使用成績調査の実施状況及び意義に関する調査研究 (アンケート調査に基づく考察)	単著	平成26年1月	レギュラトリーサイエンス学会誌 (第4巻第1号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
日本における医師主導治験実施の現状～時代と共に変化する役割～		平成30年2月	日本臨床試験学会第9回学術集会総会
臨床試験の社会的有用性に関する研究ー肺がん領域におけるBevacizumabの臨床試験を対象とした探索的研究ー		平成30年2月	日本臨床試験学会第9回学術集会総会
医薬品の安全性監視活動におけるデータマイニングの必要性に関する検討		平成29年11月	第23回日本薬剤疫学会学術集会総会
DSM-IV/DSM-IV-TRによる統合失調症患者を対象とした臨床試験におけるプラセボ反応に影響を及ぼす要因の検討		平成29年11月	第27回日本臨床精神神経薬理学会
高齢者を考慮した新薬開発および情報提供に係る研究		平成29年9月	第7回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
First in Class新薬の製造販売後安全性措置に関連する要因の分析		平成29年9月	第7回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
有効性解析への採否を指標とした臨床試験の品質に影響を及ぼすリスクに関する検討		平成29年9月	第7回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年6月～現在	日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会常任世話人		
平成28年1月～現在	Clinical Drug Investigation編集委員		
平成28年9月～現在	レギュラトリーサイエンス学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧

大学名 北里大学	講座名 学習支援室	職名 准教授	氏名 西野 貴司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年 2014年～2017年 2014年～2017年 2014年～2017年 2014年～2017年	<p>新規開講基礎有機化学演習は、少人数制で講義主体ではなく、演習問題を解かせたのちに解説している。また、毎回課題問題を課し、次回に該当内容の確認クイズを実施している。</p> <p>立体化学（化学）の理解を助けるために、分子模型を活用している。二次元で描画されている分子を、学生が自ら分子模型で分子を組み立てることで三次元構造を理解させる。</p> <p>学生の理解度を講義（医薬品化学）中に把握（学生本人も他の学生の理解度がわかる）するため、クリッカーを活用している。また、講義の途中で活用することにより、学生の集中力の持続ならびにモチベーションの維持につなげている。</p> <p>化学構造式の描画ソフトの使い方を教える情報リテラシーIでは、デモで説明しながら配布PCを使用して実際に体験させる。情報リテラシーIIでは、課題を与えて自力で構造式を描画させる。学生がわからない箇所を直ぐに聞けるよ、数名のTAをサポートとして配置している。</p> <p>担当科目のそれぞれの講義に対する学生による授業評価（毎年講義最終日に実施）に基づき、次年度の授業を改善するように心がけている（5点満点中4点以上）。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年 2014年～2017年 2014年～2017年 2014年～2017年 2014年～2016年	<p>新規開講基礎有機化学演習教材および課題問題・確認クイズ問題</p> <p>医薬品化学補助教材および毎回の講義終了後の課題（毎年見直しをしている）</p> <p>情報リテラシ教材および毎回の講義終了後の課題（毎年見直しをしている）</p> <p>化学補助教材および毎回の講義終了後の課題（毎年見直しをしている）</p> <p>無機化学補助教材および毎回の講義終了後の課題（毎年見直しをしている）</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2016年11月	前期必須科目 優秀教育賞	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 薬局方試験法 概要と演習 第9版	共著	2015年3月	廣川書店
(著書) 薬学用語辞典	共著	2012年3月	東京化学同人
(論文) Synthesis of Bisdesmosidic Oleanolic Acid Saponins via a Glycosylation-Deprotection Sequence under Continuous Microfluidic/Batch Conditions	共著	2017年5月	J. Org. Chem., 82 (13), 6703-6719
(論文) Regioselective, Tin-Free Sulfation of Unprotected Hexopyranosides by Using Phenylboronic Acid	共著	2016年1月	Eur. J. Org. Chem., 5, 902-915

(論文) Thermodynamically Controlled Regioselective Glycosylation of Fully Unprotected Sugars through Bis(boronate) Intermediates	共著	2014年6月	Eur. J. Org. Chem., 5, 902-915
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009. 4~2017	薬学共用試験センターOSCEモニター員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 情報薬学部門	職名 准教授	氏名 西端芳彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年4月 2016年12月 2017年4月	プレゼンテーション実習へのルーブリック導入 教育用配布PCのタブレット化への対応 カリキュラム変更に伴う薬学英語1の再編成	
2 作成した教科書、教材、参考書	2016年9月 2016年4月 2017年9月	情報リテラシー1配布資料、演習データ 薬学英語1配布資料 情報リテラシー1配布資料、演習データ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014/3/30	薬学会第134年会「Patient-based learningを志向した李勝薬学教育のためのe-learningシステムの提案」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2011年より継続 同	授業用WEBシステムの運用と継続的改良 教育用配布PCのヘルプデスク	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 薬学生のための基礎シリーズ8 情報リテラシー	共著	2014年4月	培風館
(論文) タンパク-リガンド複合体の芳香性クラスターの分類及び相互作用への寄与解析	共著	2016年1月	YAKUGAKU ZASSHI vol.136 no.1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 3次元格子点を用いた重ね合わせが不要で配座変化に頑健なタンパク質 特性記述子の創成		2017年10月	第40回ケモインフォマティクス討論会
(演題名) Atom-by-atom de novoリガンド設計法の改良のための基礎データの抽出		2017年11月	第44回構造活性相関シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2012年～継続中	CBT実施委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 北里大学	講座名 微生物学教室	職名 助教	氏名 西山 啓太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月19日 2017年6月7日	学生の理解を確認しながら講義を進めた(微生物学I) 対話形式で講義を進めた(感染制御学) 他5件
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月19日 2017年6月7日	講義プリントを作成し配布した(微生物学I) 講義プリントを作成し配布した(感染制御学) 他5件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Study of the adherence properties of Lactobacillus and Bifidobacterium species to intestinal tract and application to the prevention of pathogenic infection	単著	2017年12月	Milk science, Vol. 66, No. 3
(論文) Bifidobacterium bifidum extracellular sialidase enhances adhesion to the mucosal surface and supports carbohydrate assimilation	共著	2017年10月	Mbio, Vol. 8, No. 5
(論文) The elongation factor Tu from Lactobacillus reuteri inhibits the adhesion of Helicobacter pylori to porcine gastric mucin.	共著	2017年4月	Milk science, Vol. 66, No. 1
(論文) Adhesion Properties of Lactic Acid Bacteria on Intestinal Mucin	共著	2016年9月	Microorganisms, Vol. 4, No. 3
(論文) Cell surface-associated aggregation-promoting factor from Lactobacillus gasseri SBT2055 facilitates host colonization and competitive exclusion of Campylobacter jejuni	共著	2015年11月	Molecular Microbiology, Vol. 98, No. 4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ビフィズス菌の宿主腸粘膜への定着に関わる菌体表層タンパク質の機能解析		2017年11月	日本乳酸菌学会2017年度秋期セミナー
The extracellular Sialidase from Bifidobacterium bifidum modulates bacterium-host interactions and supports the assimilation of carbohydrates		2017年8月	12th International Symposium on Lactic Acid Bacteria
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～平成31年3月	日本乳酸菌学会 評議員		
平成29年4月～平成32年3月	日本乳酸菌学会 セミナー委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。